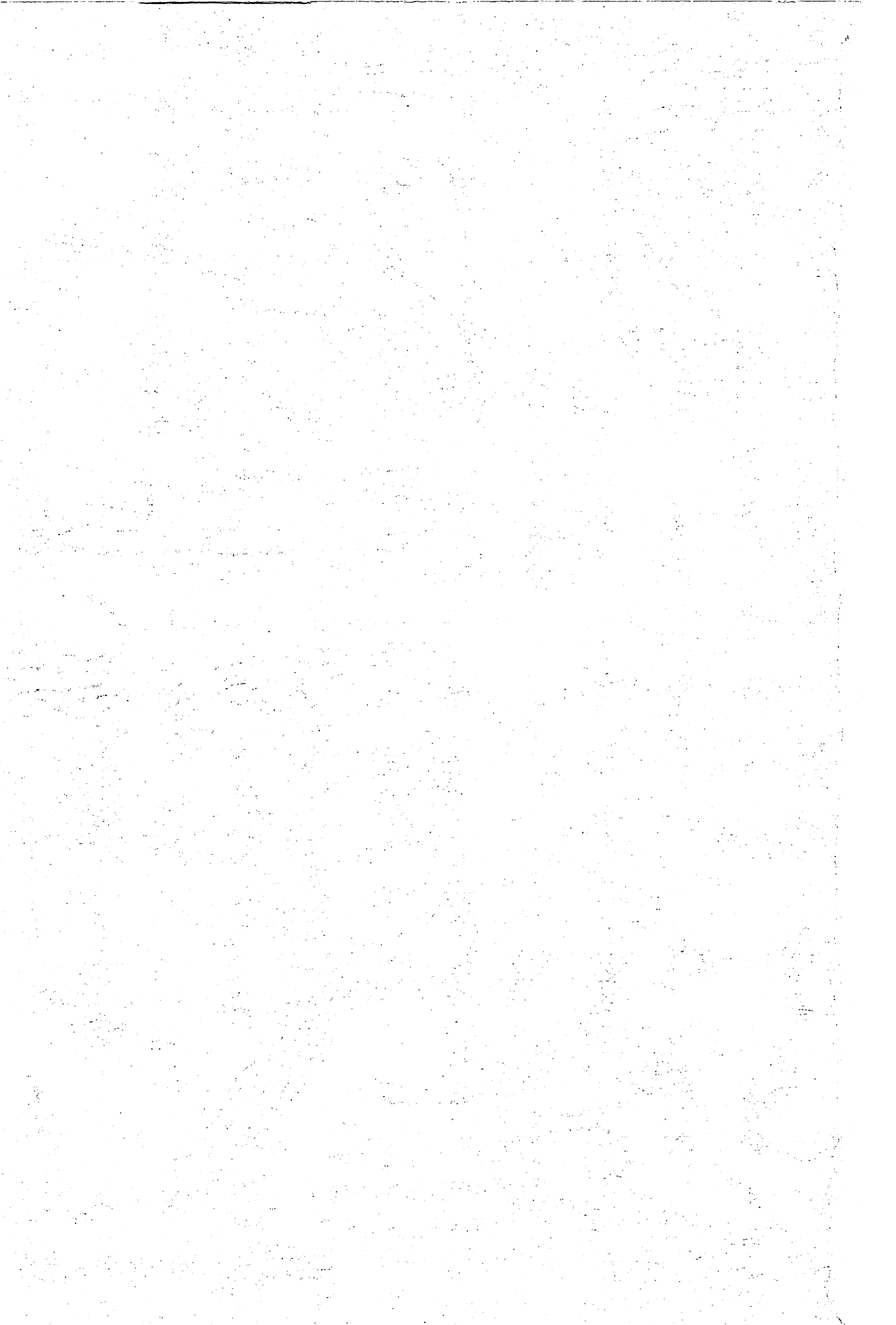


平成二十年三月
津山郷土博物館紀要第二十二号

津山松平藩町奉行日記 十六

寛政十年（一七九八）

津山郷土博物館



津山松平藩町奉行日記 十六

目次

町奉行御用日記

寛政十年

.....

1
195

凡例

一、本書には、津山郷土博物館に所属する愛山文庫から、「町奉行日記」寛政十年正月〜十二月を収録した。

一、本文の表現は、つとめて原文の形にそうようにしたが、読解の便宜を図って、つぎの点に留意した。

1 平出・欠字は、省略した。

2 漢字は、原則として常用漢字（人名用漢字を含む）に改めたが、他は正字体とした。

3 誤字・脱字と思われる場合は、右傍らに（ママ）と注記した。なお、誤字ではあるが、沙駄・算様・百性

については筆者が常用としており、煩雑さを避けるため、注記しなかった。

4 近世期一般に慣用されていた左記のような文字・用語等は、そのまま記載した。

体てい 扣ひかえ 暖あつかう 歎か 喧嘩けんか 音物いんもつ 稠敷きびしく 又候またさう 与風よかぜ 風かぜ 舩せがれ 鹿そ 持かせく 糶こうし 綺いろり

5 変体がないは、原則としてひらがなに改めたが、助詞等に用いられている、而（て）、江（え）、者（は）、茂

（も）、与（と）及び片仮名のニ、并は、小活字で示した。

る（より）、メ（しめ）、ソ（して）、氏（とも）は、例外として残した。

6 訂正・削除がある場合、消された文字の左側に見消記号（〜）を付し、右側に訂正の文字を記した。また、

消された文字が不明の場合はその文字を■で示した。

7 虫損・破損などで解読できない文字は、字数を推定して「」で括り虫損・破損によらない場合は、右傍

らに（不詳）と注記した。

8 日記の表紙・奥書等は、その部分を□で囲み、（表紙）のように注記した。

9 日記の天の小口には小見出しの付箋が貼られており、はがれて各丁の綴じ目に挟んであるものも多いが、

元の場所に残っていて文字を記してあるものは、その箇所に○として示した。

10 記載を配慮すべき地名・固有名詞は□□のようにした。

一、本資料中に、封建的身分差別を表現する名辞・賤称が認められるが、事実に基づく科学的な歴史研究を進める立場から、これらをそのまま掲げた。もとより我々は、この不当な差別を容認するものではなく、科学的な歴史認識を通じて差別意識の根絶にいたることを望んでいる。読者においても、この立場を理解し、この資料を正しく利用されることを期待する。

一、本書の翻刻・編集は尾島 治が担当した。

寛政十^戊午年

町奉行御用日記

五十一 増見右門
正月の十二月迄

(表紙)

寛政十^戊午年

正月 小

月番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 山田主膳殿

大目附 松岡治部助

大年寄 斎藤孫右衛門

諸吟味 宮田喜左衛門

正月元 丁寅 且 快晴

一年頭御祝儀御嘉例之通惣登城御礼式諸事別帳之通無滞相済

正月二日 雨

一大年寄早朝罷出町方御静謐之段相届

一御用初ニ付例刻登城諸事別帳御嘉例之通無滞相済

一御蔵米六拾式匁五分町米五拾八匁五分

正月三日 快晴

正月四日 快晴

一錢相場書三通大年寄^方差出候

正月五日 雨

一旧格之通大年寄札元諸吟味年頭初^而謁盃遣^ス礼式別帳之通

当病不参

蔵合孫左衛門

武田七郎兵衛

一 旧例之通大年寄組中書役牢屋三軒屋へ年頭札相越候

一 但州生野御代官稻垣藤四郎殿手代中沢良右衛門高橋督三郎勝部三五兵衛が当国東北条郡塔中村口留番所^ニ取立候運上錢銀直^ニ相用候付去已ノ正月^ノ十二月迄錢相場書拙者奥印^ニ相廻し候様申来例年之通相廻し候

正月六日 曇

一 例年之通御藏元惣町年寄人馬問屋大保頭目明年礼受之諸事別帳之通但年寄三十四人罷出貳拾九人当病不參大保頭二人目明一人不參一坪井吉井要助^ノ年頭祝書来及相答

一 札元妹尾平兵衛妹西北条郡山北村大谷政三郎妻^ニ差遣人別除願下方引合相濟候段大年寄申聞承り届ル

一 今日^ノ昼廻り同心組差出候

正月七日 曇 雪

一 御藏米六拾貳匁町米五拾八匁

正月八日 曇 晴

一 御用日登城

一 小性町林屋新吉石砂屋忠助兩人持分之明地南北拾間半東西十七間表通り四間半右明地^ニ芝居興行仕度人馬問屋願書差出候御用番御聞濟^ニ付大目附へ差出置御聞届申達候尤右地主兩人^ノも同様願書差出聞届候

一 祇園三位之御札例歳之通藏合孫左衛門方へ參候段大目附へ相届候

一 来ル十六日登城町人之名面書中奥目附へ差出候

一 山田主膳殿詰江戸三月中出府被仰付候由大目附^ノ演達有之三奉行

一同役順^ニ御用所^ニ罷出御悅及御挨拶

一 備前田原船着岸^ニ当所船登荷積之趣大年寄共へ相尋候処田原船ハ旧臘十三日迄罷越帰荷可割渡旨申聞候得^者及断から船^ニ罷歸リ其後ハ壹艘も来り不申当所船去ル四日初積いたし候得共未罷歸リ不申登り荷之様子未知候段孫右衛門申出候

一 大年寄共歳末年頭献上物代貳百疋上納仕候様江戸小勤者^ノ申来其旨申達候所金貳百疋差出候^ニ付今日小勤者へ相廻候

一 西川平沢助八高橋金治^ノ例年之通年頭祝書来及相答

一 旧臘廿七日夕町方関貫不^レ之番人六人^ノ過料三百文ツゝ合拾六匁九分四厘一毛取立大年寄差出候

一 万人構残雖銀札拾貳貫貳百七匁七分勘定所^ノ札元^ニ御預ケ^ニ相成り右証文ハ当役所^ニ在之候処今般町方大破取繕工面^ニ付右銀札御引上ケ^ニ相成り井口恵左衛門^ノ大年寄へ貸渡候由^ニ付右証文札元共へ差戻候様^ニ勘定奉行上原彦藏^ノ申来右ハ去ル辰ノ四月十八日御預ケ違^ニ相成候節御納手方^ノ受取手形可取置所預り人証文矢張役筋へ差出候故不及其義候処今般之様^ニさつはりと引渡^ニ相成候得^者勘定奉行^ノ受取手形可取置義^ニ付右手形被相廻候ハ^ノ札元共預り証文可差戻旨申遣置候尤講元とも預り候分ハ矢張其儘御預ケ被成届申来候

一 御用広東人參壹斤大年寄共へ預ケ置候所今般御払^ニ相成候間差出候様上原彦藏^ノ申来其段申達候

正月九日 晴

一 牢舍人中村忠五郎義隱鉄炮之義^ニ付鉄炮奉行^ニ吟味有之候由牢

屋立合之義郡代所る申来左五兵衛左十郎差向出入取計候

一是迄町方大割入用札元共る五朱之利_ニ而_ニ三貫目ツゝ源五兵衛手所へ借り置町方へ_者一割之利分_ニ而_ニ差出候間右利分五朱ツゝ町方工面もの_ニ相成候処今般残雖御引上ケ_ニ相成候_ニ付札元共る五朱之利_ニ而_者不貸候間以後_者一割之利分_ニ而_ニ致他借源五兵衛る口入可仕候間工面もの出来不申之旨宮田喜左衛門る申出候_ニ付当時差当り五朱之利分_ニ而_ニ借物不出来候得_者無拋義_ニ付其旨可取計候乍然五朱之利_ニ而_ニも借物可有之もの_ニも候得_者以後随分心懸ケ五朱位之借物借り出候様_ニ可取計旨申達置候

正月十日 晴

一大年寄へ預ケ置候広東人參三拾匁賁人有之候由_ニ而_ニ代銀札三拾六匁_并残り人參百三拾匁齋藤孫右衛門差出上原彦藏へ相渡候但壹兩四匁八分之積_ニ候

一左義長之町触例年之通去ル八日差出候

正月十一日 晴

一中山百歳妻出産男子出生届出候

正月十二日 晴

一書役大脇新左衛門妻夜前出産男子出生_ニ付血忌引込候段届出候

一人馬問屋今般芝居仕候処役用旁_ニ付勸進元代宮脇町富沢屋又兵衛へ相頼候段大年寄る申出承り届ル

正月十三日 快晴

一御用日登城

一早川八郎左衛門殿支配所当国大庭郡久世村仁助娘義林田町三笠屋

久兵衛妻_ニ引受度人別入願御用番御聞濟_ニ付右願書大目附へ差出置御聞届ケ申達候同廿三日住宅証文差出ス

一林田村角屋久左衛門娘義内藤山城守殿領分当国久米南條郡坪井村宗吉妻_ニ差遣度人別除願右同断取計濟

一三階町組屋忠三郎義忠右衛門と改号仕度願書差出忠三郎義當時ハ門松御相印被差免候ものゝ義_ニ付口達_ニ而_ニ御用所_并大目附へ及御沙駄置聞届申達候

一万人講残雖銀札都合拾九貫五百式拾壹匁五分四厘足シ札元_并講元共預り_ニ相成証文差出置候処元来勘定奉行へ可引渡筋之処此度札元共致上納候由_ニ付勘定奉行兩人る受取書取置札元共証文差戻候右受取書単筒_江入置

一於御用所御用番主膳殿る左之通被仰渡候

坪井町藤屋嘉右衛門義吟味筋有之_ニ付町奉行_江

入牢申付候委細之義寺社奉行小須賀貢_江

致対談可取計候

右畢_而向座一学殿る左之通被仰渡候

右嘉右衛門義大切之吟味筋有之候間取逃候_而者不相濟候間

如何体_ニいたし_而も是非可召捕候尤家族ハ差構無之候得共

他參留申付商売体ハ平日之通為相動可申候

右畢_而寺社奉行兼帯小須賀貢_江致対談候処右嘉右衛門義ハ昨年来寺社騒動之義_ニ付吟味筋有之事_ニ而_ニ同人義ハ寺社騒動之取持いたし京大坂_并他国_江も寺院之飛脚等毎度相動且又先達_而退院被仰付候本光寺る江戸へ呼寄セ候様之風聞も有之且又千年寺出府之砌も

播州路^ニ 出逢候由尤右騒動^ニ 付寺社之出会宿いたし候由嘸諸方
之文通等も致所持居可申候間嘉右衛門義入牢取計置即刻宿^江 組差
向諸道具之内相改書キ物等有之候ハ、取集封印いたし置可申尤家
族ハ一学殿^方被仰聞候通被申聞且又嘉右衛門義^者 昨今小性町芝居
小屋懸ケ居候由被申聞候^ニ 付下城之上御番昼廻り呼出し佐右衛門
円藏小性町芝居小屋へ差向嘉右衛門召捕連帰り且又宿^江 新治栄
治差向商壳体之書類之外ハ返古^ニ も一切取集諸道具之内不殘相
改書類取集メ致封印取り可帰之旨申合差遣且又嘉右衛門^江 申渡之
義組合年寄相詰候様^ニ 新治^方申付候

吟味筋有之^ニ 付入牢申付候

坪井町藤屋

嘉右衛門

嘉右衛門家族差構之候得其他参留

同町

申付候尤商壳体ハ是迄申候通

組合

年寄 江

可相働候

嘉右衛門宿へ差向候新治栄治罷帰リ諸道具不殘相改書物類取集候
得^者 寺社文通^并 寺院名面有之書類格別無之候得とも商壳体帳面之
外反古類不殘取集柳籠裏^ニ 入致封印差上ケ罷帰候^并 嘉右衛門懐中
書物も可有之哉^ニ 付為相改候得^者 格別入用^ニ 可相成ものも無之候
得とも書キ物之分不殘取上ケ致封印置候

右取計相済候段御用番^并 大目附月番^江 手紙^ニ 相届候

一 中山百蔵出生之小児致病死候段小頭^方届出候

一 牢舎人野辺文治不食仕候段牢番届出大年寄へ医師申付候所難捨置

様子之由^ニ 付吉武秋三へ療治申付候

一 牢舎人一ノ宮乙松蒲^カ洗^カ沢^カ 付差出度願出承り届

一 南新座町稲垣惣兵衛前関貫損候^ニ 付取繕仕候段喜左衛門届出承り
届

正月十四日 晴 風

一 福渡町松田屋佐助永々牢賄出来兼候^ニ 付組合^方取計候様申付候段
大年寄申出承り置

一 京町大村屋源右衛門義大坂玉子屋九兵衛借金出訴御呼出之処病氣
付日延願旧年差出其旨大坂村尾左右衛門へ懸合置候処此節病氣
快出勤届仕右借物一件内済懸合候得^者 元来申懸通之借金^ニ も些
之義^ニ 候処玉子屋九兵衛義も大借金有之公訴^ニ 相成居右口塞之為

爰元大村屋糺屋抔致出訴候趣^ニ 而 誤立吳不申候^ニ 付罷出筋立度尤
町内年寄差添被仰付候得^者 入用多^ニ 迷惑仕候^ニ 付向方ハ誰^ニ 而
も相済候事故河原町出雲屋太兵衛年寄代人として登坂仕度届書差
出候^ニ 付大坂村尾左右衛門へ右源右衛門義病氣快氣^ニ 付町役出雲
屋太兵衛差添差出候間御番所向御心添被下候様^ニ と致添状御用番
中へ紙面^ニ 而 相伺候処即刻伺之通宜取計候様被仰出候^ニ 付出坂間
届候間出立日限申出候様大年寄へ申達置候

正月十五日 曇 風 夜雪

一 京町大村屋源右衛門義明十六日出立仕度大年寄届出候^ニ 付村尾左
右衛門^江 之添状相渡候尤右伺済取計候段大目附へ申達候

一 徳守宮前通南新座町奥橋作道路次之錠致紛失候^ニ 付関貫^ニ 而 候
様^ニ 喜左衛門伺出承り届

一 寺社奉行小須賀買^方泰安寺後住職吟味之義^ニ 付同寺且頭^カ之内坪屋

藤十郎直屋市郎左衛門播州赤穂差遣候様談置候段通用有之候大年寄_らも右之段噂有之追_而願書可差出由也

一松岡治部助_ら坪井町藤屋嘉右衛門書_キ物取集置候分寺社取次細江武助へ相廻候様申来細江武助へ封之儘為持遣相渡候

一新職人町高角屋八十吉所持之古道具屋株去已正月_ら中之町米屋豊八_江貸置候処此度取戻候段届書差出候

一早春_ら出船之船一昨日_ら追々罷帰候処矢張旧年之通登荷積昨罷帰_リ向方之風聞ハ又々内濟懸合ニ相成候由常々ニ_而も申沙駄有之由喜左衛門申出候

正月十六日 晴風

一御具足御祝ニ付御嘉例之通五半時揃惣登城旧例之通御祝儀無滞相濟諸事別帳之通

一町人町医師登城先格之通無滞相濟諸事別帳之通尤当病不參断左之通其外名面略之尤跡見春鷗初登城也_和小須賀貢_江謁ス

当病 蔵合孫左衛門 同 武田七郎兵衛 同 茂渡六吉
病中 姫路屋恵三郎 当病 北山修齊

一久世御代官早川八郎左衛門殿先触左之通大年寄差出

覚

一人足 八人

四人駕籠

壹人具足壹荷

壹人両掛壹荷

貳人合羽籠二荷

一本馬 貳疋

右_者就御用八郎左衛門出府被致候ニ付明後十七日曉七ツ時作州

久世陣屋出立大坂迄被相越候間書面之人馬差出置無滞繼立之川越渡船等有之場所_者前後最寄宿_ら致通達止宿之義ハ此奥ニ相記

候通相心得諸事無差支様可被取計候此先触早々順達神崎宿_ら大坂鈴木町大坂屋善兵衛方迄可被相届候已上

早川八郎左衛門内

正月十五日

美作国久世_ら大坂迄右宿々問屋年寄中

泊附

十七日勝間田 十八日千本 十九日加古川 廿日兵庫

廿一日大坂

追_而上下八人致止宿候間可被得其意候已上

右先触写御用番中へ差出先格之通道筋不見苦程ニ取片着致置保頭先払同心組先払可申付旨相伺候処其通取計候様被仰出其段大目附へ相達郡代所_江も及通用大年寄小頭_江も其段申付候

一御奏者番小須賀貢_ら明十七早川八郎左衛門殿通行ニ付御使者被差出西大番所ニおいて宮原糺相勤候間例之通立宿申付候様申来大年寄へ申付候処宮脇町阿賀屋助五郎へ申付候段申出其段小須賀貢_江

申達候糺方_江助五郎_ら致案内候様申付候

一昨日寺社取次_江藤屋嘉右衛門宅ニ有之候書類相廻候処吟味手懸_リ用立候書類無之由ニ_而細江武助_ら被差戻受取当番預ケニ申付置候

一今日左之通御役替有之候

一 郡代添役御代官兼帶 三浦伴左衛門

一 郡代所相談人 上原彦藏

一 御代官 竹内要左衛門

一 銀札場奉行 齊藤隼太

一 小勘者 佐藤左右助

一 御代官 松岡正三郎

一 地方懸り御免 松岡治部助

一 勘定吟味 小川兼助

一 東新町^中中之町関貫去二月歟十一月歟取崩普請不致候旨承り及
候由佐々木主馬被申聞遂吟味候様喜左衛門へ申付候

一 牢舍人藤屋嘉右衛門綿入差越候間入遣度牢番伺出承り届

一 来ル十八日御用日登城講尺初^ニ付麻上下着用候様大目附^ル申聞候
旨上原彦藏^ル演説有之候

一 明十七日早川八郎左衛門殿通行^ニ付先弘同心組立宿安岡町三倉屋
平兵衛へ申付候段大年寄届出小頭へ申達ス

正月十七日 快晴

一 久世御代官早川八郎左衛門殿通行^ニ付御先弘榮治円藏差出候処九
半時通行無帶相濟候段届出御用番^中大目附^中手紙^ニ相届候尤
大年寄問屋目附^ルも届出候

一 西今町坪屋藤十郎直屋市郎左衛門義泰安寺後住職之儀^ニ付播州赤
穂へ十四五日之逗留^ニ罷越度願書差出承り届二月二日帰ル

一 福渡町作人藤右衛門義去ル十五日限尋申付置候所行衛不相知候段
組合共^ル届書差出候

一 古道具屋共印形相改例歳之通古道具屋頭^ル帳面差出候

正月十八日 快晴

一 御用日之処自分義風邪^ニ付三浦十郎左衛門を以不参相届御用向同
人^江頼遣ス

一 去暮郡代所吟味博奕差口之者福渡町藤右衛門取逃候組合与八十吉
御咎^中河原町長七入牢可申付弁書を以相伺候処今日ハ主膳殿御一
人御登城^ニ御受取被置候由三浦^中申来候

一 吹屋町年寄釜屋才右衛門病死候由大年寄届出候

一 大目附佐々木主馬^中一昨日噂有之候東新町中之町関貫崩取候義為
相糺候処東新町ハ番所及大破去夏崩取早々可取建処致延引候由中
之町も関貫^ニも無之番所及大破去十月出羽守様御通行之節崩取
其段御道見分^中申達置早々可取建処致延引両町共恐入候段口上差
出候

一 備前竹内又右衛門^中飛脚来旧年之返書申来大目附太田舍人^江差出
候処返書下案差添出候様^ニ申被差戻候

正月十九日 快晴

一 備前竹内又右衛門へ返書下案相認来書^ニ添太田舍人^江差出候
一 備前田原船持共答書旧年竹内又右衛門^中相廻し候^ニ付再返答書申
付置候所出来^ニ付藏合孫左衛門^中差出太田舍人^江差出候

正月廿日 霞

一 元魚町中野屋宇助大坂大川丁淀屋橋綿屋義兵衛方へ商用^ニ付廿日
計之逗留^ニ罷越度願大年寄承り届差出二月二日帰

一 播州広峰魚住藏人^中年頭之祝書来及相答

一 牢舎人贖銀師丈兵衛病氣申出例之通大年寄へ申達候処翌廿一日原田隆安へ申付候段大年寄申出候

正月廿一日 曇風

一 吹屋町高瀬屋助八御箱訴一件ニ付年寄共左之通呼出遂吟味候尤大年寄諸吟味小頭部屋目附立会九時ハ出ル

年寄共取計之処相糺候得共 米屋
三人共不相分依之弁書いた 藤右衛門
し差出候様ニ申付差戻候 熊野屋
文五郎

釜屋

清吉 父名代

瓜生原屋

宇吉

高瀬屋

助八

一 牢舎人林田町倉屋善助賄是迄姉聳鍛冶町鍛冶幸七仕居候所永々之義故統兼難汝申出候間組合へ可申付候旨大年寄伺出承り届

一 備前田原船頭共以前ハ不調法有之誤一札写帳昨日藏合孫左衛門差出右誤一札之義答書ニ在之候ニ付太田舎人ハ差出候様申来差出候

一 雲州仁田郡大曲村百姓忠右衛門夫婦二人西国ニ罷出丹州桑田郡東懸村ニ相煩療治相加同所ハ送り出候河部村へ送り来往来等も致所持居候ニ付継送り候旨郡代所ハ通用有之候ニ付大年寄へ継送り候様ニ申達候

正月廿二日 曇

一 自分具足鏡開去ル十五六日故障有之差延候今日九時ハ書役組中牢屋三軒屋呼出候例年之通益遣諸事礼式別帳之通但江原文藏当病不参余ハ不殘罷出ル

一 桶屋町東側角屋敷ニ暮田屋平兵衛家屋敷表口三間裏行九間但三歩寄厘役也北隣ハ山城屋六兵衛南ハ吹屋町通り也右家屋敷代銀札百六拾匁ニ相極吹屋町作人亀治へ売渡度願書承届ル 二月十一日米券 状差出

正月廿三日 晴

一 御用日登城

一 御代官野村権九郎殿支配所当国吉野郡辻堂村百姓幸治郎甥茂兵衛義鍛冶町中田屋甚兵衛養子ニ引受度人別人願御用番御聞濟ニ付大目附へ差出置御聞届申達候

一 東新町中之町関貫番所及大破内分ニ崩取置候段年寄共口書取叱置可申旨御用番中へ相伺候処大目附治部助ハ不輕義ニ付重御智取計候筋と御用所思召候間尚又考可相伺旨被申聞被差戻候尤右ハ佐々木主馬ハ被申聞候義ニ遂吟味候事ニ主馬江も及対談差出候事也

一 大目附太田舎人拙者兩人御用所へ御呼出ニ一学殿ハ備前返書之趣伺ニ候処来書之趣ニ迎も内済可調事とも不被察始終之所ハ如何考居候哉存寄可申上一学殿御存寄ニ愛ニ手切之及挨拶候方可然旨思召候御口上振尚又船持共再返答書文段も思召ニ不叶処御察度有之何分得考候上申上候様被仰聞候ニ付尚又考之上可伺旨及御受引取候

一御用人參今般御扨切ニ相成候ニ付右人參受払候算様書勘定奉行兩人拙者印形取計候

一小性町富沢伴水娘義郡代下代木村金治妻ニ差遣度人別除願大年寄差出候承り届

正月廿四日 曇

一牢舎人乙松病氣申出大年寄へ申付候処難賄置旨申出候ニ付原田立安へ療治申付候段申出候

一船持共再答書昨日被差戻候所又々差出候様申来太田舎人ニ差出候

正月廿五日 晴

一齋藤孫右衛門義無拋用事出来ニ付土居村三郎兵衛方へ十日計之逗留ニ罷越度尤月番八源五兵衛相勤候段同人より申出承り届ル二十七日

正月廿六日 快晴

一大目附松岡治部助の呼ニ来罷越候処江戸御留主居田中幸助の申来候ニ御勘定御組頭勝与八郎殿の呼ニ来罷出候処与八郎殿被申候

一作州の風聞之趣先来候ニ昨年津山米相場取計役人不直有之御払米有之前ニ米売買差留候故俄ニ高価ニ相成御領分中も百性不穩役人不直之段意主晴し致候杯と申風聞有之右相場建方不直ニ付ニ者当

國中御料私領迄人氣立不穩趣申来何そ新之御仕向取計等も有之候哉万一左様之義も候得ニ御名も出候事ニ候得ニ穩ニ御取鎮被成度旨被仰聞候由幸助返答ニ者一向左様之義曾ニ及承候義無之嘸虚説

ニも可有之候得共尋可申遣と返答申置候由申来候全跡方も無之義定ニ御料ハ石代被仰出ニ付ニハ例歳の四匁余も高直ニ相成候事故色々取扱石代之義致公訴候義と被察候併幸助義ハ相場建方相改候

一 訳ニ以前之建方等不存義ニ付右両様之訳相認ニ相場建方改候ニ付

一 御近領より大年寄ニ中買共へ問合ニ来候書類写可差出尤其節可及公訴杯と中買共へ相晰候もの名面ニ申形ニ返答迄遂吟味認差出候様ニ被申聞大年寄へ申付候

一 札元見習茂渡兵吉義甲州身延山ニ武州池上參詣往來七十日計之逗留ニ来ル廿九日出立仕度願書差出承り届四月九日五六日之
四追願申出候
四月十七日届

一 西新町高松屋忠右衛門右同断願書差出承り届四月十日届

一 西新町稲屋忠右衛門娘召連京都妙覺寺參詣仕度往來三十日之逗留ニ来ル廿八日出立之願書大年寄承り届差出

正月廿七日 曇

一 牢舎人喜右衛門義吟味ニ付郡代所の牢屋立合申来出番砂兵衛栄治差向ケ出入取計候

一 備前江船出入破談之下案御好ニ寄ニ相認太田舎人ニ差出候

一 林田町上田屋久平義甲州身延山參詣八十日之逗留ニ明廿八日出立願大年寄差出承り届ル四月九日帰ル

正月廿八日 快晴

一 御用日麻上下着用登城

一 堀田大蔵大輔殿領分久米南条郡山之城村百性幸左衛門夫婦悴賢之助ニ娘二人右家内五人戸川町作人武兵衛役介ニ引受度人別入願御用番御聞濟ニ付大目附へ差出置御聞届申達ニ二月十一日佳宅
延文差出

一 去巳ノ年一ヶ年人別出入平均書左之通御用番中へ差出ス

出生 百七拾五人 内 男九十三人 女八十二人

他所の引越 百四拾三人 内 男七十一人 女七十一人

三百拾七人

他所へ引越 百六人 内 男六十四人 女四十二人

死失 百八拾式人 内 男九十七人 女八十五人

式百八拾八人

差引 式拾九人増

一 町方人別出入願書先前者余り繁雜之認方ニ付略候_而も可然御沙駄_も候ニ付案詞相認御用番中へ伺置

一 大橋十太夫下屋敷住左助御裁許伺書御用番中へ伺置候

一 備前田原船持出入一件御好ニ寄て昨日破談之文通伺置_并蔵合孫左衛門存寄主意書_并扱応対之趣差出候様昨日被仰出今朝舍人_江差出

置候処又々内済人可差向旨下案相認差出候様被仰出太田舍人_江差出_并船持答書_者御好ニ寄_而致添削差出候尤答書ハ不相廻候様ニ被

仰出候得共強_而相廻可然旨申達置候且又扱人ハ伺之通孫左衛門喜左衛門差出候様被仰出候付兩人_江内意申達置候

一 大庄屋植月左助方へ去ル廿四日盜賊這入衣類二ツ脇差袴腰盜取代銀四拾匁位之由触流取計候様大目附_方被相渡例之通触流し取計候

本書ハ追_而可返候

一 福渡町博奕打藤右衛門取逃候番人共御咎伺之通取計候様御用番中_方被仰出明朝可取計旨夫々手配申付置候

一 今津屋平蔵所持之追廻し郷蔵不_レリ_而非人抔住居候趣ニ候間_レリ方急度申付候様佐々木主馬_方達有之急度可申付旨源五兵衛へ申付候

一 牢屋敷南之垣損候段申出候付御作事奉行_江申達置候

一 勝山渡部左兵衛棟原九郎左衛門_方例年之通年頭之祝書来志摩守殿

御実父兵庫頭殿御死去ニ付致延引候由断申来_并例年御家老文通有之候得共九津見吉左衛門在府ニ付無其義候間宜申達候様ニ传言申

来御用番中へ差出候尤及相答候

一 生野御代官手代_方去暮御廻米之節船御用立候挨拶書状来及相答但御用番へ差出候

一 関貫番實銀百五拾匁八分下代類蔵_方相廻候

一 牢舍人野辺文治全快ニ付休薬双方_方届出候

一 芝居相始候ハ、御触等取計有之ニ付四五日も前龜々相届候様ニ大目附松岡治部助_方被申聞候

一 米相場之義ニ付江戸表_方申来候一昨日記置候石代取計書類_并御代官所_方申来候書状往返写五通_并大年寄_方差出候書付大目附へ差出

候_并大年寄へ風説書認差出候様被申聞相達置候且又去暮取計候公儀被仰出候外相替候義無之段田中幸助来書答書三奉行連名_而差

出候様大目附_方達有之上原彦蔵取計候

一 小性町芝居小屋出来ニ付源五兵衛喜左衛門遂見分候処別条無之段源五兵衛_方届出候

一 中之町玉置忠四郎家守ちとセ屋さつ養子巳之助夫婦悴虎吉右家内三人去ル十日罷出不罷帰行衛不相知候段届出百日尋申付候

一 東新町高松屋平左衛門義甲州身延山へ參詣八十日計之逗留_而明廿九日出立之願書大年寄差出承り届_{四月十七日届_ル}

正月廿九日 晴

一 小頭孫八書役新左衛門部屋目附左十郎出番藤蔵百歳大年寄源五兵

衛諸吟味喜左衛門立合ニ而左之面々五時呼出御裁許取計候

預ケ中藤右衛門逃亡不埒ニ付 福渡町藤左衛門組合当番

手錠懸追込 但日数十日

与八

十吉

同人組合非番之者

右之通不埒ニ付

清助

追込申付候 但日数五日

忠右衛門

文四郎

太助

忠左衛門

家守

忠助

同町月番年寄

助五郎

右ニ付急度叱

右与八十吉ハ於白砂自分ヲ申渡候段相述出役読渡候其外之もの共

ハ於白砂大年寄読渡候

博奕宿いたし不埒ニ付

河原町作人

長七

吟味中入牢申付候

但独身ものニ付組合ノ賄候

右取計相濟候段御用番并大目付ヘ手紙ニ而相届候

一 小性町芝居之義役者共廿六日出坂来月二日三日頃ニ者到着仕候兼

而申談ニ有之候得共船中之義難計何れ西大寺ヘ着之趣不申越候得

者日限ハ難申上旨勸進元ヲ届書大年差出右届書大目附ヘ紙面ニ而

差出候尤日限ハ迫而可届旨申遣候

一 芝居興行ニ付例之通大鼓打廻り度願勸進元差出以紙面御用番中ヘ

相伺候処後刻御紙面ニ而宜取計候様申来其段大目附ヘ紙面ニ而相

届御聞届之旨申達候

一 石代一件相場書認方不宜候段大目附ヲ申来并拙者奥書も附紙ニ而

差出候様申来其段認直し紙面ニ而差出候尤大年寄共及承候風聞書

も差出候ニ付一緒ニ差出候

一 関貫番賃銀例月之通当番ヲ相渡申候

二月

月番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 小須賀一学殿

大目附 小須賀貢殿

大年寄 玉置源五兵衛

諸吟味 宮田喜左衛門

二月朔乙未旦 快晴

一大目附松岡治部助の御家中屋敷に這入候盜賊御裁許先例認出候様申来申渡帳ニ而調出差出候

一石代直段之義ニ付他領の申来候義有之候ハ、差出候様申付置候処

此間中買頭共の指出候内ニ久世庄屋の安永年中之相場調頼来候往返扣大年寄迄差出候所源五兵衛心得違當時之義ニ無之故不入義と心得不差出旨及噂候ニ付取寄見候所則當時石代改候ニ付入用之趣

ニ付源五兵衛書入差扣伺出候ニ付大目附松岡治部助へ於御城申達

右文通扣差出候所未江戸表へ飛脚不差立猶此上も大年寄共へ可尋義も可有之候間先今日差扣伺ニ及間敷追ニ可及差図旨達置候間

被申聞候ニ付其旨切紙ニ申達候

一備前江之返書下案伺置候所思召ニ不叶大目附の下案認被相渡其旨可取計尤船方再答書相廻候義ハ無用ニいたし候様御用番御差図之

旨太田舍人被申聞候ニ付右応返之義再応異意も申上候上ニ而も御承知も無御座義ニ候得者此上強ニ愚意申上候所存も無之候得者扱

人共も兼ニ御内意申渡置候義故内々彼等共江申聞強ニ差遣候様相願候義ニも有之候ハ、尚又可相同旨申達置候尤飛脚ハ明後日立

ニ可差遣旨被申聞候

二月二日 快晴

一備前江船方再返答書相廻候義無用被仰出候段喜左衛門新左衛門を以昨夜孫左衛門へ申達置候所今朝喜左衛門の返答申聞候者返答書不相廻候ニ懸ケ合難出来甚不立候得共当役の再応申上候ニ而も御承知無之義ニ候得者無是非義ニ御座候間如何様ニも可被成候旨御

受申上候由申出候且又大目附の御渡之下案文段之内ニ享保年之持

取替証文之内何ニ不寄三步ハ荷割致候様ニ相見へ候と申義并右荷割此方申立通ハ田原并長岡船も承知候義と申文段不入義後々差

障之体も難計哉ニ付右文段認かへ附紙ニ而相伺候処一学殿御添削

ニ町奉行添削之文段もさつはりと不致ニ付右文段程除去り遣候様ニ申来尤飛脚ハ明朝立ニ取計候様太田舍人の申来飛脚之者被仰

付被下候様大目附月番小須賀賀江申達候所御飛脚山本八十助来相渡ス

一石代之義ニ付問合候書面大年寄の差出候儘差出置候所勝山金田并右衛門と申もの役名認差出候様小須賀賀の申来相糺候処以前ハ大

年寄役相勤候ものニ候得共無役之節申越候段認差出候

一牢舍人山東村喜右衛門呼出候咎牢舍申付候所郡代所の手形相廻役所之入牢手形ニ認かへ出番左十郎差向出入取計申候

一牢舍扶持仕切証文差出先月迄ニ式斗六升六合式夕五才過米有之候且又内貸八俵之証文差出し奥書取計申候

二月三日 快晴

一御用日登城御用向無之段申述候事

一元魚町北入口土橋破損届書差出大目附へ差出候

一大目附松岡治部助の先月廿八日被申聞候者西新町ニ而若きもの共

大騒成扱ニ水祝いたし候哉之趣相聞候間内々被糺候而も可然旨被申聞候付大年寄へ監察申付候処岸田屋伊三郎備前屋嘉藏伊木屋源右衛門三人江若きもの十式三人つゝこり祝義いたし樽入いたし候由名面書付差出候ニ付於別席松岡治部助へ右監察之趣申達兼

而停止之旨年々暮_ニ者相触候事_ニ候得_者難捨置哉_ニも付呼懸吟味候上_ニ而可相伺哉と申達候所同役相談之上_ニ而何れ糺し無之_而者

相濟間敷候間其旨取計候様_ニと被申聞候

一 御蔵米六拾三匁町米五拾九匁

二月四日 雨

一 芝居出役之者追々及過酒風義不_ニ相聞_へ同心組ハ都_而出役先

禁酒_ニ候得共芝居相撲万人講ハ先規致來候通取有等_ニ而少々相用

候義ハ伺之上差免置候所右之趣_ニ而都_而禁酒と申振合_ニも不都合

之義_ニ付尚又今般改_而兼々差免置候取有位_ニ而少々給候義_者不苦

候得共追々増長之趣_ニ相聞不_ニ付兼_而申渡候通急度相守候

様_ニ申付猶又勸進元_ニも右之趣可申付置奉存候所御徒目附下目附

も出役之義_ニ候間思召も無之候ハ、何れも同様之趣_ニ申付度旨昨

日小須賀貢_ニ及噂置候処今日左之通手紙_ニ而申來候

昨日被仰聞候芝居出役之同心組過酒等も有之候_ニ而_者不_ニ宜候

付此度猶又嚴重_ニ御申付可被成勸進元_ニも硯蓋外_ニ肴一種酒

壹_ニ銚子終日_ニ壹_ニ兩度も差出候様_ニ御申付可被成左候得_者御

徒目附下目附も心得罷在度御取寄_ニ付御相談被仰聞候趣猶同

役_ニも申聞候処随分御組_并勸進元等へ御申付被成候義ハ御存

寄次第之義_ニ御座候事_ニ御座候御徒目附下目附之義ハ兼々過

酒等無之様_ニと申義_者心得候義達も有之夫々も相心得罷在候

義_ニ付改_而嚴重_ニ申付候_ニも不及候間別段_ニ者不_ニ申付候御手

_ニ付候方ハ御存寄次第_ニ宜御取計被成候様_ニと存候為差義も

無御座候間手紙を以如此御座候以上

二月四日 小須賀貢
増尻右門殿

二 白可有御座候義_ニ者無御座候事_ニ御座候得共下々之情_ニ而

者万事瑣細之義嚴重_ニも相成候_而者何そ事有之候_而も夫切_ニ

も不致終_ニ者表立候様相成却_而勸進元之迷惑_ニも可相成哉_ニ

も差考申候得共実以左様之義_ニおよひ候訳_ニも有御座間敷事

_ニ御座候風_与存付候付無急度端書_ニ相認申候強_而之存心_ニ者

無御座候以上

右相答之及返書尤昨日硯ふたと風_与申候得共先ハ煮_と申振合

_ニ其外浸物之類_ニ而も二種位ハ先格之旨申遣置候

一新魚町三沢屋平吉方へ昨夜九ツ過_と六時迄之間_ニ盜賊堺町_と船頭

町へ通筋之大溝_と這入衣類銀札百六匁品數拾九色盜取候段届書差

出し候_ニ付目明共へ無手拔敵敷致穿鑿候様_{可申付}旨小頭へ申達尚

又廻之組_も目明共へ申付大年寄へも関貫番人遂吟味候様_ニ申付

置御用番中へ手紙_ニ而相届届書品書等差出大目附へも其段手紙_ニ

而相届候但_{代ニ}八匁位_{八匁位}付出_{付出}

二月五日 快晴

一大庄屋植月李助方被盜もの衣類_ニ類したる品二色共戸川町打穴屋

長七方へ美濃職人町仲平と申もの質物_ニ置候由昨夜申出依之右仲

平義組合預ケ_ニ取計置候様申付候所夜前預ケ申付候段今朝大年寄

申出候_ニ付右届書郡代所へ相廻候在方_人差越見改弥李助方之被

盜もの_ニ相違無之候ハ、仲平義可遂吟味之旨申遣候

一 備前竹内又右衛門方へ差遣候飛脚今四時頃罷歸り向方_と可致返書

由之受取書取之罷歸リ即刻太田舎人^江手紙^ニ差出候

一 福渡博奕打藤右衛門取逃候組合非番之者追込昨日迄^ニ五日^ニ相

成候^ニ付今朝差免其段御用番^并大目附^ニ手紙^ニ相届候

一 大橋十太夫殿下屋敷住李助盜候木綿取次候米子屋藤左衛門口書^ニ

月日無之^并李三郎共も認有之所も有之^ニ付認直し差出候様一昨三

日松岡治部助被申聞大年寄へ申付今日治部助へ紙面^ニ差出候

一 小性町芝居役者もの昨晚西大寺へ到着仕明後七日頃^ニ爰元へ着

可仕候旨勸進元届出候由大年寄申出其段大目附^ニ手紙^ニ申達候

二月六日 快晴

一 大目附松岡治部助^ル先日噂有之候^者西新町^ニ若キ者申合水あひ

せ祝致候由御心可被付と有之候^ニ付大年寄^并監察申付候処弥無相

違旨名面書差出候^ニ付其段松岡治部助へ去ル三日申達候所可遂吟

味旨被申聞候^ニ付今日五ツ時^ル呼出候立会小頭部屋目附兼新治書

役新左衛門出番又六藤藏大年寄諸吟味立合左之十四人呼出候何れ

も及白状一紙^ニ口書取極候

岸田屋伊三郎伊木屋寿之助

備前屋嘉藏三人^并西新町岸田屋伊三郎

樽入いたし水祝候^ニ同町富野屋幸藏

相違無之旨何れ同様^ニ同町升屋百助

及白状口書取極候^ニ同町丸屋伝吉

但 同町太田屋小三郎

正月五日岸田屋伊三郎祝之 同町升屋浅吉

同九日伊木屋寿之助祝之 同町飯綱屋義藏

同廿二日備前屋嘉藏祝之 同町菊場藤右衛門

尤吟味中組合預ケ^ニ同町川崎屋熊治

申付ル 同町備前屋嘉藏

同町伊木屋寿之助

同町同 新三郎

同町大黒屋又七

同町金口屋治右衛門

一 美濃職人町仲平義昨夜廻リ之組^ル下札申付候処打穴屋^ニ有之候奈

助方之被盜ものハ下原村新藏と申もの^ル被相頼打穴屋^ニ質^ニ置候

由仲平義広瀬橋詰へ去冬中醴を買^ニ罷出夫^ル馴染^ニ相成仲平方へ

も折々来右之外^ニも被相頼打穴屋^ニ質置候由申候^ニ付下原村へ目

明差遣可申呼^ニ遣候所目明^ルも伺出候^者去八月郡代所^ル追払^ニ相

成候盜賊鉄藏義竜野領^ニ被召捕右盜もの美濃職人町忠兵衛を相

頼打穴屋^ニ質^ニ置候由内分^ニ可相渡哉と懸合来候由右質物ハ下

原村新藏申もの^ル仲平被相頼候品^ニ相違無之旨申出仲平義呼出相

頼候所右之通^ニ相違無之^ニ付右仲平義牢番預ケ^ニ申付置其段御用

番^并大目附へ罷越相届候

一 郡代所^ル牢番預ケ忠五郎呼出し御裁許申渡各牢舎申付候付入牢切

手相廻リ認かへ為持遣候^并牢舎人宜祥呼出し申来出番又六差向出

入取計候

二月七日 雨

一 博奕御裁許之考郡代所^ル相廻リ同意候旨及答候

一 田原船出入一件川下之風聞山形屋宗兵衛承リ罷歸候^ニ付孫左衛門

右風聞承り合ニ川下へ人差遣候所宗兵衛承り候とハ致齟齬候由孫左衛門喜左衛門弁書差出太田舎人ニ差出候

一戸川町平野屋助左衛門母妙応^并姉ひつ右二人五ヶ年已前一方村植月李助方へ差遣候処此度引戻度人別入願下方引合相濟候段大年寄申出承り届

一大坂^右取寄候種油以来三町目福永屋助右衛門持家ニ^而櫻野屋茂一郎御売取計且又林田町ニ^而高松屋多助^{高松}家ニ^而升屋甚十郎御売取計候段大年寄申出承り置

二月八日 曇

一御用日登城

一坪井町高砂屋兵助悴金四郎義脇坂淡路守殿御預り所当国英田郡倉敷村下倉敷屋八右衛門養子ニ差遣度人別除願御用番御聞濟ニ付大目附^江差遣置御聞届申達候十一月廿八日離縁ニ^而罷帰候

一土岐山城守殿領分当国英田郡原村順兵衛娘義吹屋町吹屋八左衛門妻ニ引受度人別入願右同断取計濟同六月廿九日住宅証文出ス

一伏見町田原屋佐助義御堀端ニ建物仕度仍^而御堀^江足代下候願差出大目附へ差出候処御作事被申達相濟其段大年寄へ申達田原屋^右御作事^江懸合取計候様ニ申付ル

一西新町若キもの水祝一件一昨日遂吟味候通ニ付手錠追込年寄叱と伺書差添松岡治部助へ為見候所年寄^叱リ^而濟間敷候間追込ニ

伺可然旨差函ニ付追込三日と認かへ御用番中へ差出候処御用番中被仰出候^者御法背とハ乍申急度御制禁破とも難申町奉行切之申付を背候と申様之もの^ニ而^而輕き事^ニも候得^者輕く追込位^ニ而^而相濟シ

可然之旨被仰出候ニ付即答ニ元來相工候と申程之義ニ^而も無之候得^者当人追込七日年寄叱置ニ可取計哉と申上候所其通取計候様被仰出其段大目附へ相届置候尤明朝可取計旨小頭^并大年寄へ申達置候

一新魚町三沢屋与八被盜もの届書御用番中御下ケ被成候

一東新町西今町関貫番所取崩候御裁許伺書松岡治部助へ差出候所中之町届書組頭相除認かへ差出右前調不行届不調法人認可相同^并追込も七日五日程ニ^而ハ御承知無之候趣ニ相見へ候間尚又再考認かへ差出候様治部助被申聞候ニ付中之町之不調之義弁書認かへ候様大年寄へ申付候

一大目附小須賀貢^右安永十丑年從公儀被仰出可成丈追込ハ不致様ニ取計可申旨御触有之候間右触認出候様被申聞遂吟味候処日記ニ右之趣安藤要人殿^右御達被成寫置候様ニ^とハ記有之候得共右被仰出候本書無之ニ付其段貢^江相断候

一石代一件書類此間大目附へ差出江戸表へ相廻候書面扣入用ニ付認出候様松岡治部助被申聞此間之通不殘差出候

一非人扶持御年渡違ニ付証文認かへ差出置候所今日古誤証文勘定所^右相戻リ印形消大年寄へ相渡候様書役^江申渡

一町方他所人別出入願書認方先月廿八日御用番中へ相伺置候所今日一学殿^右伺之通以來為相認候様被仰渡^并其^余ニ^も右等之類被相省候程之義^者随分事少ニ取計候程下方之為ニ^も候間其旨取計候様被仰出候右相改候願書文段左之通

乍恐奉願上候事

何之何之守様御領分御当国何郡何村何某何十何才同人妻誰何十何才悴誰何才娘誰何才右家内何人此度私方へ引受相応之渡世為仕度住宅之義奉願上候然ル上ハ私宗旨何宗何郡何村何寺且那ニ可仕候尤向方旦那寺^非村役人^方も別紙差越候ニ付則指上申候右之趣御許容被為成下候ハ、難有仕合可奉存候此段宜被仰上可被下候 以上

年号月日

^{何町何屋}

願主 何某

五人組 誰

同

出生受人何町何屋

誰

年寄宛

右ニ付御領分人別出入願書も左之通相認候様大年寄へ申達候

乍恐奉願上候事

御領分何郡何村何某何十才同人妻誰何十才悴誰何才娘誰何才右家内何人此度私方へ引受相応之渡世為仕度奉存候ニ付御町内人別ニ御差加被為成下候様奉願上候右之趣御許容被為成下候ハ、難有仕合可奉存候此段宜被仰上可被下候以上

年号月日

^{何町何屋}

願主 誰

五人組 誰

年寄宛

同

一牢舎人丈兵衛代リ医師去ル六日申出候ニ付申付候処尚又原田春桂へ申付候段大年寄申出候

一牢舎人源藏膳半入遣度去ル六日申出承届ル

一御領分東南条郡林田上之町瓦屋喜七郎娘義新魚町野田屋孫三郎養女ニ引受度人別入願下方引合相濟候段大年寄申出承り届

一上紺屋町牢舎人作人新八下女麦式俵坪井町塩屋ニ質ニ置候間受返

し度願大年寄^方差出承り届ル

一御領分東南条郡林田上之町武八娘義材木町広島屋久八悴末吉妻ニ

引受度人別入願下方引合相濟候段大年寄申出承り届

一戸川町岩見屋孫兵衛役介喜兵衛義御領分東南条郡大田村庄八養子

ニ差遣度人別除願承り届ル

一林田町塩屋七三郎義年寄役相勤候処病身ニ相成役義難相勤退役願

書差出相糺候所殊之外不如意ニ相成無余義趣ニ付承り届不日ニ跡

役調相伺候様ニ申付置候

一橋本町宗箱訴大目附^方被相渡右ハ去々辰十二月廿一日博奕参会之

者被召捕其中ニ礮之丞と申もの繩抜いたし其儘ニ相成当町致徘徊

罷在其節入牢仕ものハ今以御裁許も無之片落之被成方と恨候趣也

右ニ付得と相調候上ニ^而御答可申旨申達置候

二月九日 雨

一大年寄宅へ小頭孫八部屋目附新治今五時差向左之通申渡候

西新町

岸田屋

伊三郎

富野屋

幸藏

申渡大意

岸田屋伊三郎伊木屋寿之助

備前屋嘉蔵へ水あひせ致候由

兼御停止之處不埒至極候

依之申付方も候得共先此度ハ

憐愍を以追込申付候

但日数七日

升屋

百助

丸屋

伝吉

太田屋

小三郎

升屋

浅吉

飯綱屋

義蔵

菊場屋

藤右衛門

川崎屋

熊治

備前屋

嘉蔵

伊木屋

寿之助

伊木屋

新三郎

大黒屋

又七

金田屋

治右衛門

同町年寄

井崎屋重右衛門

高野屋忠右衛門

余の屋伝七

右 = 付急度叱

右取計相濟候段御用番并大目附へ申達候

一玉置中四郎義備中失懸ケ中右衛門与四郎右衛門方へ廿日計逗留

罷越度願書差出承り届ル同廿九日帰ル

一京町戸島屋伝吉義芝居役者廿人宿仕度願書大年寄差出承り届三月十日罷帰ル

十日罷帰ル

一京町美濃屋平五郎義芝居役者拾九人宿仕度願書右同断三月十日罷帰ル

帰ル

一京町松岡屋茂右衛門義芝居役者五人宿仕度願書右同断

一落合 = 盜賊召捕候段目明へ先来爰元之盜賊も可有之哉 = 付目明孫兵衛可差遣旨小頭申出承り置尤遣錢拾匁為持遣へく由申候所今

朝罷帰リ津山 = 働候盜賊とハ不相聞尤赤野 = 押込いたし五人

被召捕最早勝山牢へ入候由其内 = 重吉も居候由也

一牢浚申付候処無別条段文蔵為治届出候

一此間竜野領 = 召捕候盜賊鉄蔵取逃候由取沙駄有之旨目明申出候

牢舎人美濃職町仲平義質物被相頼候下原村新蔵と申もの = 候処右

之通取逃候 = 付打穴屋 = 有之候質物内分 = 返し候義も筋立兼候

由何れ本主罷越候ハ、可相渡旨 = 小頭へ申出承り置

二月十日 雨

一 福渡町藤右衛門取逃候組合当番人と八十吉追込昨日迄^二而十日^一相成候^二付今朝呼出し大年寄諸吟味小頭部屋目附立合左之通申渡

福渡町藤右衛門番人

咎手錠追込差免候

与八

爾来可入念候

十吉

右差免候段御用番^并大目附へ手紙^二而相届候

一 小性町芝居明十一日大入いたし明後十二日^二相始候段大年寄届出

其段御用番^并大目附へ手紙^二而相届候

一 贗札板行彫快寿誤一札御下ケ被下候様此間一学殿へ申達置候所今日御返し被成書役へ相渡置候

一 大目附小須賀貢^方申来候^者去ル八日下目附宮川大橋廻り合候処閑

實際^二綾部村西分林右衛門売払候間望之ものハ参候様^ニと申義紙

^二認竹^ニ挟^ミ有之候右^ニ付月番年寄へ相尋候所留主^ニ付非番年寄

へ相尋候得^者一向不存趣^ニ而保頭呼出し相糺候所右建札ハ今朝芝

居之建札^ニ括付有之候得共可届出程之義とも不奉存候^ニ付不申出

候由申之候^ニ付年寄^方保頭を叱候由右建札取帰候^ニ付御用番中へ

及御噂候所御場所柄之義故百性も急度叱被仰出^并橋本町保頭乍見

及不申出等閑候段急度叱^并年寄義も心付薄段急度叱候様可相達候

旨御用番中御差図之旨尤大年寄場合^ニ而取計置候様^ニ申来左之通

大年寄へ申付候

橋本町

去ル八日大橋^ニ建札有之候所

保頭

乍見及不届出等閑之段不埒^ニ候仍之急度叱置候以来可入念候

兼^而申付不行届所^方右体之分

同町

年寄

有之不埒^ニ付急度叱置候以来別^而可入念候

右取計相濟候段大目附計へ申達候

一 去ル四日認置候芝居出役賄酒肴等之義以来嚴重^ニ申付度旨大目附

小須賀貢へ及内談候処去ル四日之返書之趣^ニ而^者不同意之様^ニも

被存候^ニ付去ル八日於御城及内談候処大目附中^ニ而^者却^而勸進元取

計方不^宜惡酒等差出下部之もの等^并上ハ役之給余^方差出万端不

敬之趣共被聞込候由挨拶^ニ付猶又得と相考候所右等嚴重^ニ取計候

義ハ大目附中不^氣入趣^ニ而^者右之趣^ニ候得^者却^而凶事之基^ニ而^者不

宜様^ニ被存候付右之差合相止左之通申渡候

芝居勸進元昨年ハ役人^并対し取計

大年寄へ

不^宜賄等も致方あしく惡酒等も差出候由

其外不^敬之義も有之体と取沙駄も有之不^埒之義^ニ付

諸事入念賄等も余分候もの不及差出先規差出来候ものハ随分

入念可取計旨可被申渡候

芝居出役昨年ハ過酒等之沙駄も有之且又

惣組不^残

勸進元致方も不^宜旨取沙駄も有之何れ^ニも不^宜分^ニ付

兼^而申付通相守随分形氣相正し諸事外々之出役^ニ准

可相慎候且又昼廻り相詰候義ハ不可然兼^而申付候も外々

廻り同様^ニ可見廻自分存寄^ニ候処近年ハ相詰候様^ニ相成候由

以来ハ一才立寄一ト通見廻り無事之節ハ即刻可罷出候尤手余

り候程之群集等^ニ而^者候ハ、出役之者対談之上見合相詰可制候

目明共も形氣悪敷彼是我儘等

小頭_江

いたし風聞も有之候得_者 万端相慎形氣正敷

諸事取計候様可申付候

右之段申渡候旨小須賀貢_江 罷越及噂置候

一元魚町南屋孫三郎伊勢參宮廿日計之逗留_ニ 而 明十一日出立願書大年寄承り届差出候同廿八日帰ル

一橋本町宗箱訴仕候磯之丞義相礼候処一昨辰年十二月橋本町博奕之節召捕元新魚町住之もの_ニ 付出役同心組新魚町へ申遣候所除帳之もの_ニ 由申越立帰もの_ニ 付山本屋与惣七下人_ニ 預ケ置候所其場

而 取逃候_ニ 付其段其節御届申上与惣七下人御咎も被仰付候猶又大年寄へ糺申付候処弥除帳者之由申出候付其段小須賀貢へ申達尤ケ様之ものハ数多有之候事_ニ 而 見逢次第召捕候様_ニ 兼 而 夫々_江 申付置候義_ニ 有之候旨申達右箱訴貢_江 差戻候

一上紺屋町中津屋伊右衛門播州能勢妙見宮_江 参詣三十日計逗留_ニ 而 明十一日出立之願差出承り届_{同月廿七日退場候段届出候}

一安岡町北側_ニ 而 村永屋恵助家屋敷表口四間裏行拾七間但半役也東隣ハ村永屋吉右衛門西隣ハ岡屋忠七也右家屋敷代銀札四百匁相極同町村永屋吉右衛門借屋住形田屋宇吉へ売渡度願書差出承り届ル同十七日売券状差出

一撰州豊島郡池田村月野木町植木屋平兵衛義数十年來参り來御用宿鳥屋与三兵衛方へ参候所同人義仍願宿御免被成候_ニ 付境町西川屋善助へ宿相頼候_ニ 付右鳥屋与三兵衛跡役被仰付候迄宿仕度尤跡役被仰付候ハ、早々引渡可申旨西川屋善助願書大年寄差出承り届

二月十一日 晴

一御蔵米六拾四匁町米六拾匁

一備前邑久郡牛窓大工五郎左衛門市兵衛喜左衛門半兵衛善助小作六人例年之通來候段新職人町松野屋十右衛門宿切手差出十二月廿七日帰

一京町桶屋四郎兵衛兄登作義四国遍路百五十日之逗留_ニ 而 明十二日出立之願書差出承り届五月十三日帰ル

一安岡町鍛冶長兵衛方へ昨十日夕裏口_ノ 盜賊這入衣類十五品代_ニ 積百七拾匁位盜取表口_ノ 歸り候趣_ニ 相見へ候由届書差出目明へ例之通敵數穿鑿申付候様小頭_江 申付置翌十二日御用番中へ手紙_ニ 而 相届品書差出大目附_江 も相届候

一小性町芝居大入いたし八時_ノ 左十郎又六差出候所別条無之引取候段届出候

二月十二日 曇

一元魚町村本屋太四郎借屋住轆轤屋治兵衛娘十一ヶ年已前御領分二ノ宮村太七妻_ニ 遣置候所今般離縁仕二歳之男子庄之助召連親本へ罷歸候_ニ 付右二人人別入願下方引合相濟候段大年寄申出承り届

一牢舍人宜祥郡代所_ノ 呼出申來新治差遣出入取計申候

一小性町芝居大札五拾枚小札三拾五枚之由無別条引取候段文蔵砂兵衛届出候

一例年之通御給米頂戴之御礼組中罷出候

二月十三日 晴

一御用日登城

一京町大村屋源右衛門大坂の罷歸り玉子屋の訴相罷歸候段届書差出元魚町糺屋伊助出訴も致内濟候段届書差出大坂村尾李右衛門も相濟御番所も相届濟之由申来御用所へ差出大目附も其段手紙申達候

一大坂村尾李右衛門の書状到来大坂本町二丁目綿屋清助支配借屋漆屋四郎兵衛の爰元東新町鍋屋平藏へ壳懸式百五拾四匁分五厘元魚町龜屋定治郎へ壳懸三百八拾九匁分三厘差滞候付濟候様被仰付被下候様願書差出候由李右衛門の相廻候右書類御用番中へ差出急濟方可申付旨申達候所御聞濟付其段大年寄へ可申付旨申達大目附も手紙申達候

一船持共例年の通壹艘付式拾五匁ツ惣辻式貫七百匁拝借之証文差出候勘定奉行懸合之上御用番中へ申達候所御聞濟付大目附へ差出置御聞届之旨大年寄へ申達候

一二階町田原屋武兵衛裏御堀石垣損候付御修覆願書差出候付大目附へ差出御聞届申達候

一二階町北関貫際御堀土手しからみ損届書右同断取計濟

一安岡町鍛冶長兵衛被盜もの届書御用番中御下ケ被成右被盜もの代積之内古手直段ノ何程と認有之候所古手直段と認出候儀も無之無用之義候間以来ハ代積リ大体何程位と認出し候様一学殿被仰渡候

一贖銀一件之丈兵衛義最早因州へ懸合候も可然間重御用日下案差出候様一学殿被仰出候

一材木町福中屋多助後家西今町横手小野屋太郎兵衛以前御用銀差

上置候付歎書差出旧年一学殿御列席差出置候所今日被仰聞候右体之ものも挨拶可有之右体之もの悉く員数まで認出候様被仰出候付其段大年寄へ申付置候

一大目附小須賀貢の昨年芝居幕水引昇等持相送り大騒之趣相聞候処町大破家道普請等之義も有之徳守宮祭礼も野台等被差留候位之義候得今年之芝居ハ右体之大騒成風聞無之様

町奉行心得を以取計可然旨御用所御沙駄有之候間其段差含取計候様被申聞候付其旨何となく源五兵衛へ申達互取計候様申付候大目附小須賀貢の芝居木戸札員数以前正敷不書出余程員数を減し書出候事之由定追願等可致心得左様も書出し候事

も可有之候得共其段ハ上御食着も無之義昨日杯之入之様子承り候も人数余程相聞候所木戸札書上ケハ八拾五枚と書出候余之事御用所も御不実候得以来ハ正直書出候様可申付旨被申聞其段大年寄へ申付小頭も申付候

一二階町三保屋十右衛門家守喜助借屋住河本屋忠吉義御厩中間出度人別除願差出北島唯七へ懸合之上承り届

一大年寄共年頭献上物披露相濟候段御奏者番伊達与吉郎の昨日申来り其段大年寄へ申達候所今日御礼罷出候

一人馬問屋御給米証文例年之通差出奥書取計候

一同心組去巳七月御金奉行口入銀札三貫七百六拾四匁八分借リ遣候所昨日御給米受取候付致差引利分相払其上元銀三百四十八匁九分八厘八毛払込残当年之元銀三貫四百拾五匁八分一厘一毛之証文差出奥書取計候尤兼要左衛門と約諾付小頭孫八清水勇

馬方へ差遣差引為取計候

一 信沢仁左衛門長屋住吉次郎夫婦二人茅町大工幸右衛門引受度人別入願吟味相濟候段大年寄申出承り届

一 林田町南側ニ塩屋七三郎家屋敷表口六間半裏行拾七間但二軒役也東隣ハ鍋屋治之助西隣ハ福吉屋音右衛門也右家屋敷代銀札八百匁ニ相極西新町高松屋多助へ売渡願書差出承り届四月十六日

一 宮川大橋南側ニ痛所出来穴三ヶ所明候段橋本町ニ届書差出大目附へ紙面ニ差出候

一 下紺屋町河内屋佐吉悻字兵衛義大坂阿波座古金町龜屋弥兵衛方へ当午二月より来ル申ノ十月迄三ヶ年之間奉公仕度願書差出承り届庚

十月十六日帰ル

一 牢舎人野辺文治着物入替伺出承り届

一 蔵合孫左衛門養子峰三郎義離縁仕立石広助方へ差戻度願書下方引合相濟候段申出候ニ付御用番中へ相伺候処御聞濟ニ付右願書大目附へ差出置御聞届之旨手紙ニ源五兵衛へ申達候

一 左兵衛佐様御裏方様先月廿八日御死去被成候ニ付昨十二日一日之慎御触今朝到来最早過去り候事ニ者候得共町中組中へ相触候

一 小性町芝居大札七拾五枚小札三拾八枚無別条段藤蔵為治届出候

一 備前より返書不差越候ニ付下辺様子監察為致候様御沙駄有之候段大田舎人被申聞其段大年寄へ申達候

二月十四日 快晴

一 小性町芝居大札百拾八枚小札四拾三枚無別条引取候段孫八百蔵榮

治届出候

二月十五日 晴 夜雨

一 御蔵米六拾四匁五分町米六拾匁五分

一 米相場届旧格之通御蔵米町米相場兩様今以書出候所町米相場ハ非

人扶持相渡候計ニ入用之事ニ其外ニ入用之義無之候去歳ノ相場

建方改ニ被仰付候処矢張町米相場と申もの書出候ニ何とやら耳

障之様ニも相聞ヘ宜かる間敷哉ニ相考勘定奉行近藤伊左衛門上原

彦蔵へ遂対談候処同意ニ相止候方他領ニ之聞ヘも可宜旨被申聞

候付御勝手引受大目附松岡治部助へ及対談候之処不同意ニ矢張

町米相場届出ニも不苦義と被申聞候付右之手段相止候尤右ハ一

昨十三日於御城遂対談候

一 小性町芝居大札百六拾枚小札四拾五枚無別条引取候段藤蔵又六届出候

一 備前竹内又右衛門返書到来内濟取扱之義致承知候間向方ハ大

庄屋忝人外ニ式人可差出尤今般ハ幾重ニも遂熟談精々致下濟候様

ニ申含可差出且内濟懸合所ハ爰元之扱人方方磐梨郡坂根村大庄

屋左右衛門へ懸合候様ニ可相移旨申来候ニ付紙面之通致承知其趣

可申付旨再報下案相認来書ニ差添太田舎人ニ差出飛脚之者相待居

候ニ付今夕返書差遣度ニ孫左衛門喜左衛門も出役可申付旨相伺候

段紙面ニ舎人ニ申遣伺之通宜取計候様申来候ニ付再返報飛脚之

者へ相渡差返し候

二月十六日 雨

一 雨天ニ付芝居延引候段勸進元ノ届出候

一 上野介様御先触左之通昨夜致到来候由写差出候ニ付御用番中へ差

出大目附^江も相届候尤郡代所^江も及通用候

以廻状申達候然^者上野介殿当春被致参観候^ニ付三月十一日在所
雲州広瀬表被致出立候依之道中泊左^ニ相記候通相違無之様頼入
存候且昼休之義^者其節々之趣を以相定候之間相記不申候尤近日
関札差出猶亦宿割之者差遣候間万一障等も有之候ハ御対談有
之何分宜御取計頼存候若広瀬表出立日限致相違^ニ者早速追廻状
可差出候間左様御心得可有之候且又此度道中別^而儉約^ニ而^而被致
旅行候間進物等被差出候義御無用候此廻状宿々無滞順達在之留
る江戸四谷御門外此方屋敷^ニ而^而岩田用右衛門足立弥市方へ早々
差遣可給候以上

松平上野介内

二月十一日

松浦森右衛門

米子^{三月十日} 溝口泊 二部 根雨 板井原^{同十三日} 新庄泊 三島

勝山^(一ツ) 久瀬^(一ツ) 坪井^{同十三日} 津山泊 勝間田 土井 佐用^{同十四日} 三ヶ

月泊 以下略候 伯州米子駅^ル武州品川駅迄

宿々御本陣中 問屋中

一西新町水祝仕候もの共十四人追込昨日迄^ニ而^而七日^ニ相成候間今朝
大年寄於宅差免其段御用番^非大目附へ紙面^ニ而^而相届候

一百姓村百性武助咎牢舎郡代所^ル申来差紙為持砂兵衛差向取計候

二月十七日 雨

一備前船持共と当所船持共出入之義今般双方^ル役人差向内扱^ニ相成
候処向方^ル八大庄屋と下役二人都合三人差出候様申来候処此方^ル
孫左衛門喜左衛門兩人差向候存含^ニ候処右之通故人數不都合^ニも

可有之哉と存内々兩人之存寄承り候上^ニ而^而今一人久山勘八被仰付
候^而も可然候旨昨日太田舎人^江申達候所一学殿^ル被仰出候^者今般
之一件兩人^江御打任セ被成候義^ニ候間兩人存寄得と承り糺尚又仁
物も兩人之指人^ニ而^而可被仰付候間孫左衛門喜左衛門存寄得と相糺
候上^ニ而^而可申上之旨被仰出候段舎人^ル被申聞候^ニ付猶又喜左衛門
呼出申達候所孫左衛門^ル弁書指出兩人^ニ而^而可相濟哉とハ兼^而存居
候得共向方へ対候^而も不都合^ニも可有之哉且^者談振り^ニ寄一人ツ
引離れ談候様之義有之候節ハ人数引足不申候間三人被仰付候方
可然被存候併下方^ル強^而願立候程入用之義^ニ而^而無之候得共御尋^ニ
付此段申上候尤右仁物ハ久山勘八義先年も内扱^ニ罷出候もの^ニ候
得^者同人被仰付候様仕度旨申出候^ニ付其段太田舎人^江紙面^ニ而^而申
達置候所伺之通申付候様今日紙面^ニ而^而申来候^ニ付小頭立会^ニ而^而左
之通申渡候

船持共備前田原と荷積出入之義

蔵合孫左衛門

内濟被仰付今般双方^ル役人被差

久山勘八

向候^ニ付右内扱其方共^江被仰付候

宮田喜左衛門

間参会場所^非日限等之義ハ備前

大庄屋左右衛門へ懸合精々内濟相調候様^ニ存分^ニ可取計候

右申渡相濟候段太田舎人^江紙面^ニ而^而相届候

一桶屋町広瀬屋長八悴庄蔵義去ル辰九月古市主殿^江出入奉公致候^ニ

付除帳相願候処今般首尾克暇出候^ニ付人別入願差出承り届

一御領分東南条郡林田村良助娘義安岡町井手屋太良兵衛悴藤蔵妻^ニ

引受度人別入願下方引合相濟候段申出承り届

一 林田村弥三郎借屋住市右衛門夫婦娘右家内三人林田町豊国屋重右衛門後家借屋へ引受度人別入願右同断ニ付承り届

一 小性町芝居大札百三拾式枚小札三拾八枚無別条段文蔵為治届出候

二月十八日 快晴

一 御用日登城

一 先月廿七日江戸表高田御屋敷近辺出火御境之垣致焼失候ニ付御機嫌伺有之候旨出仕之上大目附ノ演達有之例之通於七間廊下御奏者ノ三奉行迄御小性頭謁奉伺御機嫌候

一 三浦志摩守殿領分勝山菊屋弥三右衛門娘義勝間田町栄屋新四郎妻

ニ引受度人別入願御用番中御聞濟ニ付大目附へ差出置御聞届申渡候三月十六日住宅証文差出

一 賈銀師丈兵衛義因州へ可引渡之旨文通下案相認同人口書ニ差添御用番中へ伺置候

一 備前ノ之来書一学殿御戻被成今般之内扱兼ニ書面之趣ニ而も孫左衛門吞込居候趣ニ付今般之一件ハ同人ニ御委任被成候間差向候義不及候候間存寄一盃ニ取計候様一学殿ノ被仰渡其段申達候

一 泰安寺住職用向ニ付直屋市郎左衛門義又候播州赤穂ニ差遣候旨寺社奉行小須賀貢ノ案内有之候

一 官脇町松井屋伊助倅万吉義撰州能勢妙見宮ニ参詣廿二日計之逗留

ニ来ル廿日日出立願書大年寄承り届差出三月九日帰

一 大坂南本町三丁目紙屋藤兵衛手代新兵衛一人例歳之通菜種御売壳候段新職人町松野屋十右衛門宿切手差出ス同廿六日帰ル

一 小性町芝居大札百九拾枚小札五拾五枚無別条引取候段藤蔵百蔵届

出候

二月十九日 小雨 朝飯後晴

一 田原出入一件ニ付出会場所日限等之義大年寄三人ノ一昨十七日備

前大庄屋坂根村李右衛門方へ飛脚差遣候所昨夜飛脚之者罷帰リ弥来ル廿日日出立ニ而佐伯被参候様返書来候由右返書昨夜差出候ニ付今朝太田舍人ニ差出候右ニ付明朝出立為仕候段届候

一 田原出入一件去暮ノ竹内又右衛門へ懸合候往返書簡持参仕度段孫左衛門申出相渡候同人義久々引込罷在候所今日出勤罷出及面談

一 坪井町小島屋利兵衛撰州能勢妙見宮ニ廿日計之逗留ニ而明廿日出立願書大年寄承り届差出候三月九日帰

一 大坂山本町大坂屋忠兵衛手代与右衛門源助伊兵衛嘉兵衛以上四人例年之通小間御売来候段坪井町河原屋治助宿切手差出候三月九日帰

一 坪井町小倉屋善助義撰州能勢妙見宮ニ参詣廿日計之逗留ニ而明廿日出立之願書差出承り届三月十一日帰

一 西今町直屋市郎左衛門義泰安寺後住職播州赤穂新浜広渡寺重誉上人為請疏罷越候様寺社役所ノ被仰付候ニ付十五日計之逗留ニ而明廿日出立之届書差出候同廿五日罷帰ル

一 小性町芝居大札三百廿枚小札百枚無別条引取候段新治菜治届出候

二月廿日 快晴

一 牢舍人坪井町藤屋嘉右衛門義寺社懸り合ニ付寺社取次ニ而吟味被仰付支配之事及通用候様御用番御差図之旨大目附ノ申来尚又寺社

取次兼帯三浦十郎左衛門ノ嘉右衛門義今九時遂吟味候間町役組合老人ツ、差添差出候様申来其旨大年寄ニ申達候所嘉右衛門義致足

痛候 = 付駕籠 = 乗セ度旨宿元ノ願出候段申出候 = 付無扱義 = 候ハ
ノ間屋駕籠 = 乗候様申達出番百歳老人差向郡代所^江吟味中相渡サ
セ出入取計候

一 歳合孫左衛門久山勘八宮田喜左衛門今朝備前^江致出立候段大年寄
ノ届出太田舍人^江相届候

一 牢舍人和七佐助着物宿元へ返し字助寝巻入度旨牢番伺出承り届

一 牢舍人文兵衛藤治二廻り相濟候処未相勝旨申出代之医大年寄へ申
付候

一 牢舍人周藏新吉吟味可相成哉病氣之趣郡代ノ尋来山七^江相尋候処
新吉義ハ先達^而ノ歩行不相叶候得共兩人共当時服薬も仕候間吟味
可相成趣 = 申候間其段郡代所へ申達候

一 安岡町久米屋友七義大坂土佐堀式丁目木屋与兵衛方へ廿日計之逗
留 = ^而明廿一日出立願書大年寄差出承り届三月九日帰

一 小性町芝居大札三百五拾枚小札百拾五枚有之且又以前御中間相勤
候忠藏と申もの致醉狂手 = あまりしはり置河原町年寄組合呼出し
預ケ置候処当時河原町之住人 = ^而も無之候得とも同人妻河原町 =
居候 = 付致寄宿居候哉之趣 = 相聞候段佐十郎又六届出且又河原町
ノも届出候段大年寄も届候 = 付右忠藏出処之処得と相札申聞候様
大年寄へ申付大目附^江今日芝居小屋 = ^而酒酔有之しはり置候段届
出候 = 付相札之上様子次第御届可仕奉存居候得共定 = 御徒目附ノ
も届も可有之候間右之段御内々達置候旨紙面 = ^而申遣置候

二月廿一日 雨

一 小性町芝居 = ^而昨日致醉狂候忠藏義大年寄宅 = ^而組合呼出し相札

候処忠藏義ハ割場中間相勤居候 = 付同人妻名前 = ^而八九年以前引
越候もの = ^而其後伝助明屋敷買受致普請罷在候処去々辰年右忠藏
義御暇被下候 = 付其節入帳為仕候筈 = 候処無其義奉恐入候段口書
差出候然ル処右忠藏義しはり有之候得共誤入候様子も不申出候 =
付先今日ハ其儘 = ^而差置候

一 小性町芝居大札百五拾枚小札四拾八枚無別条引取候段孫八文藏砂
兵衛届出候

二月廿二日 雨

一 霖雨 = 付芝居延引届出候

一 牢舍人山東村喜右衛門出牢郡代所ノ申来手形差遣出番藤藏差向取
計候

一 郡代所ノ藤屋村常右衛門牢番預ケ申来出番為治差向取計候
一 勝間田町榮屋新四郎義大坂大川町綿屋儀兵衛方へ十五日之逗留 =
^而明廿二日出立之願書大年寄承り届差出三月七日帰

一 御藏米六拾五匁五分町米六拾匁五分
一 牢舍人惣社村和七拾入遣度伺出承り届

一 牢舍扶持八俵内貸証文奥書取計候尤来月へ持越式石五斗八升有之
一 伏見町道具屋武助夫婦西国順礼罷出度百日計之逗留 = ^而来ル廿六

日出立之願書大年寄差出承り届五月十二日帰ル

一 御城代組植月伝藏義番代仕候 = 付京町作屋たき引受人別人願書承
り届ル

一 御領分東南条郡川崎村字助娘義戸川町藤藏^屋甚助養女 = 引受度下方
引合相濟候段大年寄申出承り届ル

一山下官弥長屋住久米^并娘みよ孫龜藏右家内三人茅町今出屋庄助引
受度人別入願大年寄差出承り届

一摂州豊島郡池田村月野木町植木屋平兵衛一人例年之通植木売来候
段堺町西川屋善助宿切手差出五月廿四日帰ル

一東新町^二非人体之者行倒候段大年寄^レ届出候^二付町内^レ番為仕医
療食餌等心付候様申付置明朝見分差出候様小頭^二申付ル

二月廿三日 晴

一御用日登城

一安岡町鍛冶長兵衛届書差出候去ル十日之夕盜賊這入品々盜取候^二

付木山宮^二參詣仕帰リ懸久世辺^二立寄候所以前召仕候十吉と申も
の^二出逢心懸リ之もの^二付遂吟味候所右之品不殘致所持罷在候^二

付右品不殘取帰候右盜賊十吉をも召捕連帰リ候所途中^二取逃候
段届書差出候御用番中へ右之段申述届書差出候所即刻御下ケ被成
候^二付大目附へ差出置候

一^二下紺屋町大工伊助義京都西九条古御旅所大工藤兵衛方へ養子^二差
遣度旨同人母願書差出御用番御聞濟^二付大目附へ差出候

一^二細工町大工乙兵衛借屋住板倉全柳悻友之助義兼^二不所存もの^二所
旧臘十五日罷出不罷帰所々相尋候得共行衛相知不申右体之もの^二
義^二付義絶勘当仕度願書右同断取計済同廿八日勘当証文差出候

一^二木下淡路守殿領分備中賀陽郡下高田村清治郎悻伊兵衛言人中之町
北原屋三之助引受度人別入願右同断取計済

一^二生野御代官稻垣藤四郎殿支配所当国東北条郡小中原村儀助娘義四
年已前京町関屋喜兵衛悻八十吉妻^二引受置候所此度離縁仕親元^二

差戻度人別除願右同断取計済三月三日住宅証文差出ス

一^二稲垣藤四郎殿支配所当国勝北部檜村卯藏弟佐一郎義五年已前下紺
屋町龜屋勘右衛門養子^二引受置候所此度離縁仕兄卯藏方へ差戻度
人別除願右同断取計済

一^二脇坂淡路守殿御預り所当国久米南条郡福渡村八右衛門娘義東新町
初屋善吉嫁^二引受度人別入願右同断取計済三月十八日住宅証文差
出

一^二新職人町塗師孫三郎借屋住村上玄宅妻離縁仕娘一人差添讚州寒川
郡宮西村社家兵部方へ差返し度人別除願右同断取計済

一^二早川八郎左衛門殿支配所備中国賀陽郡下^{アサキ}皆部村半右衛門役介長右
衛門義一人中之町玉の屋藤十郎借屋住代戸屋善三郎引受度人別入
願右同断取計済同晦日住宅証文差出

一^二大橋十太夫殿下屋敷住盜賊左助義伺之通百敲追払取計候様御用番
中被仰出候右^二付来ル廿五日取計可申旨御徒目附被差出候様大目
附中へ相違置候所大目附中被申聞候^者右御達ハ大目附出席^二可
被仰渡答^二候間其旨取計有之趣^二認置候様被申聞候

一^二賈銀一件丈兵衛義因州へ文通下案去ル十三日伺置候所文段御存寄
被仰出其旨認直し差出候所即刻伺濟^二付大目附へ申達右^二付飛脚
之者明朝立^二被仰付被下候様^二申達置候処山本八十助来相濟候

一^二東新町行倒もの部屋目附新治差向候所非人病人^二無相違無^二之旨一
札^并醫師容体書取罷帰リ候^二付右一札御用番中へ差出先格之通^二

□□^二非人共方へ為引取養生可申付旨紙面^二相同候所御聞濟之趣
申付候^二付其段大目附へ紙面^二相届□□□□^二為引取候様大年寄

へ申渡候

一 小性町芝居^ニ 而 去ル廿日致醉狂候河原町忠藏義相糺候所御中間御暇出候後入帳可仕候処無其義罷立候^ニ 付旁以難捨置依之手錠懸ケ十日追込組合年寄叱可申付段御用番中へ相伺候所伺之通取計候様被仰出候付大目附へ申達尤今日へ組致不足候間加人二人被仰付候様申達候所加藤小之八笹岡与三兵衛来候^ニ 付此番為治与三兵衛差向呼出し立会源五兵衛孫八新治^ニ 而 新左衛門^ノ左之通誑渡候但組合年寄叱ハ大年寄申渡候

河原町

去ル廿日芝居^ニ 而 致醉狂役人^ニ手向 忠藏

致悪口其上河原町^ニ乍致住居入帳

不致旁不埒至極^ニ付手錠懸ケ追込申付候 但日数十日

右之通不埒^ニ付急度叱

右組合

右同断

同町

年寄

右取計相濟候段御用番^并大目附へ相届候

一 上野介様御止宿^ニ付御本陣格別之損も無之趣^ニ 候得共見分被仰

付候様^ニ大目附申達置候処承知^ニ候

一 吹屋町高瀬屋助八一件^ニ付御藏元文五郎米屋藤右衛門釜屋市郎右

衛門呼出口書印形取之

一 小性町芝居大札百廿枚小札廿八枚無別条引取候段百藏栄治届出候

二月廿四日 晴

一 明朝盜賊李助取計^ニ付同心組致不足加人二人大目附申達候所福田

伴藏中村栄治来ル

一 小性町芝居無別条大札貳百貳拾枚小札四拾枚有之段新治又六届出候

一 藏合孫左衛門^ノ田原懸合去ル廿三日迄之手扣帳差越太田舍人懸リ之義^ニ付同人^江差出候所病人有之取込候直^ニ御用番中へ差出候様申来候付一学殿^江紙面^ニ而 差出候

一 大橋下屋敷住盜賊李助御裁許明朝取計候段兼^而頼^ニ付内々十太夫殿^江手紙^ニ而 為御知申達候

二月廿五日 雨

一 於牢屋御徒目附西原郷平下目附原田正藏小頭孫八部屋目附新治立合書役新左衛門^ノ左之通誑渡候但出番為治栄治

大橋十太夫下屋敷住

御家中長屋へ忍入致盜候付

盜賊

百敵之上御領分追込申付候

李助

同人

盜賊筋携無之^ニ付差構無之候得共

妻

盜賊之妻子^ニ付御領分立去リ

同人

申付候

悴佐市

右役介之申渡ハ於役所可取計先格^ニ候得共組致不足^并李助と一

所^ニ立去リ候様^ニ不取計^ニ而 手難合不宜候付右役介二人今朝

牢屋前へ召連出候様^ニ夜前大年寄^ノ受人共^江申付置於牢屋前小

頭部屋目附立合妻役^ノ申渡候

右取計相濟候段御用番^并大目附へ手紙^ニ而 相届候且又兼^而被仰出

先格之通大橋殿へ右取計相濟^并罪状迄之義相認大橋十太夫殿家来
中と上書^ニ認自分^ノ差遣候

一 牢舎人一ノ宮村乙松義御城下巷里四方構弘被仰付候由郡代所^ノ出
牢手形相廻り手形認かへ出番為治栄治^ノ取計候

一 備前出役蔵合孫左衛門^ノ差越候書類昨夜御用番中へ差出置候所返
文候下案相認差出候様今朝一学殿^ノ被仰出依之返書下案認差出候
処一学殿御添削被成今日中^ニも認次第態飛脚^ニ差遣候様被仰出
其段大年寄へ申付候

一 新職人町年寄滝木屋平四郎義眼病相煩候^ニ付娘忝人召連大坂内安
堂寺町帶屋嘉兵衛方^江為療治四十日計之逗留^ニ廿六日出立仕度
留主之義へ大坂屋彦市へ頼置候段願書差出候承り届

一 林田町豊国屋重右衛門後家養子^ニ引受置候二宮村住茂七夫婦^并同
人母^并娘忝人悴伊吉忠吉右家内六人此度離縁仕二ノ宮村八十治借
屋へ差返し度人別除願下方引合相濟候段申出候付承り届

一 小性町芝居大札式百三拾枚小札五拾枚有之無別条引取候段佐十郎
砂兵衛届出候

一 備前出役蔵合孫左衛門^ノ同役方へ廿五日出之書状到来向方兎角手
先あゐしらい^ニ熱談難出来趣^ニ付廿五日八時^ノ双方不殘打合せ
濟不濟相決し引取候積^ニ迎之船申越候由申来候書状四ツ時前源
五兵衛差出し一学殿^江差出候

二月廿六日 晴

一 御領分東南条郡林田上之町行波玄策後家跡入門脇見竜^并悴利吉喜
与治右三人離縁仕候付元魚町辻屋喜助引受度人別入願下方引合相

濟候段申出候付承り届

一 下紺屋町作人仁平借屋住独身宇助義此度柴山重治^江中間奉公^ニ罷
出候^ニ付人別除願差出承り届

一 小性町芝居大札五拾式枚小札四拾八枚有之無別条引取候段孫八文
蔵為治届出候

一 備前出役蔵合孫左衛門^ノ昨日之再報飛脚之者^ニ差越弥内濟相調不
申依之一ト先引取候様^ニ懸合左右衛門義へ今日坂根村へ引取候由
孫左衛門義へ明晚可罷帰申越候右書面一学殿へ差出候

一 吹屋町年寄才右衛門先達^ニ致死去候付跡役吹屋八左衛門へ可申付
旨大年寄伺出承り届

一 茅屋町年寄大坂屋喜与八先日致死去候付跡役同人悴浜吉へ可申付
旨大年寄伺出承り届

二月廿七日 快晴

一 福渡町北側^ニ三船八郎右衛門所持之家屋敷表口七間裏行拾七間
但巷軒役西隣へ浜野屋嘉市東隣へ南北通り筋也右家屋敷之内表口
七間裏行拾七間御役六歩五厘添代銀壹貫四百匁^ニ町内松山屋岩右
衛門へ売渡願書大年寄差出承り届同廿八日売券証文差出候

一 右同断家屋敷之内裏行六間御役三步三厘附代銀壹貫匁^{イッヅラシメ}相極町内さ
だや長兵衛へ売渡願書右同断承り届同廿八日売券状差出ス

一 播州網干新在家村加賀屋善七手代忠二郎善兵衛式人例年之通小間
物卸売来候段西新町山家屋利右衛門宿切手差出七月廿日帰り届出
候

一 備州津宇郡妹尾村小判屋太郎兵衛一人例年之通疊表卸売来候段右

同人宿切手差出候六月十六日帰ル

一下紺屋町一乘院金比羅參詣十日逗留_ニ而_ニ来月七日出立願大年寄_リ

承り届差出ス三月十四日帰ル

一吹屋町持福院右同断願差出三月十二日帰

一上紺屋町円乘院右同断願差出三月十四日帰ル

一吹屋町熱田放馬右同断願差出三月十四日帰ル

一小性町芝居大札貳百八拾枚小札七拾貳枚有之無別条引取候段藤藏百藏届出候

一備前懸合ニ差向候藏合孫左衛門久山勘八宮田喜左衛門三人今晚罷帰_リ向方_ル以後小麦油糟醬油三品可遣_ニ并_ニ一札認方向方申通_ニ者_得不致と申事_ニ而_ニ居_リ合不申懸合中ニ致置先取引候段申出追_ニ而_ニ寛々筆

談又ハ和談ニ致候ハ、可濟寄哉とも存候旨申出_ニ并_ニ手扣差出候右ニ付罷帰候段計御用番中へ相届委細_者明朝可申上旨申達置太田舍人ハ老母病中ニ付大目附月番_江相届候

二月廿八日 快晴

一御用日登城

一藏合孫左衛門備前懸合之趣委細御用所へ申達同人手扣帳差出候処孫左衛門懸ケ合至極行届候段御賞美被成候大目附_江も大意申置候

一美濃職人町孤独鉄屋忠藏借屋住かさや亀御救扶持歎書御用番中御聞濟ニ付大目附へ差出置勘定奉行へも及通用置御聞届之趣大年寄

へ申達候

一小性町芝居加日五日追願書御用番中御聞濟ニ付大目附へ差出置御

聞届申達候

一堀田大藏太輔殿領分当国西々条郡久田下之原村新兵衛倅幾之助義下紺屋町里屋松五郎養子ニ引受度人別入願右同断取計相濟

一仙石越前守殿領分当国勝南部金井村伝内倅嘉藏義西新町備前屋市右衛門養子ニ引受度人別入願右同断取計済

一堀田大藏太輔殿領分当国勝北郡馬桑村長助甥清吉義去々辰五月小性町宗兵衛借屋住作人助右衛門養子ニ引受候処此度離縁仕長助方へ差返し度人別除願右同断取計済

一二階町組屋忠右衛門裏御堀石垣損候ニ付御繕願書差出大目附へ差出候

一二階町出雲屋勤三郎右同断願右同様取計

一二階町疊屋佐吉右同断願右同様取計

一吹屋町高瀬屋助八出訴借銀出入御裁許_ニ并_ニ役人御咎同書松岡治部助

へ差出置候

一林田六町_ニ并_ニ西今町関貫番所無願取崩候義_ニ并_ニ非人番追願不差出御咎

同書松岡治部助へ差出置候

一牢浚申付候処無別条旨昼廻藤藏百藏届出候

一備前岡山小畑町鼠屋甚八手代文十郎一人例年之通元結御売来候段新職人町松野屋十右衛門宿切手差出

一小性町芝居大札四百三拾枚小札貳百八枚無別条引取候段新治栄治届出候

一上野介様御関札御小人持參仕候由玉置源五兵衛届出及深更候付翌廿九日御用番_ニ并_ニ大目附へ手紙_ニ而_ニ相届候

二月廿九日 晴

一 川端左五兵衛義御使組日下勇助姪引受婚姻仕度旨一昨廿七日願出承り届同夕引取候

一 因州^江差遣候飛脚九ツ前時罷帰致承知候旨返書差越御用番中へ差出候

一 河原町熱田大藏義金比羅參詣七日之逗留^ニ 而 来る七日出立願書大
年寄承り届差出候三月十二日帰

一 堺町小林主水右同断願差出三月十二日帰

一 小性町芝居大札三百拾枚小札百七拾枚有之無別条引取候段佐十郎
又六届出候

一 藏合孫左衛門^ハ備前大庄屋坂根村李右衛門へ論中^ニ 而 相積候事
= 候間田原船頭共勝手次第当川岸へ稼^ニ 来候様可申遣旨下案差出
御用番中へ持參相伺候処先見合候様被仰出其段孫左衛門へ申達候

二月晦日 雨

一 関貫番賃銀例月之通相渡

一 大目附小須賀貢^ハ今度人屋被相止候付郷中触書郡代^ハ同済^ニ 候間
町方^江も相触候様御用番被仰出候間郡代^江致対談且又今明日之内
= 御家中^江も触達有之候間右御触書も引合町触宜取計候様^ニ 申
来郡代所^ハも同済之書類相廻候

一 小性町芝居大札百七拾枚小札百三拾枚有之無別条引取候段文蔵砂
兵衛届出候

一 備前大庄屋坂根村李右衛門^ハ藏合孫左衛門へ書状差越先日之申談
之様^ニも難致趣^ニ 申越尚又登荷等之好申越候書面差出候^ニ 付飛脚

之者ハ先ツ受取書相渡差返し追^而 自是可及返書之旨申遣置右返書
下案認相伺候様及差図置候

三月大

月番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 小須賀一学殿

大目附 佐々木主馬

大年寄 藏合孫左衛門

諸吟味 宮田喜左衛門

三月朔^乙 日 晴

一 大目附廻状到来人屋被相止候間人屋無之以前之通^ニ 相心得候様申
来郡代所^ニ 而 請人等之義委敷触達有之候得共当役所^ニ 而 人屋
被仰付候節も為御知而已之義^ニ 候間此般も大目附廻状之通町方^江
相触組中へも相触候

一小性町芝居大札百三枚小札九十枚有之無別条段孫八藤藏為治届出候

一備前江之返書相認来書共蔵合孫左衛門差出候ニ付紙面ニ一学殿差出候

三月二日 快晴

一今明日芝居致延引候段勸進元届出候

一郡代所方沼村長蔵と申もの贖金引合之趣生野へ申来候付牢番預ケ申付候段申来出番栄治差向取計

一播州網干天満屋義兵衛一人例之通反物卸売来候段中之町小山屋与三右衛門宿切手差出候

一大坂立売堀二丁目播磨屋惣吉一人例年之通小間物売ニ来候段中之町小山屋与三右衛門宿切手差出候六月十一日帰

一福渡町阿賀屋助五郎家守忠助借屋住重吉義四国遍路罷出度百日之逗留ニ来ル七日出立願書大年寄差出候承リ届

一大目附廻状到来
来ル六日於三州大樹寺道幹様(松坂ノ中)二百五十回御忌ニ付明三日も同六日迄御法事有之候依之諸事相慎火之元別ニ入念候旨被仰出候

三月三日 快晴

一上巳ニ候得共御慎中ニ付自分義罷出候併組中ハ例年之通麻上下着用不残罷出例之通神酒差出之諸事定例之通取計候

一備前大庄屋左右衛門へ蔵合孫左衛門へ返書下案御用番中へ差出置候処思召無之伺之通及返書候様御用番中へ紙面ニ申来其段蔵合

孫左衛門へ申達候

一牢舎人丈兵衛療治二廻り相濟候付中村易安へ申付候段大年寄届出候

一河原町忠蔵手錠追込昨日迄ニ十日ニ相成候間今朝呼出し立合例之通ニ差免候段申渡候其段御用番ニ大目附へ手紙ニ相届候

一牢舎人惣社村和七蒲茵(トコ)入遣度一昨日牢番伺出承り届

一御代官野村権九郎殿支配所吉野郡庄屋大年寄共方江米相場建方違候訳飛脚を以尋越候段大年寄伺出先例之通及返書候様ニ及差図候尤其趣翌四日御用番ニ大目附へ序有之及噂候尤大目附ニ又候

江戸表江被相廻候ハ来書返書共可差出哉と申達候所不及其義旨被申聞候

三月四日 快晴

一札元三船八郎右衛門義妻ニ弟文蔵召連伯州阿比縁解脱寺へ参詣十二日之逗留ニ来ル七日出立仕度願書差出一学殿江罷越相伺候処御聞濟ニ付大目附へ差出置御聞届申達候

一牢舎人藤屋宇助肌着入遣度牢番伺出承り届

一大坂南本町式丁目漆屋四郎兵衛へ元魚町中野屋宇助買懸リ差滞リ七貫五百五拾五匁七分九厘有之去巳ノ八月廿五日漆屋四郎兵衛へ

大坂御番所ニ致出訴其節中野屋宇助致出坂罷在九月廿五日御番所江御呼出し有之候処宇助病氣ニ付御断申上置候処又候十一月廿五日御呼出濟方被仰付候処正月廿五日迄日延相願候御聞届被成又候正月廿五日御呼出し被成不相濟ニ付三十日限濟方被仰付宇助義

宿綿屋義兵衛へ御預ケ被成候由被仰付候得共相濟不申依之二月廿

五日双方御呼出し被成身上限り引渡候様御裁許有之候断昨夜中野屋宇助の届書差出候尤是迄御届可仕之処何卒御苦勞不奉懸相濟度不申上候得共向方も受取_二代人可差越_一付届出候由大年寄の差出尤漆屋四郎兵衛代人平藏と申もの受取_二参候由宿堺町西川屋善助も届出候段大年寄の申出候_二付今朝御用番中へ申達怪敷様_一も候得共御裁許之義_二而双方の申出候義_一候得_者可相渡哉と申上候処甚疑敷義_二付何れ大坂_江聞合之上ならてハ難取計旨当人ハ預ケ申付置代人も逗留申付大坂_江文通下案認相伺候様被仰出依之村尾左右衛門へ問合之下案相認_并当人ハ禁足代人ハ逗留可申付哉と紙面_二而相伺候処大目附佐々木主馬の左之通申来_一

過刻大坂表の飛脚到来西町御奉行成瀬因幡守殿御役所_二而御留主居村尾左右衛門_江左之通御達

南本町二丁目綿屋清助借屋

売物代銀滞出入

願人

漆屋

四郎兵衛

作州津山元魚町

相手

中屋_{ウツ}

字助

右_者去巳八月廿五日願出同十一月廿五日対決之上追々濟方在之候処出入相濟不申候付身体限り申付候間右身体為受取願人

四郎兵衛病氣代下人平藏今廿九日日出立

右之通御達_二而津山表へ可申遣旨宇助出坂之節相手取願候付是

迄ハ御達無之由与力申之候

右之通大坂表の申参候付町奉行所の被仰出通互御取計可有之候尤御中陰後之御取計と存候為念此段も御達申候以上

三月四日 佐々木主馬

増尻右門殿

然ル所御用番中も右之通之義_二候間其趣互取計候様紙面_二而申来り今朝之伺書御渡し被成候_二付其旨互取計候様尤御中陰取計候様申達候

一 上野介様近日御通行_二付御道見分孫八孫右衛門喜左衛門差出候所無別条無之少々之繕之義ハ夫々申付置候段申出候尤前々ハ余程互相成候旨申之候

一 上野介様繼人馬御先触到来本馬拾四疋輕尻馬式疋人足百九人之触達写大年寄差出翌五日御用番中へ差出大目附へも相届候

三月五日 雨 風

一 銀札場奉行清水勇馬の式拾壹箇川下ケ切手差越裏印取計候

一 盜賊鉄藏義先日他領_二而被召捕候処取逃又候被召捕候由同人義下

原村千助方_二而盜取候品紺屋町仲平取次打穴屋_二質_二置候由右被

盜主_并懸之役人共来右質物内分_二而受取度旨申候_二付一札取置内

分_二而相渡可申段目明孫兵衛申出候由孫八伺出宜取計候様申達候

一 坪井町福惠屋伊兵衛義大坂心齋橋筋榎木町玉子屋九郎兵衛方へ廿五日之逗留_二而明後七日日出立願書大年寄承り届差出同廿九日帰ル

一 安岡町江川屋太郎市悴六兵衛義博奕指口_二付去十二月尋申付候処

行衛不相知段届書差出候

一 安岡町松田屋徳兵衛義右同断届書差出

一 堺町稲実屋義七郎義京都木屋町三条丸屋義兵衛方^江廿五日計之逗留^ニ 而 七日出立之願大年寄差出承り届同晦日罷帰ル

一 上紺屋町渡部玄端倅三隅義備前閑谷学校^江当三月より来未ノ三月迄差遣度願承り届

一 堺町福本屋伊兵衛借屋住菊右衛門義四国遍路ニ罷出度百日之逗留^ニ 而 明後七日出立願書差出承り届

三月六日 雨 風

一 牢舎人中村忠五郎百々村武助義郡代所より出牢手形相廻り認かへ出番百歳差向取計候

一 西新町伊崎屋平右衛門義讃州金毘羅参詣八日之逗留^ニ 而 明七日出立之願書差出し承り届同十六日帰ル

一 元魚町くりや善兵衛倅喜兵衛義右同断十日之逗留願大年寄承り届差出^{同十四日 帰リ候}

一 西今町公文屋清左衛門義大坂玉子屋九郎兵衛方へ三十日計之逗留^ニ 而 明七日出立願大年寄差出同廿九日帰り候段届出候

一 吹屋町米屋長兵衛義京都富小路四条上ル備前屋太助方へ四十五日計之逗留^ニ 而 明七日出立願右同断差出

一 東新町安長屋武助義西国順礼八十日計之逗留^ニ 而 明七日出立仕度願書大年寄差出し承り届六月二日帰ル

一 大目附佐々木主馬より紙面^ニ 而 申越^ニ 者

物頭植木左士より今夜宮川御門外^江乱心体之女参居候付繩懸ケ留置候段申出候ニ付役筋へ受取相糺候様申来

出番藤蔵目明召連問屋人足挑灯持たせ差出相糺候上非人体ニ候ハ

今夕之処□□へ可預置平人之乱心ニ候ハ先格牢番^江預ケ候事故牢番^江預ケ置罷帰候様申付差向候処御門番人より受取相糺候所堀田殿領分新野安井村弥左衛門と申もの娘^ニ 而 四国之大師之告

津山之御城^江参候得者御金を被下候由^ニ 而 参候由申之全く乱心と相見^江衣類等もさつぱりと致候もの致着用罷在候ニ付牢番^江

預ケ置罷帰候段申出候及深更候ニ付明朝大目附へ可相届候○右地名余人ニ承り候得者堀田殿領分新野^ニ 者 安井村無之隣村勝ノ加茂

東安井村と申所有之候由ニ候

三月七日 快晴

一 昨夜宮川御門^江来候乱心女之義大目附へ紙面^ニ 而 相届立去り取計可申哉と伺遣候処再応立帰り御城内へ這入度申候もの義ニ候得

何そ趣意有之義^ニ 者 無之哉得と相糺候様大目附より申来候ニ付屋廻り藤蔵百歳差向再応為相糺候得共夜前申候外何も一向不申牢内

食餌も不致由^ニ 而 一向給不申候由申出候付御城^江罷り出て佐々木主馬へ其段相届昨夜之趣^ニ 而 立去り可申付申候得共右之通

之義殊ニ宿所も知候事ニ候得者目明共内々申遣迎ニ参候様ニ申遣可然と申遣候所後刻伺之通取計候様紙面^ニ 而 申来候ニ付其段目明へ可申付旨委細ニ孫八^江申合候

一 宿馬見分申付小頭孫八部屋目附左十郎差向候所無別条全体昨年より馬多相見候由毛付帳差出孫左衛門喜左衛門共ニ届出候

一 小性町芝居大札式百三拾枚小札百五十五枚有之無別条引取候段新

治栄治届出候

三月八日 曇

一 御用日登城

一 御用所^ニ拙者^并三浦十郎左衛門御呼出御用番一学殿^ハ博奕一件取
計之義兼^而兩役伺書差出し左之通^ニ以來取計可申之旨被仰渡候

博奕掛り合^ニ是迄牢番預ケ^ニ申付置候者共御裁許之義^者大

目附中伺書之通五十敵^ニ帰町帰村被仰付此已後之所初罪之

取計^ニ被仰付可然奉存猶又隣家組合町役村役等咎之儀別紙之

通奉伺候已上

二月 三浦十郎左衛門
博奕有門

博奕一件御裁許之儀先達^而相伺候処猶再考被仰付候^ニ付左之

通奉伺候

参会之者

初罪 過料五貫文追込五十日

二 過料六貫文追込七十日

三 五十敵之上帰町帰村

四 百敵之上右同断

但及五度候者御座候ハ、猶其節相同可申候

博奕宿

初罪 過料六貫文追込七十日

二 過料七貫文追込百日

三 百敵之上帰町帰村

四 宿賄牢舎百日之上百敵帰町帰村

但及五度候者^者右同断

宿致候者之隣家組合

初 過料五百文追込五日

二 過料右同断追込七日

三 過料右同断追込十日

四 過料右同断追込廿日

宿致候者之町役村役

右咎先^者三日追込度重リ候ハ、或ハ五日或ハ七日或ハ十日

追込其節可相伺候已上

二月 三浦十郎左衛門
博奕有門

右博奕御裁許之者先達^而兩役^ハ被仰付候^ニ付愚意之趣旧臘廿八日

認差出候処思召^ニ不叶其後松岡治部助三浦十郎左衛門対談^ニ而右

之通相極二月七日三浦十郎左衛門^ハ被相廻対談有之候^ニ付存寄無

之旨及挨拶置候処右之通^ニ同濟候由也

一 御用番一学殿^ハ他領之もの贖札致候ものハ内濟^ニも相成候処御下

之もの^者左様も不相成意味合違候事^者候得共御下之ものハ都^而

牢下候と申定^ニ而も有之間敷候得^者大赦之砌ハ宿^ハ返し一生禁足

とか御預ケとハ名目之付方も可有之候間追々考付相伺候様^ニと十

郎左衛門と拙者兩人^ハ被仰聞候四月三日考申上候

一 小性町芝居甚大損有之難波仕候付今五日再加日追願仕度ひたすら

相歎候段大年寄内々申出無余義趣^ニ付一学殿^ハ及御噂候所大年寄

共存意承リ糺申上候様被仰聞候^ニ付大年寄弁書取之自分弁書差添

今朝一学殿^ハ差出候之処大目附佐々木主馬^ハ芝居再加日追願之弁

書被差出候処今般之芝居ハ金元不宜趣も相聞候間右弁書ハ不差出

方可然思召候間右弁書御戻被成御聞届無之旨被仰出候段違有之其

段大年寄へ申達弁書差戻候

一久世 = 開帳有之見世物等有之大騒成拵之趣相聞候 = 付郡代所_江も

及相談市郷共触書差出可然哉と申談候得共遠方之義 = 候得_者 捨置

候方可然哉と十郎左衛門申聞候付其儘 = 致置候所大目附_ハ触書差

出可然旨被申聞候付其段御用番中へ伺之上御停止之町触先格之文

段 = 差出候尤一学殿_ハ開帳中両三度ハ目明杯差出可然旨被仰聞

候付其段申渡候様小頭_江申達候

一宮川御門_江一昨夜這入候狂女昨晚目明甚_ハ申達候所今朝返書来

弥堀田領勝嘉茂東安井村弥左衛門娘 = 相違無之 = 付迎 = 可参旨申

越候 = 付右狂女出牢百藏差向取計候甚_ハ方へ遣置迎 = 参候_ハ相

渡候様 = 申付置候処安井村年寄四郎左衛門伊助右女親弥左衛門迎

= 来甚_ハ引渡候段届出候 = 付其段御用番_ハ大目附中_江相届候

一脇坂淡路守殿預り所当国勝南郡湯郷村勘兵衛倅連四郎義安岡町平

屋金助養子 = 引受度人別入願御用番御聞濟 = 付大目附へ差出置御

聞届申達候同廿一日住宅証文差出ス

一脇坂淡路守殿御預り所当国久米北条郡南方中村百性長吉倅万吉義

安岡町字賀屋太助養子 = 引受度人別入願右同断取計濟同十五日住

宅証文差出

一稻垣藤四郎殿支配所当国東北条郡阿波村平三郎娘義東新町初屋善

吉倅勤六妻 = 引受度人別入願右同断取計濟同十八日住宅証文差出

一備前赤坂郡山口村孫右衛門倅孫七義六ヶ年已前丑年十一月西今町

直屋久米之助借屋住畑屋治兵衛養子 = 引受候処離縁仕度人別除願

右同断取計濟

一雲州秋鹿郡下井野村長助娘義安岡町荒木屋文蔵妻 = 引受度人別入
願右同断取計濟同廿二日住宅証文差出

一早川八郎左衛門殿支配所備中阿賀郡井尾村作太郎倅三治義安岡町

鍛冶屋五兵衛養子 = 引受度人別入願右同断取計濟同廿二日住宅証

文差出ス

一大久保安芸守殿領分当国久米北条郡公文北村庄六姉義安岡町かこ

屋庄七引受度人別入願右同断取計濟同廿二日住宅証文差出ス

一大久保安芸守殿領分当国西北条郡中北下村百性喜八倅岩治義安岡

町藤川屋利八養子 = 引受度人別入願右同断取計濟同十五日住宅

証文差出

一上野介様御止宿 = 付御本陣玉置源五兵衛拝借御道具左之通差出大

目附へ差出候所即刻達有之相濟候

一馬桶 五ツ 一馬盥 三ツ 一白木三方 壹ツ

一御膳台 壹ツ 一御水越_{俱布共} 一御刀掛 壹ツ

一大文字付御焼灯 四張_{俱布共} 一火鉢 五ツ_{俱火箸共}

一炭取 貳ツ 一燭台 十 一ことく 四ツ

一真那板 二面 一水荷 二荷 一手水桶 三ツ

一縁取 三拾枚 一手燭 五ツ 一疊 四疊

一手長桶_{俱杓共} 貳拾

一公儀大目附松浦越前守殿_ハ七年目之人別改調差出候様御達有之候

旨大目附佐々木主馬被申聞候

一吹屋町高瀬屋助八御箱訴一件御裁許伺書再考候様 = 松岡治部助_ハ

存寄被申聞被差戻候

一 東西外町関貫番所崩取候義御裁許伺書再考候様松岡治部助^ノ存寄被申聞被差戻候

一元魚町中野屋宇助義大坂漆屋四郎兵衛へ買物代差滞候^ニ付身体限リ引渡候様御番所^ノ御裁許有之御中陰明ケ引渡候様^ニ申渡置候所
今日右四郎兵衛代人平藏へ年寄組合立会引渡候処大枚之金子之引当^ニ少分之諸道具受取帰候^而者四郎兵衛へ申訳無之由^ニ而^レ不受取引取候段届出候^ニ付右諸道具へ家主預リ置候様^ニ申付置幸今夕御飛脚仕廻^ニ付大坂左右衛門へ右之段書状相認可差遣哉之旨御用番中へ相伺候処御添削有之伺之通可申遣尤為心得右諸道具品書差廻候様被仰出候^ニ付其段大坂村尾左右衛門へ申遣候大目附^江者翌九日紙面^ニ而^レ申達ス

一同心組江原文藏義薪森原村長十郎妹妻^ニ引受度旨昨日小頭^ノ申出候^ニ付聞届候処昨夜引受候段届出候

一 林田上之町平四郎孫平藏義中之町北原屋利七借家住兵庫屋十兵衛養子^ニ引受度下方引合相濟候段大年寄共申出候^ニ付承り届

一 桶屋町中田屋十兵衛娘義林田村八兵衛嫁^ニ差遣度右同断願書差出承り届

一 上野介様来ル十三日御止宿^ニ付例之通町触差出候

一 美濃職人町三笠屋伊右衛門悴忠藏義^二ノ宮村伊助借家^江引越度人別除願下方引合相濟候段大年寄申出承り届^辛西七月廿八日帰住

一 河原町伊部屋懸夫忠藏義先年御中間相勤町内人別除候処一昨年番代仕候^ニ付町内人別入仕度願書差出候承り届

一 小性町芝居大札式百六拾枚小札百九拾式枚今日迄^ニ而^レ廿日興行相濟無別条引弘一札取之小頭孫八平組左十郎又六^并喜左衛門届出候

付其段御用番^并大目附へ紙面^ニ而^レ相届候

一 勝山生之盜賊此間召捕右^ニ付町家之ものも預ケ申付置候段御用番中へ及御噂置候

一 上野介様御止宿御取扱伺書大目附へ差出置候所御用所大目附出役無之^ニ付不及用意候間致付紙被相戻其段大年寄へ申達候^并自分義御機嫌伺之義相尋候処出羽守様^江も御機嫌不伺候間罷出御機嫌不及伺旨大目附佐々木主馬被申聞候尤箱番所御関札中^ニ有之候御挨拶御本陣^ノ申達候様被申聞候尤御貸人馬之分例之通被仰付候様申達置候

一 上野介様御止宿^ニ付御道見分申付候所徳守宮西之壁破損所見苦數旨申出候段寺社取次細江武助へ及通用候

一 上野介様御止宿之砌東西共大橋^ニ而^レ相濟候間御祝^ニ不及旨三浦^ノ通用有之且又出羽守様御止宿之節之通出火用意人足不差出候^而も可相濟間不及差出旨大目附^并郡代^江も申達置候

一 上野介様^江為自分同植木左士種村登門罷出候間頼も有之候ハ^レ立寄之義取計可遣旨大目附^ノ内々噂有之候

一 金毘羅參詣之旅人式百六拾人有之段宿頭^ノ届出候

一 上野介様為御宿割山本民右衛門来候先触到来翌九日御用番中へ差出大目附へも相届候

一 三丁目余田屋与七義持分^ノ田地^ニ而^レ苗代致候処余之田地之障^ニ相成候段申聞候^而も不相用候^ニ付明九日作目附見分有之候間九時^ノ

年寄差添右田地北村分字北久保持分之田地場所^江差出候様郡代所
ノ申来候ニ付其段大年寄申付候^并桶屋町大坂屋彦市義も同様ニ候
処彼義ハ可相止申候^并町作取扱も有之義ニ付御代官之下代ノ罷出
候様申来候由

一 川部松風庵盜賊之義ニ付盜賊十吉口書郡代所^江相廻候

一 山田主膳殿来ル十二日御出府之由ニ^而例之席へ三奉行罷出御暇之
及挨拶但御役順着座仕候

三月九日 晴

一 郡代所ノ昨夜申来候余田屋与七苗代一件吹屋町北村屋弥七同町北
村屋源右衛門同町吹屋八左衛門右三人出訴方之相手ニ候間右三人
も同所^江差出候様申来其段大年寄へ申付候

一 郡代所ノ博奕ニ付牢番預ケニ致置候もの共拾七人呼出申来出番文
藏差向取計入之節ハ昼廻左十郎又六ノ取計候

一 大坂左右衛門へ昨晚差遣候元魚町中野屋宇助諸道具書付^并文通下
案又候御用番^江差出候

一去ル四日明目孫兵衛召捕候無宿盜人友藏義□□□へ預ケ置下吟味
申付候処爰元ニ^而致盜候趣ハ無之旨申出候得共町方旅籠屋ニ久々
致逗留候趣猶又落宿も有之趣ニ相聞候付今五ツ時ノ呼出し立会孫
八新治新左衛門出番文藏砂兵衛源五兵衛喜左衛門ニ^而相糺候処左
之通

当所笹屋表屋松尾屋 元勝山出生当時無宿盜人 友藏
ニ度々致逗留^并上紺屋町伊兵衛方ニも
致一宿盜物質置相頼候得共爰元ニ^而致盜候義ハ

無之由依^而口書不申付候濟伊兵衛吟味も有之候
間吟味中牢番預ケ申付候

右盜賊友藏ニ去暮ノ馴染ニ相成 伊兵衛
衣願質置取次^并脇差取次売払候義有之候得共盜
賊トハ一向不心付候由申候得共落屋同前之趣ニ

付口書取極吟味中牢番預ケ申付候 同町 宇兵衛
右盜賊之衣類借り致着用候義
有之趣ニ付呼出し遂吟味候得共一向懸リ合無之
明白之申披ニ付早速差歸し候

上紺屋町伊兵衛四男ニ^而 北原屋 利八
質取次致候趣ニ付呼出し相糺候処病氣ニ^而
訳立兼候得共盜賊筋携無之ニ付早速差返し候

右無宿友藏^并上紺屋町伊兵衛牢番預ケニ取計候義御用番^并大目附
へ手紙ニ^而相届候

一 先達^而之博奕打左之通牢番預ケニ申付置未口書不取極候ニ付立
合右之通ニ^而口書取極候

此七人博奕参会 橋本町朝倉屋 与十郎
及白状候ニ付口 勝間田町倉屋 善助
書取極候 材木町 平吉
安岡町村永屋 甚吉

石垣雲平長屋住 作兵衛

福渡町松田屋 佐助

河原町 長七

一上野介様近々御止宿被成候間御本陣前罷通間敷御触達大目附中
相廻写取組中へ触達取計候

一二町目道普請ニ付溝縁之石ニ仕候間大谷八伏之捨石被下候様願
書昨日大目附へ差出置候処今日御聞届申来候ニ付大年寄^ニ其段申
達候

一西今町右同断之願差出右同様取計済

一播州今市綿屋嘉市郎一人例年之通呉服物売ニ来候段新職人町松野
屋十右衛門宿切手差出十二月廿四日帰

一播州高砂本町伊勢屋喜十郎一人例年之通小間物卸売ニ来候段右同
人宿切手差出候右同断

一大年寄共預り算様書差出候差引残但工面もの也

壹貫四匁式分八厘有之

一右同断万人講殘雖利分之残リ

三百目壹分八毛有之

一諸吟味預り綿口銭割渡残リ

壹貫七拾壹匁九分三厘有之

一大年寄預り関貫番賃銀有高

拾壹貫匁三拾壹匁六分貳厘

三月十日 曇 夜大雨

一牢舎人二ノ宮勘治拾入遣度伺出承リ届

一石名佐十郎義去ル八日芝居出役引取之節過酒之体ニ相見へ不実之
処不調法之段今日孫八新治ノ申出候

一頭三船孫八義も右佐十郎一件ニ付心得違不調法之段新治を以伺
出候ニ付入念候義以来入念候様申達ス

一上野介様御止宿ニ付御使者宿齋藤孫右衛門例之通高張焼灯二張台
蠟燭共ニ拝借仕度書付差出大目附へ紙面ニ差出候

一右同断ニ付物頭御使者御徒目附下目附箱番所下番休息所立宿名面
付相認大目附へ紙面ニ差出候

一右同断ニ付同心組致不足候間十三日十四日両日加人四人被仰付被
下候様大目附へ紙面ニ申達候

一右同断ニ付御本陣玉置源五兵衛宅御取繕御作事ノ出来今日迄ニ出
来候段源五兵衛届出候

一大目附佐々木主馬ノ紙面ニ安永四年上野介様御止宿候節翌朝御
使者来候義有之候間今度も一卜通り御使者相濟候も御出立後迄
ハ御取次相詰候様被仰付候間其旨可相心得候旨申来候付大年寄へ
申達候

一上野介様継人馬先日之先触之外ニ又候本馬式疋輕尻馬疋定人足五
人之増追触到来之由大年寄ノ申出翌十一日紙面ニ御用番中^ニ大
目附中へ相届候

三月十一日 朝雨 晴

一上野介様御宿割山本民右衛門昨夜来弥十三日当所御止宿ニ無相違
旨申候由届出候ニ付其段御用番^ニ大目附へ手紙ニ申達候

一京町又四郎借家住筆屋六郎兵衛夫婦共老衰仕候処此節病氣ニ付極

難波之旨歎出候得共孤独扶持可奉歎筋之ものも無之右病氣中之
義 = 候間工面之内の四拾勾差遣度旨先日大年寄伺出候 = 付宜取計
候様申達ス

一西今町南側 = 直屋久米之助所持之家屋敷表口三間裏行拾五間御
役三步三厘也東隣ハ古金屋伊兵衛西隣ハ正田屋平兵衛也右家屋敷
代銀札八百目 = 相極新魚町安屋八十治へ売渡度願書孫左衛門不快
代喜左衛門差出承り届同廿日売券状差出ス

一盜賊友藏宿候旅籠屋共遂吟味候様大年寄へ申付置候処今日旅籠屋
共口書取差出候処申口致府合候

一牢舎人古城村平治着物洗沢 = 付出入伺出承り届

一郡代所無宿盜賊^{鉄藏}○召捕候由牢番預ケ申来出番文蔵差出候取計候尤
鉄藏ハ去八月追払 = 相成候上紺屋町仲平懸り合之もの也

一牢舎人新吉病氣申出大年寄へ申達ス中村易安へ申付候段届出候

三月十二日 快晴

一郡代所此間之苗代場所論之義遂吟味候間今八時三町目余田屋
与七吹屋町北村屋源右衛門同弥七吹屋八左衛門右四人郡代所^五差
出候様 = 申来候 = 付町役組合老差添差出候様大年寄へ申達候

一郡代所昨日召捕候盜賊鉄藏義二階町市右衛門と申もの相頼買物
差置候由白状 = 付右市右衛門相糺させ候様 = 申来大年寄へ申付候

一上野介様御止宿 = 付町方取計左之通大年寄差出

一御道見分 三船孫八齋藤孫右衛門宮田喜左衛門

一御触書 八日出ル

一惣町自身番

但右番所脇 = 高挑灯差出御関札内ハ夜中相燈可申御関
札外ハ宵と暁と御通之節計燈可申候

一御本陣 玉置源五兵衛

但御本陣前敷砂手長桶式ツ亭主筋違橋^五御迎御先立 =
御玄関前 = 下座御見立として中之町大曲り迄罷出
候事

一御本陣下宿 但相對宿共

京町 境町 二階町 元魚町 新魚町 新職人町

一御本陣詰 平野屋助左衛門 樫野屋茂一郎 浜野屋源

五郎 野々口屋七郎右衛門

一御使者宿 但向方様^六之 齋藤孫右衛門

一御奉行所西御立宿 西今町坪屋藤十郎

下宿 同町小倉屋清右衛門

一同東御立宿 京町二文字屋嘉左衛門

下宿 同町原田屋嘉四郎

一同中立宿 蔵合孫左衛門

一御先手西御立宿 安岡町大黒屋利兵衛

但植木左士様

下宿 同町菱屋多助 大黒屋喜兵衛

一同東御立宿 伏見町田原屋佐助

但伊藤主水様

下宿 同町しかまや新七

一御徒目附下目附立宿 安岡町大坂屋卯八

一同御着後立宿 京町関屋喜兵衛

一御先弘立宿 安岡町生綿屋喜右衛門

一同御着後立宿 京町門屋磯吉

一御使者立宿但此方殿 二階町山手屋弥太郎

但江口勘太夫様

一植木左土様種村登門様御自分御伺御立宿二丁目 伏見屋茂七

一在宿医師 三人 但本道 外科 針医

渡部玄端 跡見春鷗 内海泰州

一人馬問屋出役 但兩人 宮田喜左衛門

一御関札 元魚町住屋市左衛門前 京町疊屋宇三郎前

一出火之節御除場 西本源寺 東大信寺

但御本陣御除口 境町露路

一御本陣前後箱番所 平野屋治兵衛向 三津屋平右衛門前

但此方様御足輕中

右下番休息所 京町仕立屋新助 境町江見屋佐助

一方向様箱番所 宮田喜左衛門店

一京町境町横丁関貫ノ切

一人留場所 京町関屋喜兵衛前 境町三津屋平右衛門前

同所年寄出役 関屋前鍛冶町年寄宇兵衛

三津屋前 上紺屋町年寄八郎右衛門

右休息所 境町

一御使者案内年寄老 和泉屋清助 吹屋八左衛門(貼)

一御時太鼓為知 橋本町

一御馬宿 町会所 御馬方宿 豊屋和助

一御着後 大年寄二人御伺 = 罷出候事

一前宿御泊聞合老 但翌朝御立刻限承り罷帰ル

一遠見 天王端 式人 筋違橋 老 人

一東西大橋建札為引候事

一御止宿之夕 惣町夜廻り金棒為引候事

一御止宿之夕 鍛冶鑄物師相止候事

一年寄一人ツ、寄之儀申渡 出火之節御本陣方東 = 候ハ、西組御本陣脇へ相詰候事

同 同西 = 候ハ、東組御本陣脇へ相詰候事

同 中組ハ火元へ罷出候事

但大年寄御本陣へ老 人火元へ老 人罷出候事

同 此度ハ二階町 = 而下宿新数無数 = 付御銀札場詰出火人足

定之通二階町を相勤候事

一非人加廻り 三組 当日昼夜相廻候事

但□□□火之用心申付候事

一御関外江 罷出候所々町々口々九ヶ所非人式人ツ、指出諸道
具差出申間敷鳥散成者往来指留させ候事

二階町紙屋兵助前式人 元魚町玉島屋善助前式人

元魚町原屋左市前式人 新職人町高島生齋前式人

新職人町滝本屋平四郎横式人 新魚町村本屋太四郎横

式人

境町稻実屋茂七郎前式人 京町今出屋半兵衛横式人

京町大村屋源右衛門前式人

一馬割宿 新魚町 肥後屋字吉

一導引式人 二階町伊八 福渡町喜庵

一米中買役割 御本陣帳場 御料理場 御本陣詰附

一式歩中買役割 御荷物受取 脇本陣式人 御案内諸事世話

腕方 御馬宿 人馬問屋

一御本陣 并下宿へ髪詰罷出候事

一御本陣へ給仕人

一拝借御道具之事

一夜具用意之事

一往来荷物土手へ相廻候事

一町分御通相濟候ハ東新町御奉行所御立宿 并月番大年寄

へ注進之事

一夜具置所 山本屋周右衛門

一夜具受込 稻増屋源兵衛 千年屋義右衛門

一上野介様御止宿之節御機嫌伺間敷旨被仰出候得共拙者義ハ兼 而蒙御懇命候義故乍罷出御機嫌不奉伺も如何成様ニも奉存候間此段御考被下候様ニ大目附佐々木主馬へ及対談候処左之通申来候

上野介様 江自分御機嫌伺之義御勝手次第御取計可被成候尤表向ハ此間御達し申趣ニ 而貴様兼 而御懇命蒙候事故被伺御機嫌候旨御申述可有之候已上

追 而自分御伺之節ハ步行ニ 而御出可有之候尤植木杯も御用濟之上伺之節 者馬無之様申達置候間左様御心得可有之候已上

三月十二日 佐々木主馬

増見右門殿

右之通大目附中右申来候間箱番所之御挨拶弥左之通源五兵衛より相達可申旨蔵合孫左衛門へ申達候

御本陣前東西ニ箱番所被仰付右ハ御関札中之義ニ候間此段町奉行右御挨拶被申上候筈之処御儉約ニ付此方様右御断被仰進候処町奉行御機嫌伺差扣候様ニ被仰付候間此段御本陣

右宜申上候様ニと被仰付候

一上野介様御止宿ニ付人足共左之通相極候由喜左衛門差出候

一御駕籠右挺ニ付 六匁宛

一平人 并宿駕籠人足 一人ニ付右匁六分ツ

一宵入待賃 一人四匁ツ

一郡代所右牢舍人宜祥呼出申来立合又六藤蔵差向出入取計候

一阿州板野郡鶴崎浦藍屋喜右衛門手代利兵衛甚蔵二人例年之通藍玉壳ニ来候段吹屋町沢屋惣左衛門宿切手差出

一上野介様御通行ニ付加人四人申立候処日下勇助植月斧蔵山本并助中村栄治来り候

一上野介様御止宿ニ付同心組役割差出

十三日御先払 孫八 文藏 沙兵衛

御供 百藏 榮治 御用使 為治 又六 当番 朝 文藏 夕 榮治

昼廻 新治 孫八 文藏 沙兵衛

夜廻 勇助 文藏

十四日御先払 孫八 文藏 為治

馬駅 新治 又六

御供 百藏 榮治 御用使 孫八 文藏 沙兵衛

当番 朝 勇助 夕 榮治 夜 榮治

昼廻 孫八 文藏 為治

夜廻 勇助 百藏

一勘定奉行上原彦蔵右上野介様御止宿ニ付兩替小替場可申付哉と申来候付大年寄 江申達候所此度御人少之義ニ 而下宿も隣町而已ニ 而

相濟候位之義_二候間齋藤茂渡両家_一而相濟可申段申出候付右用意
及間敷旨及返答

一 下紺屋町万性院金毘羅參詣十日之逗留_二而来ル十五日出立之願書
大年寄承り届差出候

三月十三日 快晴

一 御用日之処上野介様御止宿_二付致出役候間登城不仕候段被相届被
下候様三浦十郎左衛門へ頼遣尤今日申上候御用向無之

一 上野介様新庄御泊聞合之人足四ツ半時過罷帰リ今晚八半時御立触
承り罷帰候由大年寄_二申出其段御用番_一并大目附へ手紙_二而申達植
木左士_一も頼_二付為相知候

一 上野介様御着被成候ハ_二本陣詰_一る御側使者有之_一并植木左士種村登
門増見右門自分伺_二罷出居候間御勝手宜候ハ_一案内可仕と申達候
様大年寄へ申達候

一 上野介様御止宿_二付一夜相詰候間自分供之者火事装束不残東立宿
京町二文字屋嘉左衛門方へ遣置

一 上野介様御止宿_二付九半時出宅西今町坪屋藤十郎方へ罷越相扣居
候処夜五ツ半時御到着被成例之通妙法寺前_一出御目見仕候処御駕
籠脇_二町奉行増見右門殿と披露有之御跡_一引続引取中宿蔵合孫左
衛門宅へ罷越相扣居自分伺_二罷出候段御本陣詰を以申込置候処九
時前御本陣源五兵衛案内_二来同人召連御本陣へ罷出候処御取次内
藤準平罷出候_二付

上野介様益御機嫌克御旅行被成当駅御止宿被成恐悦奉存候此
方様_二兼御断_一付役筋_二而御機嫌伺差扣候様被仰付候得

共私義ハ兼_二蒙御懇命候事故自分伺_一罷出候間御席之砌御役
人中様迄可然様御執成奉頼候旨申述候処

相扣可申御家老中迄可申聞候旨引取畢_二而別人岡村源左衛門罷出
左之通申聞候

御出之趣申上候処御逢も可被成候御着も遅く其上少々御不例

も被為入候間植木左士殿種村登門殿_二も御断被成候思召_一
候間御自分様_一も御断被成候入御念御出被成候断宜申候様_二

と被仰付候旨挨拶有之畢_二而自分及挨拶引取候処源左衛門一ト
間送り出候付及辞退候処左候ハ_一御取次被居候事故及御断候
旨挨拶_二而引取御取次準平御玄関迄送り出候ハ_一又自分及挨
拶引取候

右畢_二而直_一京町立宿二文字屋嘉左衛門方へ相越扣居候

自分御機嫌伺_二罷出候節ハ馬相止候様_一被仰出候間蔵合孫左衛門
宅_二直_一京町二文字屋嘉左衛門宅へ相廻置候
三月十四日 快晴

一 上野介様八半時御立之旨触有之御立前林田町横丁例之場所_一罷出
居候所七ツ時過御立被成例之通名札差出御目見仕候処御駕籠脇_二
町奉行増見右門と名披露有之御通過被成候後岡村源左衛門立戻リ
左之通挨拶有之候

段々御叮嚀之御馳走振忝思召候御自分様_二も御出役御苦勞候
ハ_一挨拶いたし候

右畢_二而又候京町二文字屋方へ立帰リ相扣居候処東新町_一町分御離

被成候旨申来候上引取引懸ケニ御用番中御宅江罷越上野介様無滞御出立被成町分御通行相濟候ニ付引取候段御申上候旨申置大目附へハ手紙ニ而右之段相届六ツ時帰宅仕候

一御用番一学殿々上野介様御立御刻限尋来候間七ツ時過御立被成候旨紙面ニ而申遣候

一上野介様繼人馬員数左之通之由人馬問屋出役新治又六差出候

馬 貳拾壹疋

人足 百八拾貳人

一上野介様御止宿ニ付人馬問屋入用左之通宮田喜左衛門書付差出

合 貳百六拾六匁七分

一備前大庄屋李右衛門蔵合孫左衛門方へ昨夜返書差越候段申出尤熟談ニも難相成哉ニも被存候得共今一応出会可致旨申来候右之段

昨夜申出候間飛脚之者ハ受取遣差戻し置再答下案相認一緒ニ差出候様ニ申達置候尤右之通及差図置候段今朝一学殿江紙面ニ而申遣置候

一牢舍人宜祥義百敵之上御領分追払取計候様昨日被仰出候旨三浦十郎左衛門々通用有之

一元魚町米屋伊助金毘羅參詣十日之逗留ニ而明十五日出立願大年寄承り届差出同廿一日帰ル

一上野介様方御本陣源五兵衛三百疋被下置献上物ニ付又百疋被下候而書付差出候追而大目附へ可差出事

一中之町玉野屋藤十郎所持之家屋敷中之町南側ニ而表口五間裏行拾七間宍軒宍歩七厘役東隣ハ同人家屋敷西隣者藁屋兵蔵也右家屋敷

西六月相頼町内平福屋勘兵衛へ質物ニ書入疋貫目致借用候処元利返弁相濟候段届書差出候

一福渡町南側ニ而表口三間半裏行拾七間但六歩役也西隣ハ釘屋宗十郎東隣ハ茶屋佐助也右家屋敷代銀三百匁ニ相極町内勇屋多助へ壳渡度願書承り届翌十五日壳券状出ル

三月十五日 快晴

一備前大庄屋李右衛門々差越候書状ニ返書下案認昨夜孫左衛門差出候ニ付今朝御用番中へ致持参差出置候

一須賀一学殿々今朝飯後参候様昨夜御使来今朝罷越候処宮脇町徳守宮地子居角屋平右衛門と申ものゝ娘昨昼一学殿御宅へ駆込平右衛門義昨夜尋ニ参候体不並成趣脇差杯帶罷越候由右娘も歎候趣申候由右娘ハ平右衛門実子ニ而も無之幼年方叔母之方へ参り預養育其節一学殿江出入候由右ニ付駆込候由右平右衛門ハ出入ニ而も無之処役屋敷江夜中踏込不届之事ニ候間急度糺可有之此段大目附ニ

も達置候得共為念内々申達候由被申聞寺社取次細江武助も右ニ付参合居候而人々も引渡候様可申達候間引渡候趣ニノ実ハ一学殿御宅ニ被留置候事故同心組被差向御引取被下候様ニ挨拶有之大目附佐々木主馬方も立寄候様申来罷越候処右之段被申聞依之出番藤蔵百蔵一学殿御宅へ差向角屋平右衛門引受罷帰候ニ付立合御定之通ニ而左之もの共遂吟味候但孫八当病也

宮脇町徳守宮地子居尤支配

吟味中

角屋

牢番預ケ申付候

平右衛門

但賄ハ宿るいたし候様ニ可被申付旨寺社取次細江武助へ
申達候

西今町竹の屋

同人義ハ右娘之叔母聲殊ニ

伊助

幼年ヨリ伊助方へ参り此間迄預養育候

ものニ付呼出遂吟味候疑敷義も無之ニ

付其儘差戻候

中尾鉄三郎長屋住

角屋平右衛門実父ニ付呼出し

伊助

相糺候処先年致小盗立去り其後立

帰り候ものニ付牢番預ケ申付候

牢賄ハ下受人

△右鉄三郎長屋ものハ吟味筋有之候ニ付役所ニ差出候様ニ被仰付

候様ニ大目附へ申達候処鉄三郎下受人忝人差添差出候尤上受

人ハ角屋平右衛門也右之通牢番預ケ申付候段手紙ニ鉄三郎へ

申達同人妻も急度手当被申付候様ニと申遣置候

△右之通取計候段御用番ニ大目附へ手紙ニ相届候

△中尾鉄三郎長屋住伊助悴新吉と申もの西新町大黒屋と申紺屋ニ

致奉公居候由申候ニ付主人ニ預ケ申付置候様ニ大年寄へ申達置

候

一孤独扶持内貸百九拾四匁六分五厘七毛昨日真田武右衛門と相廻り

大年寄へ相渡候尤右之内ニ福渡町喜齋被下ハ漏居候由追ニ可相廻

旨ニ候

一非人取扱之義寛政六寅七月従公儀被仰出候御書付之写三浦十郎左
衛門と相廻り御触留ニ記置候

一牢舎人原田屋嘉兵衛拾入遣度牢番申出承り届

一齋藤孫右衛門義四五日之逗留ニ勝山へ罷越度旨源五兵衛申出承

り届

一先月廿二日申出候東新町ニ行倒候野伏□□□□へ為引取置候所昨

晚立去り候処大年寄届出翌十六日御用番ニ大目附へ手紙ニ相届

候尤病氣全快仕立去り候由也

三月十六日 快晴

一於牢屋立会御徒目附山田新三郎下目附植月類十郎小頭三船孫八部

屋目附三船新治ニ書役大脇新左衛門左之通誑渡候

無宿盜賊

院庄清眼寺ニ衣類盜取

宜祥

不届ニ付百敲之上御領分追払申付候

右出番為治栄治宮尾村へ追払候由一札取帰り御用番ニ大目附へ手

紙ニ相届候

一備前船積出入ニ付赤穂る塩可相廻旨申もの有之承り糺候処赤穂之

町人京家御手寄有之大坂御番所ニ御頼被成候事故少も此方様之御

厄介ニ不相成西大寺迄積送り当所之船を迎ニ出し沖合積ニ取計候

由蔵合孫左衛門申出其段一学殿へ相伺候処面白義ニ候間何分懸合

可然旨被仰出候付勝手次第懸合候ニ追々様子可申出旨蔵合孫左衛

門へ紙面ニ申達候

一牢舎人上紺屋町伊兵衛ニ盜賊友蔵義今少吟味不足之様ニ被存候ニ

付今朝取計序ニ於牢屋孫八新治新左衛門為立合目明孫兵衛非人兩人召連出牢間為致候得共於当所致盜候義無之旨強ニ申立候旨三人ノ届出候

一札元武田七郎兵衛義伯母佐和屋茂助妻死去仕候付山下官弥江承合候処半減十日四十五日之忌服之由ニ付十日引込候段大年寄ノ届出候付其段御用番并大目附へ紙面ニ相届候

三月十七日 快晴 小雨

一吹屋町吹屋八左衛門義備前西大寺問屋肥後屋太七郎方へ銚代五百匁田原船頭林藏へ相頼遣候処不相届遣捨候由右ニ付難捨置備前役所江出訴仕度添簡願書差出候依之藏合孫左衛門致取計右之通願出候得共此節船出入懸合中之義ニ候得者重々恐入候事故孫左衛門一存ニ備前大庄屋李右衛門方へ先日之返書差遣候節一緒ニ遣置候得者一助ニも可相成旨右文通下案差添差出候ニ付紙面ニ御用番中へ差出候所無程御戻被成并先日伺置候李右衛門へ孫左衛門ノ返書下案并濟口一札下案も一緒ニ御戻被成備前懸合之義ハ兼ニ孫左衛門存寄ニ御任せ被成被置候事故存次第且取計候様可申付旨紙面ニ申来其段孫左衛門へ申達候

一大目附佐々木主馬方備前船出入ニ付藏合孫左衛門趣意書御用番中御披見被成度由ニ付差出候様申来則主意書一冊内濟懸合口大意卷通紙面ニ大目附へ差出候

一中之町作人虎藏義去已八月奉願大坂辻屋甚兵衛方へ三ヶ年之間奉公ニ罷越候処勝手ニ付罷帰候段届出差出

一福渡町沼屋儀兵衛義悴清藏召連身延山へ參詣百日之逗留ニ来ル

廿七日出立仕度願書承り届ル七月廿五日五十日之日延願差出○
一東新町鍛冶忠右衛門役介善六夫婦二人四国遍路罷出度百日之逗留ニ来ル廿日日出立願差出承り届六月四日帰ル

一京町豊屋太助家守吉助借家住人利兵衛夫婦悴鉄之助右家内三人去月中旬罷出帰リ不申相尋候得共行衛不相知段届書差出し候ニ付百日尋申付候

一備前大庄屋李右衛門へ孫左衛門方之返書明朝立ニ仕来ル廿七日出会可仕之旨申遣度旨喜左衛門を以申出其段御用番中へ手紙ニ相届候

一西今町ノ川向ニ捨石貫度願去ル九日伺濟ニ付其段申達置候処今日人足召連罷越庄屋組頭へ年寄ノ及案内候所御許容之義ニも向方へ御沙汰無之故為取不申候由申候旨大年寄ノ届出其段大目附佐々木主馬へ申遣候所先日福渡町戸川町方取寄候節庄屋不存義ニ候義又ハ御留場之義ニ候哉御留場之義ニ候得者不相成段申来候付下方相糺候処先日戸川町福渡町方奉願戸川町方取寄候節も元ノ御留場外捨石之義ニ付無案内取寄候所聊申ものも無之相濟候由此度西今町方取ニ參候所も右同様勿論御留場外捨石之義ニ候得共兼川向へ石切共ニ積リ申付候得者高価ニ付相断リ手前普請ニ仕候ニ付内々承り候得者川向石切共右之趣趣を以捨石たり共上ノ御達無之候得者為取不申候段申趣相聞候ニ付今日人足召連參り庄屋組頭へ及案内候処果而右之通差留候間御達被下候様ニ願出候趣佐々木主馬へ申遣且又先日福渡町方も相願候得共折節下直成弘石有之相調候付未取ニ不遣旨申出候段も内々申達候

一西今町正田屋平兵衛義伯州日野郡阿毘連參詣十五日之逗留^ニ 而明
十八日出立願大年寄承り届差出

一二階町中川五左衛門義大坂梶木町玉子屋九兵衛方へ三十日之逗留
^ニ 而 来ル廿日出立願大年寄承り届差出

一林田町鍵屋茂助義大坂道修町三丁目伏見屋半右衛門方^ニ 三十日之
逗留^ニ 而 来ル廿日出立願大年寄承り届差出

三月十八日 快晴

一御用日之処自分義頭瘡再発仕登城難仕依之三浦士を相頼出仕御断
申上^ニ 御用向三浦士へ相頼遣

一昨日差出候備前船出入ニ付蔵合孫左衛門考書両通大目附佐々木主
馬^ノ被差戻候

一三浦志摩守殿領分当国真島郡西河内村清八悻勇蔵義船頭町日上屋

菊右衛門養子ニ引受度人別入願御用番中御聞濟ニ付大目附中へ差

出置候段三浦士^ノ申来御聞届大年寄^ニ 申達候^ニ 四月十五日佳老文差出

一博奕参会之もの共御裁許取計候様先日伺濟ニ付是迄吟味中牢番預
ケ申付置候七人之もの共未口書不取極候ニ付先日口書取候ニ付右

口書御用番中へ三浦士^ノ被差出候所御受取被置候由申来

一上野介様^ノ御本陣源五兵衛頂戴物書付三浦士^ノ大目附へ差出候

一坪井町年寄浜屋源右衛門義及老年退役願出同人義ハ福渡町年寄役

三十三年坪井町年寄役十七年相勤候もの^ニ 義ニ付御褒美として八

木式俵被下候様伺書三浦士を以御用番中へ差出候処三十年相勤候

ものハ間々可有之右等之先例も有之哉杯と御不審被仰出重^ニ 可申

上旨^ニ 而 御受取被置候由申来

一此間三浦士^ノ相廻候非人共頭之手下ニ可仕旨公儀御触差戻候

一東西外町^ニ 而 不用之関貫番所取崩^ニ 非人番ニ仕候追願不差出御咎
取調三浦士を以松岡治部助へ差出候所御用番中へ直ニ差出候様^ニ
と被申聞被差戻候由申来

一町方御条目年々読渡候処往古之文段ニ而當時ニ振れ候義有之ニ付
添削仕一昨年辰九月十三日一学殿^ニ 相伺置候処其後何之御沙駄も
無之ニ付折々致催促候処今日大目附小須賀貢^ノ前々^ノ之文段ニ而

著^ニ 當時之取計ニ振候得共前々之義も為知置候^ニ 而 宜是迄さへ済来
候義ケ様之類ハ余リ差拔不致方宜候間是迄之通ニ而 先格之通ニ取
計候様御用番中被仰出候旨申来候

一孤独喜齋御救扶持式拾匁分七厘真北類蔵^ノ受取大年寄へ相渡

一牢舍人藤屋嘉右衛門沼村長兵衛上紺屋町新八病氣ニ付医師願出^ニ

文兵衛療治二廻リ相濟候ニ付代リ之医師願出候ニ付大年寄へ申達
候

一牢舍人古城村平治同村甚七日上村丈兵衛橋本町与十郎布原村伊惣

治材木町平吉藤屋村常右衛門原田屋嘉兵衛安岡村清右衛門衣類洗

沢ニ宿元へ遣候間出入仕度牢番山七伺出承り届

一博奕人口書今日三浦十郎左衛門を以差出候所伺書差添差出候様一

学殿^ノ紙面ニ而 申来候ニ付伺書相認翌十九日紙面ニ而 一学殿へ差
出候

三月十九日 曇

一酒改共例歳之通運上^ニ 方下代同道ニ而 明廿日^ノ町方造酒屋石数相改
候段届出候由大年寄申出承り置

一 清閑寺前関貫取繕明廿日取懸り候段大年寄届出候

一 備前大庄屋左衛門方へ藏合孫左衛門の差遣候飛脚今晩方罷帰紙面之趣致承知来ル廿七日木知ヶ原へ可罷出旨返書取帰り指出候付御用番中へ差出候

一 博奕人口書三通今朝御用番中へ差出先日伺濟之通五十敵帰町可申付旨相伺候処伺之通宜取計候様紙面申来候

一 牢舎人嘉右衛門長藏新八三人ハ吉武祐三へ療治申付丈兵衛義ハ休薬申付候段大年寄る届出候

一 和州宇多松山町柳屋治兵衛宮奥屋佐兵衛小峠屋久兵衛右三人用事有之昨夜来候間来ル廿一日迄三日之内逗留為仕度新職人町松野屋十右衛門願差出承り届翌廿日出立届出候

一 中之町玉野屋藤十郎所持之家敷中之町南側表口七間裏行拾七間但沓軒半役也右家屋敷ハ東隣ハ北村李斎西隣ハ菓屋兵藏也右家屋敷西今町綿屋金兵衛取次質物書入当午三月る来未ノ三月切月沓歩之利足沓貫五百匁借受候願書承り届同廿六日証文差出

一 新魚町榎野屋茂一郎義京都六角下ル七観音町二文字屋里く方へ三十日計之逗留来ル廿一日出立仕度願書大年寄差出承り届妻病氣付廿五日途中罷帰候段大年寄届出候

一 新職人町髮結藤吉義身延山へ参詣百日計之逗留来ル廿七日出立願大年寄差出承り届

三月廿日曇
一 摂州大坂島之内大宝町万屋善治郎一人例之通革足袋すいのふ金と

うし卸売来候段西新町山家屋利右衛門宿切手差出し候六月十六日帰ル

一 播州加藤郡三木町形屋与兵衛手代藤兵衛と申もの一人例年之通紺屋形売来候段右同人宿切手差出候四月廿二日帰ル

一 宮田喜左衛門義京都高倉通三条下ル町墨屋善七方へ三十日之逗留明後廿二日出立願大年寄差出承り届四月廿四日罷帰ル

一 牢浚申付屋廻り藤藏為治取計候無別条段届出候
一 立会例之通九時左之もの共呼出し口書取極候

上紺屋町牢舎人

伊兵衛

同町

宇兵衛

中之町北原屋

利七

牢舎人中尾鉄三郎長屋住

伊助

同 徳守宮地子居角屋

平右衛門

西新町大黒屋又七下人伊助倅

新吉

右上紺屋町伊兵衛懸り合之無宿盜賊友藏義ハ元勝山家中浜崎勘七倅同家中飯島治右衛門方へ忍入衣類品々盜取当所へ持来候由

候

一 小頭三船孫八る内々申聞候^者和州松山町住人安兵衛と申ものきぬ
と申女盗出し其外荷物衣類反物六十九品所持仕当月十二日在所松
山町罷出当所伏見町小鳥屋庄兵衛と申ものハ元和和州之産^ニ而同人
方へ落着候所右追手柳屋治兵衛宮奥屋佐兵衛小峠屋久兵衛三人罷
越六ヶ敷申懸候処極内分^ニ而右安兵衛^者女きぬ^者荷物迄不残受取
今朝罷帰候由尤目明共方へ一札取置候由内々為見候

一 大目附佐々木主馬^者此間申達候西今町^者川向へ捨石取^ニ參候義郡
代所相糺候処御留場外之捨石取候義ハ御達^ニ不及不苦義^ニ候間其
段下方へ申達候様手紙^ニ而申来其段源五兵衛へ申達候

右之趣申達候得共向方へ達無之候得^者及爭論候程も難計^ニ付内々
郡代所へ右之趣及通用候処石山谷^者御留山^ニ有之宮之谷鐘^{カネ}鑄谷ハ
不苦御留場外ハ取候^而も不苦義と申来候得共先頃差留候趣も有之
尚又爭論之程も如何哉と存下方へ御移ハ無之義哉と尚又相尋候処
内移ハ申達置候由申来候

三月廿一日 曇 晚少雨

一 安岡町村永屋恵助^并同人弟常四郎右家内二人西北条郡広原分忠助
方へ引越度人別除願大庄屋引合相濟候段大年寄申出承り届候

一 元魚町糺屋伊助悴幸吉義大坂大川丁綿屋義兵衛方へ四十日計之逗
留^ニ而廿三日出立之願書大年寄承り届差出四月廿六日帰ル

一 半舎人鉄藏義郡代所呼出し申来新治又六差向ケ出入取計候

一 村瀬友藏義一昨十九日相見へ申聞候^者一昨十七日村田栄助方之葬
送^ニ付林田之寺へ參候所雨降出し三室屋^ニ而傘借り受ケ千本準之
助同道^ニ而兩人帰り候所降強ク相成草履^ニ而難凌京町二文字屋嘉

左衛門方へ立寄り下駄貸候様申候所一向時宜相之体無之乍立はき
料之外余分無之旨^ニ而尾籠成下駄^者足持出此外^ニ而無之旨申候付
向之菊屋方^ニ而借り呉候様申候得^者菊屋方^ニもはき料之外余分有
之間敷と申一向不及食着借り呉不申甚不礼之趣^ニ付其儘^者老人ハ草
履^ニ而罷帰り余り不礼之様子^ニ付町年寄吉田屋喜八郎^ニ二文字屋
嘉左衛門召連来候様^ニ申遣候所吉田屋喜八郎^者老人来役向^ニ而召連

參候義ハ私一人之計ひ^ニ而難仕旨申候^ニ付二文字屋嘉左衛門慮外
之趣申聞候所喜八郎段々相歎断申候付可差免旨申達候所喜八郎義
^者翌日礼^ニ来候得共嘉左衛門義ハ差免候礼^ニも不来重々不届^ニ付
難差免候間追込申付呉候様^ニ被申聞候^ニ付拙者返答^ニ夫ハ不届至

極之義^ニ御座候兼^而不礼無之様^ニ嚴敷申付置候処輕きもの共之義
不行届於拙者も御氣之毒存候仰之通品々可申付処追込ハ拙者一存
^ニ而^者難申付下方一ト通り承り候上^ニ而御用番中へ相伺取計候義
^ニ付罷越可相伺処拙者義此間引込居候^ニ付類役相頼伺候間少々手
間入可申段御承知被置可被下候且又追込日数等御好も有之哉と相

尋候所存寄ハ無之先例も可有之義宜御取計被下候様^ニと申趣^ニ付
輕重差別ハ可有之義^ニ候得共大体五日位之例も多様^ニ相覚候段申
候得^者承知之趣^ニ而被帰候依之下方承り候所相違も無之何角訳も

有之趣^ニも相聞へ候得共慮外咎理非之沙駄可有之筋^ニ無之此上も
随分詫言いたし候様^ニ可取計旨大年寄へ申付置右之通御用番中へ
御伺被下候様三浦十郎左衛門へ頼遣候所同人義存寄相加へ度候間
伺之義少々遅滞可致旨申来候付任其意置候所同人義今朝相見へ右
嘉左衛門咎之義段々存寄相加へ候得共承知無之^ニ付御頼之通御用

番中へ可申達候間追込日数之義相尋申越候様ニと被申聞候付左之
通手紙差遣候

此間被仰聞候二文字屋嘉左衛門咎之義早速三浦十郎左衛門へ伺
吳候様頼遣候所同人義存寄も有之由ニ及御挨拶遅滞致候旨申
越御承知之義と奉存任其意置候所同人存寄通ニも参り不申候間
御用番中へ相伺可申追込日数之義如何可相届哉と尋越候此間も
御存寄無御座先例之通五日位ニ而も宜哉之様ニも被仰聞候様相
覚候併追ニ而差免之義被仰越候御存慮ニも候ハ追込と計可相伺
哉此段致承知度如此御座候已上

三月廿一日 増尻右門

村瀬友藏様

御手紙拜見仕候然ニ此間及御噂候二文字屋嘉左衛門咎之義委細
御紙中之趣承知仕候追込日数之義御尋被仰下先日も御面談申上
候通五日位ニ而宜候様奉存候間右之通御取計被成可被下候様奉
頼候私義も近藤方之義ニ付昨日一日相慎居申候ニ而延引相成申候
何分右之通奉頼候已上

三月廿一日 村瀬友藏

増尻右門様

右返書三浦十郎左衛門へ差遣候所即刻御用番一学殿ニ罷越右之段
被相伺候得ニ此節之義故追込ニも及間敷叱置候ニ而も可然義右之通
被相伺候ハ村瀬友藏も支配頭ニ可相届筋ニ候間支配頭ニ相届
候ハ支配頭と町奉行と引合之上可被申聞候夫迄ニ先不承趣ニ致
置可申旨被申聞候付（貼紙）其段友藏へ申遣候様ニ十郎左衛門被申聞候

付左之通申遣

過刻も得御意候二文字屋嘉左衛門咎之義御用番中へ可相伺処
貴様も御支配頭中へ御届可有御座左候ハ拙者も御支配頭
中ニ御引合申候上ニ而御用番中へ相届可申候間右之通御取計
可被成此段可得御意如此御座候已上

三月廿一日 増尻右門

村瀬友藏様

先刻御手紙被下候所折節罷出候ニ其答不仕候然ニ私（貼紙）支
配頭中へも相届可然哉之旨被仰下承知仕候早速相番を以組頭
及噂申候右御答如此御座候已上

三月廿一日 村瀬友藏

増尻右門様

追ニ先達ニ而後藤氏御役之時分養父町家者不埒御座候ニ而追込相
頼候所早速被申付候ニ而其砌ハ支配頭ニ而一向及噂不申ニ而相
濟候段承知仕候付此度も右之通相心得居申候御心付被下候段
忝奉存候已上

右返書三浦十郎左衛門へ為持遣宜被仰達被下候様申遣候処早速大
番頭小須賀貢方ニ相越御用番中御内意之趣懸合候得ニ組頭も申
出候ニ付存寄申達置候尚又組頭呼出しニ存寄被申達候積ニ候間自
是御通用申候迄ハ御用番中ニ御伺有之間敷旨返答有之候由三浦十
郎左衛門手紙ニ而申来候

一徳守宮地子居平右衛門義元来一学殿も御内意有之候事ニ付同人口
書小須賀貢ニ差遣今般家内争論之義ハ打捨置立帰ものへ御咎ニ相

伺可然哉と内相談紙面ニ申遣候所三浦十郎左衛門を以返答被申

越候者立帰ものへ御咎計ニ不相濟今般娘義一学殿ニ走り込候

訳相糺御裁許伺候様ニ申来候

一備前懸合藏合孫左衛門手扣下ケ候様願出先日已来一学殿度々催

促いたし候得共御戻不被成候ニ付貢申達候所被差戻候付二冊と

も孫左衛門へ差戻候

一河合元碩義去ル廿日永之御暇被下候

三月廿日 雨

一官川御門ニ来候狂女聞合ニ安井村ニ人差遣候入用三匁之証文小頭

差出奥書取計候

一牢舎扶持八俵内貸証文差出奥書取計候尤来月へ式石五斗九升五合

持越候事

一津山ニ盗相働候盜賊落合ニ召捕候由ニ付目明差遣候入用拾匁

八分九厘之証文小頭差出奥書取計候

一牢舎人古城村平治拾入遣度伺出承り届

一二階町三保屋十右衛門借家住杵築屋吉十郎妻しけ義去已十二月朔

日出奔仕候旨届書差出候ニ付百日尋申付ル

一村瀬友藏ノ京町二文字屋嘉左衛門咎之義三浦十郎左衛門被參被申

聞候者組頭江口勘太夫ノ出九太夫を以内々申越候者番頭中存寄有

之組頭之場合取計ニ相濟候様取計度候間此上二文字屋ノ強而詔

言致候様ニ極内々相移被具候様ニ致度旨申越候由被申聞依之大年

寄呼出し右之内移之趣申達幸此間も長安寺及挨拶候由ニ候得者尚

又長安寺相願ひたすら詫仕候様ニ取計可申旨申達ス

三月廿三日 晴

一御用日之処拙者義頭瘡ニ付不參御断三浦士を以相改其外御用向頼

遣候

一板倉撰津守殿領分備中^{宇野百八日備中}都宇郡矢部村源右衛門^并娘右二人新魚町紺

屋重藏引受度人別人願御用番御聞濟ニ付大目附ニ差出候由三浦ノ

申来御聞届之旨大年寄へ申達候^{四月廿九日生老文書出}

一坪井町浜屋源右衛門御賞相伺候付先も御尋被成并書相認三浦士を

以差出候所御受取置被成候由申来

一東西北町不用之関貫番所取崩候御咎^并非人番追願不指出御咎伺書

先日松岡治部助ノ御用番中へ直ニ差出候様被申聞候由ニ付今日三

浦士を以差出候所御受取置被成候由申来

一無宿盜賊友藏一件ニ付町方懸り合之もの共御裁許伺書三浦士を以

相伺候処御受取置被成候由

一西新町桶屋四郎兵衛方へ十ヶ年已前寛政元酉年五月当国久米南條

郡越尾村忠兵衛倅佐助と申もの定吉と申小兒召連来り右佐助致病

死遂吟味候越尾村離帳ニ付仮埋申付同人倅定吉義ハ十五歳ニ相

成候迄桶屋四郎兵衛へ預ケ置候段同年五月四日五日六月六日之日

記ニ在之候処右定吉当年十五歳ニ相成候ニ付住居願書桶屋官治差

出三浦士を以差出候所御用所^并大目附存寄有之其節入帳不申付ニ

者定^而追払もの^ニ而も可有之御沙駄候由三浦考^ニも寺院歎もの^ニ

而も可有之哉と申来候尚又調之上追^而可相伺事

一西新町養樂院養子藤藏義今般修驗職為相働候ニ付玉照坊と改号仕

らせ度願寺社取次細江武助引合之上承り届ル

一 備前大庄屋李右衛門の蔵合孫左衛門への返書御用番中御下ケ被成
同人^江 差戻ス

一 備前竹内又右衛門と田原一件懸合候書通蔵合孫左衛門今般出役^ニ
付相渡候様^ニ 申出相渡候

一 大信寺へ去ル十六日盜賊這入八品盜取候触流取計候様大目附中被
申聞候由三浦土^ノ申来取計本書ハ大目附へ差戻候

一 蔵合孫左衛門義来ル廿七日備前懸合ニ木知ケ原罷出候付明廿四日
ノ齋藤孫右衛門月番相動候段源五兵衛届出候

一 栗原衛守御金奉行御蔵目附吉田良蔵被仰付候
一 博奕人先日伺濟ニ付郡代所申合之上明後廿五日可取計候間例之通
立会被仰付候様大目附へ手紙^ニ 申達候夫々手配申付候

一 備前大庄屋左近李右衛門ノ飛脚差越此間被仰下候通来ル廿七日木
知ケ原^ニ 御出会之義役所^江 申達候所伺濟ニ付御約束之通可罷出

一 吹屋町吹屋八左衛門ノ田原村林蔵へ銀子滞懸合出訴無相違ニ付
急度濟方申付此度人差添遣候段申来飛脚相待別義無之義ニ付直ニ

一 承知候旨返書相渡候由右来書返書扣共ニ蔵合孫左衛門差出候一学
殿へ紙面^ニ 差出候

三月廿四日 快晴

一 村瀬友蔵ノ左之通手紙差越候
以手紙得貴意候然^テ 先頃ノ御懸合申候ニ文字屋嘉左衛門咎之義

一 嘉左衛門ノ段々手次を以断申候右ニ付未御用番中へ御伺も不被
下候儀ニ御座候ハ指免可申奉存候昨日も近藤義ニ付私指相

一 伺何角故障之義御座候延引ニ相成申候右之段可得貴意如此御座

候已上

三月廿四日 村瀬友蔵
増兎右門様

右相答承知候旨及返答候右之段大年寄へ申達以来不礼かさつ無之
様ニ可相達候旨申達候郡代所^江 も右之段及通用

一 川端佐五兵衛不快引込届出候明日ハ取計有之ニ付加人老人当日助
ニ被仰付候様大目附へ紙面^ニ 申達候土井林蔵来

一 元魚町大庭屋善兵衛義下横野村武右衛門へ懸リ合致出訴居候処小
田中村権七糶屋伊助兩人扱^ニ 内濟仕候ニ付願下ケ願書差出承リ

一 届郡代所へ相廻候但論所地西不殘善兵衛方へ取其上ニ拾年之年貢
代として銀札百匁受取候由ニ候

三月廿五日 快晴
一 今朝於牢屋御徒目附河村市兵衛下目附本沢還八小頭孫八部屋目附
新治出番立会左之通書役新左衛門ノ説渡之

宿 橋本町朝倉屋

博奕致参会不届之事候 与十郎
重き御仕置^ニ も可被仰付候 勝間田町倉屋

処今般格別之御憐愍 善助
を以五十敲之上帰町 林木町

申付候 安岡村永屋 平吉

石垣雲平長屋住 甚吉

作兵衛

福渡町松田屋

佐助

申付候段申渡

受一札取候

同町江川屋太郎一悴六兵衛

父太郎一

組合 八人

宿 河原町

長七

船頭町 長八

組合 六人

右取計相濟候段御用番^并大目附へ紙面^二相届候

右畢^而大年寄於宅小頭部屋目附立合左之通申渡之

福渡町藤右衛門

組合 六人

橋本町朝倉屋与十郎

与十郎長七博奕致宿候^二付

組合五人

新魚町魚屋三之助

組合 四人

叱之上過料五百文ツゝ

河原町 長七

追込五日

組合五人

右^二付叱之上追込^{三五}五日

河原町年寄大村屋源右衛門

月番

一今日郡代所^二も博奕人拾七人敲歸村有之出役之もの見届罷歸り候

一牢舍人無宿丈兵衛病氣^二付医師願出大年寄へ申付ル

橋本町其節之年寄月番ハ役免^二付其義無之

中之町飯綱屋新七

父源十郎

一右同断藤屋嘉右衛門病氣重り候段申出候^二付医師^三容体書可差出^并病氣^二候ハ^三先達^而歎出候様^二宿預ケ被仰付候様歎書差出候^而

も可然之旨大年寄へ内意申達候

一大田村五右衛門義郡代所^三入牢切手相廻り認かへ出番采治差向ケ取計候

六兵衛長八藤右衛門三之助

組合 拾人

一東西新町関貫番所一件去ル廿三日三浦十郎左衛門を以差出置候処

取計候

右八人博奕差口之処

東新町地子居宇助

組合 九人

一学殿^三御存寄書被差添御戻し被成候尚文後日可伺事

一無宿盜賊友藏一件右同断伺置候処一学殿^三御存寄書被差添御差戻

被成候尚又取調後日可伺事

申付候百日之内^二不

尋出候ハ^三組合之もの

安岡町松田屋徳兵衛

組合 七人

一酒改共造酒石数相改候処千九百五拾四石式斗七升有之運上銀

老貫三百六拾七匁九分八厘九毛上納仕候由書付差出候

一 下紺屋町長江朝庵義備中浅口郡口林村田中漸平方へ百日計之逗留

而 明後廿七日出立願書大年寄差出承り届ル

一 牢舎人藤屋嘉右衛門義乾脚氣^ニ 而 二便不相叶余程差重り候段医師

容体書差出無余義趣^ニ 付宿預ケ歎出候ハ、伺候^而も可然哉之旨細

江武助^ハ内伺有之候様^ニ 内談申遣

一 札元武田七郎兵衛義今日忌明仕候処不快^ニ 付御届不罷出候段大年寄届出候

三月廿六日 快晴

一 西吉田役人西山伝六田村庄左衛門^ハ書状差越兵庫津薬種問屋共手

先之中買当城下^ニ 有之哉^ニ 及承候間名面宿所承り度旨申越候^ニ 付

則林田町常盤屋文右衛門西今町湯田屋太郎左衛門堺町丸亀屋勘治

右三人兵庫問屋^ハ当国中之薬種買集被相願候之段願出候付承り届

置候段返書下案相認差添御用番中へ相伺候処伺之通宜取計候様被

仰出其段及返書飛脚^ニ 相渡候

一 德守宮地子居平右衛門妻^并 娘義遂吟味候間明廿七日正九時被差出

候様寺社取次細江武助へ申達候然候所平右衛門娘未一学殿^ニ 居候

^ニ 付役所^並 差出候義六ヶ敷相成細江三浦^ニ も及面談候処三浦被申

聞候ハ先日貢^ハ達有之^ニ 平右衛門家^屬相糺セト申義^ニ ハ無之平

右衛門口書^ニ 一学殿屋敷へ踏込候訳有之候得^キ 可相濟義之様^ニ 承

り候由被申聞候付妻子呼出し候義ハ相止候段細江へ断申遣

一 牢舎人藤屋嘉右衛門義去ル十九日^ハ療治申付候処日々差重り趣^ニ

申出候間医師容体書差出候様申付候処吉武祐三容体書差出乾脚氣

^ニ 甚六ヶ敷旨申出候付細江武助へ懸合病中出牢被仰付候^而も苦

かる間敷哉と申談同意^ニ 付武助^ハ寺社奉行小須賀貢^並 申達候処是

又同意候由申来依之宿^ハ歎書差出候様内々相移今般紙面^ニ 而 右歎

書容体書一学殿へ差出候所大目附^ハ三浦^並 右体病氣之義^ニ も候ハ

同心組寺社下代立合病氣相改候上^ニ 而 双方^ハ可申出義と被申聞

候由依之寺社下代() 同心組荻野藤藏差向達見分候処病氣之趣

相違も無之旨申出候付其段三浦十郎左衛門相頼大目附へ申達置候

一 吹屋町吹屋八左衛門^ハ備前田原船持林蔵へ銀五百匁林蔵途中引負

候段出訴仕度添簡願差出先日蔵合孫左衛門場合切^ニ 而 備前大庄屋

左右衛門へ懸合候処去ル廿三日返書来今般人差添出急度濟方申付

候由申来候所右銀子八左衛門受取相濟候段届書差出翌廿七日御用

番中へ紙面^ニ 而 差出候

三月廿七日 快晴

一 牢舎人坪井町藤屋嘉右衛門義病氣^ニ 付宿預ケ願出寺社立合遂見分

候処病氣無相違旨申出候間歎之通病中出牢御聞届被成候間宜取計

候様御用番中^ハ紙面^ニ 而 被仰出其旨大年寄へ申達昼廻り又六勇助

^ハ牢屋立合取計候右御聞届之旨寺社取次細江武助へ及通用

一 大坂村尾左右衛門^ハ返書来元魚町中野屋宇助身代限り大坂漆屋四

郎兵衛代人平蔵へ引渡候処不受取旨申遣候段御^口入与力へ申達候

所入御念候義嚙四郎兵衛へ申聞候上受取可申義^ニ 而 可有之候何

分御捨置可被成尤宇助諸道具等かえし候様之義申出候得^キ 又候宇

助呼出候義可有之旨与力申候旨申来候右返書早々御用番中へ差遣

候

一大坂漆屋四郎兵衛代人平藏義又候罷越中野屋宇助家財先日之通可

受取旨申候由届書差出先日之通町役組合ノ立会引渡候様ニ申達置

右届書御用番中へ紙面ニ差出候

一蔵合孫左衛門義備前田原船出入内濟懸合ニ今日木知ケ原江出立仕

候段届出候ニ付御用番并大目附へ紙面ニ相届候

一吹屋町南側ニ吹屋与十郎妹家屋敷表口四間式尺五寸裏行拾二間

但一軒役也東隣ハ吹屋利兵衛西隣ハ金屋新右衛門借家也右家屋敷

代銀札四百目ニ相極町内釜屋孫三郎へ売渡願書大年寄指出候承

り届四月二日売券状差出

一中之町北原屋利七役介平次義去ル十三日致家出所々相尋候得共行

衛不相知候段届書差出候百日尋申付ル

一牢舎人鉄藏磯吉義郡代所ノ呼出し申来文藏砂兵衛差向出入取計候

且又鉄藏ノ仲平へ質取次相頼候月日出番ノ仲平并牢越ニ尋呉候様

頼来文藏取計候

一徳守宮地子居平右衛門義娘追懸ケ一学殿へ夜分踏込候訳相糺候様

ニト之義ニ付立合小頭孫八部屋目附新治書役新左衛門大年寄孫右

衛門立合ニ左之もの共九時ノ呼出し別々ニ口書印形取候

徳守宮地子居いろは屋

平右衛門

中尾鉄三郎長屋住

伊助

西新町大黒屋又七下人

新吉

再糺取計 無宿盜賊

友藏

三月廿八日 快晴

一御用日之処拙者義未相勝候ニ付三浦士を以登城御断申達并御用向
同人江頼遣

一橋本町武藏屋甚藏娘義山崎主税介殿領分備中浅口郡連島矢柄村長

四郎嫁ニ差遣度人別除願御用番中御聞濟ニ付大目附へ差出置候段

三浦士ノ申来御聞届申達候

一伊藤播磨守殿領分備中下道郡有井村市右衛門悴直藏義一人新魚町

魚屋和助引受度人別入願右同断取計濟五月廿日住宅証文出ス

一大坂漆屋四郎兵衛代人平藏へ元魚町中野屋宇助身代限り家財引渡

去ル廿六日相濟候段届書并受取一札三浦士を以御用番中ニ差出候

口達ニ右之旨相届大目附へも相届候段同人ノ申来候○但右家

財式百三品売払候処五拾七匁ニ相成候取沙駄也

一大坂漆屋四郎兵衛ノ元魚町龜屋定治郎并東新町鍋屋平藏江売懸滯

り相払相濟候段右両人ノ届書并平藏受取書差出候三浦士ノ御用番

へ差出候大目附へも相届候段申来

右三人滯銀相濟候段村尾左右衛門へ通用之下案相認右届書ニ差添

差出候所右届書并下案共御用番御受取置被成候由三浦士ノ申来候

一東西外町関貫番所無届取崩候義并非人番追願不仕候御咎伺書去ル

廿三日三浦士を以差出候所同廿五日一学殿ノ紙面ニ思召被仰越

依之其旨取認三浦を以差出候所同之通取計候様被仰出候段申来明

廿九日取計候様ニ夫々手配申達置候尤非人番追願も御聞届被成候

事

一 鍛冶町鍛冶五郎右衛門義養父母ニ数年孝行尽候段孝状書差出候先例之通白銀五枚被下候様伺書差添差出候所御用番中御受取被置候由三浦士ノ申来候

一 徳守宮地子居平右衛門義娘尋一学殿ニ夜分踏込候訳昨日口書取極候趣内々小須賀貢_江被及内談存慮承リ被具候様申遣候所三浦士ノ被及内談候処口書及見候ニも不及町奉行存寄次第ニ御用番中_江被相伺候様ニと被申候由三浦ノ申来候

一 河原町年寄大村屋源右衛門追込昨日迄ニ三日ニ相成候間今朝差免候段三浦を以御用番_并大目附中へ相届候

一 西新町桶屋四郎兵衛方ニ十五才迄養育仕候定吉義三浦ノ大目附へ被遂内談候処追_而ハ歎候上入帳も可相成哉ニも候得共爰_而者是非追払申付候筋之ものと被申聞候由三浦ノ申来候

一 大信寺被盜もの町方ニ無之旨大年寄届出候

一 播州綱干平松屋惣九郎一人例年之通小間物卸売来候段中之町小山屋与三右衛門宿切手差出

一 信州木曾筑摩郡藪原宿古屋善吉例年之通木櫛卸売来候段右同人ノ宿切手差出六月十一日帰ル

一 御領分久米南条郡大谷村文右衛門夫婦悴与吉右家内三人上紺屋町鉄屋与八引受度人別入願下方引合相濟候段大年寄申出承り届ル

一 大目附廻状到来

去巳十二月四日京三条通中島町日光屋みよ夫久兵衛を及殺害

逃去候同人元下人六右衛門人相書

右心懸リ之義無之候ハ、来月三日迄ニ証文差出候様申来町_并組中

へ相触

一 御奏者廻状到来

大守様御水痘被遊去ル十五日御酒湯被為濟候恐悦申上有之候間来月朔日四時御徒格已上部屋住迄登城候様ニ申来大年寄へ廻動候段申達候

一 大目附廻状到来

豊三郎様御出生被成御台様御養被成候右御名ニ差合候もの改号仕候様申来

右廻状町中組中へ相触候

三月廿九日 曇

一 大年寄於宅小頭部屋目附立会左之通申渡候

橋本町兼帯

林田町年寄

丈右衛門

久左衛門

勝間田町年寄

七左衛門

善七郎

西新町年寄

伝七

忠右衛門

重右衛門

関貫番所相止非人番ニ相願候節七ヶ年御聞届之処追願不差出等閑候段 叱置

東新町年寄

長左衛門

宗兵衛

伊右衛門

中之町年寄

善右衛門

治右衛門

西今町年寄

幸三郎

太郎左衛門

七郎右衛門

可申渡答也石畢

△於役宅小頭立会而左之通申渡候

右之内西新町忠右衛門義ハ他參ニ付罷帰候上可申渡答也石畢

関貫番所取崩候義并非人番追願之義

不心付不念候段急度叱

右ニ付恐入差扣伺出不及其義以来

入念候様申達候

右関貫番所一件之義心付無之段叱置 宮田喜左衛門

右藏合孫左衛門義ハ晚方木知ケ原ノ罷帰候ニ付書役新左衛門立

合ニ出懸リ申渡候宮田喜左衛門義者他出ニ付罷帰候上追而可

申渡事 右申渡相濟候段御用番中へ相届大目附へも相届右伺書并申渡書

差添差出候

△右関貫番所非人番年限有之義自分義一向不存義依而者初不調之

義御裁許相伺再考被仰出猶又吟味いたし内ニ非人番年限有之義

杯も調出し旁以卒爾ニ相伺候段恐入候義ニ付三浦十郎左衛門を

以差扣相伺候処大目附ル左之通申来相濟

増見右門差扣之義伺出不申姿ニ御取計可有之候尤御用所

方御察度と申ニも無之伺出之処を御談之義ニも有之候得者

強而不調法と申義ニ者無之間其旨御達可有之候已上

三月廿九日 佐々木主馬

三浦十郎左衛門殿

一 藏合孫左衛門義今晚方木知ケ原ノ罷帰リ備前船出入之義大庄屋左

右衛門へ懸合候得共迎も相調不申候間御互ニ破談相届可申由而

一向熟談相調不申手切之及挨拶罷帰候段相届右懸合之手扣差出候

即刻御用番中へ差出大目附へも相届候

一 大坂漆屋四郎兵衛へ元魚町亀屋定治郎東新町鍋屋平藏元魚町中野

屋字助右三人滞銀出入相濟候義大坂御留主居村尾李右衛門へ以幸

便可申遣哉之旨伺置候処伺之通宜取計候様一学殿ル申来候

一 無宿盜賊友藏義此間再吟味致候処笹屋友治口書と致齟齬候付笹屋

友治再札取計并水風呂屋左七も懸合有之旨ニ友藏申口ニ付同人義

も相札候様ニ大年寄へ申付候

一 牢舎人藤屋村常右衛門病氣申出候間医師申付候様大年寄へ申達候

三月晦日 曇

一 橋本町朝倉屋与十郎組合河原町長七組合追込昨日迄而五日ニ相

成候間今朝差免其段御用番中并大目附へ紙面ニ相届候

一 大年寄於宅小頭部屋目附立会左之通申渡候

大坂漆屋四郎兵衛が買物代銀差滞 元魚町中野屋

及出訴既御番所御呼出しに相成候も 宇助

不届出不届之事に候依之追込申付候

但日数五日

右之通申渡候段御用番中并大目附へ紙面に相届候

一同心組石名左十郎義芝居出役に及過酒察度申達候所慎罷在候段

伺出昨日に廿日に相成候に付今朝差免候右に付加人日下勇助明

日差戻候段大目附へ相届候但翌朔日相届候

一 関貫番賃銀例月之通相渡候

一 錢通用百三文に相成候段大年寄届出候

一 大目附太田舎人備前船出入木知ヶ原に備前大庄屋杵右衛門藏

合孫左衛門内濟懸合手扣帳一学殿が被差越致披見候処先日佐伯

懸合候手扣も可差出尤以後取扱之考認相伺候様に申来右手扣藏

合が取寄七太田舎人差出候

一 太田舎人先達に差出候船持答書致附紙差戻候間差障無之候ハ

附紙之通相認候様申来藏合孫左衛門へ申付候

一 備前船出入に付赤穂塩取寄度藏合孫左衛門考先達に一学殿へ及御

尊候存慮之通取計申付候様被仰出其段申付置候所先日櫛野屋茂一

郎差遣候処家内病人出来途中に罷帰り折節宮田喜左衛門上京同道

仕居候付同人に立寄談具候様に頼置罷帰り今般破談に相成候得

片荷積に可相成左候得急に入用之筋に候間孫左衛門義乃井野兄

弟共方へ罷越候姿に内々罷越取計候後見可仕哉之口上書差出尤

備前も向方不申越内此方船持答書御廻被成候様に仕度旨
申出右口上書太田舎人差出候

一 備前懸合文通孫左衛門出役に付相渡置候処差戻候

一 備前田原出入破談に付竹内又右衛門へ文通下案相認太田舎人差

出

一 御領分東南条郡林田村甚十郎夫婦同人母同悻長十郎同娘同悻平吉

右家内六人西新町高松屋太助引受度人別入願下方引合相濟候段申

出承り届

一 御領分東南条郡一宮村東山方孫右衛門役介い七同人娘右家内式人

安岡町笠屋菊治引受度人別入願右同断に付承り届

一 西今町橋本屋儀八借家住作人幸七一人鉄砲町作人亀七方へ引越申

度人別除願承り届ル

一 船頭町北側に高瀬屋六兵衛家屋敷表口式間裏行八間一尺九寸但

半役也東隣八作人善五郎西隣ハ瓜生原屋平兵衛也右家屋敷代銀札

百匁に相極組合作人佐七へ売渡願大年寄差出候承り届ル四月四

日売券状差出

四月 小

月番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 小須賀一学殿

大目附 太田舍人

大年寄 齋藤孫左衛門(ト)

諸吟味 宮田喜左衛門

四月朔乙 旦 晴

一大守様御水痘御酒湯被為濟候恐悅申上御徒格以上部屋住迄麻上下
着用四時登城之処拙者義頭瘡未相勝候 = 付三浦士を以御断相届候

一船持共答書大目附添削附紙之通認直し大目附太田舍人 差出

一藏合孫左衛門義備前懸合手扣 = 書落候義書付差出太田舍人 差出
候

一今日恐悅申上拙者名代三浦十郎左衛門相勤被具候段申来候

一鉄砲場御普請有之候間右之内ハ稽古相成り不申候段大目附の演説
有之候段三浦の申来候

一播州佐用郡平福村嘉七持馬林田町藤木屋後家方 = 落候由届書差
出 并 持主嘉七の聊申分無之一札仕差出候 = 付勝手次第取捨致候様
及差図候

四月二日 雨

一大目附太田舍人の三浦十郎左衛門を以昨日申達候赤穂の塩取寄候

事京家之力 = 取計候義ハ不宜旨御用番被仰出 并 備前 之以後之
取計考申上候様御用番中御申之由被申聞依之左之通及返答

京家之力 = 赤穂の塩取寄候義不宜旨思召候ハ相止候様 =

可申付候且又備前之取計之義外 = 致方も無之差当り候処 =

昨日伺置候通船持共答書相廻其上ハ向方之仕向 = 寄 如何

様 = 可取計義哉と奉存候尤此節之様子 = 此方を為致出

訴候様之義ハ不宜委細 昨日差出候藏合孫左衛門書面之通之

義 = 候段申達被具候様三浦士へ及挨拶

一西新町大黒屋藤藏借家住藤本屋太兵衛後家 并 悴定吉右家内式人使
組笹岡与三兵衛方へ引越度人別除願差出承り届三月改 = 入

一戸川町永野屋多助妻義妊娠 = 相成当月六ヶ月 = 相成候処病身もの
= 不相分届延引候断書差出追 出産之上例之通叱可申達旨申渡
置候

一備中都字郡早島那須正助悴弥三郎義内縁御座候付昨日罷越候間当
年中逗留為仕度願書玉置源五兵衛差出承り届

一牢舍人新八丈兵衛長歳今以不相勝候 = 付代リ之医師双方願出承
り届候

一例歳之通筭触書差出候

四月三日 晴

一御用日之処自分義未相勝候 = 付三浦士を以不参御断申達且又御用
向三浦士へ相頼遣

一 大久保安芸守殿領分当国久米北條郡戸脇村皆歳悴字吉一人吹屋町

吹屋吉兵衛引受度人別入願御用番御聞濟 = 付大目附へ出置候断三

浦方申來御聞届申達候三月改入

一西新町大黒屋藤藏娘義大久保安芸守殿領分当国久米北條郡油木村忠兵衛方へ差遣度人別除願右同断取計濟三月改入

一土井大炊頭殿領分当国久米南條郡下弓削村忠三郎倅久五郎寄人西新町湊屋清左衛門引受度人別入願右同断取計濟三月改入六月十九日 疑文書出

一京町屋根屋瀬助乱心いたし借牢願右同断取計濟出番百歳差向入牟取計候

一公儀御尋もの心懸之義無之証文書役組中牢屋三軒屋差出井町中
大年寄自分証文差出候付先格之通惣町一通組中書役一通自分証文一通都合三通三浦士を以大目附へ差出候

一西新町桶屋四郎兵衛事当時宮治方御預ケ致養育候定吉義先月廿三日人別入歎書差出候所御察度有之同廿八日三浦を以大目附へ遂内談候之處追払之外無之由被申候由付立去り可申付伺書差出候所御用番中より咎無之もの義候得人別入御聞届被成候由被仰出其旨大目附へ談置右歎書相渡置候段三浦士申來御聞届申達候三月改入

一徳守宮地子居平右衛門一件御裁許伺書差出候所御用番御受取置被成候段申來候

一贗札師御裁許考書郡代兩名差出候所御用番中御受取置被成候段三浦申來候

一桶屋町方往來道直候処木屋山城屋兩家方材木車挽道損候ゆへ右兩家へ懸合候所右兩家ハ相止候得共買手の方車持參挽候迷惑仕候間車御停止被下候様願書差出都車停止と申ハ難願筋存

直可差戻哉と存候得共先内々三浦を以大目附へ遂内談候処同意候趣付右願書ハ差戻し道普請中車止と申建札等仕度願差出可然旨及差図候

一大目附中左之通演説有之段三浦通用

御家中之面々町在之者と無故出會致間敷旨兼々被仰出候通心得違有之間敷候尤当主幼年之もの近親之面々精々心を

付相慎候様可被致候此段及演説候様御用番中御申付申達候

一坪井浜屋源右衛門義及老年町役免願出候付為御褒美八木式俵被下候様先日伺書差出置候所伺之通被仰出併以後之例致間敷之旨被仰出候由三浦申來右被下もの義勘定奉行へ紙面申達候相廻次第可取計事

一鍛冶町鍛冶五郎右衛門孝子付先例之通白銀五枚被下候様伺書差出置候処最早養父母死去間も有之義候得銀式枚被下置候様御用番中被仰出候旨三浦通用有之右同断取計置

一田の村千年寺へ去ル晦日夕盜賊這入衣類其外拾三品盜取代銀三百四拾八匁式分位之由触流取計候様大目附達有之候由三浦通用有之町触取計本書ハ大目附へ差戻候

一橋本町朝倉屋宗箱訴博奕打磯之丞致徘徊候処輕役人ハ金銀めて見逃致段訴也追存寄可申上事

一二階町鳥屋金藏箱訴家及大破候も町年寄拜借不願具候由訴也追存寄可申達事

一備前文通伺置候所先向方申來候迄ハ懸合無用可致右懸合一件書類不殘取調写仕置いつも被差出候様取調置候様御用番中

御申之由大目附太田舎人被申聞候由三浦ノ通用有之

一 牢屋井戸かへ仕度旨半番伺出承り届但明日可取計事則入用式取
かへ渡ス

一 牢屋小鍵損申出候付繕申付候様小頭へ申達ス

一 安岡町神目屋弥吉弟佐市義小須賀貢^江奉公仕度人別除願承り届^{三月改}

一 京町北山修齋娘義島崎周栄役介^江差遣度人別除願承り届^{三月改}

一 昨二日夕於西今町□□穢多茂太夫を田野村安原金治致打擲直屋

善吉下人も手伝致候と申甚六ヶ敷申過居候得共内済可仕様子^二候
由昨夜廻り藤藏申出認落候故爰^二記ス

一 備前竹内又右衛門ノ飛脚来今般破談届出候上ハ外^二致方も無之^二

付片荷積可聞届右登荷差留様ハ尚又追^而可申越旨申来候^二付片荷
積之義ハ当領而已之義無之他邦迄も差支候義故先は得御意候通容

易^二難及御報尚又追^而被仰下候上可及御報と返書下案相認差添太

田舎人^江差出候所先今夕之所ハ受取書相渡飛脚之者差戻し追^而自
是及返書候様御用番中被仰出旨舎人ノ申来受取相渡飛脚之者差返

し候

四月四日 雨

一 作州勝南郡黒土村常円と申もの諸国寺社拜礼罷出雲州能儀郡安木

村^二而相煩歩行不相叶同所ノ送り出し院庄村へ送り来往来等も致

所持候^二付継送り候様申付候段郡代所ノ通用有之継送り候様^二大

年寄へ申付候

一元魚町大庭屋善兵衛義昨三日八時郡代所^江差出候様申来組合町役

差添差出候様大年寄へ申付候所内済被聞届候達有之候由申出候昨

日認落候間爰^二記ス尤願書不殘被相戻大年寄へ差戻願下ハ郡代所
^二被留候事

一 大目附太田舎人ノ船持共答書^并赤穂塩取寄候手段書付^并蔵合孫左

衛門手扣^二脱候事認出候書付被差戻抑ノ備前懸合之書類写御急候
旨^二付早々取調候様申来^并孫左衛門手扣帳二冊共被差戻写いたし

指出候様^二蔵合へ申達候書役新左衛門へも書類写差急き申付ル

一 坪井町浜屋源右衛門鍛冶町鍛冶五郎右衛門へ被下もの近藤伊左衛
門ノ相廻候付明五日五時召連出候様大年寄へ差紙遣置候

四月五日 雨

一 小頭孫八部屋目附佐十郎大年寄立会^二而兩人は玄関之上へ上ケ年
寄ハ敷台組合ハ下座敷^二差置左之通申候

鍛冶町

鍛冶

養父母^江数年孝行尽候段達

五郎右衛門

御聽為御褒美白銀式枚被下候

坪井町

福渡町年寄三拾貳年

浜屋

坪井町年寄十七年

源右衛門

右之通両町年寄数年来無恙相勤及老衰

役免願出可差留処無余義趣^二付役免申付

為御褒美八木式俵被下之候

但以後之例^二者致間敷之旨被仰出候

右申渡相済候段御用番^并大目附へ相届^并伺書も差出候

一元魚町中野屋宇助追込昨日迄^ニ五日^ニ相成候間今朝差免其段御用番^并大目附^ニ紙面^ニ相届候

一德守宮地子住平右衛門一件伺書差出置候処今朝三浦士を以一学殿思召被仰出平右衛門妻竹の屋伊助も相糺今般娘懸ケ込之詛を重々可相糺様被仰出候然ル所娘義ハ不及相糺旨被仰出候由且又地子居平右衛門妻呼出し方ハ寺社取次へ懸合而已^ニ不相濟義当役^ノ可伺出義と御沙駄之由三浦士被申候

一牢舎人大田五右衛門出牢切手郡代^ノ相廻リ手形認かへ又六差向出牢取計候

一坪井町年寄浜屋源右衛門跡役浜野屋栄四郎へ可申付伺出承り届

一福渡町年寄浜屋源右衛門跡役小文字屋忠左衛門へ跡役可申付伺出承り届

一牢舎人沼村長藏藤屋村常右衛門単物入遣度伺出承り届ル

四月六日 曇 雨

一備前船出入書類取調候事御用所へ差出候程之書類不殘写可差出哉又八他方へ被為見候程之もの写可出哉と太田舎人^江相尋候処左之通申来候

下方^并役筋^ニ之懸合又ハ証跡^ニも可相成書類計写候様申来

一德守宮地子居平右衛門妻呼出其義大目附へ達置候所寺社奉公^ノ寺社取次へ御達有之候間いつ^ニも申遣次第可差出旨三浦十郎左衛門^ノ申来候

四月七日 大雨

一院庄川滞水^ニ渡船留申来大年寄へ申達候

一安岡町材木屋庄七役介すて義七年已前御領分西北條郡西一ノ宮湯谷村忠八妻^ニ差遣候所離縁仕罷帰候付人別入願大庄屋引合相濟候由大年寄申出承り届

一元魚町刀屋善助義大坂大川町綿屋義兵衛方へ三十日計之逗留^ニ明後九日出立願承り届五月十五日帰ル

一元魚町福井屋喜七借家三好屋勘助義先月十三日罷出相尋候得共行衛不相候段届出百日尋申付候

四月八日 雨 朝飯時分^ノ晴

一御用日之処自分義未相勝当病御断三浦を以相届御用向も同人^江頼遣ス

一御代官野口辰之助殿支配所備中久保屋郡倉敷村百姓三太夫娘さつ同悴佐太郎同妹式人右家内四人安岡町作人多七引受度人別入願御用番御聞濟^ニ付大目附へ差出置候段三浦十郎左衛門^ノ申来御聞届申達候同廿九日住宅証文差出

一二階町堺屋伊助娘梅義孝子^ニ付一昨年辰十一月御賞被下候処未間も無之候得共右伊助老衰之上病氣^ニ相成別^ニ困窮仕候得共梅義弥不怠孝養仕実^ニ近辺之ものも感心仕候由又候孝状書差出候^ニ付八木三俵被下候様伺書差添三浦を以差出大目附へ被遂内談被下候様申遣候所先大目附預リ被置候由申来ル

一橋本町朝倉屋セ^ニ箱訴磯之丞徘徊候義尚又召捕候様^ニ可申付申達候所忍^ニ廻リ^ニ遂吟味弥手^ニ不入節ハセ^ニ呼出し遂吟味候様御用番御申之由三浦^ノ申来候

一二階町鳥屋金藏家作^ニ付拜借相願候得共町役不取次候と申箱訴呼

出候理解申聞叱置可申旨相伺候処伺之通御用番中御聞濟之由三浦
の申来候

一 坪井町浜屋源右衛門義勝山安養寺へ新庄村小松屋源兵衛加判ニ
銀札壹貫目銀札場の借り受貸セ候処相滞不埒ニ付添簡願出証文ニ
も銀札場の借り次と申義認有之如何成もの哉ニも存候得共相伺候
処果ニ思召ニ不叶迎も添簡ハ相成申聞敷何分相札弥銀札場ニ借
り受候事ニも候哉其段相札可申出品ニ寄叱可申付義と御用番中被

仰出候由三浦の申来内々近藤へも尋申遣大年寄へも札申付候

一 博奕一件先月廿五日御裁許取計候節橋本町月番之年寄御叱可取計
之所七三郎義ハ其後^{病氣付}役免申付居不申旨ニ付死去と心得御叱不申達

処大目附の察度有之相札候所當時小性町ニ居候由右咎不申付不調
法ニ右届之節組合叱過料年寄源右衛門叱申渡候義不相届差免候節

計相届不調法ニ博奕吟味ニ付致出奔候もの共百日之内ニ尋不出候
得^者過料五百文ツヽ可申付段組合のもの共へ申付置候届不仕不調
法ニ昨日の三浦士を以彼は大目附へ申達候処塩屋七三郎御叱取

計置候上ニ差扣可伺義と被申聞今日可申渡之処今日ハ御証忌日
ニ付明日取計可申其上ニ拙者差扣可伺旨三浦と談置候

一 備前ニ之返書去ル三日伺置候処思召ニ不叶御用番中の方御下案認下
り右之通四五日之内ニ飛脚可遣旨被仰出候段三浦の通用有之

一 備前懸合此已後之取計藏合孫左衛門考書差出拙者不快中之義ニ付
其儘太田舎人ニ差出候

一 郡代所の方半舎人常右衛門長藏生野の方呼出し申来候間病氣之処相札
呉候様申来昼廻藤藏為治差向候処随分駕籠ニハ旅行可相成旨申

出^井醫師方も容体書差出大体同様之趣申出候間其段郡代所へ申遣
候

一 石名佐十郎妻妊娠届出候

一 紀州海土郡日方[■]浦池谷町善四郎手代政右衛門一人例年之通梳折
敷売ニ来候段京町田戸屋宗十郎宿切手差出

一 筑前遠加郡柏原浦小平治手代義兵衛一人例年之通茶碗類御売来候
段右同人宿切手差出

一 播州網干余陸屋惣七一人例年之通八百屋物御売来候段中之町津田
屋伝助宿切手差出八月三日帰ル

一 大目附佐々木主馬の方道幹様百五十回御忌式百年御忌之節市郷之も
の御赦ニ付差免候ものハ無之哉重^而之御用日迄ニ取調差出候様達

有之候旨三浦の通用有之即刻遂吟味候処式百回御忌之節御赦と申
義相見へ不申候勿論百五十回御忌之節之日記等ハ無之候其段即刻
三浦へ申達候

四月九日 晴

一 院庄川渡船相始候段五ツ半時郡代所の方申来大年寄へ申達ス

一 博奕御裁許先月廿五日申渡候節調落候橋本町朝倉屋与十郎博奕宿
いたし候節町役月番相勤候七三郎追込大年寄於宅小頭部屋目附立
会左之通申渡候

一 昨年辰十二月橋本町朝倉屋与十郎 小性町住塩屋
博奕宿致候節其方町役月番相勤居 七三郎

一 示方不行届不埒之事ニ候依之追込申付候 但日数三日
右申渡相濟候段御用番^井大目附へ相届候

一拙者義右ニ付委細者昨日記置候義ニ付三浦十郎左衛門を以差扣相
伺候処昨日被仰出候坪井町浜屋源右衛門札相濟候上ニ差扣可相
窺旨大目附被申聞候段三浦ノ申来候

一西新町高松屋吉治借屋住大工善四郎夫婦二人東南條郡林田村上之
町滝岡吉弥方へ引越度人別除願下方引合相濟候段大年寄申出承り
届

一永見造酒助殿組松井市右衛門娘義十二ヶ年已前未十二月西今町阿
部川屋源左衛門妻ニ引受候処今般離縁仕親元江差返人別除願差出
し承り届ル

一去ル辰十一月戸川町土佐屋十藏家屋敷南側ニ表口六間裏行十七
間但彦軒役也東隣ハ作人長太郎西者横丁ニ候右家屋敷同丁宗七取
次ニ質物ニ書入銀札六百匁借り受候処元利返濟仕候届書差出候
承り届ル

一戸川町南側ニ右同人右之家屋敷町内永野屋取次ニ質物ニ書入
来未ノ三月切考割式歩之利分ニ銀札六百匁借り受度質入置替之
願書差出承り届同十三日本証文差出ス未四月四日受返濟

一戸川町北側ニかとや庄七家屋敷表口四間裏行拾七間但彦軒役也
東隣ハ野本屋藤右衛門西隣ハ藤屋甚助也右家屋敷代銀札四百目ニ
相極町内作人伝之助へ売渡度願書承り届同十三日売券状差出

一伏見町筑後屋佐太郎義西国順礼百日計逗留ニ来ル十三日出立之
願書差出候承り届五月廿日帰ル

四月十日 曇 雨
一東新町鍛冶善右衛門娘房七才同人下女ゆき三十三才右式人昨九日

朝六ツ時罷出不罷帰所々相尋候得共行衛相知不申候間鐘太鼓ニ而
所々在方迄も相尋申度願書差出候ニ付紙面ニ御用番中へ相伺候
処御聞濟ニ付其段大目附へ相届置御聞届申達候尤一学殿ノ願書文
段ニ下女之娘之様ニ相見候得共定ニ善右衛門娘と下女ニ可
有之哉今一応申上候様返書ニ申来依之善右衛門娘と同人下女ニ
候旨尚又紙面ニ申上候

一鍛冶善右衛門娘川下塚角村ニ流死候由相聞候付早々人差遣候所塚
角村庄屋申候者双方御届ニ相成候得者竜野へ相届候上出役も有之
甚六ヶ敷相成候義故申分も無之義ニ候ハ御内分ニ御引渡申候
様致度旨申候由ニ付内々伺候段大年寄申出候ニ付家出之趣も相札
候処聊心懸候義も無之全野狐之仕業ニ可有之哉と申趣ニ付右
内伺之趣聞届ニ可然哉と紙面ニ御用番中へ相伺候御承知
被成候由口上ニ御答申来候ニ付其段大目附へ紙面ニ相届置右
内意之趣承り届候段大年寄へ申達候尤右下女ニ未尋出し不申候由
ニ候
一牢舎人藤屋村常右衛門沼村長藏義郡代所ノ明十一日生野江差出候
付出牢申来出番砂兵衛差向出牢取計候

四月十一日 雨
一坪井町浜屋源右衛門義銀札場ニ拜借仕勝山安養寺へ志貫匁借り
次致候義相札候処弥無相違旨口書并銀札場借り受之書付差出候付
勘定奉行近藤伊左衛門も内々承り合候処同人申出候通當時志貫
六百匁払残有之旨申来候ニ付右口書ニ御裁許伺書差添御用番中へ
紙面ニ申遣候

一 備前竹内又右衛門^江之返書明朝立^ニ而差遣可然旨三浦被申候^ニ付

其段太田舎人申遣弥左様^ニ而宜候ハ、飛脚被仰付候様紙面^ニ而申

達候所承知候旨申来候

一 堺町南側^ニ而倉敷屋和助家屋敷表口四間裏行九間御役三步役也東

隣ハ丸屋幸吉西隣ハ和泉屋三郎助也右屋敷之裏地南境^ニ而東西四

間南北耆間半但五厘役付代銀五拾匁^ニ相極和泉屋三郎助^江壳渡申

度願承り届同十五日売券状差出

一 西今町常屋平吉義銀札場判摺手代^ニ召抱候段銀札場奉行^ハ案内有

之候

一 大目附太田舎人^ハ於江戸表綾姫君様御逝去被遊候間明日備前^江之

飛脚差延候様申来

一 大坂村尾左右衛門^ハ書状到来鍋屋平蔵龜屋定治郎^并中野屋宇助右

借銀出入相濟候段漆屋四郎兵衛^ハ書付を以申出候段申来候追^而可

及御沙駄候翌十二日御用番中へ差出候

一 因州宮城権左衛門菅平太夫加次屋又造^ハ飛脚到来先達^而及御懸合

候文兵衛見知候もの差遣其外郷方役人差遣候間右之ものへ御引渡

被下候様申来右来書三浦士を以御用番中へ差出右^ニ付下役老人山

田新三郎被仰付可被下町会所^ニおいて明朝可引渡旨相伺候所伺之

通宜可取計尤御遠慮沙駄有之候得共未触内^ニ明早朝相渡可然旨御

移も候由三浦士被申聞候依之小頭孫八出番兩人目明老人明六時過

罷出候様手配申付^并向方役人来候ハ、夫々宿可申付旨問屋へ申付

候様大年寄へ申渡^并町会所取片着置候様申付ル然ル所左之もの共

致着候^ニ付橘屋伝五郎へ宿申付候旨^并非人頭ハ□□□へ宿申付候

段大年寄申出候

松平相模守内

郷方役人

小倉要助

郷方下奉行

谷村安兵衛

牛尾庄右衛門

日野郡溝口宿

孫兵衛

外非人頭

三人

右之通名面書大目附へ差出御遠慮之御沙駄も相聞候得共内々御移

も候様^ニ相聞候付明六半時可引渡旨申達候然ル所山田新三郎来候

付明六半時於町会所引渡候様申含候尤向方^ハも此方出役之名面承

り度旨申候由^ニ付認相渡候様大年寄へ申付候

四月十二日 雨

一 今曉八時過大目附廻状到来於江戸表

綾姫君様御病氣之処去月廿八日御逝去被遊候付十一日^ハ十三

日迄三日之間鳴物停止被仰出候尤普請ハ不苦候

右廻状写取町中組中へ相触候

一 小性町塩屋七三郎追込昨日迄^ニ而三日^ニ相成候間今朝差免候段御

用番^并大目附へ相届候

一 東新町鍛冶善右衛門娘義川下塚角川瀬^ニ懸り致流死見改候処同人

娘 = 相違無之聊申分も無之 = 付同村庄屋橋次郎へ懸ケ合同所 = 仮葬仕罷帰候段届書差出候 = 付御用番中へ差出大目附へ相届候尤下女ハ未相知不申候由 = 候

一院庄川渡船留り昨十一日四時申来大年寄へ申達候昨日認落候 = 付爰 = 記置候

一京都烏丸通六角下ル町二文字屋九兵衛手代宗兵衛吉之助二人例年之通来候段京町海老屋長右衛門宿切手差出 内惣兵衛一人庚申八月十三日歸

四月十三日 雨 昼後晴

一御用日之処拙者義未相勝当病御断三浦を以申達其外御用向頼遣候一福渡町阿賀屋助五郎家守忠助借家住忠助義去十二月二日罷出不罷帰其段届出百日尋申付置候処百日余 = 罷成候 = 付除帳願御用番中御聞濟 = 付大目附へ差出置候由三浦方申来御聞届申達候

一先年見附割御用銀被仰付候ものゝ内追々困窮仕歎書可差出様 = も相考候ものゝ名面調出候様先日一学殿方被仰出大年寄へ申付置候一処右伺書玉置源五兵衛差出三浦士を以別席 = 而一学殿へ差出候処御受取被置候由申来候

一備前竹内又右衛門 江之返書三浦を以大目附へ相尋候処明朝立 = 而可差遣尤飛脚之者も御達被置候由三浦方申来先日御用所御案文之通御飛脚河野伊右衛門へ相渡尤差置受取書取岡山 = 不致止宿罷帰候様 = 可申付旨申来其段申付遣候

一坪井町浜屋源右衛門先日差出候勝山へ添簡願書ハ大年寄奥書有之候哉且又 附大年寄り月番ハ誰 = 而候哉申出候様大目附中被申聞候由三浦方申来都 而願書ハ大年寄三人共奥書仕候尤当月月番 者齋藤

孫右衛門相勤候由申遣候
一院庄川七ツ半時渡船始り候段郡代所方申来大年寄へ申達候

四月十四日 晴

一因州方来候役人小倉要助へ去ル十一日早朝於町会所山田新三郎方文兵衛義可引渡 = 付向方方召連来候文兵衛面体見知候孫兵衛 = 為見候所人違 = 而候由依之不相渡可相濟処小倉要助方山田新三郎へ申候 者向方倉吉辺 = 伊兵衛悴文兵衛と申ものも兼 而尋候もの = 候故其もの = 而有之候ハ御渡可被下哉と申聞候由再応懸合之上昨日三浦方御用番中へ伺有之候処何れ = も引渡可然旨御差図候由三浦方申来昨夜迄再応為懸合候処向方申口も致転々候様之気味も少し有之様 = も相聞 并新三郎も心得違申取惡敷趣も有之甚引継容易 = も難渡もの哉之様 = も可有之哉と猶又再応為懸合候処小倉要助当座之心得 = 者贖銀と贖銀札之御裁許 = 候得 者致し方ハ公儀へ懸り重き事 = 候得 者贖銀之御裁許 = 可相成左候ハ又候当地へ可被差戻筋 = 而も可有之哉之旨申候 = 付其時之御心得 = も候ハ彌可引渡と為及挨拶候然ル所右丈兵衛親之義も彼是申趣 = も相聞候付其所も為懸合候処是ハ入用 = 無之由申候 = 付御引渡之御手当 = も不及旨申聞候且又右同類爰元 = 而相尋候利左衛門召捕居候由申 = 付伺之上死罪 = も不相成程之もの = 候ハ爰元 = 入用之もの故内々下方へ被仰知候 者其節ハ人差向途中取候姿 = も可致此段相頼候段呉々新三郎方懸合候所承知之旨 = 有之候右之通懸ケ相濟候 = 付今早朝於町会所山田新三郎小頭三船孫八出番石名左十郎川端又六差出し双方立会之上引渡相濟候段届出 并大年寄方も出立届出

候 = 付其段御用番 # 大目附へ相届候尤昨夜返書下案御用番中へ相
伺候処宜取計候様被仰出相答及返書尤扣別帳 = 有之

一 牢舎人伊兵衛瀬助給出入伺出承り届

四月十五日 快晴

一 林田町山本屋与三七義雲州意宇郡熊野村六三郎方へ療治 = 罷越度
明十六日出立 = 而 廿日計逗留 = 而 罷越度願大年寄差出承り届五月
朔日罷帰ル

一 川端左五兵衛義今日請状いたし候段小頭部屋目附る差出

一 痢疾除御薬出来候由国島栄庵る申来去ル十三日三浦を以大目附へ
相尋候処例年之通被下取計候様 = と申義 = 付国島栄庵る七千五百
五拾服受取候尤其段大年寄 # 小頭 且も申達置候

一 德守宮地子居平右衛門一件明日可相糺 = 付平右衛門妻被差出候様
三浦へ申遣 # 大年寄 # 組中へも手配申付置候

四月十六日 曇

一 大目附太田舎人る五ツ半時頃初紙到来御用之儀候間唯今小須賀一
学殿御宅へ罷出候様申来拙者義不快 = 付三浦十郎左衛門相頼名代
差出候処左之通被仰渡候

増見右門

先般町方る不埒成願差出其外心付等薄義も有之

鹿略之至 = 候依之差扣被仰付候

右之段一学殿於御宅大目附立合 = 而 左之通被仰渡候由御書付写三
浦士持参被相達候尤右不埒成願と申ハ浜屋源左衛門勝山へ添簡願
之義也心付薄と申ハ先日博奕一件届失念之事之由也且左之通被

仰出候由三浦士る取計有之候由也

右門差扣中仮役

三浦十郎左衛門

戸ノ十五日

浜屋源右衛門

追込七日

斎藤孫右衛門

右 = 付叱置

蔵合孫左衛門

玉置源五兵衛

右同断

坪井町年寄

喜助

右源右衛門戸ノ = 付候 而 ハ貫釘等作事より可受取先例候間作事方
へ相違被呉候様大目附へ相達置西村治太夫へ及懸合右二品先例之
通受取候様且又町大工へ可申付旨玉置源五兵衛へ申付源右衛門申
渡取計候上戸ノ為見届萩野藤蔵小野田為次差出猶又大年寄月番其
外夫々申渡取計委細 # 申渡帳 = 有之 = 付略ス右取計候上御用番中
大目付中へ紙面ヲ以相達候

一 神田栄治川端佐五兵衛昼廻り届出ル

一 此間差立候飛脚備前る受取書取帰候船方出入之儀ハ太田舎人懸り
之役 = 而 右受取書為持遣披見相濟候ハ、御用番中へ可差出旨紙面
を以申達候処向方る差出可申旨申来候 = 付御用番中へ # 不及沙汰
候

一 中山百蔵神田栄治夜廻り届出ル

同十七日 雨

一 萩野藤蔵小野田為次昼廻り届出ル

一 茂渡兵吉高松屋忠右衛門正月廿九日立 = 而 ミノブ山へ参詣昨夜帰

着之旨届出承置

- 一 院庄川水増船渡留候旨郡代方へ通用 = 付大年寄へ相達候
- 一 川端又六三船新次夜廻り届出ル

同十八日 晴

一 申上候御用向無之候

一 道幹様御年忌 = 付御赦有之段太田舍人へ被相達候

一 院庄川船渡相始候旨通用 = 付大年寄へ相達候

一 中山百蔵神田栄次昼廻り届出ル

一 近々一宮市町 = 付例之通大目付廻状到来組中并三軒屋且又高石垣

番人等へ可相達旨右触書相写小頭三船孫八へ相達

一 石名佐十郎川端佐五兵衛夜廻り届出ル

同十九日 晴

一 市町 = 付町触今日差出候

一 院庄村市三郎竹田村伊八郡代方 = 而牢番預申付候 = 付立会石名佐

十郎差出候尤牢舍人盗人磯八郡代相糺候 = 付出牢立会右佐五兵衛

急罷出ル

一 痢病除御薬玉置源五兵衛へ為相渡候

一 盗人磯八又候入牢 = 付昼廻り川端又六神田栄次急差出候

一 三船新次不快引込 = 付加人之義小頭三船孫八へ申出候 = 付大目付

中へ相達置候処御使組吉田菊次後刻相廻ル

同廿日 晴

一 院庄村市三郎竹田村伊八出牢之上七左衛門へ差出候 = 付出

牢立会として泊り番萩野藤蔵早朝差出候

一 小頭三船孫八部屋目付石名佐十郎町分水拔溝為見分今日へ罷出
旨届出ル

一 江原文蔵川端佐五兵衛昼廻り届出ル

一 播州網千余子浜菊屋弥七郎悴源次郎と申者忝人例年之通小間もの

売 = 昨日罷越且又播州有馬辻堂茂兵衛と申もの忝人は又例年之通

筆白粉売 = 罷越候 = 付受人取之宿いたし候旨中之町甲屋幸助へ宿

手形差出承届候

一 萩野藤蔵江原文蔵夜廻り届出ル

四月廿一日 曇

一 大目附太田舍人へ唯今一学殿御宅へ罷出候様切紙到来不快引込中

= 付三浦十郎左衛門相頼名代差出候所右門差扣御免被成候段一学

殿より被仰渡候右御礼廻勤三浦士相頼候

一 尾州島崎神職吉田左右例年之通上下三人来候段堺町西川屋差助宿

切手指出 五月廿四日
罷出ル

一 痢疾除御薬五拾六服小頭へ相渡ス

一 御使組飯田弥作渡屋敷 = 居候作人次郎兵衛悴吉五郎義橋本町吉見

屋儀助養子 = 引受度人別人願承り届

一 林田町かゝと屋六之助借家住作人平三郎義当月十一日夜罷出不罷

帰候旨届書差出百日尋申付ル

一 林田町かゝと屋六之助借屋住作人文蔵妻義当月十一日夜罷出不罷

帰候旨届書差出百日尋申付ル

一 坪井町藤屋嘉右衛門義未相勝候 = 付渡部玄端へ転薬仕度願承り届

一 痢疾薬□□□非人百式拾四人有之今百四服不足之旨玉置源五兵衛

申出組中之方^ニも不足^ニ付今百式拾服國島榮庵へ申遣受取百四服
相渡都合七千六百七拾服受取内十六服過有之

一 牢舎人庄助病氣^ニ付去ル十六日易安へ療治申付候段源五兵衛申出
尤其外之病人へ致休葉候由

四月廿二日 雨

一 大目附太田舎人^ノ齋藤孫右衛門追込七日^ニ而明朝御免取計候様申
来候

一 大津座頭之由諸國勸化仕候^ニ付東新町^ノ手引差添二階町迄来候段
申出候^ニ付差留直^ニ新田村へ送り出し候由大年寄申出承り置

一 播州三木下町山屋嘉兵衛一人大工道具卸売来右へ去已十月十三日
承り届候もの^ニ而当年初^ニ而来候段西新町山家屋利右衛門宿切手差
出六月十六日帰ル

一 新魚町鉄炮屋庄助家守栄蔵借家住和兵衛義去月十日夕罷出不罷帰
候段届書差出百日尋申付候

一 ノ宮市町之間播州北条十三人連万歳芝居神主^ノ世話被相頼候間
参り込世話仕度願書船頭町山手屋理七差出承り届ル翌廿三日引受

一 札差出候

四月廿三日 雨

一 御用日之処拙者義未相勝候^ニ付三浦士を以当病御断申達^并御用向
頼遣

一 齋藤孫右衛門追込昨日迄^ニ而七日^ニ相成候間今六半時呼出し小頭
一人立合^ニ而於座敷追込差免候段申達右申渡相濟候段御用番^并大
目附へ紙面^ニ而相届候

一 院庄川渡船止候段五ツ半時郡代所^ノ申来大年寄へ申達候

一 備前赤坂郡平山村百性清助義福渡町阿賀屋助五郎屋守忠助借屋住
三十郎引受度人別入願御用番中御聞濟^ニ付大目附へ差出置候段三
浦十郎左衛門^ノ申来御聞濟申達候五月廿日住宅証文差出

一 東新町佐伯屋与惣兵衛弟齊四郎義御代官早川八郎左衛門殿支配所
当国大庭郡平松村多助方へ差越度人別除願右同断取計濟

一 備前津高郡平岡村茂兵衛夫婦悻卯助同金五郎^并娘六人右家内十人
伏見町徳島屋忠七引受度人別入願右同断取計濟五月廿二日住宅証
文出

一 御代官野村権九郎殿支配所当国吉野郡鷺巢村忠助娘たき義京町山
崎屋善六悻佐七妻^ニ引受度人別入願右同断取計濟五月朔日住宅証
文出ス

一 橋本町吉見屋義助借屋住人音吉姉留義去ル寅十二月出奔仕百日
尋候上除帳御許容被成候処右留義真島郡美甘村^ニ罷在弟音吉罷越
相尋候処借金^ニ詰り致出奔先非を悔罷在右借金相濟候^ニ付帰住為
仕度願書差出右同断取計相濟

一 林木町万屋与三兵衛屋守清兵衛借屋住孤独喜助御救扶持歎書御用
番御聞濟^ニ付大目附へ差出置勘定奉行へも達置候段三浦^ノ申来御
聞届申達候

一 東新町鍛冶善右衛門下女去ル九日不斗罷出所々相尋候得共弥相見
へ不申死骸等も見当り不申候旨届書差出御用番へ申達大目附へ差
出置候段三浦より申来右留義^ニ下神目村之もの^ニ而人別放手形も
取置追^而妻^ニ可相願積^ニ候処右之通之義^ニ候由也

一 細工町往來之横溝三ヶ所共ニ埋候ニ付水拔悪敷浚願出大目附へ差出ス

一 ノ宮市町之間大坂四人連之八人芸參候ニ付神主ノ引受世話被相頼候間市中罷越世話庄度願書東新町美濃屋利兵衛差出承り届翌廿四日本証文差出

四月廿四日 曇 雨

一 院庄川通船相始候段四時郡代所ノ申來大年寄へ申達候

一 詫見助四郎長屋住長左衛門夫婦二人橋本町佐賀屋勘右衛門引受度人別入願元來備前ものニ放切手差添出承り届ル

一 京都三条通堀川西へ入所本川道意と申醫師用事有之來候間廿日計逗留為仕度願新職人町松野屋十右衛門願書差出し承り届五月十七日追願濟

一 奈良今井町墨屋伊兵衛手代藤七一人例年之通筆白紛売ニ來候旨京町美濃屋平五郎宿切手差出八月十一日帰ル

一 ノ宮田植祭ニ付孫八文蔵左五兵衛差出候所無別条引取候段届出候

四月廿五日 少 雨

一 宮田喜左衛門義先日申渡之節致他參昨日罷帰候ニ付今朝呼出し小頭大年寄立会ニ而左之通申渡候

宮田喜左衛門

東西外町非人番追願之義ニ貫賈番所取崩候義不心付

不念之到ニ候以來可入念候

右申渡候段御用番ニ大目附へ相届候

一 下紺屋町南側ニ而作人喜助所持之家屋敷表口式間裏行拾七間但半役也西隣ハ万性院東隣ハ喜助居宅也右家屋敷代銀百四拾匁ニ相極細工町大工音兵衛借屋住板倉全柳へ売渡願承り届同廿九日売券状出ス

一 京町関屋喜兵衛倅八十吉義塩田八十七と相改小須賀一学殿江奉公ニ差出度人別除願書承り届ル

一 御領分西々条郡二ノ宮村弥市郎ニ母右二人二階町丸尾屋長兵衛引受度人別入願大庄屋引合相濟候段申出承り届

一 御領分西々条郡二ノ宮村忠治郎姉義安岡町山田屋新七役介ニ引受度人別入願右同断ニ付承り届

一 桶屋町内海察州義医業ニ付脇坂淡路守殿御預り所当国英田郡倉敷村金谷來助方へ三ヶ年之間娘召連罷越度尤家役之義ハ町内吉田屋平助へ頼置候段願書差出承り届翌未十一月廿三日罷帰ル

一 ノ宮市町出役藤蔵為治無別条引取候段届出候

四月廿六日 雨

一 院庄川渡船留り候段七半時郡代所ノ申來大年寄へ申達ス

一 大目附太田舍人ノ左之通申來

一 八十歳以上之もの共町方一統相調近々可差出候

一 徳守宮地子居平右衛門一件延々不相成様吟味可致旨

一 賈銀一件取調御留主居へ今一応懸合可申尤延々不相成様可取計候

右之段御用番中御噂ニ付申達候旨申來右ニ付八十歳以上之もの調出候様大年寄へ申達ス

一大坂村尾左右衛門ノ中野屋宇助鍋屋平藏等之一件濟口申遣候返書

来

一一ノ宮出役百藏常治無別条引取候段届出候

四月廿七日 雨 晴

一御藏米六拾六匁五分町米六拾貳匁五分

一御領分東南条郡林田村吉兵衛夫婦娘二人右家内四人西新町沖屋庄

助引受度人別入願大庄屋引合相濟候段申出承り届

一西今町直屋幸三郎義孫四郎と改号仕度願承り届ル

一新魚町野田屋孫三郎義六郎太夫と改号仕度願承り届ル

一新魚町姫路屋恵三郎義伝六と改号仕度願承り届

一一ノ宮出役孫八又六菊治無別条引取候段届出候

一子午七ヶ年振人別改帳大年寄差出尤公儀ノ被仰出ニ付当年ノ初ニ

非人共も人別ニ相加ヘ候事但惣辻非人共七千六人也右帳面先年者

御用所ヘ差出し夫ノ郡代所ヘ下り郡代所ニ而ニ致一所清帳差出候事

ニ候所天明六年ノ大目附中申談之上直ニ郡代所ヘ相廻し候様ニ相

成候事尤是迄人別年々減候処当年者緒度相増候ニ付以後考之為記

置候○但非人ハ御差出ニ不相成調置候計也

一安永三甲 午年四月 惣町人別改 七千貳百七拾人

一同九庚 子年四月 右同断 七千貳拾四人但百四拾六人減

一天明六丙 午年四月 右同断 六千八百七拾八人但百四拾六人減

一寛政四壬 子年四月 右同断 六千七百七拾五人但百四三人減

一同十戌 午年四月 右同断 六千八百八拾貳人

但非人ヲ除百七拾八人外
外非人百二十拾八人存之

四月廿八日 少雨 晴

一御用日之処拙者義未相勝候付当病御断三浦ヘ頼遣其外御用向頼遣

又

一脇坂淡路守殿預り所当国英田郡倉敷村徳久屋岩吉夫婦二人林田町

和田屋清六引受度人別入願御用番御聞濟ニ付大目附ヘ差出置候段

三浦より申来御聞届申渡候六月十日住宅証文差出

一稻垣藤四郎殿支配所当国久米南条郡久米村幸八悻新八一人上紺屋

町今川屋多吉引受度人別入願右同断取計濟五月三日住宅証文差出

一東新町玉屋源右衛門娘義脇坂淡路守殿預り所久米北条郡宮尾村林

藏妻ニ差遣度人別除願右同断取計濟

一東新町長谷屋九兵衛役介ニふき義松平下野守殿領分播州佐用郡平福

金屋勘六方ヘ引越度人別除願右同断取計濟

一道幹様ニ百五拾回御忌御赦ニ付贖札師京町原田屋嘉兵衛出牢生涯

宿預禁足被仰付候様伺書三浦を以御用番中ヘ差出又

一町方八十歳以上之もの書出候様一昨廿六日大目附ノ申来今日三浦

を以御用番中ヘ差出候但九十歳を頭として八十才人有之候

一上野介様御止宿取計書佐々木主馬ノ差出候様三浦ヘ伝言有之差出

候

一贖銀師一件之もの共江戸御留主居ヘ懸合候様一昨日大目附ノ申来

候得共丈兵衛義此間因州ヘ相渡候趣并同類利左衛門義向方ニ捕居

候事ニ候得者何れ今一応因州懸合有之候内ハ御裁許難取極ものニ

候段三浦を以存寄申達右同書并田中幸助来書差出候所御用番中ヘ

申達候様ニと申義ニ付御用番中ヘ被相達候所先伺之通ニ致置候様

と被仰出候旨三浦ノ申来候右書類*大目附受取置候由申来右書類五月十三日戻ル

一拙者義久々引込居候所吟味もの御催促も有之候ニ付未相勝宅吟味も出来兼延引恐入候間三浦十郎左衛門を相頼宅吟味可仕哉と上原彦藏を以大目附へ相達候所甚六ヶ敷被申宅取計相成候位ニ頭瘡見苦敷迎宅吟味不相成筋も有之間敷類役相頼候義も如何哉と申趣ニ承知無之由上原ノ返答有之候

一ノ宮市町ニ付例歳之通今日ノ東新町倉敷屋宗兵衛辰目明申付両人つゝ罷出候由孫八申出候
一柳土手水門御借願口上書三浦を以大目附へ差出候

四月廿九日 雨

一関貫番賃銀例月之通相渡

一一ノ宮出役文藏左五兵衛無別条引取候段届出候

五月大

月番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 小須賀一学殿

大目附 松岡治郎助

大年寄

十五日ノ

齋藤孫右衛門

六日ノ

玉置源五兵衛

諸吟味

宮田喜左衛門

五月朔甲子旦 細雨 晴

一牢舍人庄助療治二廻り相濟未被捨置趣中村易安申出候付明日ノ吉

武祐三正申付候段大年寄申出

一林田上之町定十郎家内ノ同人悴利喜藏右家内式人福渡町阿賀屋

助五郎屋守忠助借家住人喜兵衛役介ニ引受度人別入願大庄屋引

合相濟候段申出承り届ル四月改ニ入

一新魚町極野屋茂一郎悴友三郎義友助と改号仕度願書承り届

一橋本町朝倉屋与十郎組合両隣河原町長七組合両隣過料五貫文代四

拾六匁六分大年寄相納候

一磯之丞義弥見当り不申得不召捕段目明共申出候段小頭ノ申聞候ニ

付致箱訴候橋本町宗呼出し可相糺事

一一ノ宮出役藤藏菊治無別条引取候段届出候

五月二日 快晴

一坪井町浜屋源右衛門戸ノ昨日迄ニ十五日ニ相成候ニ付於白洲大年寄諸吟味小頭部屋目附立合出番一人町大工差添差遣呼出し戸ノ差免候段申渡右申渡相濟候段御用番并大目附へ相届候

一御蔵米六拾七匁五分町米六拾三匁五分

一戸川町作人石右衛門借家住しも義四国八十八ヶ所へ百日計之逗留

ニ来ル六日罷出度願書大年寄差出承り届

一牢舎扶持内貸六俵之証文差出奥書取計候但六月ニ九斗三合七夕五才持越ス

一一ノ宮出役孫八百蔵栄治無別条引取候段届出候

五月三日 快晴

一御用日之処拙者義未相勝候ニ付当病断并御用向三浦十郎左衛門へ頼遣

一小野田為治病氣引込届出候

一早川八郎左衛門殿支配所当国大庭郡久世村百性善四郎倅伊与治一人戸川町作人重吉引受度人別人願御用番中御聞濟ニ付大目附出置候由三浦土方申来御聞届申達候同六月三日住宅証文出ス

一元魚町轆轤屋治兵衛倅要吉義不行跡其上家出仕候付去々六月年辰ノ

一勘当願仕候処当時久米北条郡埴和村ニ罷在先非を悔帰住候義相歎越心底相直り候ニ付勘当差免帰住為仕度歎書右同断取計済

一二階町堺屋伊助娘梅孝状書先日大目附迄遂内談候処少々御存寄有之ニ付為御手当八木三俵被下置候様ニ認直し今日御用番中へ三浦

方於別席被差出候所御受取置被成候由申来

一兵庫菜種問屋田中屋久左衛門義中国筋へ見廻リニ罷出候間近々爰元ニも罷越旨申候由丸亀屋勘治応対之趣認出候三浦を以御用番中へ差出大目附へも及御沙駄候

一大目附廻状到来

真鏡院様来ル十一日十三回御忌御相当被成候間於泰安寺朝計御茶湯御執行被成候断為御知申来

先例之通惣町組中へ相触候

一京町原田屋伊平義因州鳥取三丁めうと屋喜右衛門方へ三十五日計之逗留ニ明四日出立願大年寄承り届差出六月六日帰ル

一牢舎人庄助病氣差重リ候断吉武修格容体書差出并牢番も申出郡代所へ相達候但天疱瘡内攻と認出候小瘡之事之由也

五月四日 快晴

一牢舎人田ノ邑村庄助病氣ニ付組合預ケニ被仰付候間出牢取計候段郡代所方申来当番百蔵差向取計候

一一ノ宮市町警固出役左十郎左五兵衛無別条今日切ニ引取候段届出候ニ付先格之通大目附計へ市中無滞引取候段紙面ニ相届候

五月五日 雨

一端午ニ付組中罷出謁先格之通神酒差出候自分義不快ニ付不罷出

五月六日 雨

一玉置源五兵衛今日方月番相勤候段届出候

一阿州板野郡成瀬村曾右衛門一人例年之通藍玉壳ニ来候段船頭町今岡屋熊吉宿切手差出

一同国同郡高房村新兵衛一人右同断

一同国名西郡高原村平左衛門一人右同断

五月七日 曇

一加入御使組吉田菊治病氣之由ニ而代リ河野儀兵衛来

一明後九日郡代中於牢屋周藏拷問取計有之ニ付右手当申付吳候様申

来其段孫八江申付候

一一ノ宮市町同心組出役昼弁当代合拾三匁八分小頭へ相渡候但老
人六分

五月八日 晴

一御用日之処拙者義未相勝候ニ付当病断三浦士江頼遣尤今日申上候

御用向無之

一二階町堺屋伊助娘梅義不怠孝養仕候付為御手当八木三俵被下置候

様奉伺候処御食着無之孝状書御戻し被成候

一妙願寺振鬪他邦へ万人構と相聞候由閑院宮様役人る又々御頼之趣

有之由右体之義致内通候やまし共可有之候間心懸ケ召捕候様御沙

駄有之由三浦る演説有之候

一新治為治今日る出勤届出候

一明日郡代中牢屋吟味有之手前ニ而も呼出候もの有之同心組致不足

候付加入屯人申達候処堀内吉次当日切ニ来

一明九日徳守宮地子居角屋平右衛門妻被差出候様寺社取次細江武助

江申遣

一大円寺門前ニ先達ニ而行臥もの有之其節送り出し候送状扣為見候様

郡代所る申来大年寄る取寄差遣候

一御蔵米六拾八匁五分町米六拾四匁五分

五月九日 快晴

一越中富山板屋理兵衛役介金兵衛宗兵衛二人例年之通召抱置売薬仕

度願京町松岡屋茂右衛門願書差出承り届

一越中富山船橋町松井屋源兵衛悴伊八同手代嘉七嘉助右三人例年之

通返魂丹売ニ参候段京町美濃屋平五郎宿切手差出翌二月十九日帰

ル

一立合例之通ニ而九時る左之もの共呼出し遂吟味候

徳守宮地子居角屋平右衛門妻

但受人組合兩人差添出ル

西今町竹野屋

伊助

右両人口書印形取之

無宿盜賊

友藏

口書印形八未申付候

二階町鳥屋

金藏

居宅大破ニ付拝借歎致

箱訴為申聞候

心得違之段理解

橋本町朝倉屋与十郎妻

宗

磯之丞致徘徊候段致箱訴候ニ付何方ニ居候哉と

相尋候所致箱訴義決^而無之勿論磯之丞と申ものも不存

ものゝ由申候

五月十日 晴

一同心組加人河野儀兵衛今日^ら差戻候段大目附へ相届候

五月十一日 雨

一御藏米七拾匁町米六拾六匁

一久米北条郡古城村西村清右衛門後家娘義林田町永瀬屋常八妻ニ引

受度人別入願大庄屋引合相済候段申出承り届

一田邑村庄助義病氣全快ニ付又候半番預ケニ致候旨郡代所^ら申来出

番左十郎差向取計候尤十二日取計候

五月十二日 曇

一林田町門屋龜藏借屋住卯兵衛義四国遍路百日之逗留^ニ而来ル十五

日出立願承り届八月晦日帰ル

一西今町坪屋藤十郎真賀温泉へ廿日計入湯仕度願承り届

一安岡町北側^ニ而徳島屋卯兵衛家屋敷表口三間半裏行拾四間但七分

五厘役東隣ハ沢屋伝蔵西隣ハ古川屋太兵衛也右家屋敷五ヶ年已前

寅十二月古川屋太兵衛へ式百五拾匁之質物ニ置候処今般受返し相

済候段届書差出候

一関貫番所取崩候段年寄共御叱之節高松屋忠右衛門致他參此節罷帰

り候ニ付可申渡旨大年寄申出承り届

一橋本町朝倉屋与十郎妻先達^而致出産月取間違之御叱可申達旨申出

承り届

一元魚町紙屋助右衛門致普請候ニ付辻番所当分向側へ片寄候段大年

寄申出承り置

一御用宿品屋恵十郎義御用宿断申出候間右代式丁目竹本屋源吉へ申

付度大年寄伺出承り届

一先達^而御用宿差免候鳥屋与三治跡役二階町玉屋弥兵衛へ申付度大

年寄伺出承り届

一御代官手代毎度止宿之節宿等六ヶ敷申人馬問屋共致迷惑候間新魚

町三沢屋与八^江定宿ニ申付度尤手代之外ハ宿不仕候旨大年寄共同

出承り届候

一備前竹内又右衛門^ら飛脚差越兼^而之船出入ニ付来ル十五日^ら片荷

積ニ申付候段申来尤他領船ハ不差構津山船計片積ニ取計候由申来

候ニ付右来書太田舍人^江差出飛脚之者ハ受取書相渡可差返旨^并返

書ハ追^而可相伺旨申遣候所承知^ニ而飛脚之者ハ返候様ニ申来

五月十三日 快晴

一御用日之処未相勝候ニ付当病御断^并御用向三浦へ頼遣

一堀田大藏大輔殿領分当国勝北郡植月中村忠蔵娘義船頭町新野屋仲

右衛門養女ニ引受度人別入願御用番御聞済ニ付大目附へ差出置候

段三浦^ら申来御聞届申達候六月廿七日住宅証文差出

一因州室見郡広瀬町利右衛門悴藤治義一人桶屋町種屋坂之丞役^ニ

引受度人別入願右同断取計済同廿九日住宅証文差出

一脇坂淡路守殿預り所当国英田郡倉敷村又吉弟音右衛門義一人中之

町平岡屋平右衛門引受度人別入願右同断取計済六月十二日住宅証

文出

一京町小豆屋与平次裏御堀石垣損候届書差出候三浦土を以大目附へ

差出候

一京町作人又四郎裏御堀石垣損候届書右同断取計

一二階町鳥屋金藏箱訴^并橋本町朝倉屋与十郎妻箱訴兩人共呼出し申
達相濟候^ニ付附紙いたし大目附へ差戻被吳候様三浦へ頼遣候処与
十郎妻箱訴之趣当人不存様子大目附差函^ニ付御用所へ申上相濟候
由兩通共大目附へ戻ル

一德守宮地子居平右衛門一件口書御用所へ差出被吳候様三浦へ頼遣
候処大目附へ右娘返し候所考付相同候様^ニ申事之由^ニ而^ニ不差出候
由被相戻候

一備前表吹職相始候趣^ニ付先年新魚町長左衛門桶屋町甚太兩人他參
留申付置候処此節吹職相止候趣^ニ付右兩人他參留差免可然大年寄
伺出承り届ル

一備前竹内又右衛門へ返書下案大目附所^ニ而^ニ認被替尚又御用所附紙
^ニ而^ニ下り明朝立可取計若又存寄有之候ハ、申上候様太田舍人へ申
来右下案文面違候迄^ニ而^ニ同意候義^ニ其儘^ニ而^ニ可然候得共一ヶ条書
加度ヶ条有之^ニ付其旨附紙いたし又候差出候

一町作庄屋姫路屋伝六退役相願候間跡役藤野屋多吉へ申付候段郡代
中へ通用有之承り置

五月十四日 快晴

一備前竹内又右衛門へ之返書懸合之趣昨夜伺置候処御存寄^ニ不叶御
用所御附紙之通早々不及返書飛脚之者も申付置候段太田舍人へ申
来り被仰出通相認四ツ時過御飛脚河野伊右衛門へ相渡

右^者今般出入破談^ニ付以来他領船へ相除キ津山船計片積^ニ取

計尤御用物へ勿論之義御家中^并町在之もの^ニ而^ニも商売荷物^ニ

無之自分荷物へ勝手次第津山船^ニ而^ニ積登候義不苦候旨申来其

旨致承知候段及返書候事也

一備前船出入今般手切^ニ相濟候間其段船持共^江も申渡惣町^江も大年
寄^ル演達仕候^而可然旨太田舍人^江申達候所船持へ申渡相伺候様申
来り則差出候所瓜生原屋惣兵衛平吉も響^ニ相成候様^ニ得と相考御
裁許伺候様舍人へ申来候

一大目附太田舍人へ左之通船持共へ申渡候様申来即刻蔵合孫左衛門
へ申付申渡相濟

田原船荷割出入一件破談^ニ付明十五日片積^ニ相成候間商
売登り荷物船積致間敷候尤御用物^者勿論御家中^并町在之も
の迄も自分荷物之分積登之義^者不苦候右^ニ付以後田原船へ
下り諸荷物相渡申間敷候尤同所船頭共入込候筋随分和談い
たし我察之振廻無之様急度相慎可申候若向方へ不寄何等懸
合^ニ者^者其段得と承り置伺之上可及返答候且又長岡船荷割等
之義^者諸事は迄之通相心得可申候猶委細之儀ハ追^而可申渡
候右之趣惣船持共^江可渡候

五月十四日

口達

御家中^并町在自分荷物取扱方追^而可申渡候

先夫迄ハ登り船積致間敷候

一右^ニ付御家中^并町在共自分荷物取扱方^へ申付方等相考伺可申^并右
^へ申渡之節惣町荷主^江も申渡可然旨太田舍人へ申来候^ニ付孫

左衛門^江も考申付候

五月十五日 曇

一 二階町^江材木町迄御堀石垣之草明十六日取度旨御作事^江町々^江先格之通相届候処御達無之故難取計旨御作事奉行^江申聞候由大年寄

右申出仍之御作事奉行西村治太夫へ申達候処大目附中^江御達無御座候^江ハ難取計旨申越仍之大目附へ其段相届候

一通船自分荷物取扱方^江ノ之考蔵合孫左衛門宮田喜左衛門へ申付候様太田舍人^江申来其段申達候

一無宿盜賊磯吉義明十六日五十敲追払取計候様御用番中被仰出候

付取計候様三浦十郎左衛門申聞尤大目附へも演達可仕旨通置候由

付立会例之通被仰付候様^江大目附へ手紙^江申達夫々^江手配申達候

一 右取計^江付同心組致不足當日切^江兩人加人被仰付候様大目附中へ申達候所并汲庄平小堀林太来

一 先年伏見屋茂七打崩候節張札手跡吟味^江付相認候反古源五兵衛預り居候所不取計^江付町方^江落散有之候段去ル四日之夕月番孫右衛

門申出為差義^江而も無之^江付源五兵衛不恙之段叱置右反古火中候様^江及差図置候処一昨日大目附松岡治郎助^江右等之沙駄有之人氣

も懸り候義如何取計候義哉右始末委敷申出候様^江と三浦十郎左衛門を以被申越仍之孫右衛門へ弁書申付候所今日差出し右^江付源

五兵衛義も恐入差扣伺出候付右之段伺書相認伺之通差扣三日被仰付候^江も可然と相認孫右衛門弁書^江差扣三浦十郎左衛門を以大目

附へ差出候尤及晚景翌朝被差出候由

五月十六日 雨

一 於牢屋御徒目附藤田弥次兵衛下目附原正蔵小頭孫八部屋目附新治出番藤蔵又六立会^江而左之通書役新左衛門読渡候

元小性町柿屋棹

所々^江而致盜候^江付五十敲^江當時無宿

之上御領分追払申付候

磯吉

右取計相濟候段御用番^江大目附へ相届候

一 今日宅^江而呼出し取計候積^江付加人式人申達置候所雨天^江付致延引仍之加人差返候段大目附へ相届候

一 伏見屋一件張札之反古落散候糺書^江源五兵衛差扣伺今朝三浦^江大目附へ被差出候所右反古之文段認差出候様^江申来孫右衛門へ申達

写差出候

一 御家中^江市郷自分船荷物取^江ノ考孫左衛門喜左衛門昨晚差出太田舍人^江差出候

一 小性町瓜生原屋宗兵衛平吉御裁許伺書^江自分荷物取扱^江ノ考相認太田舍人^江差出候

一 牢舍人新吉病氣申出大年寄へ申達候尤中村易安へ申付候事

五月十七日 大雨

一 備前へ差遣候飛脚受取書取之七半時罷帰其段太田舍人^江相届候

一 院庄川渡船留候段五時過郡代所^江申来大年寄へ申達

一 大目附太田舍人^江昨日差出候瓜生原屋御裁許伺書之内^江油屋善右衛門一件と申義認有之不相覚候間認差出候様申来大意認差出又

一無宿盜賊友蔵申口^江盜賊定右衛門と申もの三月三日之夕紙屋助右

衛門方ニ泊リ候約束ニ有之候段申候ニ付大年寄ル為相尋候処同夕
備中足守在久兵衛万兵衛兩人泊候処旅籠錢無之着物一ツ預ケ置候
段申出目明へ考申付候

一元魚町原屋多助妻経行不順ニ候得共未妊娠共病氣共不相分候段届
書差出候

一中川登市郎長屋住牢舎人理兵衛帷子一ツ坪井町沢の屋伝六方ニ質
物ニ有之受返し度伺出承り届

一西今町南側ニ茅屋町吉原屋庄吉家屋敷表口五間裏行十五間但五
歩役東隣ハ橋本屋儀八西隣ハ鳥羽屋源十郎也右家屋敷代銀貳貫七
百匁ニ相極東新町山内屋多助へ売渡意願承り届ル五月廿二日売券
状差出ス

一新魚町森元屋重吉役介白羽川初吉義先達ニ為相撲修業江都両国伊
勢海村右衛門方へ差遣候所当年中逗留仕度追願書差出し承り届
一京都三条通堀川西へ入所医師本川道意先月廿三日罷越候所未用事
不相濟候ニ付今廿日計逗留為仕度願新職人町松野屋十右衛門差出
し承り届六月六日廿日追願出ス

一町医師名面相調帳面差出候

五月十八日 晴

一御用日之処未不快ニ付例之通当病断ニ御用向三浦十郎左衛門へ頼
遣ス

一大年寄齋藤孫右衛門早朝罷出昨夜及深更中買頭兩人罷出近來八木
高価ニ付人氣不穩趣ニ付川留被仰付被下候様願出候段申出一向委
敷義不相分候ニ付米直段他国之引並ニ町方含米之様子又ハ売等

心懸ケ候悪心之者有之事ニ右之趣申出候事哉委敷相糺委細ニ申
出候様申達置三浦士を以右之趣御両所ニ及御沙駄候処別紙之通町
方へ早々触達取計可申ニ含米ニ売等之吟味ハ表向ニ吟味不
諸吟味場合ニ内々監察取計可然旨御用番中被仰達候旨三浦
通用有之

触書大意八木高価ニ付種々浮説申触候旨不埒之事ニ候悪事相
巧候もの有之候ハ夫々可申出直ニ奉行所ニ可申出候
右之趣今晚方迄ニ惣町ニ行届候様可取計旨大目附別ニ手紙も来
リ其旨大年寄へ相達候

一三浦十郎左衛門ノ安岡町辺ニ此間之様成張紙落有之候由一昨
日頃之風聞ニ町方五六ヶ所も打こわし可申様之浮説有之候由急
相糺候様大目附ニ達有之段三浦ノ申来其段孫右衛門へ申渡候
一御仏詣御名代通行之節往来筋干麦ひろけ有之往来難致程之趣ニ候
由以来左様之義無之様ニ触達取計候様大目附ニ被相達候旨三浦
通用有之左之通触書差出候

町方往来筋干物取ひろけ不埒之事ニ候以来往来之妨ニ不相
成様ニ可心付候

但御名代之口達ニ申聞置候

一御大名方御止宿之節御本陣前箱番所ニ表組相詰右組弁当代当年迄
ハ上ノ出来リ候処以来ニ町賄ニ取計候様ニ大目附ニ去ル三日達有
之候由三浦十郎左衛門ノ演達有之大年寄へ切紙ニ申達候
一御堀石垣損御繕願書京町作人久助ニ材木町松野屋忠吉同町大工定
右衛門三人三通差出三浦を以大目附へ差出候

一 德守官地子居平右衛門一件御裁許伺三浦を以御用番中へ差出候処
御受取被置候由申来

一 御蔵米七拾壹匁町米六拾七匁

一 京町御門御普請出来ニ付来ル廿日ニ通行相始同日ニ宮川御門ノ切

ニ相成候段大目附廻状到来組中惣町へ相触候

一 夏中橋々ニ涼停止之触達例歳之通差出候

一 院庄川渡船相始候段郡代所ノ通用有之大年寄へ申達候

一 関貫番賃銀百四拾四匁五分真北類蔵持参受取

五月十九日 晴 夜雨

一 大坂御堂筋雛屋町千島屋喜右衛門ノ三町目井筒屋幸助へ雛代滞リ

去々辰三月大坂御蔵屋敷へ願出候所今般相濟候段届書ニ受取書差
出ス追及御沙駄大坂へ可申達事

一 京町辰野屋伊助役介茂四郎義去ル七日頃致出奔候段届書差出候百

日尋申付ル九月十三日除帳

一 坪井町吉野屋勘助妻義致妊娠候処月取間違届書差出

一 勝間田町福原屋佐助母四国遍路百日計逗留ニ廿日出立之願書差

出候承り届九月十二日追願兩度差出十二月四日帰ル

一 今九時ノ小頭孫八部屋目附新治書役新左衛門出番藤蔵百歳大年寄

孫右衛門一人立会ニ左之もの共呼出し口書印形取候

吹屋町高瀬屋 助八

同町釜屋 孫十郎

船頭町瓜生原屋 平兵衛

同町 同 宇吉

同町作人 善五郎

同 同 長蔵

無宿盜賊 友蔵

五月廿日 晴

一 大年寄齋藤孫右衛門ノ町方今般五六軒も打こわし可申と申浮説ニ

安岡町ニ右之張紙落居候哉之取沙駄町々年寄呼寄裏借屋之もの迄

為相糺候処左様成義見及聞及候もの者人も無之旨町々年寄書付差

出候由大年寄ノ弁書認差出三浦十郎左衛門を以大目附へ差出候処

被差戻ケ様ニも不可然候間同心組為致監察廿三日迄ニ申聞候様

被申達候由三浦ノ通用有之小頭孫八ニ其段申付候

一 町方含米之義相尋置候所少々ハ不足可致哉ニも被察候得共追々出
米可有之候間八月迄之取統ハ大体可相濟哉之旨書付差出候役所切

ニ承り置

一 米中買頭ニ目附右三人米相場七拾匁と書上ケ置此間七拾壹匁ニ相

調候由ニ付為相糺候所相違無之不調法恐入候段弁書差出し候近日

御咎可伺候

一 昨十九日御堀石垣草取相濟候段大年寄届出候

一 米価高直人氣不穩之処備前表七拾八九匁位ニも相成候ニ付米川下

ケ多町方含米も払底ニ付川留被仰付候様孫右衛門申出候

五月廿一日 快晴

一 町方含米不足ニ付勘定奉行上原彦蔵へ懸合候処御蔵ニも五六千俵

御余慶有之銀札場ニも三千俵計も質入切手有之弥不足之節ハ右切

手買上ケ候様ニも相成可申由ニ付川留之義不相同其儘ニ致置候

五月廿二日 快晴

一 三丁目三升屋兵助と申もの大坂大川町ニ行倒相果候ニ付親類罷出候様御番所御達有之候由大目附所へ申来相糺明朝迄ニ申出候様ニ大目附中ノ申来大年寄へ申付候

一 備前田原村恵助長岡船持へ荷積配分候様ニ懸合居候由山形屋宗兵衛備前へ罷越恵助ノ承リ候由申出兼ニ及承候通之義ニ付依之蔵合孫左衛門考書差出候ニ付大目附太田舎人江差出候所段々不審申来依之孫左衛門答書取之并自分義も田原船当川岸ノ荷積候ニハ何れノ出候荷物ニ而も片積之筋不相立候ニ付差留可申伺書差添又候太田舎人江差出候

一 牢舎人庄助病氣差重リ候段牢番義右衛門申出郡代所へ差遣其段申達候様申付遣候所治療申付呉候様申来其段大年寄へ申付候

五月廿三日 晴

一 御用日之処未相勝候ニ付当病御断并御用向三浦江頼遣

一 盜賊友蔵一件御裁許伺書三浦差出候処御用番中御受取被置候由三浦ノ申来候

一 吹屋町高瀬屋助八借銀滞御箱訴一件御裁許伺書右同断

一 大坂御堂筋雛屋町千島屋喜右衛門ノ当町元魚町伊勢屋半四郎三丁目并筒屋幸助堺町芦田屋佐吉へ雛代滞大坂御屋敷江一昨辰年願出其旨村尾左右衛門ノ申来早々濟方申付置候処此間迄ニ三人共相濟候旨届出追々差出依之右之段左右衛門へ可申遣旨下案相認三浦を以相伺候処伺通ニ取計候様被仰出右届書書いたし千切屋勘兵衛幸便ニ托遣ス

一 大坂ノ申来昨日被仰出候三丁目三升屋兵助親類為相糺候之処父三増屋伊兵衛宮脇町ニ罷在悴喜与松十歳祖父と同居妻菊當時川口藤左衛門方ニ罷在兄千切屋勘兵衛坪井町ニ罷在従弟坪井町倉敷屋利八妻之由夫々口書取差出候所右兵助義ハ新職人町より夫婦悴右家内三人去巳五月宮脇町父伊兵衛方へ引受新職人町ノハ送り等も相廻し相濟候処伊兵衛方受取置町役江不差出罷在妻子父伊兵衛方ニ預ケ置同月大坂江稼ニ罷越候所右之通行倒候由右糺書大目附へ差出候所同人兄勘兵衛義早々出坂可申付尤伊兵衛并兄勘兵衛口書ハ大目附中ノ大坂江被相廻候由役筋も左右衛門へ添状可差遣尤勘兵衛義於御番所不束無之様ニ呉々可申付旨被仰出其段孫右衛門へ申達候所勘兵衛義御達之通明朝立ニ而登坂可仕旨御受仕候段申出依之村尾左右衛門へ之添簡相渡候右一件落着之上ハ兵助義町内不加入別尚又無願他参仕候段父伊兵衛御咎可取計事

一 米中買頭金右衛門茂兵衛同目附佐助右三人此間相場ノ忝刃高価ニ買取候由不埒ニ付御咎可申付三浦を以御用番中へ相伺候ケ様之義不苦筋捨置候ニ而可然旨御用番中被仰出候由大目附ノ達有之伺書戻り候段三浦ノ通用有之併捨置候ニ而以後之ヱリニも不相成如何ニ付蔵合孫左衛門呼出候右糺書差戻候ケ様之義御沙駄ニ相成候ニ而不輕義ニ付大年寄場合切ニ而取計置候間以來別ニ入念可申扨と為申聞宜取計置候様ニ申達置候

一 御堀石垣御繕願京町屋根屋又吉同町鍵屋和兵衛届書差出候三浦を以大目附へ差出遣候

一 田原船長岡船ノ配分を受候共当川岸ニおいて荷積為仕間敷段夜前

伺書太田舎人^江差出置候処伺書ハ御取用無之左之通達置可然旨太田舎人^ハ被相渡候旨三浦^ハ演達有之右御文段左之通

一片積^ニ相極候上^者当河岸^ニ而田原船^ニ者一切為積申間敷事

一長岡船^江者前々^ハ之通三步割合為積可申事

右之趣不^レリ候ハ、日々改藏元船年寄等替々罷出可改事

一右之段^ハリ小桁番所^ニ而も見改可申事

右書付之内小桁番所之義ハ勘定所^ハ御達有之候間町方へ達^ニ者不及旨被仰出候^ニ付藏合孫左衛門呼出し右之段申渡候

一林木町喜助孤独扶持六匁三分五厘真北類藏^ハ差越大年寄へ相渡候

一南新座町藪際^ニ麦藁等不差置候様^ニ可申付旨大目附中^ハ達候右之

段三浦^ハ申来大年寄へ申付候

一因州矢掛郡さの木村助右衛門四国遍路罷出病氣付皿村^ハ送り出候段郡代^ハ通用有之継送り候様大年寄へ申付候

一御藏米七拾式匁町米六拾八匁

一町方打こわし候杯と申浮説同心組へ監察申付候様大目附^ハ達有之申付置候処昨夜迄^ニ何茂認差出候^ニ付三浦を以差出候所為差手懸

りも無之事故同心組へ監察申付候所手懸^リニ可相成程之義も無之

段町奉行^ハ口達届有之候^而可然旨大目附差^ニ付三浦土其段相届

被具候由申来候然ル所翌廿四日右監察申趣御用番^江も申達候様^ニ

と申義^ニ付一学殿^江参り申上候処人氣^ニ懸^リ候義ハ不^レ宜筋^ニ付尚

又随分心付候様^ニと御達有之大目附へも相越源五兵衛差扣伺中之

義催促申達候所何れ御用番^ハ御差^ニ可有之と申事^ニ候由三浦十郎

左衛門^ハ申来候

五月廿四日 雨

一大目附太田舎人^ハ備前竹内又右衛門へ自分荷物取扱^ハリ方之義別

紙之通明後朝立^ニ而可差遣旨案詞認来候処少々意味違義有之趣

ニ付其段致附紙翌廿五日太田舎人^江申達候右ハ自分荷物之分ハ金

岡弥三郎^ハ送り状認差出候様^ニ以来之ケ条書を以勘定所御役人^ハ

弥三郎へ申遣候所一己^ニ而ハ難及返答御役人中懸合被成候様返書

差越依之今日役筋へ御沙駄有之候事^ニ而兼^而御沙駄も無之不^レ存候

義故趣意違之義も出来候事哉と被存候併最早下懸合有之候上之義

ニ候得^者外^ニ致方も無之少々意味違候処計付紙を以差戻候

五月廿五日 曇

一昨日認置候通今朝太田舎人^江差出し不^レ審申達候処致添削別紙之通

差遣候様申来何れケ様之義此方^ハ可懸合筋^ニ而ハ有之間吹毛之道

理^ニ者存候得共最早御沙駄なし^ニ勘定所^ハ小倉屋弥三郎へ懸合有

之弥三郎義も竹内又右衛門へ内々相伺断之返書申越候取沙駄^ニも

相聞候事^ニ候得^者無是非義^ニ付被仰出候趣明朝立^ニ而可申達旨及

返書候右大目附中御案詞左之通

然^者先般御懸合御座候当十五日^ハ船方双方片積^ニ御取極可被

成^ニ付被入御念先書被下^レ任仰及御即答御同意^ニ取極候趣精々

下方^江も申付置候其節被仰下候通用物^ハ家中其外市郷自分荷

物之分当船^ニ而積登右^ハ之為是迄此表用向相頼置候金岡弥三

郎へ右荷物積登之節無混雜送り手形指出候以後相頼申度候若

御役^ニ場へ同人^ハ伺出候ハ、差支無之様^ニ何分宜御申付可被

下候万^一御手前様御支配達^ニも候ハ、乍御世話御支配之御方

へ御通達被下度奉頼候

月日 増見右門

竹内又右衛門様

追 而 町在自分荷物取寄候節取扱方別紙之通可申付候間懸御目置候已上

此度川船登り下り之荷物受込相分登り商売荷物 田原 井

長岡船 而 積登り下り荷物ハ当所 井 長岡船 而 積下且又

用物 井 家中荷物ハ勿論市郷とも自分遣用之荷物ハ津山船

而 積登候様相成候付 井 方左之通

一用物 井 家中荷物 者 大坂役人 夫々 江 制札付金岡蔵元 江 差

向候 付是迄之通取計可申事

一右同断何方 而 不限川下 取寄候荷物ハ金岡蔵元 江 申遣同人送り書差出し可申事

一市郷之者自分遣用之荷物 者 町役人村役人 江 届出大年寄大

庄屋へ申出夫 金岡表世話人 江 手形相廻し右手形を踏金

岡世話人 送り書相認差出候事他行先 而 相調候品当初

船 而 取寄候ハ 罷帰り候上右之手形相廻し可申候間夫

迄ハ金岡 而 預り置可申事

一荷物取遣り相対を以紛敷致致間敷事

一此度登り下り之荷物積方相分り候上ハ賃銭増減無之下地

之之定法無間違可相守事

一惣 而 紛敷取計有之候 而 ハ争論之端 而 も相成不立候間心得

違無之様可申付事

五月廿六日 曇 晴

一右之外船方 江 締方申渡候ケ条も有之候得共無用之義 付

略之

一市郷 江 も前文之通相心得候様触知らせ候事

一小桁番所 江 も能々相心得登り下り共荷物相改候様申渡候事

以上

右之通 付明廿六日立 而 備前表へ飛脚差遣候間飛脚之者被仰付

被下候様松岡治部助へ申達候萩野勘十郎来相渡候

一種油壹升 付唯今迄三匁九分 而 売候所新種油 付今日 三匁七分

売候段届書承り置

一二町目福永屋栄三所持之他国受酒株今已五月 来未ノ五月迄安岡

町鶴屋茂兵衛借り受商売仕度旨願出承り届

一大目附松岡治部助 三丁目三升屋兵助千切屋勘兵衛義一昨日登坂

申達候所其後何之左右も無之然ル所昨日村尾左右衛門 去ル十九

日千切屋勘兵衛致登坂其段御番所へ相届濟候由申来右十九日着之

勘兵衛ハ先日申出候森原村之もの 而 可有之候得共相尋候段申来

及相答

一大村成夫裏通 江 江口勘太夫裏道迄今般往古之通往来 而 相成候 付

村井庄蔵前之関貫御藪角 筋違 而 門沓 而 相成小沢横関貫も藪際

へ押シ出 而 付候様 而 被仰出尤普請ハ今般ハ作事 而 被仰付候旨去ル

廿三日大目附 而 演達有之候由三浦 而 通用有之即刻大年寄へ達置候

尤番人ハ先規之通也此段去ル廿三日之処 而 認落候 付爰 而 記

五月廿六日 曇 晴

一坪井町千切屋勤兵衛義一昨曉七ツ時出立仕候段大年寄る届出候得共ヶ程之義ハ聊無之致出立候得^者届も不及義ニ付不相届候処昨夜松岡治部助る不審之様ニ申越候間難捨置依之三浦十郎左衛門相頼差扣伺候処不及伺旨申来候

一三増屋兵助一件坪井町年寄る届出候^者此間千切屋勤兵衛同事ニ申出候通兵助義病氣之趣大坂る申越候ニ付千切屋勤兵衛より森原村理助と申もの相頼去ル十五日差遣候所十九日着坂美作屋辰三郎方へ參候所辰三郎方代人ニ而ハ不相濟候間理助義千切り屋勤兵衛ニ相成候様申聞候付任其意同廿日辰五郎^并町役差添御番所^江罷出候所右兵助義病中る仮埋迄之義委敷被申渡死骸相改候哉と御尋ニ付見改候所病死ニ相違無之候間死骸被下置候ハ、取葬仕度相願候処口書印形被取候上ニ而願之通御許容被成候段直ニ被仰出御屋敷^江も其段相届廿一日取葬仕夫々及挨拶等万端相濟御屋敷る内山洞太夫^江書状被相渡廿二日出立仕罷帰候処播州上津ニ而千切屋勤兵衛ニ出逢委細申聞勤兵衛義ハ其儘出坂仕候由右森原村理助義昨晚罷帰候処勤兵衛義留主中ニ付町役る届出候旨弁書差出紙ニ而一学殿へ差出大目附へも其段相届候

一徳守宮地子居平右衛門一件大目附存寄書ニ御用所御付札ニ而松岡る被差戻御付紙之趣を以明昼過迄ニ差出候様申来

一林田町南側ニ而豊国屋重右衛門後家所持之家屋敷表口式間裏行十七間窄尺但半役西隣ハ鍋屋次之助東隣ハ豊国屋後家居宅也右家屋敷同人弟同町沢田屋市右衛門へ讓遣度願差出し承り届六月十日讓

証文差出

一美濃職人町三笠屋伊右衛門所持之古道具屋株去ル辰二月坪井町吉野屋勤介へ貸置候処此度取戻候段届出承り置

一中之島鳥羽屋八重治借屋住人茂市妻^并同人娘二人以上三人四国遍路百日之逗留ニ而明廿七日出立願差出承り届十二月四日歸ル

一江戸御留主居田中幸助る郡代連名ニ而来状非人人別入認方之義間合付札ニ而申来候得共甚訝敷認方ニ而不相分三浦へ相廻置候

五月廿七日 快晴

一徳守宮地子居平右衛門一件御好之通申渡書相認松岡治部助へ差出候

一松岡治部助る千切屋勤兵衛相頼森原村理助大坂る罷歸り候届書被差戻右一件も近々相伺候様ニ申来候ニ付千切屋勤兵衛罷歸り候上ニ而可伺積と申遣候

一松岡治部助る徳守地子居平右衛門一件ニ付中尾鉄三郎長屋住伊助義立帰懸ケニ国島栄庵長屋ニ居候旨瓜生原屋平七口書ニ有之栄庵御尋有之候処同人方^江者馬場半助長屋る罷越其以前^者細川丈助長屋ニ居候由申候間今一応相糺候様ニ申来候ニ付瓜生原屋平七相糺明朝迄ニ申出候様大年寄へ申付牢屋へ孫八差遣候伊助義為相糺候所不分明之趣ニ申候^而諷立兼候由ニ付明昼後日呼出し可相糺候間何れも出候様ニ手配申付候

一中尾鉄三郎長屋住伊助義ニ付畑盗人御裁許先例松岡治部助る尋来百敵追払之先例二ツ認遣候尤伊助義最初五十敵と相伺候^者余り事古り候事故相伺候旨申達候

一京町甲斐屋源藏所持之古道具屋株材木町川島屋善七へ讓渡願書差

出承り届木札認かへ相渡

一 坪井町藤屋嘉右衛門所持之古道具屋株三町目太刀屋弥吉へ讓度願書右同断取計濟

五月廿八日 曇

一 御用日之処未相勝当病御断并御用向三浦十郎左衛門へ頼遣

一 中尾鉄三郎長屋住牢舍人伊今日可相糺手配申付置候処最早不及糺之旨松岡治部助被申聞候由三浦の申来仍伊助并平七口書差戻候

一 繰屋共頭無之諸べり行届兼候間仲ケ間之内安岡町生綿屋喜右衛門

東新町並屋忠兵衛吹屋町米屋長蔵右三人以来頭相用度惣繰屋共願書差出御用番御聞濟付大目附へ差出候由三浦の申来御聞届申達候

一 松平相模守殿領分伯耆国久米郡倉吉東岩倉町吉野屋伊三郎兄武助

一人元魚町美濃屋彦兵衛引受度人別入願右同断取計濟翌廿九日住宅証文出ス

一 綿掛合商内是迄元魚町住屋市左衛門宅仕来候処以後ハ伏見町古川屋忠兵衛宅仕度願書右同断取計濟

但先年船頭町田原屋六兵衛宅致来候処寛政五丑年七月八日同済住屋市左衛門宅仕来候併年々仕候形

候得共致中絶候義も有之由相聞候得共矢張不絶懸合仕候形也

一 東西新町中之町例歳之通林田上ノ町悪水拔大溝浚願右同断済
一 中之町千年屋さつ養子己之助夫婦悴虎吉以上三人二月四日出奔届
出百日尋申付置候処行衛不相知最早百日余相成候間人別除願差

出右同断取計濟

一 下紺屋町長門屋宗兵衛娘義早川八郎左衛門殿支配所当国大庭郡久世村河内屋庄吉妻差遣度人別除願右同断取計濟

一 脇坂淡路守殿預り所当国英田郡倉敷村玉串柳軒娘義京町吉田屋喜

八郎悴喜与四郎妻引受度人別入願右同断取計濟

一 玉置卯左衛門義備中矢掛中西与四郎右衛門方へ廿日計之逗留明廿九日出立仕度願右同断取計濟六月十七日罷帰候段届出ル

一米価高直付川留被成下候様新職人町桶屋町元魚町戸川町美濃職人町鍛冶町二階町下紺屋町細工町福渡町十町願書差出候旨大年寄共内々申聞此節人氣不穩義付元来米穀融通之訳先規の高価付川留と申筋無之段大年寄場合の理害為申聞候様可取計旨伺書を以内々相伺候様御用番中へ被仰出

米穀高価付町方川留之義願出候付大年寄共場合得と理解為申聞可被置由候得共今般ハ諸国一統之義縦年柄之様子地上ケも有之間敷ものも無之候得川留杯申出方甚不埒之事候是ハ役筋の申付之上も無之大年寄始役義之者

ハ心得も可有之事候願書差出候得其儘取次候計役筋無之候間大年寄始叱可被置候

右之通大年寄叱夫々相叱願書差戻候様大年寄へ申渡候処夜中迄申渡願書差戻し相濟候段届出其段翌廿九日御両所へ相届大目附へハ役筋の伺書被仰出御書付差出候
一 徳守宮地子居平右衛門一件御裁許被仰渡大目附出席有之候由追当役の申渡之分可相廻旨三浦十郎左衛門被申聞候

一 兵庫灘目田中屋久左衛門灘屋吉三郎の勝山山田屋久之助落合高崎屋芳右衛門久世料之通菜種小寄場願ニ付相頼候之間及相談候様ニ油方之ものへ申来候書状差出今日三浦を以御両所へ差出候処即刻戻ル

一 備前田原出入ニ付瓜生原屋宗兵衛平吉兩人共職留被仰付候間申渡書認差出候様太田舍人被申聞候由三浦の通用有之ニ拙者主意書被差戻候

一 一人別改帳清書出来郡代所の相廻り写置致印形差戻候

一 備前へ差遣候飛脚朝飯後罷歸り向方より可及返書受取書取之罷歸太田舍人へ差出候

田舎人へ差出候

一 宗門改帳下案赤見類助の被相渡候由三浦の相廻り大年寄へ相渡ス

一 御蔵米七拾五五分町米六拾六匁五分

一 御先手組福田伝八夫婦番代仕候付二階町丸尾屋長兵衛引受度願承り届

一 新魚町姫路屋伝六義去巳七月居宅家作ニ付町内門屋助七店を借り他国受酒商候処家作出来ニ付居宅ニ商売仕候段届書差出し承り置

置

一 二階町組屋忠右衛門印形改候由印鑑差出書役へ相渡置

五月廿九日 雨

一 三浦十郎左衛門の昨日御頼差出候諸願不揃御聞濟之段得御意置候処猶又相考候得者右之内綿懸合間屋場所替願并繰屋頭之願両通ハ御用番中御受取置被成候由ニ候処致忘却御聞濟と及御通用候得共未相達候ハ今暫見合置候様ニ御取計被下候様申来大年寄へ其旨

申達候

一 小性町瓜生原屋宗兵衛平吉義昨日被仰出候通家職留申渡之振合相認太田舍人へ差出候

一 太田舍人の当町之もの贖札いたし入牢いたし居候ものニ名面書出候様申来則京町原田屋嘉兵衛と認出候

一 牢浚申付候処昼廻藤蔵百蔵取計候無別条段届出候

一 下紺屋町智教坊例年之通祇園会ニ付来月六日の十四日迄御戸開除役祈禱仕度願差出承り届

一 右ニ付下紺屋町例年之通行燈差出候段大年寄届出候

五月晦日 曇 夜ニ入雨降

一 二階町常宝院兼住所不動堂并疱瘡守護神ニ燈明之施主有之候ニ付来月七日の同十四日迄除疫為御祈禱護摩執行仕度之旨願書差出承り届

一 東新町安永屋武助儀当三月七日西国順礼ニ罷出候所道中ニ致足痛候由申越来月中旬迄逗留日延願同人悴嘉吉ニ差出シ承届候六月二日帰

一 御蔵米六拾九匁五分町米六拾五匁五分

一 一村井庄蔵前関貫普請昨廿九日の御作事を取懸り候段大年寄孫右衛門の届出承置候

一 牢舍人新吉庄助兩人共治療之儀申出医師ニ診察為致候様大年寄孫右衛門ニ申付置候処新吉義今日迄中村意庵式廻り療治致候処此節唯痛候趣ニ候へ共惣体快方ニ付先休養為致候も宜旨申出且又庄助義も去ル廿三日の右同人療次いたし候処今以捨置かたく趣

申出候ニ付庄助義諸医療申付候様猶又孫右衛門江申付候

一京町小豆屋与平次裏御堀石垣損候ニ付御取繕之義#足代おろし願書差出来月三日可及御沙汰事

一兵庫津田中屋久左衛門今日罷越候旨大年寄孫右衛門届出候ニ付御用番#大目附士江相届候

一坪井町吉野屋勤助妻去ル廿日男子出生いたし候処先達#月取間違届延引ニ付今日呼出し叱申渡候段大年寄孫右衛門届出承置候

一京町昼屋伊兵衛家屋敷北側ニ#而表口五間半裏行拾八間御堀切但御役七歩半役東#京橋通筋西隣#滝山屋宗兵衛右家屋敷裏行之内東

西五間半南北六間四尺三寸御堀切尤東之方巷間通りハ南北四間御役式歩相添五人組相談之上代銀札五拾目ニ相極同町滝山屋宗兵衛

へ売渡申度旨願書差出承届候六月三日本証文出ス
一関貫番貸銀例月之通相渡

御年寄 小須賀一学殿

大目附 佐々木主馬

大年寄 蔵合孫左衛門

諸吟味 宮田喜左衛門

六月朔^甲 午 旦 晴

一 無別条

六月二日 晴天

一 御蔵米七拾目五分町米六拾六匁五分

一 摂州兵庫津問屋田中屋久左衛門#下人彦人召連当所油方引請湯田

屋太郎左衛門丸亀屋勘次常磐屋丈右衛門へ申談之儀有之昨晦日罷越候ニ付坪井町河原屋治助方へ宿相頼十日計逗留仕らせ度段右油方三人之もの共る願書差出承届候

一 当二月る五月迄牢舎拾四人分賄式拾九俵壹斗式升七合五夕有之小頭孫八る仕切証文差出例之通奥書令印形同人へ相渡ス尤是迄内貸

算用残り式斗式合五夕此度返納いたし候段申出ル
一 牢舎九人分扶持米六俵内貸証文出シ令印形候

一 今般兵庫津問屋田中屋久左衛門罷越候ニ付委細之趣三浦十郎左衛門へ蔵合孫左衛門罷越申達候様申付候然ル処いまた下方懸合中之

義ニ付先其儘ニいたし置不及御沙汰候

六月三日 晴

一 御用日之処未相勝不申ニ付不参之御断#御用向三浦士江頼遣候

月番

六月小

御家老 安藤丹後殿

一吹屋町土材木之間ニ水色立島単物沓ツ空色立島単物沓ツ紺立島
広袖単物一有之候段吹屋町年寄共届書指出依之先例之通東西大橋
関貫^江張紙為致可申旨相伺候処伺之通御差図有之

一坪井町千切屋勤兵衛義去ル廿四日出立大坂表^江罷越候処同人弟兵
助一件御番所向相濟候段村尾左右衛門^ハ返書請取昨夜罷帰候旨届
出候ニ付三浦士を以御用所^江申上左右衛門^ハ之返書差出候右ニ付
父伊兵衛御叱相伺候処思召有之伺書戻ル

一今般御赦ニ付寺院^ハ歎書差出候由ニ^而附札被仰付候由三浦^ハ相廻
ル当役所入用之名面ほと写取本書^者十郎左衛門へ相廻ス

一此間伺置候盜賊友藏義少々思召有之伺書戻ル

一操屋頭願^并綿懸合間屋場所替願兩通共先日御許容之趣大年寄孫右
衛門へ申達候所三浦十郎左衛門^ハ右両通御許容之儀先不相達差延
置呉候様申来其段孫右衛門へ申聞置候所今日両様共御聞濟之趣申
来大年寄孫左衛門其旨申達候

一慶長已来之古銀之儀從公儀御触有之委細御触留ニ有之故文段略之
組中^并牢屋三軒屋番共へ相達候様小頭へ申付候惣町中へも相達候
様大年寄へ申付ル

一御領分久米南条郡横山村与市妹まき当年廿八才同人悴米蔵七才右
両人元魚町桶屋伊助役介ニ引請申度旨願書差出尤大年寄共^ハ大庄
屋へ引合相濟候趣ニ付承届候

一坪井町北側ニ^而静虎屋利兵衛家屋敷表口六間裏行町並十七間但沓
軒役東隣^者羽織屋治右衛門西隣^者高砂屋兵助右家屋敷五人組相談
之上代銀札式貫目ニ相極町内勝尾屋茂七へ売渡し申度願書差出承

届候同四日売券状差出候

一去月廿四日夜西一宮村勘右衛門方へ盗人入込十式品盜取候由郡代
所^ハ届書相廻り例之通町触出ス委細町触扣^ニ有之

一 中尾鉄三郎長屋住伊助^并徳守宮地子居平右衛門一件御裁許明後五
日於牢屋取計候ニ付例之通立会被差出候様大目付申達^并右伊助妻
も明後朝当役所へ引渡候様鉄三郎^江御達候様致度旨是又申達置候
一 玉置源五兵衛義伏見屋騒動之節之古反古取散し候ニ付先日已来差
扣伺申候処思召被仰出候

六月四日 曇

一 孤独扶持百八拾式勺沓分沓厘真北類蔵持参受取大年寄へ相渡候

一 中尾鉄三郎^江伊助妻明朝六時過被相渡候様手紙差遣

一 瓜生原屋平七竹の屋伊助^江申渡有之候間明五時呼出置候様ニ大年
寄^江指紙差遣候

一 大目附佐々木主馬^ハ昨日吹屋町^ハ届出候材木之間ニ有之候衣類ハ
去ル二日愛染寺紛失もの、由届出候段内々為心得申達候由申来役
筋へも大工共愛染寺ニ^而被盜取候品之由申出候間得と相札候上弥
相達も無之候ハ、届書差出候様申達置候段及返書置候

一 備前田原船式艘初^而登荷物積来長岡船登荷物差留長岡より事を起
し立候様相^ハ功候趣之下沙駄蔵合孫左衛門書付出し翌五日太田舎人
^江其儘差出候

六月五日 晴 風

一 於牢屋御徒目附山田新三郎下目附中村政兵衛小頭孫八書役新左衛
門部屋目附左十郎出番栄治左五兵衛立会左之通書役^ハ申渡候

先年畑物盜取出致奔其後 中尾鉄三郎長屋住
立歸り御家中長屋ニ罷在不届ニ付 伊助
百敵之上御領分追払申付候

右ニ付御領分追払 同人 妻とめ

父諸共ニ立歸リ并地子居ヘ 徳守宮地子居
入聲ニ這入候始末并娘追駈一学 いろはや
殿江参候趣ニ附御領分追払 平右衛門

父諸共出奔之節幼年之義ニ付 西新町大黒屋又七下人 伊助悴 新吉
御領分立去り申付候 伊助悴

右於牢屋前取計候

兼ニ致養育候養女義徳守宮 西今町竹の屋

地子居平兵衛ノ可貰受申渡 伊助

右ハ於大年寄宅小頭部屋目附差向申渡候

船頭町瓜生原屋平七義右伊助立帰候節引受候付追込可申渡処此
節川下ヘ船稼ニ罷越居候付急ニ呼返候様申付置候帰次第可申渡
事右取計相濟候段御両所ヘ相届中尾鉄三郎ヘも及通用候尤伊助
妻義今早朝受人きつき屋吉十郎召連来牢屋前ヘ差出為申渡候

一昨日届出候材木之間ニ在之候衣類三ツ小性町屋根屋源七堺町檜
皮屋助左衛門元魚町大笹屋重右衛門右三人愛染寺ヘ屋根替ニ参居
候処致紛失候品ニ相違無之旨吹屋町ノ届書差出候御用番中ヘ相同
大目附ヘ申達候上先格之通一札取置引渡候様ニ申達候

一大目附太田舎人ノ田原船持共長岡と申談相工候之趣孫左衛門監察
之趣致承知此方ニ而も宜謀計も可有之哉愚意も在之候ハ申出候
様ニと申来候ニ付愚意ニ此方ノ手差致候ハ不宜一己を堅固ニ相
守居候時節と存候旨及即答并孫左衛門存寄も承り趣意も有之候ハ
可申達旨及返書置孫左衛門存寄相尋候処同意ニ付其段申達候

一大目附佐々木主馬ノ昨夜申達候愛染寺紛失もの寺社奉行ノ未届無
之引合之上可相届積ニ而昨夜申達候処最早被相届候旨左候ハ寺
社奉行ノも可相届候間右伺相濟候ハ又候可申達候間夫迄ハ下方
ニ引渡候義差延置候様ニ申来候依之大年寄ヘハ聞届不申達候

六月六日 曇 少雨

一昨夜大年寄罷出申候者吹屋町向河原ニ而花火揚ケ候もの有之候処
流星吹屋町糺屋和兵衛宅之裏ヘ落驚騒消留候内玉火はくれ飛同人
裏統新魚町分ヘ飛越近辺打寄消留候得共殊之外致騒動候故届出候
旨相届候付相認差出候様申付置候処今朝差出候ニ付明七日御番所
ヘ可及御沙駄事

一大目附佐々木主馬ノ去ル二日愛染寺ニ而紛失もの目明ヘ吟味可申
付此間届有之相知居候分ハ先格之通本主ヘ可引渡尤引渡相濟候ハ
其段相届候様ニ申来其旨小頭江申渡候

一備前田原大庄屋坂根村杵右衛門ノ長岡ヘ書状差越以来賃銭六割増
相談いたし候由押洲村船庄屋武助御蔵元文五郎方ヘ来相咄候由下
説之趣孫左衛門認出候即刻太田舎人江差出候

一京都三条通堀川西ヘ入医師本川道意先月十六日廿日追願出候処尚
又廿日計之逗留追願新職町松野屋十右衛門差出承り届

一川端又六不快引込届出候

六月七日 曇

一今日暑中御機嫌伺有之明日御用日之処今日ニ相成自分義未相勝当病不参御断^并御用向三浦士へ例之通頼遣ス

一三浦志摩守殿領分当国真島郡垂水村落合太次郎夫婦倅李之助右三人橋本町朝本屋源藏後家引受度人別入願御用番御聞濟ニ付大目附へ差出置候段三浦方申来御聞届申達候廿一日住宅証文^{再改入}差出

一材木町河内屋武兵衛役介宗兵衛一人堀田大藏大輔殿領分当国勝南郡畑屋村直之丞養子ニ差遣度人別除願右同断取計濟

一京町桶屋勘右衛門裏御堀石垣御繕願大目附へ差出候

一盜賊友藏一件大目附方附紙有之右ニ付存寄相認差出候所御用番御受取被置候由申来候

一玉置源五兵衛義先日被仰出候趣ニ寄伺書差出候処右同断申来

一藏合孫左衛門へ左之通御沙駄之旨相達候様被仰出候段三浦方申来

同人義船出入一件度々考差出 藏合孫左衛門へ

心懸宜趣御用所御沙駄有之候尚

以来共可心懸事

右之通出懸リニ^而即刻申達候御内沙駄ニ付不及御札旨申達候

一一昨夕吹屋町へ火花飛落候義今日三浦を以御両所へ相届候処左之

通相達置候様被仰出候

火花有之候ハ、見咎

可追散候

船頭町

吹屋町

年寄共へ

右之通申渡置候様大年寄へ申達候

一安岡町岡崎屋伊兵衛備前銀札遣候付過料壹貫文追込五日申付候様

大目附方達有之三浦方ケ様之義ハ又候夫々支配ニ^而遂吟味御咎同候先格之旨被相達候所大目附方銀札場ニ^而吟味相濟勘定奉行方同有之吟味詰候事ニ候得^者最早不及吟味此儘申渡候様ニ^と差図有之

候段三浦方演説有之候併先格ニ違支配之者他役所ニ^而被致吟味其儘申渡候筋無之尚又其旨可申達と存候処此間打続被仰出ニ存寄申上候義数ケ条有之既今日も上原杯を以申上候義も有之余リ每事ニ

違背任候様ニ^而氣毒ニ^も有之不宜折柄ニ付ケ様之鎖細^(ツル)之義ハ如何様ニ相成候^而も不苦義と存其儘受置候尤明日ハ御日柄ニ付九日ニ

可申達事

一他所銀札通用近来猥ニ相成不埒ニ付使組兩人程被相廻見合次第取上ケ候様被仰付候間其旨市郷^ニ触為知置候様ニ大目附中方達有之候由三浦方演説有之九日ニ可取計事

一三町目三増屋兵助大坂ニ^而行倒候一件ニ付被仰出候通ニ兄千切屋

勘兵衛追込十日父伊兵衛追込七日年寄叱置相候候処何之通取計候

様被仰出併年寄へ申渡之文段一学殿御添削ニ^而下ル是又九日可取

計事

一備前田原船種々相工候旨下説之趣藏合孫左衛門認出し候ニ付太田

舍人へ差出候

一右一件ニ付小性町瓜生原屋宗兵衛平吉御咎被成候様被仰出候付達

ニ^而御延引被成候様先日弁書を以申上候処御用無之船株取上ケ船稼

差留候様ニ可申渡旨御達書認太田舍人方被相渡候由三浦方被申聞

御用無之義を再応申上候も恐入候義ニ候得共実ニ害ニ相成候義を

申達候も不本意之義ニ付強ニ可申達と存蔵合孫左衛門へも極密遂
相談候処同意ニ付上原彦蔵を以存寄見込之趣太田舍人へ申達候

一兵庫田中屋久左衛門義先日以來致逗留当国中之油屋共呼寄以後取
締メリ方一札連印為致右一札当所油方之者三人預ケ置右三人よ

り致差図候様取締置ニ三人之者も右一札之預リ手形取之ニ当年
之菜種大几千俵位ハ可相廻と申一札取之候由右書類写三通差出候

ニ付一学殿へ紙面ニ差出大目附へも其旨申達候

一新魚町紙屋元吉借屋住吉屋伝吉娘義東南条郡太田村三郎兵衛嫁ニ

差遣度人別除願下方引合相濟候段大年寄申出承り届

一去ル二日愛染寺ニ屋根屋共被盜候品書大年寄々差出候

一川端左五兵衛義不快引込届出候

一同心組兩人引込候ニ付加人壱人大目附へ申達候所日下勇助来

一牢舎人庄助病氣ニ付相牢願出郡代所懸合之上三日取計候

六月八日 曇

六月九日 曇

一左之通大年寄於宅小頭孫八部屋目附左十郎申渡候

坪井町

第三増屋兵助義大坂ノ病氣 千切屋

申越候節御番所懸リニも可相成義 勅兵衛

を不届出其上他領之もの相懸差出

我儘ニ御番所へも罷出上を不憚致方重々

不埒ニ付追込申付候 但日数十日

宮脇町

悴兵助義他町ノ家内共引受 三増屋

送り手形迄取置候も不届出其上 伊兵衛

兵助他出をも不届出同人義大坂ニ而行倒

候ニ付相頭不埒至極ニ候依之

追込申付候 但日数七日

同町年寄

三増屋兵助義家内三人迄父 佐渡屋

伊兵衛方へ内分ニ引受置候処 八左衛門

心付無之不埒至極ニ候依之急度叱

安岡町

備前銀札拾匁遣ヒ不埒至極 岡崎屋

候依之過料尅貫文申付追込 伊兵衛

申付候 但日数五日

右申渡相濟候段御用番ニ大目附へ手紙ニ相届候

一他所銀札通用猥ニ相聞候付目付之もの差出見合次第取上ケ候段町

触差出候此段も御当初へ相届候

一御蔵米七拾匁町米六拾六匁

一太田舍人ノ手紙ニ一昨晚上原彦蔵を以申達候瓜生原屋咎延引之

義拙者存寄之趣を以御用番中へ被相伺候候先差延置候様御用番中

ノ申来候間其旨可相心得旨申来候

一川端左五兵衛妻不縁ニ付離縁仕候段小頭ノ届出候

六月十日 快晴

一鍛冶町鍛冶浅右衛門と申独身もの視之測ニ致溺死堰ニ掛リ居候由

届書差出依之御用番^并大目附へ其段相届置郡代所申合候由部屋目
附新治見分差出候

六月十一日 晴 白雨

一流死人見分^二差出候部屋目附新治昨夜四時頃罷歸り立会遂吟味候
処無別条段一札取差出早速^二可相届之処最早及深更候事故郡代所
相談之上今朝可相届^二相極候尤右届書紙面^二而相届濟候事^二候得
共右流死人之訳承り候処一昨九日之夕覗河原^二而多人数博奕致致参
会候由然ル所郡代所^二捕手之もの被差向候処^二不殘川へ飛込逃去候
由右逃去候内誤^而致溺死候趣^二相聞此段郡代所^二へ被相届候由^二
付御不審之程も難計候^二付見分候上別条無之候間取片着可申付候
段三浦^二被相同被下候様^二頼遣置候処今朝三浦被相越被同候処勝
手次第取片着候様^二御差図有之候処三浦^二申来其段大年寄へ申達
取片着濟候段申出候上又御用番中へ紙面^二而相届大目附へも同濟
候付取片着申付候処相濟候段紙面^二而申達候
一 船頭町瓜生原屋平七昨夜川下^二罷歸候段届出候^二付今朝孫八左十
郎大年寄宅へ差向左之通申渡候

中尾鉄三郎長屋住伊助義立帰

船頭町

ものゝ義^二候処先年致世話引戻し

瓜生原屋

不埒^二付追込申付候^二但日数五日

平七

右申渡候段御用番中へ相届大目附佐々木引込^二付松岡治部助^江相
届候

一 黒田要人殿去ル七日江戸へ御帰着之由

一 筑州遠賀郡柏原浦小平次手代忠蔵佐助二人例年之通茶碗売^二来候

段京町田戸屋宗十郎後家宿切手差出

一 兵庫田中屋久左衛門今朝出立候段届出御用番大目附へ相届候尤今
度散種五拾石相廻候由^二候

一 御蔵米六拾九匁五分町米六拾五匁五分

六月十二日 快晴

一 備前田原船長岡船と申談候由右申説^二不組船頭^江者西大寺^二而塩
買積之内三步之余ハ不為積候由風聞書蔵合孫左衛門差出太田舎人
^江差出

一 勘定奉行近藤伊左衛門^二他所銀札猥^二致通用候段相聞候付使組兩
人日々東西^江差出候由通用申来候

一 河原町北側^二而針屋忠藏家屋敷表口式尺^(ツ)裏行五間五尺但三步
役也西隣ハ熱田市正東ハ横町也右家屋敷代銀百八拾匁^二相極町内
作人増蔵へ売渡度願承り届ル同廿日売券状出ル

一 福渡町^二而宮脇町阿賀屋助五郎家守忠助借屋住伊八義五月廿六日
罷出行衛不相知候段届出百日尋申付ル

六月十三日 快晴

一 御用日之処拙者義未相勝候^二付当病御断三浦士を以相届候尤今日
者申上候御用向無之

一 玉置源五兵衛義左之通申渡候様被仰出候段三浦^二通用有之依之直
切紙差遣呼出し大年寄月番孫左衛門小頭孫八立会^二而座敷^二而申
渡候

其方義先達^而役筋之反古 玉置源五兵衛へ

所々^江取散し候故其氣^二乘し 申渡

悪説等申触張紙落文も有之其所方町方不埒之

願等迄差出甚不平之事上を不憚事候畢竟役筋心得不埒之

所方右体人氣懸り不軽事等閑之至候依之急度可被仰付候

得共今般ハ以御憐愍追込被仰付候此段御用番御年寄小須賀一

学殿被仰渡候 但日数十五日

右申渡相済候段御用番大目附へ相届候右被仰渡事一学殿御手

跡候間写取差戻候様申来大目附へ差返し候

一 盜賊友蔵一件伺之通取計候様被仰出其内水風呂屋佐七大目附

考之通弁銀申付其品欠所可取計由被仰出候

一 大目附月番佐々木主馬弥太夫死去忌中付松岡治部助月番被相勤

候由

一 田原船長岡船塩積受争論初り候由之下説和泉屋清助差出蔵合孫左

衛門方差出太田舍人差出候

一 備前田原船工有之塩差受候様仕向候趣付櫻野屋茂一郎稲実

屋義七郎野々口屋七郎右衛門三人塩御用被仰付候ハ差支無之様

仕度内願弁書差出承り置置様子寄可及御沙駄事

六月十四日 曇

一 昨夜六時過牢番山七届出候借牢人瀬助義不浄際之竹を以綿を付

番所行燈之火を取夜着吹付候由届出候付当番文蔵新治又六

嘉七為治追々差向取鎮させ候右不埒遂吟味申出候様孫八申付ル

一 安岡町岡崎屋伊兵衛追込昨日迄五日相成候間今朝差免其段

御用番大目附へ相届候

一 牢舍人庄助療治二廻り相済大体快候間休薬候も可宜旨藤木良全

申出候旨大年寄届出承り置

一 川端又六川端左五兵衛今日出勤届出候依之加人日下勇助明日よ

り差戻候段大目附へ相届候

一 油屋共手作薬種当年ハ凶作付忝割減左之通書付差出

百拾九石七斗 午年手作惣高

但去巳年ハ百三拾式石三斗也

右書付郡代所へ相廻候

一 村井角小沢横関貫御作事普請出来町方届出候

一 昨夜牢屋変義さつと為相糺御裁許書差添三浦を以大目附松岡へ及

内談候処今少委敷相詰差出可然右付延引相成候間其旨先及御

沙駄置可然旨被申聞候付其段御用番大目附へ相届委細之義糺之

上可伺旨申達置候尤再糺孫八申付候

一 備前竹内又右衛門返書来金岡弥三郎へ送り認出候様ハ難申付

此方相廻候リ書何れ下方之義と存船持共へ申聞候処是迄市

郷自分荷物と申ものハ至数少候処ケ様相成候ハ片積候詮

無之故及御断候旨船持とも弁書相廻候付太田舍人へ差出飛脚之

者ハ受取書相渡可差返旨申達候所其旨取計候様申来例之通受取

書相渡返ス

六月十五日 快晴

一 牢内瀬助義火取扱いたし一件為吟味今朝孫八左十郎牢屋へ差向番

子とも遂吟味書付差出右書類伺書差添三浦へ頼遣ス

一 宮川大橋損注進書差出候付大目附へ差出候

六月十六日 快晴

一 盜賊友藏一件取計立会例之通^ニ 而 左之通申渡

御領分追払

無宿盜賊

旅籠屋

友藏

友藏盜取候品不殘目明へ相渡勝山へ返し候様ニ申付候
右追払兩人ハ於白砂申渡候其余ハ小頭部屋目附差出大年寄於宅申

右同断

上紺屋町

渡候右取計相濟候段御用番^并大目附へ相届候

伊兵衛

一 官脇町三増屋伊兵衛追込昨日迄^ニ 而 七日ニ相成候間今朝大年寄於宅差免其段御用番^并大目附へ相届候

追込七日

元魚町笹屋

一 船頭町瓜生原屋平七追込昨日迄^ニ 而 五日ニ相成候間今朝差免右同断取計

友治

一 明十七日之夕觀音ニ付例年之通宮脇町関貫四時迄開立番付置候段伺出其段御用番^并大目附へ相届候

追込五日

西今町松尾屋源八

一 郡代所方博奕参会左之通召捕候ニ付牢番預ケ申来当番又六差向取計候

後家

右同断

坪井町表屋

吉原村 文吉 弥七 佐吉 仁三郎 八十八 亀吉 市之丞

但甚六義ハ他参^ニ付罷帰

甚六

富治 松之丞

候上可申付事

宿屋頭

古川村 龜三郎 宇吉 伊勢次 松之丞 拾三人

中之町小山屋

富治 松之丞

何れも叱

同 与三右衛門

船頭町山北屋

一 隅田勇助被参被申聞候^者昨夜隅田松島中尾へ盜賊這入品々盜取候由被申聞候付嚴敷遂吟味候様ニ目明孫兵衛へ申付ル

伊兵衛

一 元魚町笹屋友治方盜賊方受取候付差出欠所ニ取計

伊兵衛舅

一大目附松岡治部助方昨夜隅田松島万吉中尾鉄三郎方^江盜賊這入品々盜取候届書被相渡定^而近辺長屋もの^ニ 而 可有之候間嚴敷遂吟味捕損不苦候間心懸ケ之ものハ不殘召捕候様ニ可取計旨申来候

中之町北原屋

六月十七日 快晴

利七

質物代金銀申付

元魚町水風呂屋

佐七

一札申付候

惣町 宿屋

六月十七日 快晴

一 牢舎人新吉病氣申出吉武修格へ申付ル

一 牢番共御咎伺書一昨十五日三浦へ頼遣置候所今日御用番中へ罷越

差出候処御受取被置候由申来候

一金毘羅参詣式百九拾九人有之候由旅籠頭書付差出候

一二階町河本屋忠吉所持之他国受酒株二丁目竜田屋茂兵衛へ相談度

願書差出承り届

一 美濃職人町山本屋佐右衛門嫁ニ西々条郡吉原村与三郎娘貰受居候

処離縁仕度人別願下方引合相济候由申出承り届

一 材木町北側ニ而古銀屋善吉家屋敷表口式間半裏行拾七間但御堀石

垣切半役也東隣は万屋与惣兵衛西隣ハ車屋源兵衛也右家屋敷代銀

式百五拾匁ニ相極勝間田町桶屋茂右衛門江売渡度願承り届同廿日

売券状出

六月十八日 快晴

一 御用日之処拙者義未相勝今日も当病断三浦へ頼遣御用向頼遣

又

一 坪井町表屋甚六義昨夜罷帰候段届出候付今朝小頭孫八部屋目附左

十郎差向左之通申渡候

盜賊友藏一件ニ付

坪井町表屋

御叱追込申渡候 但日数五日

甚六

右取計济候段御用番大目附へ相届候

一 惣町宿屋旅籠屋共受一札印形取之大年寄る差出候

一 備前岩梨郡石蓮寺村庄右衛門役介定吉義材木町福中屋多助後家養

子ニ引受度人別入願御用番中御聞濟ニ付大目附へ差出置候段三浦

る申来御聞届申達候同廿日住宅証文差出未正月廿八日離縁

一 安岡町鍛冶屋五兵衛娘義御領分西北条郡下田の村長右衛門養女ニ

差遣度人別除願下方引合相济候段大年寄申出承り届

一二階町山本屋周右衛門所持之自国受酒株去ル辰九月東新町鍋屋平

藏へ貸置候所今般取戻候届書差出承り届

一二階町山本屋周右衛門所持之自国受酒株当午六月る来未ノ五月迄

老々年之間京町野田屋佐右衛門借り受商売仕度願書差出候承り届

一二階町組屋源左衛門義今日致病死茂渡兵吉義伯父ニ付同人義十日

之忌服引込候段大年寄る届出承り置

一 牢番共御裁許伺之通取計候様被仰出候旨三浦る通用有之来ル廿二

日可取計ニ申談ル

一 円宗寺村吉祥寺へ去ル九日夕る十三日之夕迄之間ニ盜賊入込三品

盜取候由触流取計候様大目附る達有之町触取計本書ハ差戻候

一 近藤伊左衛門上原彦藏三浦十郎左衛門三人同道ニ而被參備前竹内

又右衛門る返書之趣ニ付三役申談再返書下案相認差出候様太田

舎人る被申聞候由ニ付及対談右門る下案差出大体相極

六月十九日 快晴

一 梶場橋損候ニ付繕之内今明日船渡ニ取計候段今津屋平藏る届出御

用番大目附へ相届候

一 坪井町千切屋勘兵衛追込昨日迄ニ而十日ニ相成候間今朝差免候段

御両所へ相届候

一去ル十四日夕徳守宮納涼初日ニ付例年之通文藏左五兵衛差出^并十

七日之夕新治栄治差出候所無別条引取候段届出候認落候ニ付爰ニ

記置

一中川登市郎長屋住牢舎人利兵衛妻帷子二ツ坪井町沢野屋伝六方
質物ニ置有之候段受返し度願承リ届

一材木町倉敷屋太兵衛義四国遍路百日計逗留ニ而来廿一日出立之願
差出承リ届ル十二月十四日帰

一大目附佐々木主馬忌御免ニ而今日より月番被相勤候

六月廿日 少白雨

一例歳之通来ル廿五日廿六日於町会所町家之者宗門帳判取候旨并当
年者人別頭錢五文ツ、取立候段大年寄届出承リ置

一梶場橋繕出来候段今津屋平蔵届出御用番并大目附へ相届候

一御蔵米六拾八匁五分町米六拾四匁五分

六月廿一日 快晴

一西今町松尾屋源八後家追込昨日迄ニ而五日ニ相成候間今朝差免候

段御用番并大目附へ相届候

一牢番共御咎明廿二日可取計ニ付加人兩人被仰付被下候様ニ大目附
へ申達候所石井金治中村栄治来得申含置

一備前田原之下説書蔵合孫左衛門差出太田舎人江差出候

一安岡町岡崎屋伊兵衛過料錢九匁三分貳厘上納受取置銀札場へ相廻
候

一桶屋町作人庄助と申もの今日内山下御下屋敷前ニ而武州品川川ニ

而取候鯨之図一枚拾候由ニ而大年寄る差出大目附へ差出候

一小性町ニ而今夕百万遍致候段申出夜廻りへ申達候

六月廿二日 快晴

一左之通小頭於宅申渡

借牢人瀬助牢内へ火を

牢番足輕

取入候始末不取計旁

追込十五日

和田義右衛門

付叱之上追込申付候

同 十日

内田山七

右御用番并大目附へ相届候

牢番人穢多

追込十日

宇右衛門

追込五日

孫兵衛

火を取候義見付候得共遠方ニ付

間ニ不台段違計候

同

定兵衛

穢多共申渡ハ郡代所ニ而有之候ニ付申渡書相認郡代所江相廻候

一郡代所ノ博奕人吟味有之候ニ付牢屋立会申来左十郎左五兵衛差出

一上紺屋町今夕百万遍仕候段届出夜廻りへ申達ス

一元魚町水風呂屋佐七四国遍路百日計逗留ニ而明廿三日出立願差出

承リ候由十月六日帰ル

一福渡町竹尾屋直兵衛妻衣類三ツ福永屋吉兵衛方ニ在之受返し度願

差出承リ届

一元魚町藤野屋多吉義喜助と改号仕度願承リ届

一公儀御届人別改帳大目附所ニ而清書出来印形致候様ニ申来昨日致

印形郡代所へ相廻候

六月廿三日 快晴

一元魚町笹屋友治追込昨日迄ニ而七日ニ相成坪井町表屋甚六追込昨

日迄ニ而五日ニ相成候ニ付今朝大年寄宅ニ而差免其段御用番并大

目附へも相届候

一郡代所^ら□□村伝右衛門伊作惣助同村穢多新蔵吉蔵文蔵右六人入牢申来手形認かへ左五兵衛差向取計候

一今日御用日之処拙者義未相勝候^ニ付当病御断三浦へ頼遣尤今日ハ申上候御用向無之

一吉祥寺被盜もの触流三浦へ頼差戻候

一道幹様式百五拾回御忌御赦^ニ付寺院歎^ニ寄^而伊勢屋又助徘徊差免候様被仰出候旨三浦十郎左衛門^ら通用有之候但親類ハ吹屋八左衛門之旨

一御堀掃除料例年之通式百八拾九匁分四厘大年寄齊藤孫右衛門差出御作事奉行西村治太夫へ為持遣則返書来玄関^ニ張置

一例年之通蓮葉入札之触取計候様^ニ三浦^ら被申聞先日相触置候

一牢舍人龜吉富次仁三郎八十八卯吉伝助伊勢次衣類入遣度伺出承り届

一中尾隅田松島盜賊吟味^ニ小屋之もの鏡磨^ニ仕立出候処先日追払候伊助平右衛門落合^ニ居候得共一向手懸り無之目明共頼置罷歸り候段申出其段三浦へも及相談先其儘^ニ致置候事右入用拾五匁孫右衛門取替候様^ニ申付ル

六月廿四日 快晴

一備前田原出入懸合書面取調置候分松岡治部助へ差出候様三浦より通用有之松岡治部助へ手紙^ニ差出候尤蔵元^并下方懸合一冊当役久世扣一冊孫左衛門懸合一冊都合三通差出候
一牢舍人直兵衛病氣申出医師申付候処吉武修格へ療治申付候段申出候

一茅町滝右衛門後家義悛御太鼓打喜右衛門勘当仕度願書差出上原彦蔵へ相廻候談置候

一御蔵米六拾七匁五分町米六拾三匁五分

一大目附佐々木主馬^ら病犬沙駄有之候間為取候様^ニ申来此間^ら非人差出候一昨日も^ら忝正今日も^ら忝正打殺候段及返書

六月廿五日 時雨

一牢屋破損届書牢番差出追^而御用日^ニ可差出事

一京町伏見町追廻し辺^ニ病犬有之昼廻り^ら非人^並及差図候処得不打殺段届出依之明早朝^ら罷出候様申付置大目附佐々木主馬^並病犬不絶致徘徊候趣今日も打漏候^ニ付此節詰^而非人召連組差出候様^ニ可致候間加人式人被仰付候様申達候処加藤清右衛門堀内吉次来朝夕廻申付候

一美濃職人町^ニ今夕百万遍執行届出夜廻へ申付候

一道幹様御赦^ニ付寺院歎^ニもの取計候様被仰出候処京町原田屋嘉兵衛義否之被仰出無之^ニ付御尋被下候様三浦へ頼遣置候処松岡へ相尋候得^而先日伺之通被仰出今般一緒^ニ取計候様^ニ被申聞右達之処承ル不承之処双方之内間違有之候由也右之段三浦^ら通用有之尚又相考候所生涯禁足宿預ケと同済^ニ候得共親を子^ニ預ケ候と申も如何成もの^ニ付親類預ケと申渡可然旨三浦士相頼一学殿^並罷越右之通被相伺候処随分其通親類預ケと可申達旨被仰聞候段手紙^ニ申頼候依之右御赦明後廿七日可取計旨郡代所と相談ル

六月廿六日 快晴 晚時雨

一病犬^ニ付朝廻り百蔵清右衛門非人十人計召連出候所伏見町^ニ打

殺候由届出候仍^而昼廻リ非人ハ先二組計差出候様ニ申付ル
一牢番加人中村榮治病氣引込ニ付御使組河野磯兵衛来

六月廿七日 小雨

一道幹様式百五拾回御忌御赦ニ付大年寄孫右衛門諸吟味喜左衛門小
頭代兼部屋目附左十郎出番又六立会ニ^而於白砂左之通申渡

其方義今般

京町原田屋

道幹様式百五拾回御忌

嘉兵衛

御赦ニ付出牢生涯禁足

親類預ケ申付候

同人親類

新魚町原田屋

右預ケ候趣申渡

乙兵衛

嘉兵衛弟

桶屋町西屋

善藏

同人從弟

嘉四郎

同人悴

喜四郎

右組合年寄差添出

吹屋町吹屋

其方親類伊勢屋長右衛門悴

八左衛門へ申渡

又助義今般道幹様式百五拾回御忌

御赦ニ付寺院歎ニ寄^而徘徊差免候

右取計相濟候段御用番^并大目附へ相届候

一宮脇町徳守宮地子居松野屋伝助悴長四郎義撰州大坂伏見町渡部筋
南へ入龜屋伊兵衛方へ来ル申年迄三ヶ年之間奉公ニ差遣度願承リ
届^申年十二月十七日又候三ヶ年追願承リ届

一安岡町漆屋源八役介ひち義御領分西々条郡二ノ宮村勘治方へ引越
度人別除願下方引合相濟候段申出承リ届

一京都三条通堀川西へ入醫師本川道意義去ル四日宿新職人町松野屋

十右衛門^方逗留追願差出候処猶又廿日計逗留追願差出承リ届候七
月十六日帰り候段届出ル

一牢舍扶持来月へ啗斗式升三合七夕五才持越ニ相成候由ニ^而内貸五
俵証文差出奥印取計候

一元鉄炮町ニ隠居候源藏義今般道幹様御赦ニ付町住居被差免候段郡
代所^方通用有之候

一坪井町加登屋孫兵衛義五月四日夕致出奔行衛不相知候段届書差出
例之通百日尋申付尤所々不埒も有之趣^并諸方^方預ケ道具も有之候
付道具主聡と相知候分ハ差戻可然之旨伺出其旨承リ置候

六月廿八日 快晴

一今日御用日之処自分義頭瘡快候ニ付今日^方出勤仕候

一玉置源五兵衛追込昨日迄ニ^而十五日ニ相成候付今朝於役宅差免其
段出仕之上御用番^并大目附へ相届候

一坪井町加登屋孫兵衛出奔尋申付置候段御用番^并大目附へ及御沙駄
置候

一 油方引請三人ノ願書差出丸龜屋勘治義病身ニ相成世話行届不申候
 間跡役三丁目高雄屋藤助ヘ相讓度右之段田中屋文左衛門ヘも及相
 談候処承知ニ付奉願候段願書御用番御聞濟ニ付大目附ヘ差出置御
 聞届申達候

一 例年之通馬持共大豆老俵ツ、拝借願書勘定奉行引合之上御用番御
 聞濟ニ付大目附ヘ差出候

一 牢屋破損書差出大目附ヘ差出置候

一 大目附ノ高瀬屋助八一件被相渡借金取計之義江戸御留主居ル申来
 候間得と相考助八義如何可取計もの哉考付差出候様被申聞候

一 御蔵米六拾七匁米六拾三匁

一 山本三郎左衛門妻出產ニ付同人血忌引込候段届出承リ置

一 戸川町松岡屋佐吉義甲州身延山ヘ參詣百日之逗留ニ来月朔日出
 立之願承リ届

一 林田町坂口屋利兵衛妻任娠月取間違之届差出先例之通取計候様申
 達ス

一 武田七郎兵衛勤当之悴遂敬致病死妙法寺ノ相届候由大年寄申出承
 リ置

一 田原船之下説孫左衛門認出候太田舍人江差出候

六月廿九日 晴

一 関貫番賃銀例月之通相渡候

一 徳守宮名越弘ニ付例年之通三丁目坪井町福渡町揚挑灯差出候段届
 出候

一 備前竹内又右衛門ヘ之返書大目附案文ニ御用所付紙ニ太田舍

人ノ被相渡何れか可然哉三役遂評議申出候様ニ御用番中被仰渡
 候由申来リ其旨類役江及通達明朝近藤宅ニ可申談ニ相極候
 一 無月私ニ付徳守宮警固藤蔵為治差出候所無別条引取候段翌朝届出
 候

七月 小

月番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 黒田要人殿

大目附 太田舍人

大年寄
同廿四日

玉置源五兵衛
寄藤孫右衛門

諸吟味 宮田喜左衛門

七月朔 大白雨

一 備前竹内又右衛門ヘ返書之義近藤氏宅ニ三奉行申談相認右門義

太田舍人江持参差出候

一 牢舍人庄助療治申付候段大年寄申出候

一南新參町稻垣前関貫損候付繕申付候様喜左衛門申出候
一牢舎人直兵衛療治原田春桂^ニ申付候段大年寄申出候

七月二日 曇

一院庄川渡船留候段五ツ半時郡代所^ノ申来同四時過渡船初り候段申
来兩度共大年寄へ申達候

一郡代所^ノ牢舎人伝右衛門伊佐惣助^并穢多久藏新藏吉藏吟味^ニ付呼
出し申来又六

一御藏米六拾六匁町米六拾式匁

一備前竹内又右衛門へ之返書下案少々御用所御添削^ニ而^ニ太田舎人^ノ
被相渡明朝立^ニ而^ニ可差遣旨被申聞依之直々飛脚之義申達置候所飛
脚杉山源藏来書状相渡候

一西大番所脇関貫番人源藏義勤方不^レ宜候付差替度旨小頭申出承り置
候処昨朔日^ノ福渡町嘉助へ申付候段今日請状差出候

一落合目明共^ノ中尾方盜賊之義^ニ付逢度旨申越候由目明共申出候段
小頭申出非人^一差添孫兵衛差遣候様孫八^并申付候尤遣も少々相
渡候様申付候

七月三日 快晴

一御用日出仕申上候御用向無之

一昨日病犬追廻り視河中へ追込候所非人小吉岩藏其儘飛込相働打殺
別^而小吉義ハ衣類之儘^ニ而^ニ一番^ニ飛込兩人共身を捨致出精候^ニ付
漸々打殺格別之働之旨百藏清右衛門申出依之為御酒代式百文ツ
差遣度大目附へ及相談候処相伺可然旨^ニ付於別席要人殿^并内々相
伺候処後刻於御連席非人たり共不賞筋と申義も有之間敷候間役筋

ノ為賞詞右兩人^并岩貫文ツ差遣候様^ニと被仰出其段大目附へ相
達勘定奉行へも申達右被下もの役筋御預り候過料錢之内取計可
申旨申談置候

一牢番内田山七義追込昨日迄^ニ而^ニ十日^ニ相成候付今朝差免候段御用
番^并大目附へ相届候^并加人^一岩人明日^ノ差返候段大目附へ相届候

一大目附伊達与吉郎先月廿八日帰着^ニ而^ニ石代改之書類江戸表へ相廻
置候処田中幸助^ノ私領分へも三段相場相廻可然平均相場相廻候^者
不^レ宜候間以来其旨取計候様昨年相廻候書付^ニ致付札相戻候由^ニ而^ニ

被相渡右ハ此方^ノ仕向候事^ニ者^一無之向方平均相場頼来候付相廻候
事^ニ候間以来ハ江戸表^ノ申越候旨申達平均相場及改三段相場差遣
可然哉と申達候所其段自拙者幸助へ懸合候様^ニと被申聞候間重役
可申遣候

一二階町組屋忠左衛門義御用^ニ付忌差免度旨勘定奉行上原彦藏より
相談有之候^ニ付其御手筋^ニ而^ニ被差免可然旨及挨拶候

一左之もの共役所へ呼出し小頭^ノ左之通申渡

□□□非人

其方兩人共昨日病犬視測へ追込 小吉

候処早速飛込打殺骨折相働候^ニ付 岩藏

鳥目岩貫文ツ差遣候

一西新町南側^ニ而^ニ李屋茂兵衛後家所持之家屋敷表口三間半裏行十七
間大溝切但四步役也東隣ハ伊木屋源右衛門西隣ハ富野屋定七也右
家屋敷七ヶ年已前子十二月中之町平福屋勘兵衛取次^ニ而^ニ質物^ニ書
入銀札五百五拾匁借受候処此度元利返済相済候段届書差出

一元魚町豊屋喜兵衛妻去月廿五日八ヶ月位之女子致出生月取間違之届書差出例之通取計候様ニ申達ス

一十五歳已下之博奕御咎郡代所々何有之候処左之通伺済之由申来候十五才以下博奕参会之者

初 過料貳貫文 追込廿日

二 過料三貫文 追込廿日

三 手錠懸ケ 追込廿日

四 手錠懸ケ 追込五十日

但及五度候ハ其節可伺事

七月四日 快晴

一牢番和田儀右衛門妻兼而長病之処昨夜致死去追込中ニ者候得共夜

分竊ニ取葬仕度段小頭方申出承り届

一牢舍人弥助痢疾之由中村易安へ療治申付候段大年寄届出候

七月五日 快晴

一郡代所々博奕参会之者拾三人御裁許申渡ニ付出牢申来百藏差向取計候

一中尾鉄三郎方盜賊一件ニ付先日追込候伊助不審成ものニ付落合目

明へ此方目明ル懸合置候所孫兵衛呼ニ越差遣候所向方ニ而も帳外

もの不殘追込ニ相成候所右伊助義此方ル懸合置候ニ付追込も難取

計引渡候様内々移有之由ニ而引渡無抛召連帰リ候段孫兵衛申出依

之牢番預ケニ申付置其段御用番并大目附へ以參相届候牢屋立会藤

藏差向候

一備前竹内又右衛門方へ差遣候飛脚受取書取之罷帰リ候ニ付右受取

書太田舍人へ差出候

一山本三郎左衛門義血忌明候得共不快ニ付得出勤不仕段大年寄届出

候

一川口藤左衛門義七歳未滿之小兒致病死一日遠慮仕候段大年寄届出

候

七月六日 快晴

一材木町十吉後家持分之地面丹後山ニ在之候右隣ニ西新町孫七と申

もの地面有之右十吉後家地面堀ニ横ノ木有之候処孫七理不尽ニ

切取候由右出入一昨年ル郡代所へ訴出候由依之明後八日右見分被

遂候間右両町年寄差出候様郡代所ル申来其段大年寄江申達候

一八朔割帳差出 惣入用 三貫六拾三匁八分六厘也但昨年九月十四日寄
壹分四厘又

尤当年ハ右之内ニ上野介様御止宿入用六百四匁五分三厘有之備前

船出入入用三百九拾壹匁九分一厘在之然共昨年ルハ致減少候

七月七日 快晴

一七夕ニ付例之通組中ニ逢神酒差出候諸事上巳之通也

七月八日 快晴

一御用日登城

一牢番足輕和田義右衛門追込昨日迄ニ而十五日ニ相成候間今朝差免

候段出仕之上御用番并大目附へ相届候尤同人義不快ニ付加人ハ今

暫差置候段相届

一福渡町皆木屋甚助義一昨辰十二月禁足親類組合預ケ申付置候処家

内多人数暮兼難渋仕候間禁足御免被成下候様親類組合より歎書差

出如何様際限も無之義最早被差免候而も可然ニ付御用番中へ申上

候 処右願書御受取被置候

一 例年之通来ル十八日夕廿三日迄於町会所寺院宗判取候付寺院付差
出寺社取次細江武助へ相渡候

一 病犬有之 付先日以來詰 朝夕非人 組差添差出候所四五日程ハ
沙駄無之 付今日切 明日夕為相引候旨大目附へ相届尤加人明
日夕差戻候段も相届候

一 川下へ通船今般出入 付以來片積 相成候段惣町へ為知案文相認
太田舎人へ差出置候

一 一ノ宮村里上組藤五郎方へ去ル三日夕盜賊入込衣類三品盜取候触
流し取計候様大目附中被申聞町触取計本書ハ差戻候 町方ハ惣之儀候
七月七日届出ル

一 来ル十四日例歳之通盆中為舟廻町仕候段御用番中へ相伺大目附へ
も相届 御貸人馬之義相届候

一 明九日郡代牢屋吟味 被出候間木馬水責之用意申付呉候様 被申
聞其段小頭方申付置候

一 田中幸助方米相場書平均相場書ハ不相廻候様 申越候付向方方
頼来候段今日之御便 尋遣候

一 古借物上之御世話不被成候旨御触面之趣大目附方田中幸助へ尋被
申候処答之趣不詳候 付三浦方大目附へ被相尋候所田中幸助へ懸
合候様 申義 付郡代方兩名 今便申遣候

一 大目附佐々木主馬方左之通被申聞候去八月廿三日書付相渡候

是迄組中間大年寄大庄屋杯 申渡御賞御叱共差遣候申付候差
免候と申渡来候所先年方御罰御賞共御用番何之何某殿被仰渡
候被下之候被仰付候御免被成候と申渡 相極居候所役筋へハ

御達落 付以來右之通相心得候様被申聞候尤先年之被仰出書

写近日可相渡旨被申聞書役 申付置候

一元魚町 今夕百万遍致執行候段申出夜廻りへ申達ス

一 牢舎人 村伝右衛門伊作惣助同村穢多新藏吉藏久藏衣服入遣度
牢番伺出承り届

七月九日 快晴 晩雨

一 二階町細工町今夕百万遍致執行候段届出夜廻りへ申達ス

一元魚町南屋孫四郎義大峰參詣廿日計之逗留 来ル十五日出立願
大年寄承り届差出八月二日帰ル

一 三町目神代屋和兵衛右同断願書差出八月三日帰

一 郡代中牢屋吟味 被出立会栄治左十郎差出取計候

一 中島村文吉郡代所之牢番預ケ申来出番取計候

一 盆中三夜例歳之通町方関貫不殘九時迄開立番付置候段御用番
越相届大目附へ 翌十日手紙 相届候

七月十日 雨

一 三船新治病氣 付今日引込候段小頭届出候

一 勝間田町年寄薬屋善七病死届出候

一 東新町肥後屋長左衛門義大峰參詣廿日計之逗留 来ル十五日出
立願書大年寄差出承り届八月三日帰

一 御領分東南條郡林田村庄兵衛 同人母右式人戸川町白木屋甚吉引
受度人別入願下方引合相濟候旨大年寄申出承り届

一 牢屋払五拾三匁八分三厘孫八 相渡内三匁八分三厘ハ当暮可引取
候

一 牢屋取計之節酒代拾八匁六分孫八^江相渡候は八自分払也

七月十一日 曇

一 牢番和田義右衛門妻之忌中昨日^ニ 七日^ニ 相成候間明朝忌差免候

依之加人河野磯兵衛明十二日^ノ 差戻候段大目附へ相届候

一 上紺屋町牢舎人新八下女義戸川町打穴屋三町目川口^ニ 質物置有之候^ニ 付受返し度願差出承り届

一元魚町肥後屋吉太郎借屋住木屋九兵衛義五月初旬之頃備前表^江 商内^ニ 罷越候由^ニ 而 不罷越所々相尋候得共行衛不相知段届書差出候例之通百日尋申付ル

七月十二日 曇

一 田中幸助^ノ 石代御改^ニ 付当国中公料百性共江戸へ致出訴候処御取上ケ無之由右訴状写極内密^ニ 而 相廻候間披見之上早々返候様申越尤御用所へハ内々及御沙駄候段申越候^ニ 付御用番中へ差出候

一 小性町瓜生原屋宗兵衛借屋住人助右衛門夫婦^并 娘右家内三人此度久米南条郡横山村源蔵方へ引越度人別除願下方引合相濟候段大^ニ 年寄申出承り届

一 宮脇町阿賀屋助五郎義大峰参詣廿日計逗留^ニ 而 十五日出立願書大^ニ 年寄差出承り届八月二日帰ル

七月十三日 曇

一 安岡町久米屋鶴藏義大峰参詣廿日計逗留^ニ 而 十五日出立願大年寄^ニ 届出差出^ル 八月三日帰ル

一元魚町くり屋善兵衛倅喜兵衛義右同断願差出八月二日帰ル

一 宮川大橋穴明候段届書差出大目附へ差出候
一元魚町紙屋太兵衛大峰参詣右同断願書差出八月三日帰

七月十四日 雨天

一 西新町湊屋清左衛門義和州大峰^江 参詣来ル十五日出立廿日計逗留願差出候八月三日帰

一 三町目南屋利兵衛右同断願書出ス八月六日帰ル

一 戸川町打穴屋長七右同断三十日計之逗留願出ス八月七日帰

一 三町目余田屋与七右同断八月七日帰ル

一 書役組中牢屋三軒屋番人共寺証文差出候

一 林田町坂口屋利兵衛妻当正月^ノ 懐胎^ニ 相成候所外病氣^ニ 而 昨十三

日七ツ時分相果候段届書差出候^ニ 付猶隣家組合共相糺候処弥相違も無之旨一札^并 医師中村益庵容体書相添大年寄源五兵衛差出承置候

一 例年之通今日町方見分可致之処雨天^ニ 付見合罷在候処晚方雨晴候

^ニ 付七ツ半時出宅供立御貸人馬等例之通尤途中^ニ 而 雨降候^ニ 付夫々雨具相用候夜^ニ 入五半時頃罷歸り直^ニ 御用番要人殿^江 罷越御届申達大目附^江 馬脇^ノ 口上文を以申達候

七月十五日 曇 折々雨降

一 御用番要人殿^ノ 手紙到来八出村之内字北河原^ニ 申所^ニ 流死人有之^江 右^ニ 付市郷^江 触差出可然旨郡代^ノ 申出候^ニ 付町方之儀も郡代所^江 懸合取計可申旨申来候依之郡代三浦十郎左衛門^江 及相談左之通町触出ス

八出村之内字北河原と申所之井溝ニ流死人之男有之着類^并人相概左之通

增 右門
大年寄中

一年齡六十歳余ニ相見候

一せい高中肉之方

一面部短方ニ^而頬髭有之候

一月代薄中びんニ^而耳鼻常体相見候

一眉毛厚き方

但白毛交リ

一髮厚方

但白髮

一鼠小紋木綿古単物^并黒麻古羽織を着し茶色木綿古帯を^レ罷在紋

くわ之内不分

一死骸之脇ニ^あみ笠一脇指一腰有之

但

身無銘長サ壹尺五寸計

柄 黒糸

縁頭 鉄

鏝 同断 但真ちう之唐草有之

切拝はゞき真鍮

右之外所持之品無之候

右之通溺死人有之候間心懸リ之もの有之候ハ、早々可申出旨惣

町中末々迄入念相触有無共可被申出候已上

七月十五日

一牢舎猶兵衛病氣ニ付先頃已来原田春桂療治いたし候処今日迄二廻

リニ相成候ニ付跡医師相願候段牢番和田義右衛門申出大年寄へ申

遣候

七月十六日 雨天

一配当場城喜美用事有之候ニ付京都新町通綾小路東へ入所堤檢校方

ニ^上来ル十八日出立往来四十日計之逗留願大年寄差出承届候九月四

日帰

一牢舎猶兵衛治療藤木良全今日^レ相勤候段大年寄届出候

一茅町今夕百万遍致執行候段届出夜廻リ^上申達置候

七月十七日 雨天

一此間町触差出候八出河原溺死人之儀先日河原町ニ行倒候ものニ衣

類^并人相書共能似寄候由河原町年寄^并旅籠屋頭山北屋伊兵衛はた

こ屋中之町坂原屋甚兵衛^レ夫々弁書差出右^ニ去ル十一日河原町ニ

而行倒候もの有之候節廻リ同心組も廻リ懸リ相糺候処備前岡山三

番町木村安右衛門^并申者之由脇指を帯罷在湯郷へ入湯いたし通り

懸ヶ前夜小瀬村^并申所ニ一宿いたし当所^上罷越はたこ屋頭山北屋

伊兵衛方^上参宿之儀相頼候ニ付中之町坂原屋甚兵衛順番宿ニ相当

リ伊兵衛^レ例之通手形相認相渡候処河原町途中ニ行倒面部^并手杯

少々摺疵有之候由右ニ付河原町^レも人差添右甚兵衛方へ送り遣候

由尤余程快步行^ニ参候由右之段大年寄源五兵衛^レ届出翌十二

日一日逗留翌十三日快相成昼町分出立いたし候段届出候ニ付御用

番中^江も不及御沙駄承届置候所今日右之趣自分不快^二付三浦十郎左衛門を以御用番中^江申上前書^三有之候弁書差出候処御受取被置候大目付中^江も右之大意相達候

一 同心組渡り屋敷裏塚^二藪垣有之候処昨日小田中村源十郎と申もの右藪之竹理不尽^三切取候^四付同村庄屋権七^五懸合候得共不埒之及返答候由小頭部屋目付届出候^六付郡代三浦十郎左衛門^七懸合置候

一 南新座秋元前関拔番所錠前出来致候段宮田喜左衛門届出承置候

一 当六月御尋もの御用^二付他領高尾村^三落合辺迄目明^四非人共差遣候諸入用拾壹匁四分式厘請取証文小頭孫八差出奥書令印形候

一 此間落合^二勝山^三伊助為召捕目明非人差遣候入用三拾六匁三分三厘六毛請取証文孫八^四出シ令奥印候

一 今夕中之町百万遍致執行候段大年寄届出夜廻りへ申達候

七月十八日

一 今日御用日之処自分不快^二付三浦十郎左衛門を以御断申上御用向相頼候

一 二階町みほ屋十右衛門屋守喜助借屋住杵築屋吉十郎妻去巳十二月出奔当三月届出百日尋申付候所行衛不相知候^二付除帳願御用番中御聞濟^三付右願書大目付^四差出候段三浦十郎申来承届候段大年寄^五申達候^六

一 西今町元屋佐吉妻義早川八郎左衛門殿支配所西々条郡中谷村善次郎娘^二九年以前戌二月引請候所家風^三不入不申候^四付離縁仕度人別除願御用番中御聞濟^五付右願書大目付へ差出置候段十郎左衛門^六申来承届候旨大年寄へ申達ス

一 福渡町あか屋助五郎家守万五郎借家住中島屋亀吉義脇坂淡路守殿御預り所当国久米南條郡福渡村甚八方へ引越度除帳願右同断

一 中之町北原屋三之助役介平次儀当三月出奔仕候段届出百日尋申付候処行衛不相知最早百日余^二相成候^三付除帳願右同断

一 京町豊屋多助家守吉助借屋住利兵衛儀家内三人先達^二出奔仕行衛不相知百日余^三相成候^四付除帳願右同断

一 二階町北側堀御堀^二崩込候^三付足代おろし願年寄共願書大目付^四差出候^五

一 去ル八日被相渡候一宮里上組藤五郎盗物届書大目附へ差戻候^被

一 湯谷村長右衛門被盜もの触流し取計候様大目附^二被相達則例之通町触差出候同廿三日町方^三無之段届出候

一 福渡町皆木屋甚助親類組合^二差出候歎書先日御用番中^三差出置候処文段之内思召^四不相叶所有之戻ル

一 茅町年寄源吉立願有之和州大峰へ参詣仕度明後廿日出立往来廿日計之逗留願大年寄^二差出承届候

一 安岡町岡崎屋伊兵衛右同断願書大年寄承届候旨奥書取差出候

一 坪井町山際屋平六右同断願書差出候八月七日帰ル

一 博奕吟味之節出奔いたし候もの共先達^二百日尋申付右日数之内不尋出^三おいてハ組合一統過料可申付旨申渡請書印形取置候処左之通之もの共弥行衛不相知旨届出差出候

材木町万屋借家

要助

東新町地子居

宇助
新魚町魚屋
三之助

未
二月五日立帰り候

安岡町江川屋太郎一倅

六兵衛

船頭町作人

長八

安岡町松田屋

徳兵衛

福渡町あか屋借屋

藤右衛門

右七人之者共得不尋出候 = 付組合共過料五百文ツゝ申付永尋可申

付旨御用番中^江相伺候処伺之通被仰出候 = 付大年寄^江呼出し右之

趣申渡候様申達候

一 右出奔之内中之町飯綱屋新七義今五十日之間日延追願書差出候 =

付御用番中^江相伺候処御聞届 = 付其段相達候様大年寄^江申達候

一 右博奕差口出奔之もの百日尋申付得不尋出候ハゝ過料可申付旨先

達^而御裁許相伺候節伺書 = 無之不調法差扣相伺候様大目附伊達与

吉郎^ハ被申聞候由三浦土^ハ通用有之依之同人相頼差扣相伺候処無

程不及其義候旨被仰出候段十郎左衛門^ハ申来候

一 元中尾鉄三郎長屋 = 罷在候伊助妻子今以落合 = 預り置候処平右衛

門義^者未帰不申候由然ル処永々預り候義^者得不仕迷惑いたし候 =

付御入用 = も御座候ハゝ御引渡可申哉左も無之候ハゝ追払可申哉

之旨目明孫兵衛^江懸合来候 = 付如何取計可申哉之旨右孫兵衛^ハ伺
出候 = 付当方入用^者無之候間勝手次第追払候様及返答候様及差

図候

一 郡代所^ハ博奕参会之者奥谷茂七倅安次彦太郎倅金藏伊助倅伝之助

五兵衛倅幸次郎次右衛門倅岩次右五人牢番預取計候由申来出番百

藏立会 = 差出候

七月十九日 晴

一 銀札場奉行清水勇馬栗原衛守^ハ銀札場手代新魚町伊勢屋十右衛門

京町鍵屋和平戸川町福江屋卯吉右三人指免林田中之町二月屋弁右

衛門同町小山屋与三右衛門林田町升屋長十郎右三人召抱候由案内

手紙来^并札元玉置卯左衛門山本三右衛門右三人を召連罷出候

一 福渡町 = 而今夕百万遍執行届出夜廻同心組へ申達候

一 美濃職人町孤独長七病氣差重り候段申出為見分部屋目附石名佐十

郎差遣候所暑邪 = 而下利之病 = 御座候由容体書差出組合之もの共

深切 = 致世話候旨申出見分一札差出候追^而登城之節可差出候

一 郡代中今日於牢屋本郷村人殺候もの共吟味有之夜前人足三四人水

責道具差出候様申来其段申付置今五半時^ハ出番藤藏又六代り合終

日相詰候

一 坪井町表屋甚六大峰参詣廿日計逗留 = 而廿一日出立願大年寄承り

届ケ差出候八月七日帰ル

一 稲実屋義七郎榎野屋茂一郎野々口屋七郎右衛門右三人先達^而備前

船出入 = 付塩御用相勤度弁書差出奇特之義 = 付其段申達尚又申付

候時節有之候ハゝ其節可申付と申達置候所今般田原と長岡と之出

入下説承り出候段認出候右ニ付最早塩取寄候手段被仰付候様ニ申出候得共未可申付時節ニ無之故承り置可然事ニ候得共右世辞之義可及御沙駄義ニ付太田舍人へ翌廿日持参差出尤塩之義有之ニ付先達ニ差出候弁書も添差出候得共塩之義ハ此節決ニ可申付時節ニ無之旨申述置候

一山田新三郎出府被仰付候由ニ付太田舍人江談置候義有之

七月廿日 晴

一播州網干塩屋伊兵衛一人例年之通塩物荒物売ニ来候段中之町津田屋伝助宿切手差出翌未正月廿日帰

一四拾間関貫今朝大門不開置候段高石垣番人告来候付先同人江開置候様申付受前小性町番人呼出し遂吟味候処開置候由定ニ子供之てんごうニ而も可有之哉と大年寄源五兵衛申出候ニ付右錠之置所遂吟味候様ニ申付置

七月廿一日 晴

一郡代所々先日八出村流死人備前へ聞合ニ人差遣候処三番町并其外番町之内ニ木村安右衛門と申もの無之旨ニ付先日相廻候町方々之届書三通被差戻候

一郡代所々上横野村奥谷金十郎博奕差口ニ付牢番預ケ申来出番為治差向取計候

七月廿二日 曇 風

一御蔵米六拾四匁町米六拾匁

一錢通用百四文

一牢舎扶持五俵内貸証文差出奥書取計候但来月江壹石五斗持越候

一出奔永尋もの名面調書大年寄差出候

一新魚町南側ニ而魚屋吉兵衛所持之家屋敷表口三間裏行拾四間但七歩五厘役東隣ハ森本屋重吉西隣ハ榎野屋茂一郎也右家屋敷戸川町伊勢屋佐左衛門取次ニ而質入ニ仕銀札百五拾匁当七月より十二月迄月壹歩半之利足ニ而借り受度願書承届翌廿三日日本証文出

一安岡町久米屋友七義大坂土佐堀二丁目木屋与兵衛方へ廿日計之逗留ニ而廿五日出立願書承り届八月十四日帰

一御使組日下喜助母義京町豊屋太助屋守吉兵衛借屋住国屋義兵衛妻ニ引受度人別入願承り届

一安岡町百万遍執行届出夜廻りへ申合候

一玉置源五兵衛義疥瘡ニ付湯郷へ入湯奉願度明廿三日々月番齋藤孫右衛門相勤候段届出候

一因州八上郡天神原村半右衛門と申もの四国遍路罷出備中窪屋郡西坂と申所々足痛ニ而送り出院庄村へ送り来無相違ニ付継送候様申付候段通用有之大年寄へ申付ル

七月廿三日 晴 風

一御用日登城

一玉置源五兵衛義病氣ニ付湯郷温泉江廿日計入湯仕度願書御用番御聞濟ニ付大目附へ差出置御聞届申達候

一湯谷村長右衛門被盜もの触流し大目附へ差戻候

一田中幸助方相廻候石代之義公料々致出訴候写極秘ニ付早々差戻候様申来候ニ付御用番中江相伺候処写置本書差返候様被仰出并大目

附へも為見候様被仰聞候依而大目附へ差出候所追而写差出候様被

申聞其後写差出候所八月十三日戻ル

一 小田中村源十郎と申もの去ル十六日同心組渡リ屋敷竹木苅取不埒

ニ付郡代中へ懸合置候所乍無証拠も強ニ苅木と申立候間指押候義

も致かたく迎も場合ニ相濟候義ニ無之候間相届可然之旨三浦

十郎左衛門挨拶ニ付同心組弁書并絵図面差添御用番中へ差出候所

御受取被置候右ニ付大目附へも申達置候

一新魚町魚屋吉兵衛義病氣ニ付播州加古川大西大藏方^江為療治罷越

三十日計之逗留ニ来ル廿四日出立之願書大年寄承リ届差出候同

晦日罷帰候

一 落合の伊助妻子入用ニも無之候ハ追払申度申越最早入用ニ無之

段為及返答候段御用番并大目附へ及噂置候

一 札元山本三郎左衛門義四歳ニ相成候娘致病死候段大年寄申出承リ

置

七月廿四日 快晴

一 昨夜尼子数右衛門方へ盜賊入込衣類十五品紛失太田縫兵衛長屋へ

も入込三品盜取候由届有之大目附太田舎人右品書被相渡早々

吟味取計候様申来尤因州もの甚兵衛と申もの一昨日迄長屋差置右

之もの心懸リ之由ニ付早々召捕目明方ニ下吟味申付候得共手懸

リ之義も出来不申候得共無宿もの義ニ付先半番預ケ申付置其段

御用番并大目附へ相届候且又吉川助右衛門長屋ニ当分寐臥いたし

候久世領六と申もの疑敷趣ニ付目明共ニ内糺申付候処心懸リ之義

も無之宿所等も正敷もの由ニ付其儘ニ差返させ申候此段ハ大目

附^江も及噂置候事故相届候且又右一件ニ付関貫番所遂吟味候様ニ

大年寄并小頭へ申付置候

一 御藏米六拾式匁町米五拾八匁

七月廿五日 快晴

一 田町椿高下并田町の町方へ出口之関貫番人共大年寄并小頭方ニ

為遂吟味候処疑敷義無之段一札取差出候

一 福渡町沼屋義兵衛并悴当三月身延山へ參詣罷越候処道中ニ相勝

不申今五十日計之日延願差出承り届

一 中之町宿屋頭小山屋与三右衛門致改印候ニ付印鑑差出候

一 宿屋頭小山屋与三右衛門義銀札場手代ニ被召抱候ニ付今一人同役

申付度坪井町河原屋治助へ被仰付候様大年寄伺出其通申付ル

七月廿六日

一 尼子数右衛門方被盜候刀之拵書并此間届之外ニ帷子敷蒲団被盜候

由届書大目附へ相廻り写取本書ハ差戻候

一 尼子数右衛門方被盜もの相知不申候ニ付目明兩人東西へ手分いた

し久世高田倉敷福渡辺質屋致吟味候様ニ申付差出尤入用五拾匁ツ

ニ為持遣候<sup>上廿八日御所へ
及御砂取候</sup>

七月廿七日 雨

一 福渡町南側ニ植月友輔借屋棟を裏通り不残今朝六半時崩れ落住

人左助被數余程疵付候得共命分ニ拘リ候程之義ニ無之候同人妻

義も少々疵付候由大年寄へ届出候

一 牢番加人御使組石井金治河野儀兵衛當番之節行水之湯為燃候新代

宍刈相渡候様小頭申出相渡候

一 美濃職人町屋屋茂市義銀札壹貫貳百匁近藤政助取次ニ貸置候処

謀判^ニ 難義至極之旨先達^ニ 願書差出致方も無之義^ニ 候得共内々尾上八十七へ相移り懸合候得共思慮も不付趣^ニ 付願書差戻候

一 牢舎人穢多新藏小用^ニ 立倒れ伏証氣無之旨牢番届出穢多療治之義

先例も不相知候^ニ 付先日種々取調候得共橋例も無之外^ニ 療治

申付候医師も無之相考候所病人ハ兎も角も大切之囚人之義^ニ 候得

何れ^ニ も町医師引受可療義^ニ 付其段大年寄へ申付郡代所^ニ も及

通用候尤藤木良全へ申付候所中暑之由申出候

一 牢舎人奥谷村博奕打共単物臈半之類入遣度^ニ 穢多吉藏臈半も入遣

度牢番伺出承り届ル

一 林田町百万遍執行届出夜廻りへ申達候

七月廿八日 雨

一 御用日登城

一 元魚町福井屋喜七借屋住三好屋勘助義当三月十三日出奔仕尋申付

置候処百日余^ニ 相成候^ニ 付除帳願御用番御聞濟^ニ 付大目附へ差出

置御聞届申達候

一 田原長岡船出入下説和泉屋清助承り候趣認出候太田舎人^ニ 差出候

一 樫野屋茂一郎稻実屋義七郎野々口屋七郎右衛門赤穂^ノ 塩取寄方考

書先日太田舎人^ニ 差出置候所今日被差戻急度御賞と申^ニ 無之候

得とも奇特之段達置候^ニ 可然旨被申聞其段孫左衛門へ達候尤取計

之義ハ孫左衛門^ニ 当役伺之通差延置可然旨被申聞候

一 真壁論所公事野村権九郎殿へ再見分被仰付来月被参候間諸事昨年

稻垣藤四郎殿被参候通^ニ 可取計旨太田舎人より達有之候

一 林田村彦兵衛夫婦悴弥吉娘式人右家内五人京町瀧本屋惣兵衛引受

度人別入願下方引合相濟候段申出承り届ル

七月廿九日 曇 雨

一 塚角村船庄屋忠藏と申もの去ル廿七日蔵合孫左衛門方へ来り向取

合之咄^ニ 小瀬村源右衛門ハ田原へ同意^ニ 付一緒^ニ 御廻米相勤候^ニ

如何成ものと申義相晰候趣認差出太田舎人へ差出候

一 徳守宮地子居松野屋伝助悴長四郎大坂^ニ 奉公願先月廿七日差出承

り届置候処寺社取次細江武助^ノ 引合有之其段及挨拶

一 東新町出雲屋幸吉借屋住塗師栄藏一人林田村伊右衛門方へ引越度

人別除願下方引合相濟候段申出承り届

一 中之町北原屋三之助姉義先達^ニ 追払^ニ 相成候上紺屋町伊兵衛妻^ニ

罷越居候処伊兵衛義追払^ニ 相成候付致離縁北原屋三之助方へ引取

居候所妊娠^ニ 有之候処一向心付無之不相届候処昨廿八日男子致出

生候段届書差出候^ニ 付七夜過候ハ兼^ニ 不届出段叱置候様申達候

一 牢舎人弥助新吉直兵衛庄助療治二廻り相濟弥助新吉義ハ休薬為仕

候旨可然直兵衛庄助義ハ未相勝候間療治被仰付候様藤木良全申出

候^ニ 付尚又良全へ療治申付候段大年寄申出承り届ル尤牢番^ノ も申

出候

一 博奕差口^ニ 出奔候者之組合過料銭式百三匁八厘大年寄差出し受

取置候

一 玉琳綿屋佐助大商内致候由東新町^ノ 出訴右^ニ 付中之町綿屋勘兵衛

東新町大島屋吉助札書差添差出候追^ニ 郡代所^ニ 懸合之上可相同事

一 三船新治義明朔日^ノ 出勤仕候段小頭^ノ 届出候

一 右門義一名御奉書^ニ 明朔日被為召候

一來月二日^レ前訓講尺相始候段喜左衛門届出候

一例之通於七間廊下御小性謁有之御奏者番^レ三奉行迄一烈罷出上席御奏者番^レ当日御祝義申上畢^而三奉行役順^ニ御用所へ罷出当日御祝義申上引懸ケ大目附へ当日自分及挨拶引取御用所下城之上罷帰ル

一三人共悴蒙御意候御礼御用所^ニ申上相濟候故不及廻勤悴計廻勤為仕候事

月番
八月 大
御家老 安藤丹後殿
御年寄 小須賀一学殿
大目附 伊達与吉郎

大年寄 齋藤孫右衛門
諸吟味 宮田喜左衛門

八月朔^五 雨

一御徒格以上五時残^ニ而六半時惣登城

一近藤伊左衛門増見右門上原彦藏三人共一名御奉書^ニ而被為召登城

仕候段大目附へ相届扣居候所於焼火之間三人共悴武芸学文等之御

賞詞蒙御意候^ニ付直^ニ席順^ニ大目附役所^江罷出御礼申上夫^レ直^ニ

御用所へ罷出右御礼申上候畢^而

一備前^レ再返答書不差越候間可取遣筋^ニ可有之哉三奉行相談之上申聞候様御用番中御申之由太田舍人^レ達有之三浦十郎左衛門へ及通用勘定奉行^江ハ舍人^レ直^ニ達有之候由且又備前^江差遣候先日之返書下案尚又差出候様被申聞候右^ニ付対談之上御返答可申上候得共先日文通之趣ハ此方^レ返答切^ニ而相濟候義^ニ候間最早向方^レ再返答可申越筋ハ無之義尚又此方^レ返書取^ニ差遣候筋ハ毛頭無之段愚意之趣即答^ニ申達候所舍人義ハ同意之趣^ニ候

八月二日 雨

一先月備前^江之文通往返共太田舍人^江差出候

一中之町玉野屋太助後家悴嘉兵衛義去ル已七月大坂^江奉公^ニ罷出候所罷帰候段届書差出候

一一目明甚七義盜賊吟味^ニ東^江差出候所土居倉敷辺所々遂吟味候得共手懸リ無之昨朔日昼帰候段昨日届出候

一宮田喜左衛門方へ昨夜盜賊這入錢箱盗出し売酒百匁計盜取候段届書差出候翌三日御用番中へ申達大目附へ差出候

一郡代所^レ横野奥谷博奕打六人吟味呼出し申来牢屋立合藤藏又六差向出入取計候

一宗門改帳例年之通大年寄差出候

一天台宗 千五拾七人

一真言宗 貳千貳百拾五人

一禪宗 四百四拾五人

一淨土宗 六百九拾人

一淨土真宗 四百七拾人

一日蓮宗 貳千貳百拾三人

惣人数七千九拾〇人内男三千七百貳拾四人

女三千三百六拾四人

昨巳年〇六拾四人増

一及深更大年寄申出候者勝間田町西横町裏土手南へ下り口之所ニ野

伏一人伏居候ニ付相尋候所伊予国越村平五郎と申ものニ病氣ニ

而今八時頃〇行臥候由勝間田町〇届書差出候ニ付弥非人之義ニ候

ハ〇〇〇〇〇非人番ニ付置可申何分及深更候義故明日取計可有之候

間夫迄ハ町方より食餌等心付候様ニ申達置右届書大目附へ差出候

八月三日 晴

一御用日登城

一大年寄罷出昨夜勝間田町裏土手ニ行倒候野伏平五郎坊主昨夜猶又

遂吟味候処往来も所持不致野伏ニ相違無之ニ付非人番付置候所今

朝ハ快方ニ而立去リ申候段相届候付仕之上其段大目附へ申達候

所昨夜之届書被差戻候

一宮田喜左衛門方へ盜賊這入候義御用番中へ申達大目附へ届書差出候

一先日太田舎人〇被申聞候備前竹内又右衛門方へ返書取ニ可差遣哉

御尋之義三奉行申談候処何れも最早返書可有之筋ニ而無之段同様

ニ存候旨返答銘々申達候

一太田舎人〇左之通町触取計候様ニと案詞被相渡候

備前田原船持共と当所船持共荷割之義及出入候処双方片積相

成候ニ付以来田原船へ下り諸荷物積セ申間敷事

一備前〇取寄候商売登荷物当所船へ積申間敷候

一商売荷無之自分遣用之品ハ当所船ニ積登候義不苦候得共商

売荷物ニ紛敷候間追而申渡候迄ハ先〇積登申間敷候

一船賃定法之通増減致間敷旨船頭共へ申渡置候事

一諸荷物取遣紛敷義一切致間敷事

右之趣惣町中へ可被相触候以上

一旦又船持共へ左之通申渡候様口達ニ而被申聞候

御用荷物ハ勿論之義御家中荷物指札有之分ハ勝手次第積登セ

可申候

右之通相触候様蔵合孫左衛門へ申渡候

一大目附伊達与吉郎〇左之通被申聞候付類役へ及演達候

郷中雀旧沢山ニ而作物之害ニ相成候間御獵方へ被仰付取候間

差出候得者御用所〇三奉行迄配り候様ニ小勘者へ被仰付候間

相廻り候ハ〇不及御札拜受可被致候

一〇〇〇和吉と申もの〇義極内々与吉郎被申聞猶又内分大年寄へ申

移置候

一目明孫兵衛西在〇今日罷帰リ一向手懸り無之旨申出候尤去ル廿七

一日目明兩人留主中平助へ仮役申付置候所昨二日差免候

一牢舎人穢多新藏義今日迄四日病氣ニ付致絶食候段牢番届出候ニ付郡代所へ及通用且又同人義蒲團入遣度単物洗沢ニ差返候段伺出候

ニ付承り届ル

一牢舎人元中尾長屋伊助病氣申出医師申付候処藤木良全申付ル痢疾也

一牢屋御繕普請今日御作事来候段牢番届出候

一武芸一覽近々有之候段大目附廻状来ル

一船出入之義ニ付長岡船之内小瀬村源右衛門と申もの田原ニ致同意候段長岡船持共不残致徒党相憎去ル朔日之夜打こわし家居も柱計

ニ致候由伝承之趣藏合孫左衛門認出し候ニ付太田舎人ニ差出候所船頭町船持共往来候共今暫小瀬村江者不立寄様ニ大年寄江申渡置候様御用番中被仰出候由太田舎人江申来其段藏合孫左衛門へ申付候所即刻申付候段申出候

一安岡町岡崎屋伊兵衛他所銀札致通用候ニ付御咎之上過料取置候所銀札一件之過料ハ不殘銀札場へ納候先格之由申出候段上原彦藏被

申聞先格取調候処安永十丑閏五月廿八日西新町升屋甚十郎中之町ひさ屋又兵衛正銀通用御咎之節追込御免之砌過料錢之義ハ今日

三日之内ニ銀札場へ相納候様ニ申渡有之依之岡崎屋伊兵衛過料錢九匁三分式厘上原彦藏へ相渡候同八日銀札場受取事相廻り候

一御藏米六拾三匁町米五拾九匁

一三町目草津屋庄兵衛方へ去ル朔日夜盜賊這入候得共紛失もの無之段届書差出翌四日御用番中へ持参差出

一三町目南屋利兵衛方へ去ル朔日夜盜賊這入銀札四匁計ひとへ物一盜取候段届書差出右同斷

八月四日 快晴

一三町目南屋草津屋盜賊届書一学殿へ持参差出

一川下小瀬村源右衛門打こわし候節当所之ものハ參不申候哉内々為致吟味候様御用番中御申ニ付藏合孫左衛門へ申達候

一此已後小瀬村之様子四五日振りニ人差遣承り合候様御用番中御申ニ付藏合孫左衛門へ申達候

一藏合孫左衛門江小瀬村一件之下説江竜野江間合も可有之候間下役等之心付認差出太田舎人ニ持参差出候

一三町目盜賊吟味ニ付鍛冶町岩吉手間五郎と申もの目明ニ内糺申付候所為差義も不相聞候

一玉琳綿屋佐助大商内致候段東西新町江致出訴右ニ付中之町綿屋勘兵衛東新町大島屋吉助呼出遂吟味左之通申付置候

中之町綿屋
勘兵衛
不及白状候ニ付禁足申付置候
東新町大島屋
吉助

他参留申付置候
但山本三郎左衛門名代之もの

由

一小瀬村源右衛門打こわし節当所之もの加り候義ハ無之哉内々遂吟味候様ニ今朝一学殿被仰聞其趣孫左衛門へ申付置候所尚又夜ニ入

太田舎人江津山之もの相加り候由向方ニ取沙駄有之段及御聞被

成内々遂吟味候^ニ者不及表向^ニ而^ニ其節他參候ものハ無之哉船持共
急度相糺候様御用番中被仰出候旨太田舎人^ヲ申来尚又其旨孫左衛
門へ申達候

一 船出入一件ニ付何方へ被呼出候^而も船年寄として差出候^而宜人物
撰差出候様一学殿被仰聞兼^而存所之趣申上候所其趣孫左衛門認差
出候様ニ被仰出其段孫左衛門へ申達置候

一 盜賊徘徊候ニ付今夕^ヲ目明共非人召連忍廻り仕候様ニ申付置其段
御用番^并大目附へ相届候

一 町方宗門改帳例年之通宗旨奉行へ差出候

一 町方関貫番人老ほれ之もの共多不用立旨ニ付急度相改壮美之もの
差出候様大年寄へ申付候

一 借牢人竹田狂女病氣申出大年寄へ申達候所藤木良全申付候所瘧疫
之由申出候且又穢多新藏病氣六ヶ敷相成候段申出右両様とも郡代
所へ申達候

一 小瀬村源右衛門一件ニ付候^而者無程公訴ニも可相成候間御留主居
へ申遣置可然ニ付船出入一件帳面今一ト通り写置候様御用番御差
図之旨太田舎人^ヲ被申聞依之右帳伊達与吉郎^ヲ相戻り受取

八月五日 快晴

一 東西新町^ヲ玉琳佐助大商内出訴郡代所へ相廻候

一 石名左十郎妻出産女子出生之由昨四日小頭^ヲ届出候

一 牢番和田義右衛門病氣引込申出候ニ付加人壱人明六日^ヲ被仰付候
様大目附へ申達候堀内吉次来

一 上紺屋町紋治郎と申もの烏散成他所もの等親類と号し度々差置候

義有之ニ付目明共^ヲ為相糺候所不埒成返答いたし候由目明共届出
依之夜廻り同心組^ヲ組合預ケ申付置候

一 玉置卯左衛門娘備前岡山石買町赤穂屋直助妻ニ差出置候所此度病
氣ニ付養生罷越候間当年中逗留為仕度願書差出承り届十月十三日
帰ル

一 玉置源五兵衛湯郷入湯先^ヲ今般小瀬村源右衛門打こわし候様子承
り候段同役方へ申越し書状差出候付翌六日太田舎人^ニ差出候

一 牢舎人穢多新藏病氣差重り候段藤木良全容体書差出郡代所へ相廻
候

八月六日 快晴

一 郡代所^ノ牢舎人奥谷村金十郎金藏[○]藤吉伝之助岩治安治出牢且又中
島村分吉呼出し申来出番百藏又六差出出入取計候

一 下紺屋町長江朝庵義伯州川村郡松崎鞠屋安兵衛方へ四十日余之逗留
留^ニ而^ニ来ル七日出立之願書大年寄承り届ケ差出候十二月十五日帰
一 先月廿三日之処ニ認置候田中幸助^ヲ相廻候石代御取計之義当国よ
り出訴之写去ル三日大目附へ差出候本書ハ重役可返事

八月七日 曇 雨

一 船頭町松永屋清兵衛義当国英田郡上山村中磯と申所兄七之助罷在
近年病身ニ相成候ニ付家内罷越致世話呉候様頼越候間来ル申ノ年
迄三ヶ年之間妻悴定吉召連家内三人罷越度家役之義ハ家守付置申
候段願書差出承り届

一 桶屋町小座屋利介悻利兵衛義当国久米北条郡西川山崎孫太郎方へ
当八月^ヲ来ル未歳迄二ヶ年之間之奉公ニ罷越度願書承り届

八月八日 雨

一 御用日登城

一 福渡町皆木屋甚助義禁足組合預ケ御免之歎書先月八日差出置候処
以後之処も組合之もの可受合文言致加入可然旨先頃被仰出候。付
右願書少々認かへ今日又候差出候所御用番御聞濟。付大目附へ差
出置御聞届之旨申達候

一 林田町かと屋六之助借屋住作人平助義去ル四月十一日致出奔百日
尋申付置候所弥行衛不相知最早百日余。も相成候。付人別除願書
差出御用番御聞濟。付大目附へ差出御聞届申達候

一 林田町かと屋六之助借屋住作人文藏妻去ル四月十一日致出奔右同
断申付置候所右同様人別除差出右同断取計濟

一 伯州倉吉河原町竹屋孫右衛門娘うね義材木町万屋与三兵衛役介。
引受度人別入願右同断取計濟同十六日住宅証文差出

一 新魚町鉄炮屋庄助屋守栄蔵借屋住和兵衛義当四月致出奔百日尋申
付置候所弥行衛不相知最早百日余。も相成候。付除帳願書差出右
同断取計濟

一 尼子数右衛門。盜賊這入候節居候長屋もの新蔵と申もの此間一場
茂右衛門長屋へ引越居候右新蔵義尋之筋有之候間呼出遂吟味度段
御用番へ申達候所大目附へ致対談取計候様御差函。付其段大目附
へ申達候処其旨茂右衛門へ申達可申尤御用所御沙駄。も呼出候上
ハ受人預ケ。も不慥成もの殊。此間引越候もの。実。受入之
所も不慥。相聞候得。主人も可致当惑候間呼出候上ハ何れ。も牢
番預ケ。仕置可申旨御沙駄有之家族之義茂右衛門方。為相憤置

候間其旨相心得候様大目附被申聞候然ル所土岐雄助。右新蔵引渡
方之義尋有之候。付格別之義。も無之少々尋筋有之候間明九日
五時過受人差添被差出候様懸合置候

一 明九日取計有之。付加人壱人大目附へ申達候処植月十四郎来

一 船出入一件今般小瀬村源右衛門打こわし候。付急。竜野杯。呼出
候様先日一学殿御内々御沙駄有之依之姫路屋伝六和泉屋清助米屋
藤右衛門三人可然と申孫左衛門弁書太田舍人へ差出候

一 先頃一学殿。四五日。一度程。川下へ監者差遣小瀬村之様子承
合候様被仰聞昨日人差遣候所今日罷帰リ聞合之趣認出候太田舍人
差出候

一 御蔵元姫路屋恵三郎義当四月廿七日伝六と改号仕度願書差出御蔵
元ハ御目見付候もの。義故可及御沙駄管之処自分義一向不心付承
リ届置候処今日名面差出候付漸心付右之通大目附へ申達不念之段
ハ類役を以可相伺旨申達候所夫。ハ及間敷改号申出候間承リ置候
段御用所へ罷出被及御沙駄可然之旨松岡治部助被申聞其通。取計
濟

一 都。人別入ハ送手形無之候。ハ不承届義。候得共在所を出年久敷
相成又ハ遠国等之ものハ送り手形も難取候間当所へ来リ十ヶ年無
難。相暮候ものハ引受人受合一札為差出人別入為仕候。可然旨伺
書相認大目附へ差出及相談候処元来在所之人別離不相分もの乍存
受合一札差出候迎も承リ可届筋ハ無之候間不相成筋と松岡治部助
被申聞無抛相止候

一 牢舍人本郷村伝右衛門病氣申出医師申付ル

一 牢舎人穢多新蔵単物洗沢ニ差遣度^并穢多久蔵単物と給と取かへ出入仕度伺出承り届

一 前訓講尺一昨日迄^ニ而相濟候由宮田喜左衛門^方出席帳差出及一見差戻候

一 於御用所大目附伊達与吉郎出席御用番一学殿^方左之通被仰渡候

町奉行へ

中島村文吉博奕致参会候付五十敵之上掃村被仰付候間取計可申候

右御受仕退候然ル所右ハ郡代所人別殊ニ掃村ニ候得^者郡代所^江被仰渡候儀^ニ而も可有之哉と存内々大目附へ及噂候所松岡治部助被

申聞候^者何れ^ニも敵以上之取計ハ当役^江被仰付候筋ニ候由被申聞如何様左様も可有之義と存引取候得共為念日記調候処安永七戌年

十月大沢三平時分竹田村源右衛門打首ニ被仰付候節^者当役へ被仰渡郡代所へ懸合取計候様ニ相見へ候併取計之節ハ郡代所^方も下代

足輕三人罷出候寛政四子年正月後藤守助時分二ノ宮院庄中島村之者九人博奕参会ニ付五十敵掃村被仰付候節^者郡代所取計從当役所

ハ立会差出と計有之小頭部屋目附平組兩人差出候旨記有之同年六月松岡時分郡代所へ被仰渡候馴敵も同日取計之積りと記有之同六

日之処ニハ八八出住居帳外佐右衛門鼻をそき御領分追扨且又勝部村吉左衛門五十敵居村扨右ハ郡代下代説渡立合御徒目附中尾嘉兵衛

目附組と記有之也左候得^者先例ハ郡代所ものハ死刑之外ハ郡代所へ御達有之諸事郡代所取計と相見へ候得共当役^方も小頭部屋目附

出番ハ差出候先格ニ候得^者死刑と敵と^ニ而差別ハ付間敷義ニ候得

^者以前之刑ハ不吟味^ニ而敵以上之刑ハ是非当役^ニ而可取計筋と存候得^者今日被仰渡候を以後之刑ニ相用可然存候為後日記置候

一切手納り不約内ハ例歳之通為替米取申間敷旨大目附廻状到来写取組中へ相触候

八月九日 雨

一 小頭書役部屋目附出番藤蔵為治立合^ニ而左之もの呼出相札

尼子数右衛門方盜賊之節 一場茂右衛門長屋住

長屋ニ居候ものニ付種々

新蔵

と遂吟味候処一向心懸之 右受人上紺屋町なかつ屋

義無之申披明白^ニ候

万五郎

右ニ付即刻茂右衛門へ差戻併此砌他参留申付候様ニ申遣尤其段御用番^并大目附へ相届候

然ル処一学殿^方呼^ニ来罷越候処右新蔵他参留茂右衛門へ申遣候^而ハ当人も可及難義候間受人預ケニ取計候^而も可然哉之旨被仰聞左

候ハ、又候茂右衛門へ及文通最早吟味筋相濟候間不及他参留候旨可申遣旨申上候処其通取計候様ニ被仰出其段茂右衛門へ申遣候

一 紺屋町紋治郎と申もの去ル五日之処ニ認置候通今般盜賊筋之義ニ付下吟味申付候所烏散成もの差遣候由ニ付今日呼出し立会例之通

ニ遂吟味候

烏散成もの差置候吟味詰

上紺屋町

口書取極候

紋治郎

一 田原船之下説山形屋宗兵衛申聞候不束成取沙駄蔵合孫左衛門申聞認候様ニ申達置候処認差出候ニ付太田舎人へ差出候

一 菜種積下し川切手初る運上付ニ認候哉又ハ運上ハ不認候哉相尋具候様上原彦藏被申聞蔵合孫左衛門へ申達候所昨年始ニ菜種積下し候節ハ運上認有之候得共当年積下し候分ハ運上之義ハ認無之由併右運上認候者小桁番所へ差出候切手計之義ニ而木知ケ原番所へ差出候切手ハ都而運上之義ハ不記先例ニ御座候旨申出其段彦藏へ及通用

一 左之通大目附廻状丑刻過到来写取町中組中へ差出候

一 豊三郎様御義御病氣之処先月廿四日御逝去被成候依之今九日る十一日迄三日之内鳴物高声御停止但普請ハ不苦候

八月十日 曇 雨

一 一川下小瀬村源右衛門打こわし下説蔵合孫左衛門認出候太田舎人へ差出候

一 長岡小瀬村源右衛門打こわし候ニ付万一当所船持共之内相加り候義ハ有之間敷哉廿九日朔日兩日之内他参致候ものハ無之哉遂吟味候様太田舎人る先日被申聞相改候処兩日共屯人も他出いたし候もの無之段年寄口上書差出候ニ付差出候所船持共銘々一人ツヽ印形取差出候様被申聞其段申付置候処今日差出候ニ付太田舎人へ差出候尤其砌下り船五艘有之候得とも大方田原船頭ニ而津山船頭三人備中船頭一人大戸藤原之もの式人有之候得共朔日之夕小瀬辺ニ泊り不申宿船所明白ニ認出候

八月十一日 雨

一 院庄川渡船留り候段九半時郡代所る申来大年寄へ申達候

八月十二日 晴

一 院庄川渡船相始候段四時郡代所る申来大年寄へ申達候
一 宗門改帳認直し差出一場茂右衛門へ差遣候

一 小瀬村源右衛門一件風説書孫左衛門差出太田舎人へ差遣尤竜野役人引取候由之沙駄申候

一 鍛冶町金具屋権四郎借屋住鍛冶手間伊三郎と申もの七月廿八日出奔いたし相尋候得共相知不申候段届書差出例之通百日尋申付ル

一月廿八日離帳

一 播州加古川るねしわく細工手伝ニ九郎兵衛長治郎と申もの二人例年之通呼寄昨日来候間十二月迄差置度願二階町島屋藤吉差出大年寄申出承り届十二月十一日罷帰ル

一 西今町北側ニ直屋久米之助所持之家屋敷表口五間裏行拾五間但五歩役也東隣ハ常屋文兵衛西隣ハ紙屋六藏也右家屋敷代銀札壹貫百目ニ相極町内福本屋伊右衛門へ売渡度願書承り届同十八日売券状出ル

一 石名左十郎血忌明ケ今日る出勤

一 牢舎人伝右衛門病氣差重り自用も難叶幸イ悴伊作致入牢居候ニ付看病之為相牟被仰付候様願出郡代所へ申遣候所不苦旨申来今日昼廻りる為取計之候

八月十三日 雨

一 御用日登城

一 上紺屋町紋治義烏散成もの差置候ニ付五日追込組合年寄叱相伺候処伺之通被仰出候ニ付大目附へ相達置候

一 官川大橋金具落候ニ付取置候段橋本町る届書差出大目附へ差出候

一 田中幸助の返書昨日到来右ハ米相場私領方へ申遣候義平均相場相止御代官所へ申遣候通三段相場差遣候様先達^而申越候ニ付右ハ此方^ハ仕懸ケ候義ニ^キ無之向方^ハ平均相場書と望来候付差遣候義ニ有之候旨申遣候所今便申越候^キ是迄平均相場書相廻来候所江戸表留主居共^ハ平均相場書相止三段相場書相廻来候様申越候ニ付今年^ハハ右之通ニ取計候段可申遣旨申来大目附へ差出候

一 左之通大目附中^ハ演達有之候尤坊主以上演達と有之候ニ付何方へも不相触候御書付写左之通

大守様当年御十五歳被為成候ニ付

御目見御願可被成所少々御小用繁ニ付

御目見御願之義暫御見合被成度段去月廿五日

御用番中へ御届被成候

右之段小須賀一学殿御申聞候間及演達候

一 船出入一件小瀬村源右衛門打潰し下説竜野役人も最早引取候由申候風聞茂村屋伊助申出候浮説書昨晚蔵合孫左衛門差出候今朝出仕之上太田舍人^江差出候

一 小瀬村源右衛門打潰し一件為聞合四五日ニ^ニ卷度程ツ^ハ聞合之人差遣候様被仰出其段申付置候所右之通役人召連引取候上最早聞合之人差遣候ニ及間敷之旨孫左衛門伺出其段太田舍人へ申達候所其通^ニ宜候旨被申聞孫左衛門へ申達候

一 中島村文吉敲掃村取計来ル十六日取計可申候間御徒目附被差出候様郡代中相談之上大目附へ申達小頭^江も申達候

一例歳之通御年貢不相濟内ニ^ニ町方^ニ御領分之米買候義御法度之御

触大目附中被相渡町方へ相触候

一 柳土手水門御繕之義催促大目附へ申達候

一 船出入一件ニ付何方へ被呼出候^而も下役入候事故右人物太田舍人相談有之懸合置候処左之通被申聞候

井口惠左衛門義当役下役仮役被仰付候御内意被仰出候間船出入之義得と申聞能吞込せ置可申候

右ニ付為案内惠左衛門来り候ニ付先存意申合書類相渡候

一 船出入ニ付何方へ差出候共姫路屋伝六和泉屋清助米屋藤右衛門右

三人之内差出度蔵合考書先日舍人へ差出置尤伝六義ハ少々意味合

有之病氣ニ付難差出候得共大事ニ小事ハ難替筋ニ付是非出勤為仕

度旨相伺置候処伺之通可被仰付御沙駄ニ付御内意申渡弥執行為致

候様太田舍人より内達有之蔵合孫左衛門へ申含候

一 先日御達有之候雀佐藤郷左衛門^ハ昨十二日廿五羽相廻り致頂戴候

段大目附へ及挨拶候

一 二階町荒田屋十兵衛後家借屋住人佐助と申もの心懸リ之義も候

ニ付目明共へ申付内糺申付候

八月十四日 雨

一 牢舍人庄助直兵衛療治二廻り相濟庄助ハ快休薬直兵衛ハ外科へ療

治申付候様伺出承り届原田春桂へ申付候断申出候

一 牢舍人伊作衣類入替申出承り届

一 牢舍人伊助^引扶持いたし温飩調遣度申出承り届

一 和田義右衛門義明日^ハ出勤仕候段届出候付加人差返候段大目附へ

相届候

一和田義右衛門義扶持米渡之義ニ付加人堀内吉次ノ察度いたし候処
其儘ニ致置内田山七義も右之段及承其儘ニいたし置兩人共等閑之
致方不埒候段叱小頭宅ニおいて申渡候

八月十五日 晴

一大目附伊達与吉郎ノ手紙ニ而左之通申来候

丹後久美浜御代官野村權九郎殿明後十七日通行ニ付東大番所
前へ去歳之通御出役可有之尤貸人馬之義者相達置候且又町分
御取計筋去歳之通候間宜御取計可有之候以上

右同様郡代所も通用有之且又十六日勝間田泊之由申来候依之夫
々々申達置候

一右ニ付明後十七日加人兩人被仰付候様大目附へ相届候

一左之通大目附廻状到来町方組中へ相触候

真壁公事ニ付御代官野村權九郎殿近日被參候間右逗留中大川
筋嵯峨堰ノ上香々美筋寺元村ノ下ニ罷越申間敷候

一明十六日於牢屋中島村文吉敲婦村取計候様手配申渡候
一上紺屋町紋治義叱追込明十六日於大年寄宅取計候様手配申渡候

一西新町奎屋茂兵衛妻離縁仕久米南条郡横山村藤藏方へ差戻度願下
方引合相濟候段大年寄申出承り届

一林田町豊屋十右衛門後家借屋住沢田屋市右衛門妻并娘右二人離縁
仕親類林田村宇右衛門方へ差戻度人別除願下方引合相濟候段大年
寄申出承り届

一御領分東南条郡林田村半兵衛夫婦二人西新町玉屋栄蔵引受度人別
入願下方引合相濟候段申出承り届

八月十六日 快晴

一於牢屋御徒目附藤田弥治兵衛下目附安井茂藏小頭孫八部屋目附新
治出番為治彦人郡代所ノ下代彦人足輕式人右立合左之通取計候

先達ニ而博奕致参会其節

出奔ニ付五十敲之上帰村

中島村 文吉

右申渡者郡代所下代申渡候尤郡代所人別之もの故都郡代所取計
ニ候得共敲之義当役引受之義ニ付敲計之所ハ当役筋ノ取計候右取
計相濟候段御用番并大目附へ手紙ニ而相届候

一於大年寄宅小頭孫八部屋目附新治差向左之通申渡候

鳥散成もの度々差置不埒 上紺屋町灰屋与右衛門家守

ニ付叱之上追込但日数五日 嘉兵衛借屋住

紋治

右之段心付薄等閑之至 右同人 組合
ニ付叱置以来可入念候 右同町 年寄

右之通申渡相濟候段御用番并大目附へ手紙ニ而相届候
一丹後久美浜御代官野村權九郎殿先触到来

御朱印写

人足四人馬四疋從江戸美作国迄上下并於彼地御用中幾度も可
出候是者論所為再見分野村權九郎被差遣付而被下候者也

寛政十年七月廿一日

右宿中

先触写

御朱印

一人足四人

御朱印

一馬四疋

但人足八人ニ代ル

人足拾式人

内

御用長持

壹棹

貝足

壹荷

乗物

壹挺

茶弁当

壹ツ

両掛

壹荷

合羽籠

壹荷

竹馬

壹荷

一賃軽尻馬

三疋

一賃人足

壹人

右^者就御用野村権九郎義明十六日朝六ツ時吉野郡下町村陣屋

出立西々条郡下原村迄被相越候条於宿々書面之人馬寄置少^及

無遅滞繼立賃馬^者御定之賃銭受取之可差出且川々渡船場等^者

前宿^者致通達不差支様取計可被申候此先触早々繼送り下原村

ニおいて我等着之上可被相返候以上

野村権九郎手代

午 八月十五日

広石武藤太

松沢幸助

広石卷右衛門

中村莊太左衛門

下町村^者田井粟井中村夫^者田殿通り勝間田村津山通り下

原村迄

右宿々

問屋中
年寄

泊り附

十六日 勝間田村

但止宿^ニ而^者御定之木銭米代相払候間所有合之野菜を以一汁

一菜相賄馳走ケ間敷義致間敷候已上<sup>右先懸御用者中へ差出大目附へ
相部代所^者も及通用候</sup>

一野村権九郎殿通行ニ付同心組番割左之通差出明十七日

御先払^{新治}

御供<sup>文政
百六</sup>

当番<sup>朝
菜治</sup>

昼廻り<sup>左十郎
御使組</sup>

夜廻り<sup>左五兵衛
御使組</sup>

一右同断ニ付東西へ御船廻り候ニ付蔵元船年寄申付候様御船奉行一

場茂右衛門^者通用有之

一野村権九郎殿明十七日通行ニ付町方取計左之通

一御逗留中嵯峨堰^者香々美川寺元下へ罷越間敷旨町触差出非人

頭へも大年寄^者相達候事

一御通筋通行前改^而不及掃除不見苦様ニ取片着掃除可致置事

一町奉行東大番所脇へ罷出左之通可及挨拶

今般当所郷中論所為御見分御越被成御苦勞奉存候

御用事等も御座候ハ、可被仰聞候

材木町福中屋

右立宿 多助

同町 松山屋

右下宿 伊助

一 御先松同心組立宿 東新町 島屋伊助

一 在分御先松御持組立宿 安岡町 鍛冶屋長右衛門

一 兼田渡船場出役御藏元熊野屋文五郎船年寄米屋藤右衛門

一 院庄渡船場出役御藏元姫路屋利左衛門船年寄大坂屋彦平

一 町分保頭先松

一同 同心組先松

一 前宿勝間田へ御泊_井御出立刻限聞合人足忝人差遣候事

一 註進 金田 忝人 玉琳 忝人

一 東新町入口_江同町年寄一人出迎東大番所脇へ町奉行罷出居候

事可相通事

一 通行相済安岡町_江町奉行立宿_江可相届事

一 尾州和田郡島崎之内寺元村高橋伊豆例年之通来候段新魚町三沢屋

与八郎宿切手差出候十月十三日帰ル

一 元魚町久里屋善兵衛義及老年候_ニ付中買役倅喜兵衛へ為相勤度願

書大年寄差出し承り届

一 御代官野村権九郎殿明十七日通行_ニ付曉七ツ半時供揃六時出宅と

手配申付置候所勝間田聞合之者丑刻過罷帰リ今十六日六ツ時揃勝

間田へ被致着明朝六ツ半時出立供触之由大年寄_江申出候付明六半

時出宅と相極候

八月十七日 快晴

一 野村権九郎殿通行_ニ付六半時出宅材木町福中屋多助方へ罷出相扣

居候所延着_ニ九時頃迄も何之沙駄も無之候_ニ付若哉昼休被致候

程も難計玉置源五兵衛方座敷之用意致置候様申付置候所九時過手

代罷越昼休被致候間其用意相頼候由尤支度不及用意茶田はこ迄_ニ

_而座敷計貸呉候様申候由依之源五兵衛義麻上下_ニ林田曲り迄迎

_ニ出候様_ニ申付候且又御休息中本陣前人留可仕旨齋藤孫右衛門伺

出其通申付置候所玉琳嘉助茶屋_ニ暫被致休息候由八時過町分へ

御入込_ニ付自分義大番所前御制札之横へ罷出相扣居候所駕籠脇_江

小川平右衛門と申御家来相尋候付御役名_{性名}申達候所橋之下り

口_ニ_而被致下乗候_ニ付二三間程も進_ニ出候所方向_江も一間半計も

歩_ニ被寄昨日之処_ニ記置候通及挨拶候所段々御叮嚀之義共忝次第

何分宜御頼之由至_而叮嚀之御挨拶_ニ_而有之候_ニ付御駕籠被下候様

及挨拶候処左候ハ、御免を蒙り是_江乗り可申杯と至_而慇懃之挨拶

_ニ在之候権九郎殿鷹野装束_ニ麻羽織股引脚半紺足袋大小共雨捌

袋之出立_ニ_而乗輿也供立員足箱弓_一駕籠脇二人槍草履取傘計也

右之通源五兵衛義大曲り_江先立いたし自分之玄関前_ニ下座いた

し居候所暫駕籠を立テ御案し之様子_ニ最早及遅刻候_ニ付直_ニ可

参と被申源五兵衛方へハ御立寄無之候夫_江安岡町御出離れ候様子

自分立宿へ註進有之候_ニ付引取引懸ケ_ニ御用番中へ罷越町分通行

無滞相済引取候段相届大目附へハ馬脇_江手紙差遣し相届七時帰宅

仕候

右門供立_{口之者}

馬_{若輩}

草り取_{手人}

合羽籠_同

合羽籠_同

一 権九郎殿継人足三拾四人入候由孫右衛門届出候尤随分入念候得共
手代共少々やかましく申様子も在之候得共無滞相濟候由也尤喜左
衛門も届出候

一 一宮市町 = 付例年之通町触差出候

一 牢舎扶持七俵内貸証文致奥書尤壹石五斗壹升八合七夕五才来月へ
持越 = 相成候

一 牢舎人穢多久蔵小蒲苗入遣度伺出承り届

一 牢舎人伊助療治二廻り相濟候得共未勝候 = 付又候藤木良全へ申付
候段双方より伺出承り届

一 孤独扶持 # 関貫番人之賃銀本証文 # 内貸証文真北類蔵より相廻り
印形取計候

八月十八日 快晴

一 御用日登城

一 野村権九郎殿昨日御通行之振合委敷御用所 # 大目附 # 及噂候

一 新魚町姫路伝六妻備前和氣郡矢田村百性亀右衛門と申ものゝ娘 =

而 天明七未歳貰受候処家風 = 入不申候 = 付離縁仕度人別除願御用
番御聞濟 = 付大目附へ差出置御聞届申達候

一 坪井町角屋孫兵衛義借金増長 = 付先達 而 致出奔候段届出例之通百
日尋申付置其節御沙駄 = も不及義 = 候得共諸方借金多出訴 = も可

相成様子 = 付内々御用番 # 大目附へ及御噂置候所此度大坂 = 罷在
尋出候所当人先非を悔何卒罷帰リ借物筋立度相歎候旨同人妻の歎

書差出役所切 = 可承届義 = 候得共兼 而 及御噂置候事故御用番 # 大
目附へ右之段及御沙駄候御聞届 = 付承り届候段大年寄へ申達候

尤不詳之至 = 候得共格別之隱憂を以
承届候段可申置申付候

一 綿買宿先年伺出五軒申付置候処林田 = 宿無之甚不弁理 # 不アリ之
様子 = 付東新町並屋忠兵衛へ宿申付度大年寄弁書差出候 = 付其段
御用番中へ口達 = 而 申達候所御聞濟 = 付大目附へも相達置御聞届
申達候

一 目明非人召連忍廻り二組申付置候所此節の明ヶ月 = 相成候得 # 先
ハ盜賊沙駄も無之もの故先相休又暗夜相成候節被仰付候 而 も可然
哉之旨目明共申出其段御用番中へ申達候所以後ハ無差図心付を以
折々忍廻りいたし雨夜風夜杯ハ別 而 可相廻義 = 候間爾来右之通 =
取計候様御用番中御差図 = 付大目附へ相達置其段小頭へ申付候

一 船出入一件 = 付打こわし趣四五日 = 一度ツ、監察之者差遣候様御
用番中御差図 = 付其段申付置候所先日孫左衛門弁書 = 最早竜野役
所へ引取候義 = 候得 # 様子も不相聞義 = 付可相止哉と伺有之其節
舎人伺之通 = 而 も可然旨被申聞其段孫左衛門へ申達置候所又候今
日一学殿の竜野役人引取候 而 も今般之義 = 付徒堂ケ間敷義も難計
候 = 付矢張折々聞合之者差遣可然尤今般ハ田原西大寺岡山之趣も
致監察候様 = 可申付之旨被仰聞依之舎人 # 遂相談左候ハ、船頭等

而 # 聞合も出来申間敷候間誰そ工者成もの態 = 申付候様可致旨
談置大年寄孫左衛門へ其旨申付ル

一 去ル十三日之処 = 記置候田中幸助返書大目附を被差戻御用番中へ
相同候様被申聞依之御用番中へ差出候所幸助の申越候通是迄私領
方へ平均相場書相廻来候所江戸留主共共の三段相場相廻候様 = と
申越候杯と申遣候 而 # 何とやう書改り候様 = 而 公儀御沙駄も有之

哉杯と取沙駄有之候^而ハ不宜候間否哉なし^ニ三段相場書差遣候様被仰出依之大目附へ遂相談私領方^ル初頼来候節ハ承知候旨及返答置追^而差遣候節例歳相廻候平均相場ハ此三段相場を平均いたし候事故今年ハ平均相場書相止候間其方^ニおいて平均被致候様^ニ申遣可然と談極候其段大年寄へも申遣置候

一 下高倉村甚助方へ去ル十五日夕盜賊入込衣類十八品盜取代銀貳百四拾六匁位之由町触取計候様大目附^ル被相渡写取町方へ相触本書ハ大目附へ戻ス

一 町方塩払底^ニ相成候^ニ付醬油屋共ハ塩浜^ニ是迄直買致来候間醬油屋共へ申付塩浜^ニ直買為致田原船へ申付運賃積^ニ為致可然旨藏合孫左衛門申出去ル十六日太田舎人へ申遣置候所伺濟候間互取計可申旨被申聞候^ニ付其旨藏合孫左衛門へ申付候

一 大目附伊達与吉郎^ル左之通演達有之候

以来洪水之節出役^ニ者踏込野袴着用可致候尤踏込ハ給服^ニ不苦事

一 京町今出屋半兵衛所持之古道具屋株去ル卯十一月材木町川島屋善七^江貸置候所今般取戻し届書差出承り届ル

一 船一件之義川下^井田原西大寺岡山監察之義孫左衛門へ申付置候処大村屋源右衛門明昼立^ニ差遣候段申出候

八月十九日 曇

一 稻荷山草苅今日^ル相始候段三軒屋番作治届出候

一 大目附太田舎人^ル橋本町聞貫^ニ船頭町中脊三之丞義備前田原もの^と申合塩買^ル仕町在之もの^ニ難義為仕候旨張紙有之候段目附組^ル

申出候間相糺候様紙面^ニ申来其旨月番孫右衛門へ申付候所今朝

四時頃見出しへくり取置候所御届延引^ニ相成候段橋本町年寄丈右衛門^ル申出則張紙差出し候然ル所塩之義^ニ付藏合孫左衛門存寄相

尋候所此間船頭町中脊備中屋三之丞と申もの田原船^ニ積来候塩貳三艘買取外へ分ケ不遣由承居候得共右三之丞義ハ年中脊少々手く

り宜もの^ニ兼^而塩油等之ものも調置売候由及承居候得共買^ル仕候程之力之もの^ニも無之勿論買^ル之沙駄も不承候故不申出候由

尤此節塩払底之趣^ニ候得^者何方^ニ調置候^而も可然義^ニ付下方^ニ塩売買六ケ敷様^ニ不存候様^ニ被成度旨申出候依之右張紙^井橋本町

年寄弁書差添太田舎人^江持参差出右之差合を以塩相調候義ハ不苦義^ニ候得共右等之張紙も有之候事故心得違無之様^ニ大年寄^ル三之丞へ申付置候様可申付旨相伺置候所後刻舎人^ル呼^ニ来り申達之趣

を以御用番中へ相伺候処御承引無之何分一ト通りハ相糺いつ頃何艘買候哉^ル売等之義ハ無之哉之趣可相糺尤塩ハ定り之間屋ハ無之

哉何方^ニ売候^而も不苦義哉御存知無之故申上候様被申聞其段斎藤孫右衛門へ申達明朝相糺候様^ニ申置候

一 御藏米五拾九匁町米五拾五匁

八月廿日 晴

一 大目附伊達与吉郎^ル林田辺^ニ子供^ニ犬喰付候沙駄有之候間為取候様^ニ申来候^ニ付即刻大年寄へ申付非人差出候所昼迄追廻り候得

共林田上之町御役人屋敷致徘徊非人之手^ニ難及旨申出候^ニ付昼時^ル出番百藏為治^ニ非人十人差添出候所終日追廻り候得共丹後山へ

走り込得取不申夜^ニ入引取候^ニ付猶又明朝差出候様手配申付置

右ニ付加人兩人御渡候様ニ大目附へ申達候処加藤登八加藤茂助來ル

一船頭町備中屋三之丞義田原船方塩買取売捌候義昨日申達置候通相糺口書印形取差出但式百六拾俵計買取町内へ売渡候右殘拾俵所持致居候由売先名面書差添出太田舍人江差出候

一船出入一件小瀬村源右衛門奄野役所江召捕帰候下説孫左衛門認出太田舍人江差出候

一右同断下説直屋一郎左衛門周匝縁者ニ承り候得者竹内又右衛門大はり込ニ周匝ニも津山へ塩不売渡候様ニ又右衛門方郡奉行へ申來其段申付候由市郎左衛門承り候趣昨日差出即刻太田舍人江差出候昨日認落候故爰ニ記置

一美濃職人町年寄役元魚町藤野屋喜助兼帶仕居候所断申出無捌筋ニ付差免美濃職人町豊屋茂一江年寄役申付鍛冶町山形屋宗兵衛へ後見申付可然旨大年寄伺出承り届宜取計候様申付ル

八月廿一日 時雨

一上紺屋町紋治追込昨日迄ニ五日ニ相成候間今朝差免其段御用番井大目附へ紙面ニ相届候

一船出入一件岡山ニも江戸御呼出しニ相成候得者坂根村杢右衛門田原恵助其外兩人程可被差出内意有之候下説有之候由孫左衛門認出し太田舍人江差出候

一船出入孫左衛門内濟懸合之手扣他邦へ差出候得者差合杯と申文段有之差障ニ可相成候間添削仕可差出旨孫左衛門申出任其意下ケ候処認直し差出候

一船頭町備中屋三之丞塩売捌吟味書昨日差出置候処今日太田舍人方右吟味書御用番中へ差出候所糺方御存慮ニ不叶併其段ハ最早致方も無之義ニ候得共売先之人も相糺弥買取相違無之哉相糺し口書可差出井中脊買取問屋買受候得者二重ニ利を取高直ニ相成不旨御

不案内之所る彼是至ニ六ケ敷被仰聞候間都商内もの二重三重ニ手越ニ相成候ニも元來卸直段ニ買取候故二重三重ニ利を取格別高直ニ相成こと申訳も無之筋之意味合委敷弁書認差出させ候様被申聞其段孫右衛門へ申達候

一坪井町浜屋源右衛門悴治兵衛義去巳十二月真島郡新庄村へ出職仕居候処去ル十六日致病死候段届書差出候

一元魚町紙屋茂右衛門兄茂三郎義植山茂三郎と相改小須賀一学殿へ出入奉公仕度人別除願差出承り届ル庚申七月日付町

一種油是迄壹斗ニ付三匁七分ニ売候所菜種高直ニ相成候付以後ハ三匁八分ニ売申度届書差出承り届但是ハ廿二日ニ願出候誤ニ爰ニ記

ス

八月廿二日 快晴

一種油直段壹分上ケ承り届但委細者昨日之所ニ記ス

一船頭町備中屋三之丞塩売先札書井大年寄方二重ニ相成候ニも高直ニ不相成筋合之弁大年寄差出太田舍人へ差出候所同人持病之頭痛ニ相□不被申候ニ付一学殿へ直ニ差出候様申來御用番一学殿江紙面ニ差出候

八月廿三日 快晴

一御用日登城申上候御用向無之

一昨夜自分門内江投文有之右者今般出入ニ付塩払底ニ相成リ高直ニ
諸人難義ニ相成リ他領ニハ安キ塩致売買候ニ付当所ヘ調出不
当所衰微之基ニ相成氣之毒ニ存候間少も早く赤穂塩取寄候様之
手段いたし候様ニと申文段ニ姓名無之因州之もの当所御最貞ニ
存候ニ申候段認有之太田舍人江差出候所御用番中御披見相濟候様
之趣ニ即刻被差戻候

一北郷門兵衛長屋住利助と申もの彦人福渡町升見屋藤吉引受度人別
入願差出承り届

一徳守宮社地居候角屋平兵衛妹義西今町鳥羽屋喜四郎借屋住竹の屋
伊助養女ニ引受度人別人願寺社取次三浦十郎左衛門懸合之上承り
届候段大年寄ヘ申達候

一菜種御届之書付先日左之通郡代兩名ニ差出候
覚

七拾壹ヶ村菜種作高
一百五拾九石七斗

内
百拾九石七斗 油屋共手作手紋

残四拾石
右者兵庫問屋ヘ積登申候

右之通御届申上候以上
午

増兒右門
八月 三浦十郎左衛門

右之通兩役致印形差出置候所去ル十三日大坂町奉行因幡守殿江御

届相濟候由大目附被申聞候間右之段油方三人之もの共ヘ申渡候様
藏合孫左衛門ヘ可相通之旨孫右衛門ヘ申達候

一左之通先年御形相極候由之所当役江是迄御沙駄無之哉一向不相
覺候事故不審申達置候所今日佐々木主馬左之通書付被相渡候

一組中間或ハ大庄屋大年寄札元等之類
何々御免被成候

何々被仰付候 此段御用番何之誰殿被仰渡候
右之通寛政五丑年七月八日相極

一左之通大目附達有之大年寄ヘ申達置候

炮術稽古有之候節御徒目附下目附致出役候節右場所最寄りニ
寄り安岡町船頭町辺江御徒目附方案内可有之候間立宿取可申
候尤弁当致持参候事故この度不及差出茶煙草計可差出候

一昨日病犬追ニ左五兵衛加藤登八差出候所角屋久左衛門方ニ酒給
候由余程酔之体ニ相見ヘ左五兵衛ヘ相尋候処其旨相違無御座旨申
候ニ付小頭孫八宅ニ左之通申渡させ候

其方共義出役先ハ兼禁酒 川端五五兵衛ヘ
申付置候所昨廿二日昼廻リニ 申渡

林田町角屋久左衛門方ニ支度致所望候処持合之由ニ
酒差出給候段兼ニ之申付を相背不届至極ニ候依之急度可

申付候得共新番之義ニも有之候間先此度ハ用捨を以追込申
付候相慎可罷在候追込五日

於大年寄宅左之通申渡させ候

昨廿二日同心組廻リニ及時刻支度 林田町

致所望候所持合之由^ニ酒差出候旨^{角屋}

兼^ニ出役先^ニ支度致所望候節^者香物^ニ久左衛門へ

茶漬計差出し酒ハ決^ニ差出不申候様^ニ敷敷申渡^{申渡}

置候所申付を相背候段不届之至^ニ候依之急度可

申付候得共先此度ハ用捨を以叱置候以来急度可相守候

但同心組^ル致所望不得止事差出候義も有之候ハ

其段早々可届出候

一郡代中牢屋吟味^ニ明五時^方出候間水責之用意申付呉候様^ニ被申聞

其段小頭^江申達候

一船頭町備中屋三之丞義塩売先吟味昨日差出置候所今日太田舍人^方

右一件吟味相分り事相济候然ル所右体紛敷商売之もの有之候ハ

大年寄^方心付可申旨一学殿被仰聞候段被申聞大年寄へ申達置候

一牢舍人仲平^并穢多久蔵衣類入かへ度伺出承り届

一牢舍人伝右衛門療治^ニ廻り相济候得共未相勝候^ニ付直^ニ又候良全

一川端左五兵衛追込申付候付加人彦人大目附へ申達候所福島為助来

候^{一安岡町^ニ一昨夜祈禱いたし姚灯等燃候付大年寄^方届夜廻へ申付}

候右認落候^ニ付爰^ニ記置

八月廿四日 快晴

一早川八郎左衛門殿先触左之通到来

覚

一本馬 三疋

内 乗掛 貳疋

駄荷 壹疋

一人足 拾五人

内 乗物貳挺 八人

山駕籠壹挺 貳人

具足持 壹人

両掛貳荷 貳人

合羽駕籠貳荷 貳人

右^者就御用早川八郎左衛門義家内一同明後廿一日朝大坂出立

作州久世陣屋へ被相越候条書面之人馬無滞差出且川越渡場へ

ハ前宿^方致通達止宿等不差支様取計継送り作州久世陣屋へ可

被相届候以上 早川八郎左衛門手代 松野平作

大坂^方作州久世陣屋迄

右宿々^{問屋中}年寄

追^上上下拾四人罷越候条泊宿無差支様可被相心得候

泊附 廿一日 兵庫 廿二日 加古川 廿三日 三ヶ月

廿四日 津山 廿五日 久世着

右^ニ付大目附へ罷越先格取計之趣遂相談候上^ニ御用番中へ罷越

先触差出左之通奉伺候処伺之通宜取計候様御差図有之左之通申付

候

一御道筋御通行前改^而不及掃除不見苦程^ニ可致事

一町々保頭并同心組先払

但同心組大文字羽織着用

一同心組御旅宿脇ニ夜中相詰候事

但大文字高張焼灯出之

一隣町五町夜廻り

但三丁目坪井町宮脇町福渡町上紺屋町

一御旅宿 坪井町 三船八郎右衛門

但亭主ハ悴文蔵麻上下ニ東新町関貫外へ出迎之事

一大年寄忝人御旅館江伺ニ罷出候事 玉置源五兵衛勤之

一町年寄 右同断

一御使者 立宿 坪井町 浜屋源右衛門御使者 得能江兵衛

但立宿案内源右衛門右申参候事

一出火御除場 本源寺 大信寺

一在宿医師忝人 渡部玄端 板倉全柳

一東西船渡場へ 御蔵元 利左衛門 船年寄 彦市

但右之通申付置候所御船奉行一場茂右衛門右蔵元船年寄

不及出役小指忝人差出候様御蔵元へ申付候由ニ兼田江

小指忝人差出候所間違ニも有之候哉暮前時一場茂右

衛門右先日野村権九郎殿通行之節之通蔵元船年寄差出候

様ニ大目附右申来候間其旨申付候様申来候得共最早御着

後之義ニ兼田江者間ニ合不申候間其旨茂右衛門へ及返

書大目附へも相達置明朝院庄江者 両役差出候様大年寄へ

申付候

一御先払 立宿 東新町 岡屋源助

一右同人 中宿 宮脇町 土佐屋金一郎

△八郎左衛門殿旅宿名面并御使者立宿名面大目附へ相達候所向方

も御使者名面申来候

△右ニ付同心組番割左之通小頭右差出

廿四日 御先払廿四日 当番廿六日 朝廻り惣助 昼廻惣助 夜廻新治十四日

牢屋立合廿五日

廿五日 御先払廿五日 当番 朝廻り 昼廻 夜廻り

△右御通行ニ付加人忝人申達候所植月十四郎来

△八郎左衛門殿遠見之もの七前時罷掃り八時前御出立と申出候

△御先払之もの七時罷出可然旨申付置候所加人十四郎差出候積之

処遅く来り間ニ不合依之夜廻りニ当て有之候為治俄ニ差出候積

ニいたし候処ニ遠見之もの罷掃候位ニ早々取計御先払兩人道

ニ七時を聞罷出候所存之外御着早く漸林田町右御先払相勤候

段申出候ニ付大目附へ罷越其段委敷申達元来拙者申付不行届所

右之通御失礼ニ相成候段申述如何取計可然哉及相談候処何分

御用番中へ相伺候上可申達旨被申聞候

且又大年寄共申出候者御旅宿間取無之至而手狭ニ殊ニ湯殿等

不宜之旨甚不機嫌ニ問屋共被召呼殊之外被叱段々詫言仕候得

とも承引無之趣申出候ニ付随分下方ニ幾重ニも断為致候様ニ

申達置其旨も与吉郎へ相達候所同意之趣ニ而実ニ不相濟節ハ町

年寄夫ニも不相濟候ハ、大年寄罷出内分ニ而相濟候様被申聞

候処直ニ御用番中へ被相達候趣ニ相見へ無程紙面ニ而右ニ付大

年寄罷出候^而も可然及談話置候得共夫^而ハ大造^二相成不^一宜候
間町年寄切^二殊^一寄候ハ久世迄付添行致断可然旨申来大年
寄呼出し可申達と存候処^江孫右衛門罷出申候^者問屋^并町年寄
断^二ハ中々承引無之大年寄急^一罷出候様再三申来可伺出哉と
存候所へ大年寄急^二不来^一おいてハ役所へ罷越及面談候間案内
可致旨火急^二被申聞由再三申来不得止事齊藤孫右衛門罷出候所
手代^并家来体之者列座^二公義役人を輕しめ候杯と申殊之外被
叱乍恐入段々詫言申述候処奥^者八郎左衛門殿手代を被呼直^二逢
可申聞逆八郎左衛門殿直^二孫右衛門へ被逢拙者共ハ輕きもの
なから公儀御用^二致往来候故何方^一も先^并使者等も有之
当所^二ハ無之候得共町奉行も被出候位之義^一候所仮湯殿位之
旅宿^二婦人召連甚致難義候ケ様^一輕しめられ候^而ハ御政道も
立兼候義故其段相糺杯と被申殊之外被叱色々断申候所今夕之所
ハ一夜之義^二候得^者差免候得共以來ケ様義無之様^一被取計候様
と被申入座^二相濟候^一付是^者右為御礼問屋召連麻上下^二
罷出可申尤問屋ハ羽織袴^二可出旨孫右衛門伺出先其通取計置
候様^二申達其段与吉郎^江紙面^二申達置候^一
且又与吉郎^者先弘間^二不合義ハ今夕之事^一も及間敷何分明日可
被仰談旨御用番中被仰聞候旨紙面^二申来候^一
△早川八郎左衛門殿七時過旅宿へ着之旨御用番^并大目附へ紙面^二
^而相届候^一

達候処其趣御取計有之^并右病犬林田上之町野尻和助中村栄治吉田
折治辺^二居候旨申述候所勘定奉行へ達有之今日^者犬追加人引替^一
相成野尻和助中村栄治来
一郡代中牢屋出役田の村庄助水責□□穢多吉蔵吟味有之朝夕藤蔵百
蔵差出候
一船出入^二付田原もの弥塩^者売高直^二相成候義ゆうか下村^者八田原之
意^一随ひ塩津山船へ売候義相止候段風説書孫左衛門差出候太田舎
人^江差出候
一哥野村盜賊手懸之義有之趣^二付明日^者目明平助^一商人差添差出度
少々入用可相渡旨伺出承り届ル
八月廿五日 少雨
一早川八郎左衛門殿明六時三船八郎右衛門方御出立町分通行無滞相
濟候段御先^并大^者年寄も届出其段御用番^并大目附へ紙面^二相届
候^一
一早川八郎左衛門殿院庄川無滞渡船相濟候段御蔵元利左衛門船年寄
彦市^并大^者年寄も届出承り置
一大目附伊達与吉郎方へ罷越昨夜八郎左衛門殿問屋^并大^者年寄被叱候
趣具^二申達候所旅宿八郎左衛門殿存寄^一不^二叶義^者御用番へ直^二拙
者^者可申達筋と存候得共昨夜右之段被申越候手紙も差出置何れ今
朝罷越候間自是申上へ^く候旨被申聞左候ハ御達相待罷在候段申
述^并右御様子^二寄組之者追込等被仰付候様之義^一候ハ^者加人早々
被仰付可被下候尤右御先^并相勤候組之者^者ハ先立宿申付置候段申述
置候然ル所後刻紙面^二与吉郎殿左之通申来候^一

昨日早川八郎左衛門殿通行之節先扨同心組遅刻ニ相成候義者
先役筋承^二置候猶追^而御達申候迄^者是迄之通同心組出役候様
御取計可有之候且又先扨間ニ逢不申猶又旅宿取計八郎左衛門
殿存寄ニ不相叶候ニ付^而之義断等ハ先無之可然之旨ニ御用番
申聞有之候尚此義も追^而御談可申候以上

右門殿 与吉郎

一 牢舎人鉄藏穢多新藏療治二廻り相濟快候ニ付休薬為仕候旨藤木良
全^并牢番も届出候
一 林田辺之病犬此間日々追廻り候所漸今朝廻り之者打殺候段届出依
之病犬廻り引取候様申付置其段大目附へ相届^并加入式人も明日
ノ差戻候段相届候
一 船出入田原ニ塩ノ売下説書藏合孫左衛門差出太田舎人^江差出候
一 雀廿七羽小勤者ノ相廻り致拜授候

八月廿六日 晴

一 船出入一件ニ付川下^并岡山之方監察ニ差遣候大村屋源右衛門昨夜
罷歸候由聞合手扣差出候処先日已来風説之通差^而相替候義も無之
格別委敷義も不相知候且又稲実屋豊屋ノ塩申遣候所是迄之運賃ニ
^而ハ積不申七分も増運賃出候ハ積可申由^而埒明不申尤返書も
不差越源右衛門へ伝言いたし候由藏合ノ申出太田舎人へ差出候所
不快之由^而直ニ差出候様申来一学殿^江罷越差出候所猶何れも之
存寄承り申出候様被申聞候尤右ニ付昼時ノ藏合方へ新左衛門差遣
以来取計考申談申出候様ニ申付置候故其段及御答置候右ハ孫左衛
門喜左衛門不快ニ付新左衛門へ申合遣候事也

一 大久保殿領分当国久米北条郡山手公文南村三平悻字平と申もの去
ル辰八月戸川町岩見屋孫兵衛引受入帳仕候処当三月商内ニ罷出不
罷歸行衛不相知候段届出例之通百日尋申付^并出奔届延引之段叱置
候

八月廿七日 曇 小雨

一 戸川町岩見屋孫兵衛藤四郎義去已四月黒田要人殿^江奉公ニ出候
所無滞暇出候間人別入願書承り届ル
一 牢舎人庄助新八病氣申出大年寄へ申達ス
一 大目附伊達与吉郎ノ御代官^江船^并藏元船年寄差出候先例調具候様
ニ申来宝曆十一年以来相調候得共両役申付候義不相見依之大年寄
へ申付候処是又同様之義ニ付藏元へ申付候所文五郎廿ヶ年相動候
得共御代官衆へ御船^并藏元船年寄等呼出候旧例無之昨已年石代改
勝与八郎殿^并同年論所取計ニ被相越候稻垣藤四郎殿へ差出が始^ニ
^而当年野村権九郎殿早川八郎左衛門殿^江出候計ニ^而其外藏元船年
寄不差添船計差出候例絶^而無之処先年三助様御通行之節小指計ニ
^而差出候様被仰付候其節始り事^而此間八郎左衛門殿御通行之節
川辺へ小指計^而差出候外ハ右之取計無之旨申出其段与吉郎へ紙
面^而申達候

八月廿八日 晴

一 御用日登城
一 東新町札元山本三郎左衛門方へ去ル廿五日夜盜賊這入脇指一腰紙
入二ツ取候届書御用番中へ差出大目附へも達置候
一 船出入一件下説竹内又右衛門出府用意之風聞孫左衛門差出御用番

中へ差出候

一 浚明院様来月十三回御忌ニ被為当候ニ付配當場御布施願出御用番
伺濟ニ付大目附へ相達勘定奉行へも及通達置御聞届申達候

一 公儀御出生様格姫君様と奉唱御台様御養被成候御名ニ差合候銘々
相改候様大目附廻状到来町方并組中へ差出候

一 御領分東南条郡下押入村義助甥龜吉と申もの細工町屋根屋嘉兵衛
養子ニ引受度人別人願下方引合相濟候段申出承届

一 美濃職人町孤独長七義去ル七月病氣大切之旨届出見分差出候処快
方ニ相成候旨届書差出候

一 材木町松山屋伊助所持之旅人旅籠屋株当年々来ル戌年迄五ヶ年
之間戸川町岩見屋孫兵衛借り受渡世仕度願書承り届

一 船頭町田原屋稻藏借屋住人弥兵衛并悴龜吉右家内二人東南条郡
林田村伊右衛門方へ引越度人別除願下方引合相濟候段申出承り届

一 牢浚申付候所無別条段佐十郎左五兵衛届出候
一 川端左五兵衛追込昨日迄ニ五日ニ相成候間今朝差免候仍加人
差戻候段相届

一 三浦十郎左衛門公郷寺兼帯法福寺鐘供養観音御戸開建札之義伺
濟候由東大橋ニ建札仕度旨申来大年寄へ申達候

一 上紺屋町作人庄兵衛家屋敷四年以前卯十二月下紺屋町稲田屋藤十
郎取次ニ面百匁之質入ニ相願候処一向不筋立当二月大年寄の濟口

申付置候所未相濟又候願候ニ付来月中ニ引渡候様ニ大年寄伺出承
り届

八月廿九日 快晴

一 備前鹿忍塩問屋式人昨夜稻実屋義七郎方へ参此間塩被申越候ニ付

増運賃取候段及返答候所其後御沙駄無之ニ付承リニ罷越候由義七
郎の申出右返答差向候義ニ付難及返答ニも何分醬油屋仲ケ間申合

候上ニ面可及返答旨及差図置可申哉と蔵合孫左衛門の昨夜及深更
伺出其通宜取計候様申達置右之趣今朝一学殿へ申達候所右塩問屋

と義七郎と応対之趣認差出候様被仰出其段蔵合へ申達置候
一 塩払底ニ付備前へ懸合之考認出候様御用番中先日被仰出達置候所
蔵合考書差出候依之拙者考書も相認太田舍人披見之上御用番中へ

持参差出候
一 新魚町ニ面百万遍執行届出夜廻り同心組へ申達候
一 郡代所の牢舍人伊作吉蔵吟味ニ付呼出し申来為治百蔵差出候出入
取計候

八月晦日 雨

一 関貫番賃銀月之通相渡
一 備前鹿忍塩問屋来稻実屋義七郎へ応対之趣義七郎の認出候一学殿
江紙面ニ面差出候

一 塩払底ニ付宮田喜左衛門考書差出紙面ニ面一学殿江差出候

九月 小

御家老 安藤丹後殿

御年寄 黒田要人殿

大目附 松岡治部助

大年寄 蔵合孫左衛門

諸吟味 宮田喜左衛門

九月朔 壬戌旦 晴

一 牢舎人伊助伝右衛門快候 = 付休葉為仕候段双方と届出候

一 大目附松岡治部助と備前文通扣取 = 来差出候

一 御代官野村権九郎殿丹後表檢見御用 = 付明後三日被引取候旨被申

渡候之由真賀と申越候段郡代所と為知来候

一 宮田喜左衛門へ内々左之通申付候

油方之義不レリ之越 = 相聞候所此節左様之趣 = 而ハ外聞実意

共 = 不相濟候間其方へ任せ候間早々取鎮急 = 埒明可申尤以後

とも致後見万端心付不埒無之様 = 精々可取計候

一 大目附松岡治部助と丹州久美浜御代官野村権九郎殿一先被引取明

後三日被致出立候間先頃被參候節之通致出役其外取計先日之通可

申付旨 并御貸人馬も申付置候段申来大年寄 并小頭へ申達候

一 左之通先触到来写差出候但野村権九郎殿先触

御朱印写 先月十六日記置候通故略之

覚

御朱印

一人足 四人

一馬 四疋 但人足八人 = 代ル

一賃人足 五人

ノ 人足 拾七人

内

御用長持 壹棹

具足 壹荷

乗物 壹挺

茶弁当 壹荷

兩掛 壹荷

合羽籠 壹荷

竹馬 壹荷

山駕籠 壹挺

ノ

一賃本馬 貳疋

一賃輕尻馬 貳疋

右 者論所御用中猶又丹後但馬国就御用野村権九郎義明後三日明

六時美作国西々条郡河本村出立丹後国久美浜陣屋迄相越候間於

宿々書面之人馬寄置少も無遲滞繼立賃馬ハ御定之賃錢受取之可

差出且川々渡船場等 者從前宿致通達不差支様取計尤止宿 = 而 者

御定之木錢米代相払候間所有合之野菜を以一汁一菜 = 相賄馳走

ケ間敷義致間敷候此先触早々繼送豊岡と久美浜村夫と陣屋 江可

被相届候以上

午 九月朔日

野村権九郎手代

広石武藤太

松沢幸助

広石養右衛門

中村莊太左衛門

河本村々津山勝間田粟井中村通下

町村夫々三河通山崎々前ノ庄通但州竹田通

豊岡久美浜迄 右宿々問屋中
年寄

泊り附

三日 勝間田 四日 下町村 五日 山崎 六日 森垣

七日 伊福

右先触写及深更差出候付翌朝御用番中へ差出大目附へ相届候

一 銀札場奉行々錢六拾九箇川下ケ申来例之通裏印取計候

九月二日 晴

一 御代官野村権九郎殿明三日通行ニ付両役致出役候間火用仮役被仰

付候様ニ大目附へ相達候

一 野村権九郎殿通行ニ付妙法寺脇ニ而岩田登之助御使者相勤候間立

宿取計候様御奏者伊達与吉郎々申来大年寄へ申付ル

一 野村権九郎殿通行ニ付組致不足加人式人大目附へ申達候則番割左

之通

御先払 在十郎 兼盛 百盛 砂兵衛 御供 兼盛 百盛 砂兵衛

当番 次六 兼盛

昼廻 新治

夜廻り 為治

右ニ付町方取計左之通

一道筋御通行前改而不及掃除不見苦様ニ可致置事

一 町々保頭先払

一 同同心組先払 立宿安岡町綿屋万吉

一 東西渡船場御船老艘ツ、院庄 藏元五郎 船年寄市郎右衛門

兼田 御藏元利左衛門 船年寄藏右衛門

一 御使者岩田登之助 立宿 永田屋喜七 下宿公文屋清左

衛門

但妙法寺脇ニ而相勤候事

一 遠見人足 院庄へ忝人 筋達橋へ忝人

一 町奉行 立宿 宮脇町阿賀屋助五郎 世町奉行出役之義典今町年寄 安岡町へ出役向方へ申達候事

但西大番所前へ罷出挨拶左之通

御用向ニ付急ニ御帰被成候由御苦勞奉存候御用事等

も御座候ハ、可被仰聞候

一 郷中先払も有之立宿ハ玉林 （ていりん）ニ而相濟候事

一 郡代川崎へ出役之由

一 加人御使組野田数右衛門日笠伝治来

一 船出入一件監察ニ大村屋源右衛門備前へ差遣候入用廿六匁八分二厘之由証文差出奥印書取計候

一 船出入一件懸合扣江戸御留主居へ相廻可然分取調三冊ニ、ノ太田舎

人江差出候

一 坪井町かしの屋幸右衛門義因州鳥取新町高島屋和助方へ四十五日

之逗留ニ而明三日出立願書大年寄承り届ケ差出

一 野村権九郎殿出立聞合之人足及深更罷帰弥六時出立之旨申出候

九月三日 快晴

一 野村権九郎殿通行ニ付七時半時供揃正六時出宅宮脇町阿賀屋助五郎方へ罷越候処九ツ前時通行西大番所向側へ罷出居候所駕籠脇ノ尋来御役名姓名申達候所権九郎殿駕籠之儘ニニ拙者前へかき寄せ

此方ノ一步も進ム事不成様ニ駕籠をかきすへ戸を明ケられ直ニニ挨拶ニ不及候ニハ不叶様ニ仕懸られ無拠腰を屈メ候処御免被成と挨拶有之不得止事其儘と及挨拶夫ノ昨日記置候通及挨拶候処毎度御苦勞入御念候朝夕冷氣募候旨被申依之御道中御堅勝被成御旅行候様申述候処其儘駕籠上リ候

右畢ニ阿賀屋助五郎方へ引取扣居候所町分通行無滞相濟候段東新町より告来り早々引取帰リ懸御用番中へ相届大目附へハ馬脇ノ届手紙差遣九時過帰宅夫ノ早々致登城候処最早御用所ハ御下リニ付権九郎殿下乗無之段大目附へ申達候

供立口之者 馬百藏 草り取手人 合羽籠二荷

一 大目附松岡治部助ノ先頃内差出候備前船出入一件伺書并右之書類被差戻尚又今般備前へ文通下乗伺置候所思召ニ不叶治部助下案之通差遣候様御用所御差図之由被申聞見候所少々愚意申述度義有之附紙いたし差出候尤治部助と色々致問答候所治部助存寄ハ詰ル所此方之負ケ公事と見込候由拙者所存トハ大イニ致齟齬候事也

一 東新町山本三郎左衛門方被盜もの、届書大目附ノ被差戻町触取計可申郡代所へも同様及通達候様申来町触流取計郡代所江も同様申通候

一 大目附廻状到来ル八日

浚明院様十三回御忌ニ付於地藏院御供養被仰付候段為御知申来先例取調候処左之通ニ付其段町触差出

七日晩ノ八日迄町中自身番相勤諸事相慎火之元別ニ可入念候右之通組中へも廻状差出候

一 牢舎人福渡町竹尾屋直兵衛質物福永屋吉兵衛方ニ有之候ニ付同人妻義受返し度願書承リ届候

一 牢舎人安岡町伊勢屋弥助質物材木町三家屋幸三郎方ニ有之候間同人妻受返し度願書承リ届

一 野村権九郎殿八月十八日通行節問屋入用七拾四匁并御同人今日通行之問屋入用七拾三匁九分七厘有之候由小手日記喜左衛門差出及一見差戻候

一 東新町ノ大隅宮祭礼ニ俄芸仕芸台差出度内意大年寄伺出昨年之通を以存寄申達置候

一 二階町松本屋伊助と申もの身延参詣ニニ江州彦根御領分坂田郡顏戸村ニニ病氣付同所ノ送り出し摂州尼ヶ崎領分河辺郡山田村ニニ致病死飯葬致置候段松平遠江守殿御役人ノ大坂村尾左右衛門方へ申来候由并顏戸村二階町へ送り状尼ヶ崎役人ノ届来候段大目附伊達与吉郎ノ申来遂吟味候様大年寄へ申付候

九月四日 快晴

一 二階町松本屋伊助他出之義大年寄方ニニ相糺候処且那寺本行寺ニニ寺往来内々ニニ貫受無願四月十四日撰州妙見宮へ参詣ニニ罷越品ニニ寄身延山江も参詣仕度旨ニニ罷出候ニニ相違無之趣口書取差出候伊達与吉郎へ申達候所月番へ可申達旨被申聞依之松岡治部助へ申

達候所何分無願罷出候御咎先例之通可相伺大坂^江も其段可申遣旨
尤年寄^江彦根へ之返書も頼遣候^而も可然旨挨拶候

一 備前へ塩運賃上ケ候懸合文通昨日松岡之下案ニ付紙いたし候通明
朝立^ニ可遣旨申来依^而飛脚之者申達候所萩野勘十郎来相渡候

九月五日 快晴

一 船出入雑説大村屋源右衛門方へ伊助と申もの参田原船持と恵助と
致争論塩高売いたし候由恵助訴候由右ニ付高売不致様ニ名主方相
達候風聞蔵合孫左衛門認出し翌六日太田舍人^江差出候

一 美濃職人町孤独長七兼^而病氣之処今日相果候段大年寄^江届出追^而
可及御沙駄候

一 大坂立売堀二丁目播磨屋惣吉一人例年之通小間物売ニ来候段中之
町小山屋与三右衛門宿切手差出

一 信州木曾筑磨郡菰原宿古屋善吉一人例年之通木櫛御売来候段右同
人宿切手差出十一月廿六日帰ル

一 元魚町糺屋伊助義京都麩屋町近江屋七三郎方へ三十日計之逗留^ニ
^而来八日出立願大年寄承^リ届差出候十月六日帰

九月六日 快晴

九月七日 曇 早天雨

一 備前竹内又右衛門方へ差遣候飛脚今四時前受取書取之罷帰^リ大目
附月番松岡治部助へ差出候

一 明八日夜大隈宮宵祭之処林田六町^江揚挑灯差出度伺出候御法事之
事ニ候得共夜分ハ苦有之間敷哉と大年寄^江伺出寛政四子年御七回
御忌之砌調見候所揚挑灯差出候^而も不苦旨及差図置候間承^リ届候

間例年之通差出候様及差図候

九月八日 雨

一 御用日登城

一 下紺屋町作人定四郎借屋住人喜与助妻義出生雲州神戸郡人雲田
村又兵衛娘ニ候処十五年已前辰二月貰受人別人入仕候処此度離縁仕
親元へ差返度人別除願御用番御聞濟ニ付大目附へ差出置御聞届申
達候

一 美濃職人町孤独長七義去ル五日相果候段見分一札御用所^江持出其
段口達^ニ申達大目附へも相届見分一札差出候且又勘定奉行へも
其及^ニ演達

一 中之町綿屋勘兵衛義弟玉林佐助と申合商内仕候ニ付御裁許伺書御
用番中へ差出置

一 二階町松本屋喜助父伊助義無願身延山参詣いたし撰州尼ヶ崎領山
田村^ニ相果無願他参御叱可申渡伺書御用番中へ差出置候

一 右二階町松本屋伊助尼ヶ崎領^ニ致病死候段同所大坂留主河野周
右衛門^江大坂村尾左右衛門へ申来^并彦根領顔戸村^江二階町年寄へ
書状来候ニ付右御挨拶ハ大目附中^江申参候間自拙者ハ二階町之も
のニ相違無之旨^并顔戸村へ町年寄^江之返書左右衛門方へ差遣可然

旨大目附差図ニ付其段左右衛門へ申遣尤顔戸村へ之返書も頼遣候

一 備前船出入一件竜野^ニ吟味相済江戸伺ニ相成呼出し候もの不残
在所へ被差戻候下説大村屋源右衛門差出^并西大寺肥後屋多七^江運
賃上ケ致候段稲実屋義十郎方へ申越候書状蔵合孫左衛門差出太田
舍人^江差出候所無程被差戻候

一 備前船出入一件竜野^ニ吟味相済江戸伺ニ相成呼出し候もの不残
在所へ被差戻候下説大村屋源右衛門差出^并西大寺肥後屋多七^江運
賃上ケ致候段稲実屋義十郎方へ申越候書状蔵合孫左衛門差出太田
舍人^江差出候所無程被差戻候

一 備前船出入一件竜野^ニ吟味相済江戸伺ニ相成呼出し候もの不残
在所へ被差戻候下説大村屋源右衛門差出^并西大寺肥後屋多七^江運
賃上ケ致候段稲実屋義十郎方へ申越候書状蔵合孫左衛門差出太田
舍人^江差出候所無程被差戻候

一東新町肥後屋長左衛門父長助義紀州高野山へ參詣廿日計之逗留

而 明九日出立之願差出承り届十月五日帰ル

一但州生野御代官稻垣藤四郎殿先触左之通差出

覚

一人足 拾三人

内

四人 乗物一挺

式人 具足

三人 長持一棹

式人 兩掛二荷

式人 合羽籠

式人 竹馬

一本馬 三疋

内 式疋 人足式人代

右ハ稻垣藤四郎当国方為^(つ)検見明七日明六時但州生野陣屋出立作

州西々条郡下原村迄被罷越候条於宿々書面之人馬無遲滯差出可

被繼立候尤渡船川越止宿等之義前宿^ろ通達いたし差支無之様取

計可給候此先触早々順達村留^ニ着之上可被相通候以上

稻垣藤四郎手代

大塚十蔵

高橋貢一郎

林 桂助

服部三五兵衛

牛 九月五日

森垣 真弓 猪篠 粟賀 尾形 仁豊野 姫路 饒西

皆崎 千本 細月 佐用 土居 勝間田 津山 下原

原村 猶村^(つ) 小洲 塔中 小中原 齋ヶ谷 青柳 河波

小洲 市場 是宗 皆木

右宿々 庄屋 問屋中 年寄

泊り附

七日姫路 八日細月 九日勝間田 十日原 十一日小洲

十三日皆木

右先触御用番へ致持參諸事近例之通取計拙者義も出役不仕候段相

伺候処其旨取計候様被仰出候尤大目附へ紙面^ニ相届郡代所へ及

通用

一橋本町蓬萊屋佐市役介佐太郎義先月廿八日不斗罷出不罷帰所々相

尋候得共行衛不相知段届書差出先例之通百日尋申付候

一西北條郡小原村善五郎倅字吉義十二ヶ年已前吹屋町北村屋弥七養

子^ニ仕候処此度離縁仕親元へ差戻度願下方引合相濟候段申出承り

届

一元魚町豊屋喜兵衛義大坂大川町浜屋橋美作屋辰三郎方へ廿日計之

逗留^ニ而 来ル十日出立願差出承り届同廿五日帰ル

九月九日 晴

一重陽^ニ付例之通組中^ニ謁神酒差出候

一右^ニ付内山下向相勤候

一大目附松岡治部助^ろ明十日稻垣藤四郎殿通行^ニ付近例之通宜取計

候様申来尤拙者不及出役^并東西へ御船も不差出御先払計差出候事

一御奏者番伊達与吉郎ハ明十日稲垣藤四郎殿通行ニ付御使者被差出
東大番所前ハ二橋要助罷出候間立宿申付候様申来大年寄ハ申達候
所材木町三家屋元右衛門ハ申付候段申出直ニ要助方ハ及案内候様
申付ルハ東新町年寄ハ御使者有之段藤四郎殿ハ及案内候様申付候
一右ニ付御弘立宿東新町松本屋新六ニ申付候段申出小頭ハ申達候
一大隅宮祭礼ニ付新治百蔵為治又六警固差出候処無別条夜ニ入引取

九月十日 快晴

一稲垣藤四郎殿町分通行無滞相濟候段御先弘新治又六ハ大年寄も届
出御用番ハ大目附ハ手紙ニ相届
一孤独扶持百六拾六匁ハ分真北類藏持参大年寄ハ相渡又但十一月迄
之分尤拾壹人分ニ長七分除之

一関貫番賃銀百五拾壹匁六分真北類藏持参受取但当年中之分也
一稲垣藤四郎殿先日之先触ニ十一日十二日小涸と有之候ニ付人馬間
屋ハ間合之人足差遣道筋相尋候得共不相知旨ニ不申聞夜四時頃
迄相待承り候得共御道筋ハ一向不相知旨ニ不申聞候得共人馬入
用ハ無之旨申事ニ付罷帰候段及夜更大年寄ハ届出ハ郡代所ハも藤
四郎殿西筋出立之旨申来候段通用有之併御城下通行歟一ノ宮道通
行歟之程一向不相分候得共町分通行之程も難計義ニ付若又致通行
候ハ先日之通諸事可取計旨大年寄ニ申達且又同心組ニも御先弘
ニ出候様寅刻頃申付候処又々問屋ハ人差遣候所曉七時出立之旨併
道筋ハ未相知旨承り罷帰候由人馬問屋ハ申出候ニ付尚又直ニ罷出
候様同心組ハ申遣右之通手配仕置候段大目附ハ手紙ニ相届置候

九月十一日 快晴

一稲垣藤四郎殿九時過町分御入込ニ無滞通行相濟候段御先弘文蔵
左五兵衛ハ夫々ハも右同様届出尤人馬入用無之由ニ候処俄ニ駕籠
人足四人差出候由届出其段大目附ハ相届且夜前ハ之取計方御用番
中ハ紙面ニ相届候

一牢舎人庄助新八療治二廻り相濟候段申出跡医師之義大年寄ハ申付
候
一惣牢ハ揚り屋繕出来且又百性牢と七番之間損候由ニ付入替申出其
段明日昼廻り之者ハ申付候

一古借金銀御取計方公儀被仰出書類御留主居ハ遣候扣不殘郡代所ハ
貸渡候

一坪井役人吉井要助交代ニ滝口与次右衛門来候段案内之書状来及相

答

九月十二日 快晴

一牢舎人庄助新八兩人共休薬候ニも可然旨中村易安申出候段大年寄
申出依之休薬申付候

一安岡町荒神今夕宵祭ニ付例歳之通揚焼灯差出候旨同町ハ届出候段
大年寄申出承り達

一田中幸助ハ書状到来御勘定組頭勝与八郎殿ハ頼ニ付明和五子年ハ
同九辰年迄年々十月中御弘米有之候節計之直段書ハ同人ハ申越候
寛政元年以来之十月御弘米相場と御代官所ハ差遣候町米相場と
両様共差越候様ニ申来尤寛政元年以来之相場書之義ハ先書ニ申越
候様之文体ニ候得共未着不致候右書状明日可及御沙駄候事

九月十三日 雨

一御用日登城

一田中幸助ハ来候相場書一件之書狀御用所へ差出大目附五も差出候
尤調出来次第相廻候様御用番中御差四候右二付中買共手前為相
糺候所御払米買受候扣無之漸兩三年之分手扣有之候段申出候付御
勝手方御調被下候様上原彦藏へ懸合置候

一大目附伊達与吉郎ハ左之通田中幸助ハ申来候間早々取調出来次第
相廻候様被申聞尤御用番中ハも右之段御噂有之候

御勘定奉行柳生主膳正殿ハ御呼出二付大手御番所後御勘定所
五罷出候所左之通御達

出席

御勘定組頭

岡松八右衛門殿

御勘定

木代貞右衛門

御領分美作国津山町米屋共十月朔日ハ同晦日迄日々買入候上
中下米之直段口々不洩様天明七六年ハ去々辰年迄十ヶ年分相
糺書付可被差出候尤御領主払米買受候直段ハ被書出候二不及
候

午
九月

左之通一同御呼出二而右御同人ハ達有之

此方様

堀田大蔵大輔殿衆

大久保安芸守殿衆

土岐山城守殿衆

土屋但馬守殿衆

三浦志摩守殿衆

御領分美作国御收納米之内石代銀二而被取立候義も有之候哉

左候ハ、右直段ハ何方之相場を被相用候哉直段立方之義委細
被申聞候様存候

口達

右之趣相達候様主膳正殿被申渡候間取調之上夫々認差出候様
被申聞候

九月朔日

御呼出二付 田中幸助

右二付急二取調差出候様大年寄へ申達候

一京町辰野屋伊助役介茂四郎義五月七日出奔仕百日尋申付置候所弥
行衛不相知最早百日余二相成候二付除帳願差出御用番中御聞濟二
付大目附へ差出置御聞届申渡候五五月三日帰住申付

一戸川町斎藤孫右衛門家守今川屋文助借屋住作人幸右衛門娘義此度
大久保安芸守殿領分当国久米北条郡里公文村百性喜兵衛妻二差遣
度人別除願右同断取計済

一來ル十八日徳守宮宵祭二付例歳之通町々関貫九時迄開置候段大年
寄ハ届出御用番五大目附へ相届候

一二階町松本屋伊助無願他参仕尼ヶ崎領二而致死去右無願致他参候
もの、御咎先例追込五日二候得共伊助義ハ隱居体之義二付御叱而
已申渡可然旨先日伺書差出置候所今日御用番中ハ先例之通追込五
日可申渡旨被仰出候二付左之通大年寄宅二而小頭部屋目附差出申
渡候

二階町松本屋

父伊助義無願致他参不埒之段叱

喜助

追込申付候 但日数五日

右旦那寺本行寺往来手形内分^ニ差出候御咎可有之処同人死去

付其段門中へ被達置候由^ニ付寺社取次細江武助へ今日申渡候

段懸合候尤申渡相濟候段御用番^并大目附へ相届候尤大目附治部

助頼合之由今日ハ伊達与吉郎被相動候由^ニ付同人^江相届候

一公儀御触大目附^左之通廻状到来写取町方^并組中へ差出候

緒敷鉢極之もの至^而高価^ニ致売買候趣相聞候間以来高価^ニ商

売致間敷旨被仰出候

一浚明院様御法事御布施頂戴候受書配當場差出御用所へ持参口達^ニ

申達御聞濟^ニ付大目附へ差出候

一小性町瓜生原屋平吉惣兵衛船稼被差免候様伺書太田舍人^江差出候

九月十四日 晴

一河原町鎮守宵祭^ニ付先例之通揚挑灯沓ヶ所差出候段大年寄届出夜

廻り同心組へ申達候

一久世御代官早川八郎左衛門殿先日三船八郎右衛門方^ニ止宿^而甚

不機嫌^ニ大年寄被叱候応対一件齋藤孫右衛門認出候

一小性町瓜生原屋御裁許伺書昨日差出置候所太田舍人^右存寄被申聞

認かへ差出候様^ニ被申聞相戻候

一中之町飯綱屋新七義百日尋限日来候処当七月二日延願差出依之過

料不申付日延願承り承り届置候処弥行衛不相知候段届出候^ニ付先

格之通過料五百文ツゝ差出候様^ニ申付候

一材木町梅鉢屋助右衛門所持之旅人旅籠屋株去ル辰年^右当午年まで

三ヶ年之間林田町因幡屋磯右衛門へ貸置候所限日来候^ニ付取戻候

届書差出承り届

一右材木町梅鉢屋助右衛門所持之旅人旅籠屋株当午年^右来ル戌年迄

五ヶ年之間京町福崎屋弥七借り受度願書差出承り届

一元魚町北原屋長七悴治助義此度大坂天満九丁目玉屋藤兵衛方へ当

午年^右来ル申之年迄三ヶ年之間奉公^ニ差遣度願父長七差出候承り

届^而二月廿七日又候三ヶ年亥年迄之追願承り届^甲五月十五日

帰ル

一林田村上之町政右衛門娘義京町戸島屋伝吉役介^ニ引受度願下方懸

合相濟候段申出承り届ル

一明十五日夕鍛冶町宗道大明神宵祭^ニ付揚挑灯例歳之通差出候段大

年寄届出承り置

九月十五日 雨

一安岡町大黒屋利兵衛悴六兵衛義油仕入^ニ大坂高麗橋伊木屋三郎兵

衛方へ廿日計之逗留^而明十六日出立大年寄承届候由^而差出十

月三日帰ル

一東新町岩屋文蔵義右同断願差出十月六日帰

九月十六日 曇

一札元三船八郎右衛門妻出産^ニ付血忌引込候段届出承り置

九月十七日 小雨

一勝間田町福原屋佐助母義当五月廿三日四国遍路百日計之願^而罷

出候処未罷帰候^ニ付五十日之日延願差出承り届十二月二日又五十

日追願差出

一^{上月廿八日尚又届願出上月三日帰ル}中之町鳥羽屋八重治借屋住作人茂市妻娘右同断日延願差出し承届

一牢舍人庄助新八^{新吉}。服薬願出大年寄へ申達候処藤木良全へ申付候段届

出候

一 牢舎人新吉庄助新八新藏久藏惣助衣服出入伺出承り届

一 徳守宮祭礼宵祭ニ付明十八日夕町中揚挑灯差出候段大年寄ル届出

承り置候

一 右同断ニ付同心組番割左之通差出

一 十八日小頭出番昼廻新治又六百藏為治 十九日小頭出番昼廻文

藏砂兵衛新治又六

一 牢舎扶持三俵内貸証文與書取計候但来月_江三斗三升三合七夕五才持越ス

九月十八日 晴

一 御用日登城

一 二階町松本屋喜助追込昨日迄ニ_而五日ニ相成今朝差免候段出仕之

上御用番_并大目附へ相届候

一 中之町飯綱屋新七義博奕吟味ニ付先達_而致出奔当三月改_而百日尋

申付不尋出ニ_而おいてハ過料可申付旨申渡置候処右限日七月ニ尋日

延願差出承り届置候処弥行衛不_而相知段昨日届出候ニ付並之通組合

共過料五百文ツゝ差出候様ニ昨日申付置候段御用番_并大目附へ相

届候

一 京町屋根屋瀬助義乱心ニ付借牢仕居候所全快仕候ニ付出牢願出御

用番御聞濟ニ付右願書大目附へ差出置御聞届申達今日ハ昼廻無之

ニ付当番栄治差向出牢取計候

一 東新町肥後屋長左衛門方へ去ル六日夕盜賊這入脇差一腰腰指_ツ

盜取候段去ル十四日届書差出今日御用番中へ申上_并届延引之段叱

置可申之旨相伺候処御聞濟ニ付其段大年寄へ申渡候且又右盜まれ

もの市郷触流可取計旨御聞濟之処右届書御用番中御留置候ニ付追

_而下り候節大目附へ申達触流し可取計候翌十九日大目附へ差出触

下し取計候

一 伏見町綿屋藤吉二階町田原屋武兵衛同町出雲屋与次右衛門同町疊

屋佐吉右四人御堀へ足代下候願差出大目附へ差出候

一 小性町瓜生原屋宗兵衛平吉御裁許伺書認かへ初差出候伺書ニ添太

田舎人_江差出候

一 三浦志摩守殿当所止宿取計書大目附伊達与吉郎_并申来認差出候

一 秋葉宵祭ニ付来ル廿三日西今町揚挑灯差出候段大年寄届出候

一 関守宵祭ニ付来ル廿七日西今町揚挑灯差出候段大年寄届出候

一 元魚町年寄藤野屋喜助病死届出候

一 美濃職人町年寄役藤野屋喜助死去ニ付老入役ニ相成候間当分兼帶

元魚町年寄福永屋源吾へ可申付旨大年寄伺書承り届

一 宮田喜左衛門義兄藤野屋喜助死去ニ付定式忌服引込候段大年寄_并

届出候

九月十九日 快晴

一 大坂村尾左右衛門方返書到来二階町松本屋伊助義尼ヶ崎領ニ_而相

果同人所持之品有之候間可相渡候間親類ニ_而も參候事哉否承度其

上ニ_而尼ヶ崎役人_江可及挨拶旨申来近便再答可遣事

一 松岡治部助方昨日相届候中之町飯綱屋新七組合名面認出候様申来

左之通申遣

中之町飯綱屋新七 父源十郎 組合 きろ 豊八 勢平 文

藏 茂市 孫三郎 喜作 磯吉 又兵衛 組頭 甚兵衛
メ拾老人

是迄過料申付候組合之名面差出候義無之候所右組合名面尋來候間
差出候得共右同時出奔之者之組合過料申付候^キ名面不差出新七組
合計認出候も異成もの^ニ候得共紙面^ニ申來候事故不及否右之通
^ニ認差出候

一 德守宮祭礼無別条相濟候旨警固小頭孫八平組新治文藏為治又六届
出候^ニ付御用番^キ大目附^ニ紙面^ニ相届候

九月廿日 雨

一 鍛冶町山形屋惣兵衛義大坂大川町和泉屋六兵衛方へ廿日之逗留^ニ

^而 明廿一日出立之願書大年寄承り届差出候

一 京都烏丸通六角下町二文字屋九兵衛手代清四郎茂兵衛兩人來候段
京町海老屋長右衛門宿切手差出翌末二月廿二日帰ル

一 奈良今井町墨屋伊兵衛手代藤七一人例歳之通來候段京町美濃屋平
五郎宿切手差出十一月十日帰ル

九月廿一日 晴

一 中之町飯綱屋新七組合過料錢四拾六匁七分八厘相納候尤組頭甚兵
衛致病死独身もの^ニ付跡断絶家屋敷等も直^ニ売払候由^ニ右一人
分除残十人分相納候

一 右同人組合^ニ過料申付候名面書一昨日松岡治部助^キ尋來認出置候
間右之内組頭甚兵衛病死断絶^ニ付過料錢不相納旨松岡治部助へ手
紙^ニ相届候

一 稻実屋義七郎^キ西大寺問屋肥後屋太七へ船賃錢増無之旨申遣候下

案^キ吹屋町釜屋市郎右衛門^キ右同人^ニ同様之返書下案大年寄伺出
太田舍人^ニ差出候

一 船出入一件江戸伺之上^ニ鮎屋忠治田原恵助^キ長岡筋船持竜野へ
再呼出之沙駄有之風説書姫路屋伝六差出太田舍人^ニ差出候
一 船出入享保十二年之内濟懸合扣横帳藏合孫左衛門へ差戻候

九月廿二日 晴 夜雨

一 船出入^ニ付長岡筋竜野^ニ呼出候^ニ相成弓削領之船持共当所罷通り
候由^キ備前領も出候由藏合^キ認出し太田舍人^ニ差出候

一 大目附伊達与吉郎^キ切紙到來今七時役所へ出候様申來罷出候処左
之通達有之候

同心組渡屋敷地小田中源十郎草苺出入^ニ相成申立^ニ付明廿三

日五ツ時御徒目附下目附御作事役人郡代下代同心組小頭部屋
目附立会^ニ渡屋敷地間敷相改繩打改有之候間小頭部屋目附

差出右草苺候所繩之内^ニ相成候哉又ハ繩外^ニ相成候哉御作事

^ニ繪図出来可申候間立会相改否之義可被届出候

右之段小頭へ申付候

一 竜野^{御預り所}コウノベ市と申もの尼子方盜賊^ニ疑有之^ニ付目明甚七^ニ非人

三人差添一昨十九日曉弓削迄差遣候所今日罷帰り取逃候段申出殘
念之事^ニ候

一 右竜野御預候所神目市と申ものハ渥美源五郎長屋もの治助妻之弟
之由七月末^ニ爰元^キ荷物拵及深更持帰り候人足^ニ国島栄庵長屋も
のを市相頼候得共深更之義故不致承知候処又候姉智治助栄庵長屋
へ參り日雇代ハ望次第賞可遣候間參具候様相頼候得共參り不申候

由ニ付定^而治助義能存候義と被察依之右治助立去リ候義も難計ニ
付渥美源五郎へ手紙差遣治助召捕候旨及案内御渡之上相届可申旨
相認藤藏左十郎目明甚七仮目明源之丞差向候処召捕来候ニ付先今
夕之所ハ牢番預ケニ申付置其段御用番^并大目附へ罷越相届置候
一右市義ハ出生備前中出石^{オカシツシ}之もの故其所へ逃参リ可申由ニ付召捕ニ
罷越可然哉と何れも申候ニ付左十郎甚七ニ非人兩人差添明曉出立
仕候様申付ル依之用銀百五拾匁孫右衛門取かへ遣候様小頭へ申付
候

一渥美源五郎へ又候手紙差遣治助牢請人^と相送候様被申付候様ニ
申遣候所承知之旨申来候尤上請人ハ西今町大工屋三右衛門下請人
ハ小田中村文助と申もの^と由申来候然ル所尚又下受人文助義ハ致
病死其後^者闊田町桶屋市右衛門下受人ニ相立居候由申来

九月廿三日 雨

一御用日登城

一竜野御預リ所神目市召捕ニ備前中出石へ同心組一人目明一人非人
二人今曉差遣候段御用番^并大目附へ出仕之上相届候

一石名左十郎義召捕ものニ備前へ差遣候間加人一人被仰付候様大目
附へ相達候処御使組植月久米藏来ル

一同心組渡屋敷地今日改有之筈之処雨天故来ル廿五日ニ相成候由ニ
付其段小頭へ申達候

一小性町瓜生原屋宗兵衛平助御裁許相伺置候処当時川下源右衛門打
こわし一件吟味最中ニ候得^者無程船出入一件ニも吟味及候様ニ可
相成候得^者今暫差延置可然尤船差支ニ候ハハ右六艘之船^者蔵元へ

引取遣候^而追^而会尺有之候^而も可相濟候間其旨ニ取計可然旨御用
番中御差図之旨太田舍人^と被申聞候ニ付何分相考候上ニ^而可申付
旨及返答置候

一牢舍人周藏仲平衣類入遣度牢番伺出承り届

一昼後^と孫八新左衛門新治出番文藏又六立会ニ^而左之もの遂吟味候

渥美源五郎長屋住

治助

遂吟味候得共不及

上受人 西今町大工屋三右衛門

白状又候牢番預ケ

病氣ニ付代人

申付置候

同町ふくみ屋

茂兵衛

同町桶屋

下受人

市右衛門

一堺町稻実屋義七郎明日立ニ^而六日計之逗留ニ^而備前へ罷越度願書

差出候実ハ御勝手方御内用ニ^而塩取寄候義聞合ニ参候事之由然ル

所同人義船運賃上ケハ無之段西大寺問屋へ文通下案差出有之候事

故太田舍人へ申達候所文通ハ代筆ニ^而も可相濟哉^も候得共御勝

手へ懸合宜取計候様ニと申来依之上原彦藏へ申遣候所右御内用^者

太田ニも承知之事ニ候処右之通被申越候^者不得心之義ニ存候間明

日出立ハ延引可申付旨申来候付其段太田舍人^江申達右願書差戻候

一塩沢山ニ田原^も積来^と九分位ニ^者致売買^并西川領船持も竜野

へ被呼出候下説書藏合孫左衛門差出太田舍人^江差出候

一美濃職人町孤独長七当月朔日^と五日迄之孤独扶持^と匁四分三厘真

北類蔵の相廻候大年寄へ相渡候

一大坂村尾李右衛門へ二階町松本屋喜助義尼ヶ崎へ挨拶罷越候義
来月中旬頃迄可罷越申出候段返書旁申遣候尤大目附へも其旨
申達置候

九月廿四日 曇

一町作取立之義古格復度旨御代官の申立有之右古格と申ハ新法交
格之格町方差支有之天明八申年後藤守助懸合有之相濟候事
故其旨再応郡代所へ申達候得共承知無之被申立候所大目附伊達与
吉郎より右差支之趣認出候様被申聞弁書相認差出候処ケ様銘々
役筋之道理被申立候ハ上御存知無之事故御判断も難被成筋
付全体上御一体之義候得而役申談程能所取極申出候様
と被申聞候間其旨郡代所へ通置候近日可遂熟談事

一小性町瓜生原屋宗兵衛平吉御裁許伺書差出置候処一昨廿三日太田
舍人の当時竜野へ川下打こわし義呼出し吟味有之候得無程船出
入之義も吟味及可申左すれハ是迄延候事故今暫差延置候可然
尤御廻米付船差支候ハ蔵元方へ瓜生原屋船引取御用計相用
可然旨御沙駄之旨被申聞候付何分相考可及御答之旨申達置今日
太田舍人方へ罷越瓜生原屋稼差留置候と申候も船取上ケ遣候得
他邦ハ稼差留候とハ存間敷且又稼差留置候程船御用
遣候も御筋合不且難申付候間先御見合被下候様申達候処甚不機嫌
之趣船差支候迄延置候可然と可申達之旨被申聞候

九月廿五日 晴

一同心組拝領屋敷地改有之今朝五時御徒目附柴田由郎下目附富田

吉十郎御作事奉行西村治太夫同日附植月彦平郡代下代木村金治同
心組小頭孫八部屋目附新治立会裏行十四間相極候由繩
被打候処源十郎菊込候所皆組屋敷地相成表裏共ほん杭溝之
真中程有之所も有之組屋敷地是迄方ハ広く成候位屋敷地へ
繩を打込候所無之候尤絵図御作事出来候由小頭も心覚
絵図いたし差出候且又大庄屋大谷政三郎肝煎一ノ宮村和兵衛小田
中村庄屋権七立会候

一稲実屋義七郎西大寺肥後屋多七船賃上ケハ無之段懸合之返書
下案大目附中添削其旨相認差遣候様太田舍人の申来其段大
年寄へ申付候且又釜屋市郎右衛門返書下案差出候処ハ先見合
候様御用番中御差図付被留置候由太田舍人の申来候

九月廿六日 快晴

一稲実屋義七郎備前へ之返書下案御添削之儘相渡置候処義七郎申
出候御添削之御文意ハ主意違相成難差遣旨蔵合孫左衛門
申出其段太田舍人申達候処義七郎文通相止釜屋市郎右衛門下
案致添削相下り其通申遣候様と太田舍人の申来其段大年寄へ
申付候

一播州加藤郡三木町形屋与兵衛手代藤兵衛一人例年之通紺屋形壳
来候段西新町山家屋利右衛門宿切手差出

一播州網干新在家村加賀屋善七手代善兵衛一人例年之通小間物壳来
候段右同人宿切手差出翌正月五日帰

一播州津宇郡妹尾村小判屋太郎兵衛一人例年之通畳表壳来候段右
同人宿切手差出候

一出雲大社中官西村神太夫上下四人連_ニ 例年之通來候段坪井町川
原屋治助宿切手差出十一月十八日帰ル

一川下大戸村船肝煎弥兵衛と申もの姫路屋伝六方へ來竜野役所御吟
味_ニ 享保十二年大戸村と田原と出入_ニ 付致内濟候為取替証文差
出候様被仰付吟味仕候得共無之甚致迷惑候間爰元_ニ 有之候ハ、貸
與候様_ニ 相頼取調候所右内濟ハ姫路屋甚五郎取扱候故写有之候間
写可遣哉如何と伺出候由尤向方之為取替一札_ニ 爰元之もの名面
も無之義故写遣候_ニ も苦ケ間敷哉之旨蔵合孫左衛門伺出其段太田
舍人_江 申達候所御用番中へ相伺候処駈と写仕置本書貸渡候様_ニ と
被仰出候間其旨取計候様申來其段孫左衛門へ申達候

一船出入一件之義竜野_ニ 吟味之趣大戸村弥兵衛相咄候趣姫路屋伝
六認出太田舍人_江 差出候所即刻相戻候

九月廿七日

一 小性町瓜生原屋船蔵元方へ引取御用_ニ 遣候義一昨日愚意申達置候
所昨日太田舍人_江 得と相考候所御用_ニ 付引取遣候義少苦無之筋兼
船持とも拝借も有之候義_ニ 候得_者 旁以不苦義_ニ 候間先日申達候通
申付候様_ニ と手紙來最早断之致方も無之候_ニ 付承知候旨及返書置
何れ御廻來之義_ニ 候得_者 御勝手へ懸合候上_ニ 可申付筋_ニ 付昨朝
右上原彦蔵相尋候得共御用多_ニ 難及面談漸昨夜彦蔵被相越及面
談候_ニ 付其段及通用候之処右船之義ハ此間下代共へ内々相移置何
れ_者 株持之面々買取船相用候様_ニ 可取計之旨申達置候由被申聞夫
ハ幸之義_ニ 候旨及挨拶置今朝太田舍人_江 右之段申達仍之申付致延
引候旨相届候処何分上原彦蔵へ懸合候上_ニ 御用番中へ相届可申

之旨被申聞候

一 紀州海士郡日方浦池谷町善四郎手代政右衛門一人例年之通梳折敷
壳_ニ 來候段岡田戸屋惣十郎後家宿切手差出
一 筑前遠賀郡柏原浦小平治手代儀兵衛一人右同断_ニ 來候段右同人宿
切手差出候

一 備前岡山小畑町鼠屋甚八手代文十郎一人例年之通元結壳_ニ 來候段
新職人町松野屋十右衛門宿切手差出十二月廿七日帰

一 大目附太田舍人_江 瓜生原屋船一件之義上原彦蔵へ承合候内分取
計方申聞置候得共其段一向申出ハ無之不相尋候_ニ ハ否不相分由_ニ
御座候左候得_者 右船急_ニ 主付候もの_ニ 有之之間敷此間被仰出候
義を右内分取計_ニ 付相止候と申筋も無之候間最早致約束候杯と申
船も有之候ハ、殘船不殘差出候様此間御達候通取計候様申來承知
候旨及返書置右之段一ト通り上原彦蔵へ及通用候処先刻太田_江 右
之趣_ニ 付御引上ケと申も如何成もの船積之節杯之取計も跡々六ケ
敷もの哉と主意申述候得共中々聞入無之趣此上ハ致方も無之旨返
書來候_ニ 付左之通申付候様_ニ 大年寄へ申付候

其方共所持之船御廻來 小性町瓜生原屋

御用_ニ 付可差出候

畢_ニ 御蔵元へ可引渡候

瓜生原屋兩人持船御廻來御用_ニ 付

引渡候様被仰付候間受取引受ケ

御廻來船積可取計候

右申渡相濟候段届出其段太田舍人_江 相届候

一三浦志摩守殿先触到来去ル十一日江戸御出立明後廿九日当所止宿
本馬式拾貳疋申来然ル所御本陣玉置源五兵衛家内肥前瘡相煩此節
源五兵衛別而相勝不申起臥も難出来程之様子ニ付御本陣難相勤之
旨申出依之茂渡庄右衛門へ御宿申付置右御本陣故障之趣早々御旅
中江申遣候様大年寄へ申付置右御先触写両通御用番中へ持参右之
段申上諸事先格之通可取計旨伺済候右之段大目附月番松岡治部助
へ紙面而相届候

九月廿八日 快晴

一御用日登城

一本多肥後守殿城下播州完栗山崎西新町松本屋忠兵衛娘義三町目神
代屋和兵衛妻ニ引受度人別人願御用番中御聞済ニ付大目附へ差出
置御聞届申達候同廿九日住宅証文差出

一牢内破損届書差出大目附へ差出候

一公儀御勘定所被仰出候当町米屋共水帳写十月分計百拾五冊并右
取調様之弁書壹通并右帳面主名目録壹通差添大目附へ差出候

一御留主居田中幸助申来候勝与八郎殿御頼之明和五年同九年
迄寛政元年同八年迄御弘米相場付上原彦藏并認貫候直段付式通

并右御弘米中買共方ニ扣帳無之弁書壹通右同年数之間御代官所へ
相廻候三段相場付写式冊并蔵合孫左衛門認出候米相場建方大意書
壹通右取調出来仕候付御用番中へ差出相同置候

一大目附太田舍人并左之通達有之候

同心組城代渡屋敷地去ル廿五日御作事并杭打候通ニ候間以来
其通ニ可相心得候尤絵図被貸渡候ニ付写置候

但右絵図見候処少々出入御座候溝縁者御作事并相直被下候
義哉と相尋候処最早御作事并手入候義ハ不致候間杭之通ニ
相心得後々年ニ至リ杭朽候ハハ打直し候而も可然尤追々銘
々々右杭繩張之通溝縁仕置候而も宜候旨被申聞候

右之通小頭孫八江申達絵図写置候様申付ル且又三浦十郎左衛門并
源十郎義ハ御咎伺候間右切取候木竹庄屋方ニ預リ居候分庄屋并小
頭江引渡候様可申付候間其旨御達被置被下候様ニと被申聞随分致
承知候右竹木差戻候義者源十郎御咎前後候義ハいつニも不苦旨
及返答置候

一三浦志摩守殿御先触昨晚致到着候写

三浦志摩守在所江之御暇被下候付来ル十一日江戸表被致発足休
泊左之通ニ候若故障之義も有之候ハハ外本陣御頼其段旅中二三
宿前迄御申越可給候日限相違之義も出来候ハハ猶又可申入候追
而宿割之者差遣可申候以上

九月朔日 三浦志摩守内 鈴木七右衛門

九月十一日戸塚泊 間々略之 同廿八日佐用泊

同廿九日津山泊

覚

本馬 式拾貳疋

内貳疋九月九日

右者三浦志摩守在所江之御暇被下候ニ付来ル十一日江戸表被致
発足候書面之通馬差支無之様差出可給候追而駄賃弘之者差遣可
申候且又泊付者本陣中江申遣候得共御心得申入候本陣江之廻状

御届可給候以上

九月朔日 三浦志摩守内 鈴木七右衛門

品川久世迄但美濃路通宿々問屋中

泊リ付略之

追 此廻状留リ宿々作州勝山口家中下村善右衛門木田源五左衛

門尾崎小右衛門方へ返却可給候且又伏見問屋中^江之書状壹封相

添差出候間乍御世話御達可給候以上

一三浦志摩守殿宿割今朝迄も不^來旨大年寄申出候

一三浦志摩守殿御止宿付取計左之通

一町触差出但不及掃除見苦からさる様可致置事

一同同心組先私

一同同心組先私

立宿 東新町種屋恵左衛門

詰宿 二階町品屋恵十郎

但高張挑灯不差出候事尤箱挑灯ハ二張持候事

一奉札可来候間何方^ニも取次御奏者番

一出火之節御除場 本源寺 大信寺

一両大橋建札為引取候事

一御本陣前向方之箱番所拜借願出御作事之出来候事

一東西渡船場土橋有之付不及御船候事

一非人夜廻り二組申付候事

一御本陣 茂渡庄右衛門

同詰

平野風助左衛門

野々口屋七郎右衛門

大科屋源右衛門

一御本陣前人留 島屋藤吉前^{下附屋町}

一在宿医師 渡部玄端 笹岡休意

一二階町自身番 当日之翌日昼迄

一夜廻り 二階町 境町 元魚町

一時太鼓註進 橋本町へ申付ル

一米中買式步中買 例之通御本陣へ出候様申付ル

一髮結申付候事

一見ほし註進 勝間田 兼田

一御本陣給仕人 六人

一三浦志摩守殿宿割九津見雲八夜入到着志摩守殿三島宿被致返

留夫故延宿相成当所止宿来月三日相成候段大年寄之届出其段

御用番大目附へ紙面相届郡代所^江も及通用

一備前船出入呼出相成候ハ如何詰開相心得居候哉と一学殿之書

付を以被仰聞依之兼致覚悟候詰開大意相認差出候様可取計之旨

夫々申達候

一盜賊市義備前へ尋遣候石名左十郎目明甚七昼後罷歸リ所々相尋

候得共行逢不申於何方も得と相頼置候所何方も得と吞込来候

ハ留置早々可申越旨致約束罷歸リ候其段御用番大目附へ相届

候

一林田町門屋龜藏借屋住作人和吉夫婦三人御城代組井汲武兵衛渡屋

敷へ引越度人別除願承リ届

一西今町南側黄金屋つま家屋敷表口式間裏行拾五間外東西式

間三尺式寸南北九間之空地添尤右空地西隣古金屋伊兵衛所持之空

一 地の方へ入込居申候但式歩五厘役也東隣ハ京屋平兵衛西隣ハ古金屋伊兵衛也右家屋敷空地共代銀札八百五拾匁ニ相極町内古金屋伊兵衛へ売渡願書差出承リ届ル但絵図添差出候十月九日売券状差出

一 東新町南側ニ而弓削屋多助後家所持之家屋敷表口五間半裏行十七間七歩五厘役東隣ハ橋本屋茂右衛門西隣ハ湊口屋茂兵衛也并裏ニ三間ニ九間同三間ニ五間半之士藏ニケ所添去已八月質物ニ書入銀札壹貫五百匁借受候処元利返済仕受戻候段届書差出承リ届
一 二階町井筒屋弥一郎他国受酒株去已六月新魚町樫野屋茂一郎へ貸置候所此度取戻候段届書差出承リ届

九月廿九日 快晴

一 三浦志摩守殿先触御用番中御戻被成大目附へ差出候

一 関貫番賃金例月之通相濟候

一 三浦志摩守殿追触写左之通差出

先達 而泊之義申入候通昨日三島駅迄旅行被致止宿之処少々風氣ニ付右三島駅ニ被滞留候尚又出立日限泊宿之義ニ從是可申上之条左様御心得可被成候以上

九月十四日 三浦志摩守内 鈴木七右衛門

由井駅方津山迄御本陣中

追 而廻状早々御順達留リ宿方作州勝山同家中下村善右衛門

本田源五右衛門尾崎小右衛門方迄返却可給候以上

右追触御用番中へ差出大目附へ申達ス

一 船出入下説書宮田喜左衛門差出太田舍人ニ差出候但備前役人竹内

又右衛門初竜野へ被呼出并長岡船頭共船荷割津山ニ無理無之旨竜野ニ而申候由也

十月 小

月番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 小須賀一学殿

大目附 佐々木主馬

大 齋藤孫右衛門

年 諸吟味 宮田喜左衛門

寄 諸吟味

十月朔日 庚卯旦 晴

一 石名左十郎義今日方出勤ニ付加人御使組植月久米藏今日方差戻候

段大目附へ手紙ニ而相届候

一 吹屋町釜屋市郎右衛門方西大寺問屋ニ船賃上無之義懸合ニ差遣候

飛脚罷帰リ候処市郎右衛門手代治右衛門と申もの市郎右衛門へ不

申聞船ちんハ西大寺問屋受込銚早く積登候様ニ申遣候由ニ而最早

積出候由返書差越右ニ付此方より申遣候運賃上ケ之義ハ否不申越

先日吹屋八左衛門方江も津山着として本刃積送り候由申越則運賃増之算様ニ相当リ兩人共甚不埒之義ニ付弁書取り差出委細太田舎人江差出右兩人不埒之義ニ付御咎可伺哉又者追而相伺可然哉と申達候所何分御咎伺書も明朝迄ニ差出候様被申聞候

十月二日 快晴

一吹屋町釜屋市郎右衛門并吹屋八左衛門義兼而船賃増相払間敷旨度々相触置候所申付を相背委細弁書之通ニ付御叱追込十日可申付哉と伺書太田舎人江差出候

一大神楽岡田忠兵衛来橋本町武藏屋甚藏届出候段大年寄届出例歳之通御城打廻リ候段大目附へ相届候同十五日帰ル

一大目附太田舎人江吹屋町釜屋市郎右衛門方へ西大寺肥後屋太七江積送候銃致着岸候ハ江船上ケ不為致其儘留置伺出候様御用番中被仰出候間其旨可申付并吹屋八左衛門下職之者西大寺へ本刃之義懸合ニ参候もの名所等相糺可申上并同人方へ取寄候本刃未其儘有之候事哉有無可申出并此後運賃上ケ之義誰江申遣候而可然哉此所相考下書認可伺并吹屋釜屋不埒之取計致候ニ付町触可然候間下案相認差出候様御用番中被仰出候旨違有之夫々申付置候

一 円宗寺村茂吉咎入牢郡代所江申来手形差遣屋廻藤藏百藏取計候

一 御蔵米五拾七匁米五拾三匁

一 三浦志摩守殿御止宿ニ付同心組御先弘左之通小頭江差出

三日御先弘

四日御先弘

一 牢舎人庄助新八新吉二廻り療治相濟新八新吉ハ休葉庄助ハ代医双

方江願出承り届

一 釜屋市郎右衛門方へ銃着岸候共船上ケ為致間敷旨申付候処銃ハ未着岸不仕候処本刃十九丸昨夜着岸仕未運賃ハ不相払候得共最早船上ケ為致候段申出其段太田舎人江申達候所左候ハ江増運賃而取寄間敷咎之処市郎右衛門不存内ニ手代共江申遣候由甚氣之毒者候得共御差図無之内者船上ケ不相成候間先夫迄ハ船へ戻置候間船へ積置可申何れ積来候事ニ候得者運賃ハ可差遣旨懸合候様ニ被申聞其段申付候所夜ニ入喜左衛門申出候者其旨早速申付候所船頭共何方へか罷出居不申候間帰リ次第船へ積戻候様可仕委細船宿江も申合置候段申出候ニ付何分懸合之否申出候様ニ申付置候且又銃を積候船頭者人晚方先へ来明朝ハ積登候段申候ニ付御差図迄船上ケ不相成段申聞候所番船而積来候事故甚差急候間急ニ筋立被具候江申候趣喜左衛門申聞候

一 吹屋八左衛門先日取寄候本刃有無相尋候所大方扱仕廻今少残り居候由并同人下職ハ桶屋町新藏と申もの江由弁書差出并西大寺問屋へ運賃上ケ懸合ハ御蔵元江為致可然旨下案差出并竜野へ監察ハ差遣候もの者稲実屋義七郎可然旨藏合孫左衛門病氣ニ付名代喜左衛門申出候右之条々明日出仕之上舎人江可申達事且又舎人江差図者無之候得共釜屋市郎右衛門手代治右衛門も呼出し遂吟味置候様申付置候所遂吟味口上書差出并吹屋八左衛門下職新藏義も口書取置候様申付置候所同人義ハ今日近在へ罷越不能其義旨明日可呼出旨申出候

一 同心組渡屋敷地竹木源十郎預リ居候所昨日庄屋権七江差戻候段小

頭申出候

十月三日 晴

一御用日登城

一三浦志摩守殿追触左之通到着

此間申入候通志摩守少々風氣ニ付三島駅江被致滞留候処快方

ニ付明十七日当駅被致出立候先達而申入候通馬二十疋外ニ式

疋差支無之様差出可給候泊宿之義為心得申遣候本陣中江之廻

状御達可給候頼入存候以上

三浦志摩守内

九月十六日

鈴木七右衛門

三島駅方美濃路通久世迄宿々問屋中

十七日由井 間々宿付略之 十月三日津山

右追触御用番中へ差出大目附へも相届候

一福渡町阿賀屋助五郎屋守忠助借屋住人伊助義致出奔当六月百日

尋申付置候所弥行衛不相知百日余ニも相成候間除帳願書今日自分

義外御用ニ付急ニ致退出候ニ付三浦十郎左衛門へ頼置候処御用番

御聞濟ニ付大目附へ差出置候段申来御聞届申達候

一米相場付御近領江相廻候挾板例年之通御作事へ申達并青繩油紙指

札書付大目附上印取之大納戸へ差出受取候

一牢浚申付昼廻り新治為治取計候無別条段届出候

一御代官三浦伴左衛門竹内要左衛門松岡正三郎方例年之通御年貢取

立ニ町方へ入込遂吟味品ニ寄直ニ手錠等申付候段案内手紙来及相

答

一元魚町年寄藤野屋喜助跡役同町灰屋佐右衛門へ可申付伺出承り届候処今日申付候段大年寄る申出候

一美濃職人町年寄豊屋茂市へ可申付尤未年若之義故鍛冶町山形屋尔

兵衛後見ニ可申付尤此節宗兵衛他參ニ付其内ハ元魚町年寄福永屋

源吾へ後見可申付伺出承り届置候所今日申渡候由届出候

一三浦志摩守殿今夕御止宿之旨御本陣江廻状到来候所御本陣茂渡

庄右衛門不案内故写不仕其儘差戻候付写得不出旨大年寄る断出

候ニ付右之段御用番并大目附へ手紙ニ相届候

一吹屋釜屋一件ニ付昨夜申出候書類不残太田舍人江差出尤下職新蔵

并手代治右衛門吟味書も舍人江差出候所左之通被仰出候

一竜野表江一般之源右衛門吟味一件ニ付船方荷割等之事共迄及吟味

候訳内々監察ニ孫左衛門喜左衛門之内差遣可然之旨被仰候処右両

人ハ此節難差遣候間稲実屋義七郎被遣可然旨太田舍人江申達置候

所伺之通稲実屋義七郎差遣候様太田舍人より被申聞其段蔵合孫左

衛門へ申達明朝立ニ差遣候様申達候

一左之通申付候様太田舍人る達有之孫右衛門喜左衛門呼出し申渡候

吹屋町吹屋

八左衛門

兩人義船賃之義不埒之懸合

同 釜屋 市郎右衛門

いたし候ニ付町内預ケ申付候

右同断ニ付兩人とも 組合預ケ申付候

吹屋八左衛門下職 桶屋町 新蔵 釜屋市郎右衛門手代

治右衛門

一釜屋市郎右衛門方へ取寄候本羽銃共預り置候義不相成候尤当

所船^ニ積返し候事も不相成候

右ニ付町役之者^ノ市郎右衛門義不埒之致懸合同人義御預ケ被

仰付候間町役^ノ懸合候段申述候^ニ左之通船頭へ可申達候

右積越候本羽銃共差返候然ル所片積ニ相成候義故積被帰間

敷哉と存候左様之義ニも候ハ、拙者預り置人馬ニ可返候

段申述候^ニ船頭共不苦積可帰と申候ハ、相渡差返し候^ニも

不苦事

一船頭共ハ増運賃之心得^ニ積来候事ニ候得^者船頭ニ罪ハ無

之義故是非賃銀可受取と申候ハ、相払候^ニも苦かる間敷候

右之段申渡候段大年寄届出候付御用番^并太田舍人^江手紙^ニ相

届候尤吹屋^町年寄ハ八左衛門市郎右衛門兩人ニ付船頭町年寄へ本

刃銃返候義可申付旨大年寄申出候

一船出入一件何方へ被呼出候^ニも指詰申披大意先日已来打寄り申談

候趣孫左衛門認出し一学殿へ差出候

一大目附太田舍人^ノ左之通被申聞候

先日同心組渡屋敷地竹木百性源十郎取取候届御用番中へ直ニ

被差出候然ル所支配方之義ハ直ニ被相伺候義ニ候得とも組体

之右様之義^者大目附へ被差出候先格ニ候間以来其通ニ可被相

心得候

一田中幸助^ノ申来候石代相場書取調候処御蔵米町米之間ハ定例四匁

落之所致如何訳ニ哉明和六丑年十月十六日^ノ其年中ハ五匁落ニ致

有之不審之段御年寄要人殿大目附太田舍人^江申達置候

一左之通町触差出尤太田舍人^ノ達有之

船方出入ニ付片積ニ相成候得共船賃増錢致間敷先達^ニ相触其

後も心得違無之様演達為致置候所此度不埒之取計いたし候者

も相聞不届之致ニ候仍^ニ以来右体之心得違無之様町方一統堅

可相守候

一御払米三百俵正銀五拾六匁六分久久里屋喜兵衛買取候届出出

一御蔵米正銀五拾六匁六分町米同五拾式匁六分

一三浦志摩守殿戌刻御本陣茂渡庄右衛門方へ御止宿被成候段大年寄

届出御用番^并大目附^江相届候

一志摩守殿役人^江御本陣詰^ル御奉札被遣候ハ、御取次可申達旨相尋

候処当年^者奉札不被差出候旨申され候由御本陣詰^ル申出段大年寄

届出候ニ付御奏者番伊達与吉郎へ為心得及通用候

十月四日 時雨

一三浦志摩守殿今晝七時頃御出立被成町分御通行無滞相濟候段御先

払^并大年寄^ノ届出御用番^并大目附へ相届候

一大坂村尾左右衛門^ノ二階町松本屋喜助登坂之義申遣候再報来

一三浦志摩守殿御通行ニ付本馬式拾式疋人足三拾式人差出候段人馬

間屋^ノ書付差出入用之義ハ追^ニ可差出候旨喜左衛門申出候

一船賃定例歳三ヶ所立会相極候処当年ハ田原不相加候得共立会可相

定旨押刈村船庄屋武助^ノ米屋藤右衛門高瀬文吉方へ差越候由例歳

ハ大年寄^江も不申聞義ニ候得共当年^者論中之義故申聞候段申出候

由^ニ蔵合差出候尤去年三ヶ所立会直段定候書付差添差出候処米

大豆小豆直段定と駈と有之全論中之証拠ニも可相成ものニ付ケ様
之書付年々之分有之候ハ、取集置可申申達置太田舎人江差出候

一御蔵米五拾七匁町米五拾三匁

一大目附佐々木主馬ノ呼ニ来罷越候処先月廿五日夜伊達与吉郎長屋
へ盜賊這入家来之羽織一綿入一帶二筋盜取候由届有之最早日延候
義故町触ニも及間敷手筋のものへ吟味可申付旨尤内々目明へハ早
速申聞置候義ニ候由被申聞候付小頭へ申付候

一牢屋御繕昨晚迄ニ相濟候段牢番届出候

一牢舎人茂吉給ふとん入遣度伺出承り届

一大年寄孫右衛門伺出候者昨日被仰出候釜屋市郎右衛門方へ差越候

銃本羽之義差戻候被仰出御書付之趣船頭町年寄ノ即刻船頭共へ

申達候処何分相考返答可申旨ニ而引取度々催促仕候得共不及返答

今昼後罷出申候者銃御受取不被成御返し被成候由致承知候仰之

通片積之義ニ候得者向方へ不相伺候而積掃リ候義も不相成甚迷

惑御氣之毒ニ存候間此間も伏見屋茂七方江鉄積来増運賃可受取申

候得共増ハ不相渡候由被申候ニ付左候ハ、追而並も有之増被相渡

候ニ相極候節増錢者可受取候間何分今般者是迄之運賃受取相濟可

申旨申談鉄相渡濟候義ニ候得者何卒此度も右之通ニ可仕候間御受

取御濟被下候様ニと船頭共願出候段町役之者ノ申出候段孫右衛門

内々伺出候ニ付其段太田舎人江申談候処甚不承知ニ而嘸積掃リ候

義ハ致間敷事ニ候間御用番中御差図之通町役引受人馬ニ而為相送

候様ニ取計可申旨達而被申聞中々再伺被致候様子最早不相見候ニ

付無是非其段強而申付候所又候孫右衛門伺出候者町役之者へ被仰

出之趣強而申付候処其段者奉長其通ニ可取計之処尚又再応相考候
得者銃逆も大分之義六拾人夫も懸リ可申本羽も二拾人夫も相懸リ
可申合而八拾人計之持夫ニ候得者甚大造成義入用も八百匁位も懸
リ可申併其段兎も角もニ候得共西大寺間屋へ持懸ケ候処向方不調
法無之義故受取間敷可申程も難計強而申候ハ、伺之上ニ而可及返
答杯と申様ニ可相成万一同之上不受取と申ニ相極候得者又候不持
帰候而ハ置所も無之大造之人夫ニ而持寄越候もの又候持掃リ候も
外聞も如何成ものニ付先向方問屋へ懸合承知之上差返し候様ニ仕
度旨申出重々尤之義ニ付太田舎人江其段申達候所左候ハ、銃明日
相返候義者先見合置可申何分従是可及差図旨被申聞候

十月五日 雨

一太田舎人方昨日御申聞候釜屋市郎右衛門銃之義逆も相伺候共御承
知者有之間敷却而六ケ敷成行可申哉ニ付一度ニ差戻候而八目立大
造ニ相成候間御差図ニ而ハ無之候得共先十荷計差戻向方之様子見
候方可然尤町役より書状差遣候者不且候間釜屋一郎右衛門ノ書状
差遣候様早々取計候様被申聞其段孫左衛門喜左衛門へ具ニ申達候
一牢番和田義右衛門病氣引込届出明六日ノ加人老人被仰付候様大目
附へ申達候処加藤清右衛門来

十月六日 快晴

一大目附ノ林田上之町忠藏と申もの子供兩人召連四国遍路ニ罷出阿
州ニ而致病死右子供兩人引渡可申候間親類之者差越候様向方役人
ノ大坂村尾左右衛門へ申来郡代方御札有之候処上之町ニ忠藏後
家計ニ而外ニ親類無之町方ニ母并兄弟も有之哉ニ付先格之通差遣

候様申来^并 郡代所^も右母兄弟戸川町^ニ有之庄屋^の懸合候所可参
哉之旨申候由^并 大坂^{より}来候書面被相廻候^ニ 付大年寄共へ相糺申候
様申達ス

一 船運賃上ケ致候趣承り糺^ニ 御蔵元^の西大寺肥後屋多七へ致文通可
然^と此間下案差出置候所太田舎人^の下案之通何濟候間及文通候様
^ニ 達有之候^ニ 付其段蔵合孫左衛門へ申達候

一 林田上之町忠蔵兄弟町方相糺候所戸川町作人文吉と申もの忠蔵弟
^ニ 有之候所弟義ハ不具成役介坊^ニ 而 老母有之旁以当日送り兼難
罷出旨歎書差出候旨内々大年寄伺出未申付内^ニ 在方^の懸合有之候
迎歎書可差出筋^ニ 而 無之下方差支難渋之段ハ下方相對^ニ 而 可筋立
候間何分阿州へ子供之迎^ニ 罷越候様^ニ 可申付旨申渡候所其旨申付
相濟候段大年寄届出翌七日其段大目附へ相届候尤内々ハ郡代^{より}引
合候得共不承知之趣^ニ 付右之通取計置候

十月七日 曇

一人馬問屋給米六俵之証文差出例之通奥書取計候

一 牢番共左之通仕切証文差出奥書取計候

一米式拾六俵 六月^{より}九月迄内貸高

内 式拾四俵三斗式升六合式夕五才

六月朔日^{より}九月廿九日迄牢舎人賄^ニ引

残 壹俵三合七夕五才 返上可仕分

一 牢舎扶持五俵内貸拾人分証文差出奥書取計候

一 安岡町坪屋与八郎借屋住宇賀屋多助夫婦俵万吉右三人林田村文助

方へ引越度人別除願下方引合相濟候段申出承り届

一新魚町灘屋弥太郎妻先月廿五日出産月取間違候段届書差出例之通
御叱明朝可取計旨承り届

一 東新町綱屋宗兵衛義年寄役相勤居候処近年病身^ニ 相成候付病氣之
節悴善五郎を名代^ニ 差出度願書承り届

一 元魚町桶屋伊助方へ去巳七月御領分東南條郡林田村伊助娘役介^ニ
引受置候処此度右伊助方へ差戻度人別除願下方引合相濟候段大年
寄申出承り届

十月八日 曇 夜雨

一 御用日登城

一 土屋但馬守殿領分当国勝北郡近長村武兵衛一人引受度人別入願橋
本町柳屋太七差出御用番御聞濟^ニ 付大目附へ差出置御聞届申達候
十一月七日住宅証文差出

一 因幡国鳥取本寺町西川屋平兵衛悴利右衛門夫婦娘右家内三人西新

町岸田屋伊三郎引受度人別入願右同断取計濟^{十二月廿九日住宅文}

一 戸川町作人文蔵へ林田上之町忠蔵悴梅吉乙吉迎^ニ 阿州へ罷越候様

申付置候所殊之外困窮もの^ニ 而 殊^ニ 老母^并 不具成弟有之文吉漸日

雇等仕当日を送り候仕合文吉他出致候得^并 母弟養候もの無御座仕

合右故路錢も当惑仕林田上之町庄屋へ町年寄^の懸合候得共筋不申

候^ニ 付無拠歎書差出候段大年寄^の内々伺出三浦十郎左衛門へ懸合

候得共兎角不承知^ニ 而 不筋立不得止事大目附へ申達何卒文吉路用

程欠所銀之内^の御取かへ被下候様申達候所左之通大目附^の被申聞

候

林田上之町忠蔵義四国遍路^ニ 罷出阿州^ニ 而 致病死幼年之悴

二人有之右迎_ニ親類_ニ之もの罷越候様申来候然ル所同人弟戸川町文吉義も至_ニ困窮_ニ在方も同様之義路錢無之候由_ニ付右

一件之入用町在_ル半分ツ_ノ致世話遺尤文吉留主中母弟を養候入用も右_ニ付_ニ之義_ニ候得_者同様_ニ付文吉迎_ニ参候往来

_并宿入用とも_ニ半分ツ_ノ可差出尤先爰_ニ相渡候路錢_者町在_ル半分ツ_ノ相渡置追_ニ罷帰候上_ニ可算様仕候

大坂_江之返書も両役兩名_ニ可取計候阿州村役之もの_者町年寄_ノ致添状文吉_ニ為持可遣候

右之通被申聞候_ニ付其段大年寄へ申達早々出立候様_ニ可取計候旨申付候尤添状認候ハ_ノ為見候様_ニ申付置候

大坂_江之返書八十郎左衛門方_ニ認被呉候様_ニ申談候事

一下横野村多聞寺へ去ル四日何人屋_ノ罷越鉢打盤念仏鐘花瓶右四品語り取候由_ニ付町触取計候様大目附_ノ伝言有之候旨十郎左衛門_ノ中間町触取計本書ハ三浦へ返ヌ同十六日町方_ニ無之段申出

一釜屋市郎左衛門方へ送り来候銃本刃船頭町年寄_ノ西大寺肥後屋多七方へ差戻候所多七義夫ハ氣之毒成義難及即答何分縁類之者へ及

相談候上_ニ返答可致と申何方へか罷越暫ありて罷帰_リ私方_ノ相廻候もの_ニも候ハ_ノ可受取計_ニ候得共大坂_ノ相廻_リ候品_ニ私方_ニ致取次候迄之義_ニ私方_ノ大坂_ノ可返筋_ニ無之候間得受取不

申候間乍氣毒持被帰候様_ニと申候_ニ付多数之ものはる_ノ持来候義左様有之候_ニハ甚致迷惑候間何卒勤弁被致是非受取被呉候様_ニ

再応申候得共いつ迄被申候_ニも受取候義ハ決_ニ不相成候間早々被持帰追々来候分道_ノ引かへし候様_ニ可被致と申承引不致候_ニ付無

是非持帰_リ候段船頭町年寄_ノ申出候段大年寄届出其段太田舎人_江相届候

一公儀御勘定所_ノ被仰出_ニ付左之品々取調大目附へ差出候所今日之御便_ニ江戸表へ相廻候

一米屋共米買入候水帳写 百拾五冊
右_者天明七年_ノ去々辰年迄年々十月一ヶ月之水帳写也

但帳面主名目録彙通_并右水帳取集方中買頭口上書一通添

一米相場建方覚 彙通
但右_者為見合毎年御近領へ差遣候三段相場付三通

_并平均相場付彙通添尤寛政八辰年之写也
右之外_ニ御領分_ニ銀納無之と申勘定奉行弁書相廻候由

一公儀御勘定組頭勝与八郎殿_ノ御頼之由_ニ田中幸助_ノ当役_江申来左之品々取調田中幸助へ今日之便_ニ相廻候

一勘定奉行_ニ認有之候御払米直段付式通
但右_者明和五年_ノ同九年迄_并寛政元年_ノ同八年迄十月一ヶ月御蔵米払直段付也

一町米三段相場付 式冊
但右同年数之間之相場付写也

一蔵合孫左衛門弁書 彙通
但右ハ出米と町相場と直段致齟齬候認識

右之通返書差添相廻候尤右両様共扣別_ニ認置
一御払米三百俵五拾六匁式分八厘かへ_ニ落札高原屋武兵衛

十月九日 大雨

一 太田舎人ノ西大寺^江 銚差戻し辛領ニ差遣候もの名面申出候様被申
相糺候処桶屋町藤助と申もの差遣候段申出其段太田舎人^江 申達ス
一 太田舎人ノ呼ニ来罷越候処西大寺ノ銚持帰り候段御用番中^江 申達
候所返書か口上書ニ^而も可取帰候処無其義甚不恙不相濟取計ニ候
此上ハ町奉行存寄も可有之可伺出筋と被仰聞如何様不詰之義ニ相
成候間宜考可付義ニ候何れニも返書不取^者 甚不詰之義ニ候間口上

ニ^而 返答申越趣書付取候^而 可然旨被申聞候付右之一件元来私存寄
ニ^而 ハ無之其段ハ彼是申上候得共御取用無之恩召ニ^而 被仰出候義
ニ^而 候得^者 於役筋此上存寄有之義ニ^者 無御座如何様とも御差図次第
ニ^而 可申付旨及返答候処太田も不機嫌之趣ニ^而 元来御不得心之義ニ
候ハ^レ 御受被成間敷候処御差図を受取計候上ニ^而 如何様ニ成候^而

も不及貧着と申様之御返答振承知不致と申様之趣ニ^而 其段先日異
々故障之段強^而 申立候得共最早被仰出候事故今受申上候^而 も逆も
御承引ハ無之義故其通強^而 申付候様ニと申様之趣ニ^而 不得心事後
難ハ乍存取計置候義ニ^而 今受逆理屈を被申候様之義ニ^而 逆もいか様
ニ^而 申候^而 も御用番へハ不通太田を被困候様之義ニ^而 いつ迄申候^而

も不詰義故左様ならハ差当り存寄も付兼候事故先此間之返書取ニ
急ニ^而 人差遣候様ニ^而 可申付旨申述罷帰右ニ^而 付大年寄呼出し釜屋市郎
右衛門ノ西大寺肥後屋多七方へ此間銚差戻し候節之書状之返書差
越候様急ニ^而 可申付旨申達候

一 稲実屋義七郎竜野役所ニ^而 吟味之趣内監察ニ差遣候所今昼後罷帰
リ吟味之趣一向不相聞諸方ノ出役之名面等承り認出し候ニ^而 付太田

舎人^江 差出候

一 戸川町作人文吉義阿州へ甥之迎ニ罷越候義村方へ懸合候処道中入
用八十五匁差越町内ノも八十五匁相渡都合百七拾匁持參明朝立ニ
ニ^而 差遣候由ニ^而 町役ノ阿州村役へ添状之下案差出及見候所随分宜
相見へ候ニ^而 付三浦十郎左衛門差遣及相談候処存寄無之^者 大目附へ
も可相伺哉と申遣候所其義ニ^者 及間敷申来候間直ニ差戻明朝出立
之上届出候様申達ス

一 郡代所ノ無宿幸四郎と申もの牢番預ケ申来出番栄治差向取計候
一 御蔵米五拾七匁町米五拾三匁
十月十日 晴

一 戸川町作人文吉義阿州^江 甥之迎ニ今朝出立仕候段届出候ニ^而 付御用
番^并 大目附へ相届郡代所へ及通用候
右^者 林田上之町忠藏と申もの悴梅吉十二才二男乙吉六才之子
供兩人召連四国遍路ニ罷出候所右忠藏義阿州海部郡日和佐村
ニ^而 致病死往来手形致所持候ニ^而 付取葬相濟候処右二人之子供
國元^江 帰度相願候ニ^而 付親類差越候様阿州大坂役人ノ村尾李右
衛門方へ申来候処在方ニ^者 忠藏妻計有之外ニ親類無之戸川町

文吉義右忠藏弟ニ^而 付差遣候様大目附中ノ達有之仍之右之通取
計候事
一 油屋仲ケ間ノ東新町岩屋文藏と申もの大坂^江 油調ニ罷越五軒ニ^而
五拾石相調西大寺へ積廻し同所ニ^而 及遲滞趣之処才覚を以肥後屋
左七へ懸合御定之船賃ニ^而 早々積登候様取計罷帰候段弁書差出太

田舎人^江 差出候

一大坂島之内大宝町万屋善次郎一人例年之通革足袋水のふ金とうし
買來候段西新町山家屋利右衛門宿切手差出

一播州加藤郡三木町徳屋平兵衛一人例年之通紺屋形売ニ來候段右同
人宿切手差出翌二月十四日帰ル

十月十一日 快晴

一播州網干余六屋惣七例年之通八百屋物卸売來候段中之町津田屋伝
助宿切手差出

一京町健屋和兵衛義大坂江戸堀五丁目米屋長藏方へ当十月ヲ來未ノ
十月迄奉公ニ罷越度家役之義ヲ町内古川屋利八ハ相頼家守為仕候

一段願書差出承り届翌未六月十八日病氣ニ付送り越し候
一牢舎人□□村穢多吉藏綿入入遣度伺出承り届

十月十二日 晴

一今九時ヲ於牢屋孫八新左衛門左十郎出番文藏又六立会目明孫兵衛
非人三人召連左之もの共遂吟味候

渥美源五郎長屋住

治助

元中尾鉄三郎長屋住

伊助

元尼子数右衛門長屋当分住

甚兵衛

新職人町保頭盜市五郎舅

清助

右遂吟味候処治助義不及白状伊助甚兵衛義ハ一向不存旨申之清助

義ハ治助吟味手懸之義少々申之仍而他參留申付其段大年寄へ申達
置候尤差懸り出番差遣呼出候故組頭一人組合一人ニ罷出候

一牢舎人本郷村伊作綿入肌着洗沢ニ差遣度伺出承り届
一牢舎人新八疥瘡難洩之旨申出大年寄へ申達ス

一当月六日夕金毘羅參詣之旅人止宿無之旨旅籠屋頭山北屋伊兵衛届
書出

一船賃上ケ候義御蔵元ヲ西大寺肥後屋多七へ尋ニ差遣候飛脚返書取
罷歸去ル十日差出候所船賃品々ニ寄違候趣ニ難解文段有之候ニ

付船賃之訳弁書認差添出候様ニ申付候処右糺殊之外手間入漸今日
差出尤弁書ニ以前之送状数通差添差出太田舎人ハ差出候

一大目附佐々木主馬ハ左之通手紙來右御書付写
脇坂淡路守殿御預り所美作国久米南條郡小瀬村庄屋源右衛門

方へ船稼之もの共罷越同居宅を狼籍およひ候一件伺之上御
預り所役所ニおいて吟味いたし候様申渡置候然ル所右最寄御

領分之内引合候ものも有之趣ニ付御預り所役人ハ掛合次第右
役所ハ差出吟味之節役人中立合有之候様存候

右之趣去月廿九日御勘定奉行根岸肥前守殿被申渡候旨申來候
ニ付猶御心得申達候何分委細ヲ明日日出仕之上御談可申候以上

右之趣申來候付藏合孫左衛門ハ井口恵左衛門へ相達置候
十月十三日 晴

一御用日之処拙者義腫物ニ起居難致当病断三浦へ頼遣ハ御用向も
頼遣候

一桶屋町樽屋ちか借屋住作人和兵衛義五十八才ニ罷成親類無之孤独

もの^ニ候処当春^ノ相煩手足不相叶永々之義組合町内^ノも世話行届
兼孤独扶持歎出遂吟味候処無相違趣^ニ付申上候所御用番中御聞濟
= 付右嘆書大目附へ差出^ニ伺濟之段名面書勘定奉行へ相渡置候段
三浦^ノ申来御聞届申達候

一 渥美源五郎長屋住牢舍人治助家族共一ト通り相糺度^ニ付引渡有之
候様^ニ御達有之度三浦十郎左衛門を以御用番^ニ大目附中へ相達候
処達有之候由渥美源五郎^ノ案内有之請人差添被差出候様申遣候処
左之面々差越小頭書役部屋目附出番亭人立合遂吟味候

不及白状

治助 母
治助 妻
子供三人

上受人西今町大工屋三右衛門事当時

伝兵衛煩代

市之助

下受人同町 桶屋

市右衛門

右治助母^ニ妻請人兩人^ニ預ケ候段申渡差返し候尤右之段渥美源五
郎へも手紙^ニ及通用

一 中^ノ之町綿屋勤兵衛一件伺書大目附伺書之通過料^ニ伺直し可申之旨
大目附^ノ被差戻候段三浦^ノ申来候

一 昨日大目附中^ノ申来候船方之義^ニ付竜野表へ呼出有之候ハ、差出
候様^ニ御勘定所御達有之候趣竜野へ申遣候下案相認差出候様大目
附中達之由三浦^ノ申来寛政八年久世へ申遣候文例之通相認差出候

得共是ハ安岡町綿屋万吉方へ這入候盜賊徳兵衛久世^ニ而召捕被遂
吟味元来此方之義^ニ付向方^ノ不申越内^ニ此方^ノ申遣候義^ニ而御座
候得^ニ先例^ニも難取持今般之義ハ名面を指^ニ而申来候義^ニも無之最
寄御領分之内^ニも可有之杯とはつと申来候事^ニ候得^ニ此方^ノ申遣
候^ニ及間敷旨三浦へ申遣候所委細返答無之伺之通申遣候様^ニと
御達之旨三浦^ノ申来尚又先例取調候処先年竜野差出候菱屋太助義
ハ致死去居不申候^ニ付向方^ノ不申来内^ニ此方より申遣置可然と申
趣^ニ而申遣候義^ニ付是又先例^ニも難取用其外嫡例急^ニ見へ兼候付
其段委細三浦へ申遣郡代所^ニ先例も多有之取調被具候様申遣
候所右之段ハ大目附^ニ而も承知之義^ニ而相達候事^ニ而之勿論
郡代所^ニ而も向方^ノ不申来先^ニ申達候哉之趣^ニ申来候間其趣^ニ随
心書状相認明朝立飛脚之者被仰付候様大目附中へ相違候所御飛脚
萩野勤十郎来書状相渡候且又根岸肥前守殿御達書大目附^ノ相廻リ
其儘写取竜野へ相廻候

一 御蔵元^ノ西大寺肥後屋多七へ船ろん上問合之返書太田舍人^ノ被差

戻右運賃上之義今一応蔵元^ノ可申遣下案認出候様申来大年寄へ申

付候処下案差出候^ニ付翌十四日太田舍人^ニ差出候

一 釜屋市郎右衛門方へ積送り候銃本羽差返候処返書無之^ニ付取^ニ差

遣候様^ニ申付置候所返書取歸り候段大年寄^ノ差出是又翌十四日太

田舍人へ差出候

一 備前岡山赤穂屋直助妻玉置卯左衛門娘^ニ付同人方へ来居候所病氣

差重候^ニ付悴忠四郎差添差返度尤忠四郎義十日計之逗留^ニ而罷越

度候旨玉置卯左衛門願書差出候承り届同廿二日帰ル

一二階町松本屋喜助義亡父水祭ニ尼ケ崎へ罷越度来ル十八日出立仕

十五日計之逗留之旨大年寄承リ届差出依之罷越候ハ、町役之添状

可差遣^并出立候段届出候様ニ大年寄へ申付置候同廿八日罷帰ル

一御払米三百俵五拾六匁七分式厘かへニ^而鋼屋惣兵衛買受候段届書

出

一丹後久美浜御代官野村権九郎殿手代中村莊太左衛門清水君平広石

卷右衛門之例歳之通米相場書頼来及相答

十月十四日 時雨

一牢舎人幸四郎義郡代所之吟味ニ付呼出申来昼廻^并出番藤蔵取計候

一牢舎人治助病氣申出大年寄へ申達ス藤木良全ニ申付候由申出候

一菜種百六拾九俵油方三人之もの共之川下ケ切手裏印願出裏書取計

之

但是迄ハ運上奉行之手形裏印取計之候処未知ケ原ニ^而運上被

取立候先規之定之ものニ^而双方ニ^而可取筋ニ無之仍之此方ニ

^而運上御免ものニ相成候由勘定奉行上原彦蔵之通用有之仍

之此度初^而裏印取計候

一玉置卯左衛門娘備前岡山赤穂屋直助妻病氣差重リ候ニ付昨晚差返

し候処途中ニ^而昨夜相果候段申越候付卯左衛門義十日悴忠四郎義

廿日之忌服受ケ引込候段大年寄之届出候ニ付卯左衛門引込計御用

番^并大目附へ相届候札元見習ハ不相届例ニ付不相届候

一御蔵米五拾七匁米五拾三匁

一御代官稻垣藤四郎殿支配所之生野迄囚人通行先触左之通到来

覚

一本馬 壹疋

但姫路之生野迄外人足式人用意可給候

右^者作州村々式朱判御貸附利金持参^并囚人拾人召連明五日晝

七ツ時同国薪森原村出立但州生野陣屋へ罷帰候条於宿々書面

之馬無遲滞差出御定之貸銀受取之被繼立且止宿村方ニ^而囚

人番人非常之手当等いたし置勿論一汁一菜之外馳走ケ間敷義

無之様所有合之品を以相賄川越舟等之場所ハ前宿之被及通達

差支無之様取計此先触早々順達留リ村之生野陣屋へ可被相届

候以上

稻垣藤四郎手代

林 桂助

牛 十月十四日

津山 勝間田

十五日泊土居 十六日千本 十七日仁豊野 但州 森垣迄

右宿々^{問屋}年寄中

右先触到来ニ付寛政六寅年十一月十五日之先例之通町々保頭先立

同心組式人自分羽織迫之体白衣ニ^而跡を固メ安岡町之東新町迄致

警衛候様ニ小頭へ申付大年寄へも右之段相達置候段御用番^并大目

附へ相届候尤先触写御用番中へ差出候

一井崎与助之元魚町二階町辺ニ赤犬有之人ニせき懸リ同人次男往来

候砌度々セキ懸リ喰付候義も有之候ニ付山手屋弥太郎へ申川下へ

遣候所早速帰リ矢張右体ニ^而困リ入候間宜為取計具候様手紙ニ^而

頼来其段大年寄へ申付宜取計候様ニ申達ス

十月十五日 快晴

- 一 太田舎人_ノ船賃上之義尚又蔵元_ノ肥後屋太七へ懸合之下案御用番中へ伺置候処油船ちん之義も油屋共_ノ此節懸合居候_而未油も着岸不致候故右油過半致着岸候上_而懸合候様御用番中被仰出候旨申来右_ニ付油着岸之様子相届候様_ニ申来候故其段大年寄へ申達置候
 - 一 久世御代官早川八郎左衛門殿手代貝塚五郎蔵内藤大右衛門_ノ今十五日一日之米相場書取_ニ来昨年之通_ニ取計直_ニ差遣候
 - 一 西川役人平沢助八高橋金治_ノ例歳之通米平均相場頼来及相答
 - 一 御蔵米五拾七匁五分町米五拾三匁五分
 - 一 船出入一件竜野_ニ而小瀬村源右衛門給屋忠治対決吟味有之申口下説蔵合孫左衛門認出候翌十六日太田舎人_ニ差出候
- 十月十六日 快晴
- 一 大神楽岡田忠大夫昨日罷帰候段大年寄届出大目附へ相届候
 - 一 牢舎人庄助全快_ニ付休菓双方_ノ届出候
 - 一 三浦十郎左衛門今五半時_ノ牢屋吟味_ニ被出立合又六新治差出ス尤水責手当昨日申来申付置
 - 一 渥美源五郎長屋住治助義少々牢問等も致候得共不及白状母妻も呼出し遂吟味候得共差_而手懸りも出来不申市五郎_ノ人足頼呉候様申候_ニ付国島栄庵長屋之もの頼_ニ参候所参り呉不申夫_ノミ之義_ニ而
 - 一 有之市五郎義尋出候迄ハ此趣_ニ而可差置筋_ニも候得共是以際限も無之義何れ市五郎と申もの引合吟味_ニ無之候_而ハ不相分何れ_ニも本人之義_ニ而も無之縦市五郎不出節ハ御城下扨位_ニ可相伺位之も
 - 一 の候処同人義強く致吟味候得_者却_而市五郎と申もの不出様_ニ可相

- 成哉_ニ考候間市五郎を呼出候計策_ニ差免渥美源五郎へ差返し置追_而市五郎と申もの召捕候_而入用之義も候ハ_、其節端を改_而召捕可然其内_ニ出奔仕候得_者夫切之義_ニ候間右之通可取計旨佐々木主馬へ及相談候処存寄無之旨_ニ付其段御用番中へ相伺候処今日ハ丹後殿御他出_ニ付明日可及差図旨一学殿被仰聞候
- 十月十七日 曇
- 一 御蔵米五拾八匁町米五拾四匁
 - 一 油屋共油五拾石取寄候節西大寺_ニ而懸合之趣も有之候_ニ付右油過半着岸いたし賃銀受取方之様子_ニ寄御蔵元_ノ肥後屋太七へ船賃之一件返書_ニ為及候間油着岸之趣申付置候様_ニと太田舎人_ノ被申聞其段申付置候処孫左衛門心得違_ニ而五拾石不残致着岸運賃尅駄_ニ付五匁式分積先格之通相渡相濟候段届書差出候_ニ付太田舎人_ニ差出候
 - 一 竜野_ニ而船方一件吟味給屋忠四郎後手錠恵助源右衛門手錠被申付候下説書孫左衛門差出太田舎人_ニ差出候
 - 一 但州生野稻垣藤四郎殿手代_ノ御廻米_ニ付小桁へ相廻候印鑑来右書面端書_ニ津山町今津屋平蔵倉へ入置候間火盜之手当可申付_者差懸候義ハ村役人蔵元直_ニ呼出候旨申来候由三浦_ノ相廻り候_ニ付大年寄へ例歳之通手当申付置候様_ニ申達ス
 - 一 二階町松本屋伊助義身延山参詣_ニ罷出尼ヶ崎領_ニ而致病死候_ニ付同人悼喜助義墓所参り挨拶旁_ニ明日出立候付町役_ノ挨拶之添差遣度下案差出及一見互取計候様_ニ申付ル

一 竜野へ差遣候飛脚之者罷帰リ引合之ものも有之候ハ、従是可申越之旨返書差越大目附へ差出候所御用番中へ差出候様申来御用番中へ差出候

一 御作事相場付挾板相廻リ候

一 油方三人もの共る当午兵庫表^江積登候菜種兼^而約束之通三百拾三俵去ル十五日迄^ニ積登相济候段届書差出承リ置尤大目附へハ内々及噂候得共届^ニ者不及筋と申^義。達置相济右ハ当国中之受負菜種之員数也

十月十八日 少時雨

一 御用日登城

一 豆腐屋共去巳八月豆腐式拾文売仕候処大豆下直^ニ相成候^ニ付以後^者拾七文売^ニ可仕届書差出御用番中御聞濟^ニ付大目附へ差出置御聞届申達候右算様書左之通

一 壹匁 大豆式斗代但五拾匁かへ

一 三分 薪代

一 壹匁三分 拾壹挺分之元入也

拾七文^ニ売 壹匁六分三厘

内壹匁三分元入引

残^而三分三厘手間代也

一 酒改共る当秋米直段五拾匁以上^ニ付酒直段壹分下ケ届出尤直段付左之通

一名酒壹升付 壹匁七分^ノ式匁式分迄

一 極上酒同 壹匁五分

一 諸白同 壹匁式分

一 上酒同 壹匁

一 生酒同 七分

一 下々酒 五分五厘

右御用番中御聞濟^ニ付大目附へ差出置御聞届申渡候

一 町作御年貢取立之義当時之姿^ニ而ハ不^レリ^ニ付先年新法変格之節之形之通町年寄引負相納候様致度申立有之由郡代^ノ通用有之左候而ハ町方故障^ニ相成候段申述候^而も承引無之依之大目附伊達与吉郎へ弁書差出候所何れ^ニも双方遂熟談申合同書差出候様^ニ被申聞依之尚又遂対談左之通弁書兩名^ニ而伊達与吉郎へ差出候

町作御年貢取立之義以前之通寄吟味大吟味之節作人を町年寄召連罷出候様仕度趣御代官^ノ申立有之候処年寄罷出候義ハ差支之筋有之^ニ付去ル申年後藤守助^ノ青木源太左衛門へ懸合當時之姿^ニ相成居候旨右之趣双方^ノ弁書差出候之処両役申談相濟シ候様先頃御達有之候^ニ付以来両役申談右ハ町年寄召連罷出候所を組頭召連罷出候様^ニ両役申談相濟候^ニ付此段申上候以上

十月十八日 増兒右門 三浦十郎左衛門

右弁書八十郎左衛門相認候^而右門^ノ与吉郎へ差出候所弁書之通^ニ

而同濟候間下方へ可申達旨被申聞候付其段大年寄へ申渡候

一 御藏元^ノ西大寺肥後屋太七へ運賃上ケ之義懸合之下案太田舍人^江差出置候処少々添削有之明朝立^ニ而可差出旨被申聞其段齋藤孫右衛門へ申付候尤種油積登リ運賃等相濟候上^ニ而右懸合為仕候様一

学殿ハ先日御差図ニ付今日迄延引候処右種油不残致着岸先規之通
寄駄ハ五舟積船質相渡濟候段昨日太田舍人ニ申達候故今日右之通懸
合候様ニ被申聞候大年寄ヘ申付候

一中之町綿屋勘兵衛御咎御裁許過料取計ト伺直候様大目附松岡治部
助被申聞其趣ニ認かヘ御用番中ヘ差出候所又候少々思召被仰出左
之通大年寄於宅小頭孫八部屋目附左十郎差出申渡候

中之町綿屋

弟玉琳佐助と申合在方ニ 勘兵衛

大商内為致候御咎ニ付過料

三貫文為差出候上追込申付候 但日数三十日

東新町大島屋

在中ノ壳体之品多分ニ質物ニ 吉助

取置町内ノ願出候程之義心付無之

其上町内ノ願出候ニも不届出不埒ニ付過料

卷質文申付候上追込申付候 但日数十日

右取計相濟候段御用番ニ大目附ヘ相届候

一吹屋町釜屋市郎右衛門吹屋八左衛門御咎ニ付下職之者三拾余人ニ

得意先他国迄差支ニ相成候ニ付職計成とも被差免候様仕度旨太田

舍人ニ吳々申達置候

一当役筋ニ引受居候關所もの相重リ候間先格之通入札ニ相払申

度大目附佐々木主馬ヘ申達候所承リ置候間御勝手次第先格之通宜

御取計可有之旨挨拶ニ相濟候依之近々可取計事

一盜賊召捕ニ目明共他所差遣候入用左之通奥印書取計候

一七拾六匁六分三厘六毛

右ハ七八月御家中ヘ這入候盜賊尋ニ近在ヘ差遣候入用

一四拾九匁八分七厘五毛

右ハ九月盜賊市五郎召捕ニ弓削ヘ平助甚七源之丞非人差遣

候入用

一百三拾五匁八分四厘

右ハ同月市五郎尋ニ左十郎目明非人差遣候入用

ノ式百六拾式匁三分五厘毫毛

一桶屋町和兵衛孤独扶持代九匁真北類藏ハ相廻大年寄ヘ相渡但当月
十三日ノ十一月晦日迄之分也

一牢舍人新吉新藏病氣申出大年寄ヘ申付候処難捨置ニ付藤木良全ヘ

申付ル

一牢舍人伊作久藏袷単物入遣度申出承リ届

一下紺屋町長江朝庵義播州平野村中井久兵衛方ヘ四十日余之逗留ニ

而明後廿日ニ出立大年寄承リ届差出候

一藏合孫左衛門ノ釜屋市郎右衛門義永々御咎被仰付候ニハ備前ニ之

響甚あらく候旨弁書差出遂披見置候同廿三日太田舍人ニ差出即日

相戻ル

十月十九日 初雪

一東新町大島屋吉助義追込昨夜申付候処同人義ハ札元山本三郎左衛

門下人ニ勿論同居之ものニ三郎左衛門商売名前之ものニ付為

慎方先例取調候処類例も間々有之候得共安永九子年十一月廿日玉

置広四郎方より御膳酒差上候処右御酒之内ニ古筆有之広四郎商売名
前之もの御咎被仰付玉置方一様ニ相慎候趣尤日記不悉候得共下方
相糺候処右名前之もの御咎被仰付広四郎義同様ニ相慎罷在候由嫡
当之例ニ付右ニ准シ山本三郎左衛門方ニ同様ニ相慎罷在候様申
付候処三郎左衛門義恐入差扣相伺候段今曉申出候得共元來家名前
之ものハ作代同様之義殊ニ玉置広四郎も差扣伺出候趣も無之旁ニ
付一学殿へ罷越其段相伺何れ名前之もの御咎之義ニ相濟候得者
差扣伺出候筋ニも有之間敷候勿論慎ハ三郎左衛門於宅申付候段
相伺候処至極尤之義御同意ニ候間其旨取計置候様御差図ニ付其段
大年寄へ申渡候然ル所同役妹尾平兵衛方内々大年寄へ伺出候由何
角我儘成不敬之申分ニ三郎左衛門出入ハ如何可致哉又ハ御用ニ
三郎左衛門方へ罷越候節如何可致杯と申出候趣粗相聞候ニ付
実ニ立入差扣相伺候程之義ニ候ハ立歸り心底ニ相尋候ハ左程
之義ハ可相分義右等之義役筋より可及差図義ハ無之且又御咎之もの
方へ罷越候義ハ不相成筋之所御用ニ参候義ニ候ハ其度々伺
出差図を受ケ罷越候様ニ申達置候何角不承知重々不敬之申方ニ付
其段叱置候

申付候段差紙來認直し左五兵衛差出入牢取計候
一御藏米五拾九匁町米五拾五匁
一牢舍人御仕着例歳之通小頭取計綿入十相伺差出相渡候様申付ル但
直段九匁五分拾式匁五分迄也惣高百拾匁五分也
一学殿へ今朝罷越候処全体当所ハ薪高価ニ付今般船出入一件ニ付
長岡船薪持來候様ニ相成間敷哉考申付候様被仰聞候ニ付喜左衛
門へ考申付候
十月廿日 少雪
一牢舍人伝右衛門惣助郡代所より吟味ニ付呼出申來出番百藏為治差向
出入取計候
一稲垣藤四郎殿支配所へ塩積登候義先日油屋共西大寺ニ懸合手扣
中ニ有之ニ付一学殿承り合候様被仰出下方承り糺候処藤四郎殿
支配所河西村弥太郎願付塩取寄候間爰元ニ調候ハ売可申旨並
屋忠兵衛江先達ニ相咄候ニ付下直ニさへ有之候ハ調可申旨申置
候処其段何之沙駄も不相聞候由喜左衛門申出候ニ付弥太郎方へ忠
兵衛差遣内々承り合候様ニ申付置候所今日聞合之趣認出し候ニ付
紙面ニ一学殿差出候
一勘定奉行上原彦藏より山本三郎左衛門商売名前大島屋吉助御咎ニ付
同居之もの故三郎左衛門不罷趣ニ相聞候所此節近藤伊左衛門出版
前ニ御乗出御用向申談候御用向有之右ニ付三郎左衛門不罷候
ハ差支候間罷出候様ニ相成間敷哉者右御用向ニ付候ハ差懸候
義ハ同役差遣度候間是又相成義ニ候ハ其旨申達置候様ニ致度可
伺筋ニも候ハ勘定奉行より可相伺哉と相談有之候ニ付諸事同濟

之上取計候義ニ候得者此間之趣ニハ不相伺候ニハ難取計旨昨日
も及御挨拶候得共尚又相考候得御用向之義ニ候得者夫或之義ハ
不相同役筋ニ取計候も苦かる間敷哉ニ奉存候間其趣申達可
置旨及返答左之通申達候

山本三郎左衛門義同居慎之ものも有之候得共差懸り候御用向
有之由勘定奉行申立有之義ニ付三郎左衛門一人ハ右御用筋
竊ニ出入可仕右御用向ニ付同役罷越候節ハ度々ニ大年寄
相届可罷越旨申達候様齋藤孫右衛門へ申達候

一 備前竹内又右衛門へ文通知ニ夫々下ケ札付候様太田舍人被申聞候
間致附札差出候

一 町分并椿高下田町関貫番人不恙之もの有之不之趣ニ付大年寄於
宅小頭部屋目附差出為遂見分候処人も相揃候由名面書帳面差出候
尤兼御定法も申渡候事但名面帳ハ差戻候

一 種油商売之者十八人之内拾式人妹尾平兵衛方ニ銀子借り受申合

大坂へ油申遣売買等掟を定一様ニ商売可致旨平兵衛へ申合候一札
差出平兵衛方ニ諸アリ可致旨取極之書類差出右之通ニ被仰付度
旨平兵衛る差出一ト通りハ尤之筋平兵衛存寄ハ正敷取計ニ候得共
其段承り届候と申ニ相成候ハ後年害之可出来程も難計趣ニ付平

兵衛存付ハ奇特成義ニ候得共商売金銀之借引迄可聞届筋ニ無之
候間其段ハ如何様共勝手次第世上之故障ニ不相成様ニ全体之掟を
守り出精可致商売旨申渡右願書差戻候様蔵合孫左衛門へ喜左衛門
を以申達候尤申合外之油屋共も喜左衛門る心得違無之様ニ可申
達旨申付候

十月廿一日 快晴

一 材木町十吉後家持之丹後山畑地ニ有之候植木西新町孫七理不尽ニ
切取争論ニ相成当七月六日郡代所る見分有之右兩人差出候所尚又
吟味ニ付右兩人明廿二日九時郡代所差出候様申来年寄組合差添
差出候様大年寄へ申達候

一 山本三郎左衛門義御用向出入勝手次第と申渡置候所上原彦藏と近
藤伊左衛門出立迄之間出勤候様御達有之候旨左様ニ趣意違候
間達直候様ニ申来候ニ付大年寄相糺候所近藤伊左衛門出立前御用
向も有之趣御用ニ付竊ニ出入候義ハ不苦旨相達候所近藤立前計之
義哉と相尋候付左様ハ被仰出無之旨及挨拶候由申出候付其段上原
及返答候

一 紀州高野山万生院使僧恵挾と申僧上下式人例年之通来候段坪井町
川原屋治助宿切手差出十一月朔日帰届ル

十月廿二日 晴

一 太田舍人備前文通知之附認差出候通ニ旨旨ニ被差戻候
一 牢舍人治助不快快氣ニ付今日休葉双方る届出候
一 牢舍人周蔵綿入差越候間入可遣伺出承り届

一 房州朝夷郡上三原村善道寺弟子浄心と申もの千ヶ寺ニ罷出雲神戸
郡今市村ニ相煩快氣ニ趣候得共歩行難相叶同所る送り出し院庄
村迄送り来往来等も致所持候間継送り候様申付候旨郡代所る通用
有之継送り候様大年寄へ申付候処同夕送り届候段届出候

一 材木町十吉後家西新町孫七右兩人吟味ニ付郡代所へ差出候処吟味
中他参留申付度向方ニ可申付哉又ハ此方ニ可申付哉と申来吟

味_二付_而之取計_二候得_者向方_二申付候方可然哉_二も存候得とも
寛政三亥年十一月十四日安岡町岡崎屋伊兵衛地所境論_二郡代所
吟味之節郡代所_二懸合之上当役所_二吟味中他参留申付候先例有之
義_二付此方_二申付旨申遣置左之通申付候様大年寄へ申渡候
於郡代所吟味中他参留

申付候

材木町十吉 後家

西新町 孫七

一 船出入一件竜野_二吟味口之趣倉敷大和屋代治郎_二承り候趣両通
相認孫左衛門差出太田舍人_江差出候

一 石代之義_二付公料百性共出訴御取計之風聞_二又大和屋代二郎_二承
り候趣蔵合孫左衛門差出太田舍人_江差出候

十月廿三日 快晴

一 御用日登城

一 雲州能儀郡大塚村源四郎悴磯吉一人西新町久米屋清助引受度人別
入願御用番中御聞濟_二付大目附へ出置御聞届申渡候十一月廿九日
住宅証文差出

一 脇坂淡路守殿預り所当国英田郡土居村久右衛門母一人坪井町万屋
佐助引受度人別入願右同断取計濟十二月廿二日住宅証文差出

一 牢舎伊助甚兵衛兩人_二伺之通勝手次第追払取計候様御用番一学殿
_二被仰渡候_二付明廿四日出番_并小頭孫八牢屋へ罷出其段取計候様
_二小頭へ申渡

一 御用番一学殿_二渥美源五郎長屋住治助義為計策追払可取計伺有之
候得共彼義今暫左様も難成もの_二付先来春迄も入牢_二致置候様被

仰出候

一大目附佐々木主馬_二野村権九郎殿来ル廿七日出立_二又候当所へ
被相越候間諸事先頃之通取計候様被申聞候

一 備前船出入一件竜野吟味口之趣_二付以後之心得之義蔵合孫左衛門
考書去ル十八日差出尚又今日も右同様_二付考書差出候_二付仕之
上太田舍人_江差出候

一 太田舍人_二左之もの共呼出し於役所致直吟味口書印形取置之候_二
_二兩人_二家職差免四人共預ケ差免禁足申付候様被申聞候右_二付
何れも呼出し左之通取計候尤立合例之通

吹屋町釜屋

市郎右衛門

同 吹屋

八左衛門

口書印形取之町内預ケ差免

釜屋市郎右衛門手代

以後禁足申付候

治右衛門

吹屋八左衛門下職桶屋町

治右衛門同様可申付之處此節

新蔵

大病_二得_二不罷出代人差出候

右煩代同町

_二付口書不取之代人_江組合預ケ差免

藤助

以後禁足申付候段申渡

右之通取計相濟候段太田舍人_江相届口書差出候処御用番_并月番大
目附へ相届候様申来翌廿四日御用番へ口書差出佐々木主馬_江も相
届候

一桑原村源四郎方へ去ル十二日夕盜賊這入八品盜取百四拾壹匁計之
もの、由触流取計候様大目附中と違有之町触取計本書ハ大目附へ
差戻

一吉原村兼七方へ去ル十八日夜盜賊入込衣類脇差之類十五品盜取百
三拾五匁位之もの、由触流取計候様大目附中と違有之町触取計本書
ハ大目附へ差戻候右盜もの町方ニ無之旨同廿九日申出ル

一元魚町肥後屋吉太郎借屋住木屋九兵衛義當五月備前表へ参趣ニ
罷出不罷帰ニ付七月相届百日尋被仰付候処最早百日余ニ相成候得
共行衛相知不申然ル所今少心懸之所御座候付今五十日之日延願差
出候付承り届

十月廿四日 快晴

一於牢屋小頭孫八部屋目附左十郎差出左之通申渡出番百歳為治中須
賀へ送り弘例之通一札取帰候

元中尾鉄三郎長屋住当時無宿

吟味相済無宿もの

伊助

義ニ付御領分追払

元尼子数右衛門長屋住因州者当時無

申付候

宿

甚兵衛

右取計相済候段御用番并大目附へ相届候

一元魚町藤野屋喜助倅嘉四郎義町作庄屋父喜助跡役申付候由郡代所
と通用有之当人も御札罷出候

一御蔵米五拾八匁町米五拾四匁

一安岡町久米屋友七義大坂土佐堀式丁目木屋与兵衛方へ廿日計之返
留ニ明後廿六日出立願書差出承り届十一月十六日帰ル

一郡代所々明廿五日四時と牢屋吟味ニ罷出度候間例之通拷問道具取
揃置候様ニ申付呉候様申来小頭へ申付ル

十月廿五日 時雨

一郡代牢屋吟味有之四時と立合又六新治差出候

十月廿六日 晴

一牢舍人新八休薬直^{御座}代リ医師願出大年寄へ申達ス吉武修格へ申
付候由申出

十月廿七日 快晴

一大目附佐々木主馬と呼ニ来御城江罷出候所江戸表と飛脚到来

御勘定所と左之通被仰出候段御留主居田中幸助と申来候間勘定奉
行江対談之上早々取調差出候様被申聞候

御勘定奉行柳生主膳正殿より御呼出ニ付大手御番所後御勘

定所江罷出

出席

御勘定組頭

岡松八右衛門

御勘定

木城定右衛門

被申渡左之通

美作国津山町石代直段立方以来書出方之儀去巳八月中委細申達
候処右之通ニ村方難義之趣も相聞候間当年の十月下十五
日之内御領主払米相場立候日三度以上有之候ハ、右下十五日計
之平均直段相用ひ若下十五日之内右払米壹度有之候ハ、上十五

日之内末々相場二口差加_江都合三口を平均又_者下十五日_二兩度有之候ハ、上十五日之内末々壱口を加_江尤下十五日之内度々相場立候日有之候ハ、幾口_二而も平均を用ひ方々一下十五日之内_二考度も御領主払米無之節_者上十五日之内末々三口を平均相用ひ且又津山領商米_者壹俵三斗三升入_二壹升之餘米有之候由_二有三俵_二て壹石_与唱市中売米取引致候_二付実_者壹石式升有之候由然ル_ル御領主收納米_者三斗三升入_二式升之餘米有之候由右払米_者三俵_二て実ハ壹石五升有之市中売米_二競候_而者_三升之餘米_二たけ高直買請候之由_二付御領主払米直段_二而_者難儀之由_二付以來御領主払米壹石之直段を壹石五升_二割右餘米三升丈ケ之代銀引去り上米直段_二相立中下米代之義_者仕来之通直段下ケ致シ端銀とも書付年々御代官御預り所役人方問合有之節無相違様得と相改可被差出候

右_者松 伊豆守殿_江伺之上申達候間可被得其意候

年十月

右御書付之趣勘定奉行上原彦藏へ致対談候処御上御收納米三斗五升俵と申形_二而_者無之三斗四升日々末之一ト升ヲ山計リ_二致候御建_二而_者実ハ三斗五升_二而_者無之大体三斗四升六七八合位も有之事_二而_者既_二当年杯も御廻米船積之節升目相改候処三斗四升七合位之平均_二而_者相成尤右米ハ百性相収候儘_二川岸へ持出候事_二而_者一向手不入欠ハ無之筈之処右之通三斗五升と申候得_者升目違_二相成候由被申且又町方_二而_者取扱候商米も三斗五升入を丸俵と相唱候様詰合御役人も相覚候様申旁以違有之段即刻兩人方大目附へ申談候処大目

附中も御收納米升目定之義ハ森家方御讓之事_二而_者公儀_江も兼_而御達も有之候事之様_二も相覚候間右之段今一応不相伺候_而者_{取調も出来不申候間御勝手_二而_者ハ右升目先前者之御建之処相伺可差出当役_二而_者ハ町方_二而_者取扱候商米升目米屋共如何相心得居候哉其段急_二相糺可然其上_二而_者江戸表へ可申遣其内御近領る相場書取来候ハ_二其趣申達断置候_而可然旨_二付大年寄孫左衛門孫右衛門兩人呼出し米屋共不残呼出し升目之所相糺申出候様申付候}

一御蔵米五拾七匁五分町米五拾三匁五分

一元魚町小島屋源右衛門妻妊娠_二相成先月可相届所致延引候段届書差出先格之通出産之上月取間違叱置候様_二申達ス

一坪井町万屋佐助妻妊娠届当八月仕候処去ル廿五日男子出生仕月取間違之旨届書差出例之通七夜後叱置候様_二申達ス

一二階町杵筑屋吉助義松五郎と申無宿者少之内差置候処右松五郎太田村忠助方_二而_者御年貢米壹俵盜取候由内濟_二相成右米代吉助つくない候由昨夜夜廻り左十郎栄治廻り先_二而_者承り右松五郎も今以杵筑屋方_二居可申哉之趣_二付直_二踏込相糺候所米代つくない候_二相違ハ無之候得共右松五郎逗留致候_者当月五日方七日迄之事_二而_者當時居不申候由吟味書取之差出尤他參留申付置候段申出候何分郡代所へ懸合之上可有差因事

十月廿八日 快晴

一御用日登城

一玉置源五兵衛義病氣差重り候_二付御役免願書昨夜及深更差出右先例相調候処天明二年十月十二日藏合孫左衛門死去_并天明三年五月

九日藏合伊三郎死去之節役免願書差出翌日御許容^ニ而願之通御役被成御免被成依之御扶持方不被下候得共家柄之義^ニ付帶刀御免被成候段申達相濟候上^ニ而死去届致候例^ニ相見へ候^ニ付右願書出仕之上御用番中へ差出先格取計之義も申上置候所後刻御用番一学殿^ノ左之通被仰渡候

一 玉置源五兵衛義病氣差重り役免願書差出願之通御許容被成候

一 尤依之御扶持方ハ被引上候^ニ家柄之義^ニ付帶刀ハ被差免候

一 右之通被仰渡候^ニ付月番孫右衛門へ切紙差遣呼出候右之段小須賀

一 一学殿被仰渡候旨申達

一 玉置源五兵衛義塩運上取計被仰付有之候^ニ付右跡役当分同役藏合

一 孫左衛門斎藤孫右衛門兩人^ニ引受相勤候様可申達旨御用番中同

一 濟^ニ付大目附へも相達置兩人^ニ申渡候右塩運上取計ハ安永二丑年

一 玉置忠兵衛へ被仰付引統源五兵衛相勤候義^ニ候尤運上奉行へも通

一 用有之候様勘定奉行へも及通用候

一 玉置源五兵衛死去仕候段斎藤孫右衛門^ノ届出御用番^ニ大目附へ紙

一 面^ニ相届候尤天明二三年之例ハ死去ハ承り置候様^ニ相見へ候得

一 共何れ御目見人之義^ニ候得^ニ可相届筋と相考相届候

一 一 東新町大島屋吉助追込昨日迄^ニ而十日^ニ相成候間今朝差免候段御

一 用番大目附へ相届候

一 一 船持共竜野へ被呼出一ト通りさつと尋計有之候節之答振藏合孫左

一 衛門認出し太田舎人^ニ差出候所一学殿へ直^ニ差出候様^ニと申義^ニ

一 付一学殿へ差出置^ニ御呼出し有之節可差出と兼^ニ心得申達置候姫

一 路屋伝六榎野屋茂一郎和泉屋清助米屋藤右衛門何も致習熟最早何

方へ差出候^ニ而氣遣ハ有之間敷旨藏合孫左衛門井口恵左衛門申聞候付其段も太田舎人^ニ申達候所呼出役所^ニ而申振承り候^ニも可然何分右等習熟之趣一学殿^ニも申達候様^ニと申義^ニ付申達候所役所へ呼出し承り候義ハ余りばつと致宜かる間敷旨被仰聞候

一 元魚町住屋市左衛門義大坂道修町三丁目伏見屋半左衛門へ菓代買

一 懸り二貫三百七拾四匁六分六厘差滞有之御番所へ及公訴六十日限

一 里濟方可申付旨御達有之候由村尾左右衛門^ノ申来候^ニ付先例之通

一 宜取計候様大目附中被申聞依之明廿九日九時住屋市左衛門呼出候

一 手配申付置候

一 一 牢舎扶持五俵之内貸証文昨日差出奥書取計候但来月へ持越巻石式

一 斗七合五夕有之候

一 二 階町松本屋喜助義尼ヶ崎山田村^ノ罷歸り村役人^ノ返書差越候大

一 年寄^ノ差出候付大目附へ差出候

一 一 町方米商売之もの共不残呼出し商米升目相糺候様昨晚申付置候処

一 昨夜米屋^ニ中買共都合百五人大年寄宅^ニ而相糺候処何^ニ町商米ハ

一 三斗五升俵^ニ而致取扱候旨^ニ付今曉迄^ニ印形取極差出候付公儀被

一 仰出とハ升目違有之旨拙者伺書差添大目附へ差出置候処又候御評

一 義替り以前も升目違有之事共承り伝居候ものも有之候ハ^ニ弁書取

一 可差出^ニ而藏合孫左衛門勝与八郎殿へ申上候弁書差出候様松岡治部

一 助^ノ被申聞其段孫左衛門へ申付候

一 一 勢州安芸郡白子村形屋仁左衛門手代伊兵衛一人例年之通紺屋形売

一 来候段堺町西川屋善助宿切手差出

一 一 似せ銀一件之丈兵衛義当夏因州へ相渡置候処未否之義不申来^ニ而同

類利左衛門義も向方ニ召捕居候由ニ付山田新三郎ノ懸合置候所一
向否之義不申越候間尋ニ飛脚差遣可然哉と懸合下案相認メ松岡治
部助へ談置候

一町方商米三斗五升入と致候而ハ御藏米釣合不互他領ニ而も三斗四
升俵と申立候位之義ニ候得者以来三斗四升俵ニ被仰出候而も故障
ハ無之哉相糺申出候様ニ松岡治部助被申其段大年寄兩人江申付候
所中買共承リ糺候所以来之義ハ三斗四升俵と被仰出候而も故障ハ
無之旨口上書認出候松岡治部助へ差出候

十月廿九日 快晴

一町米升目区々之取計も有之趣以前ノ之聞伝へ東新町鋼屋宗兵衛船
頭町和泉屋清助戸川町伊勢屋佐左衛門三人口上書大年寄ノ指出候
并藏合孫左衛門勝与八郎殿申上候弁書扣差出候付松岡治部助へ差
出候

一関貫番賃銀例月之通相渡候

一小頭孫八部屋目附新治大年寄孫右衛門諸吟味喜左衛門立会ニ而九
時ノ左之通申渡候

大坂道修町三丁目伏見屋半左 元魚町住屋

衛門ノ其方へ相懸リ藥種買懸指滞 市左衛門

候段及公訴右訴状御番所ノ御渡ニ候間誂

為聞候間可承旨申達書役新左衛門誂渡畢而

右訴状之趣相違無之哉と相尋候所相違無御座

旨御請申ニ付右訴状之趣六十日限り濟方被仰出候間

六十日限り急度濟方可仕候万一間違等之義も有之候ハ、早々

登坂仕申披可相濟候右ニ付他參留申付候

右申渡相濟候段御用番并大目附へ紙面ニ而申達候尤大坂左右衛門
へ先例之通書状相認差添大目附へ差出候所大目附中存寄無之且取
計可申尤御用番中へ相伺候先例ニも有之候ハ、相伺候様申来候処
去已九月七日糺屋伊助大村屋源右衛門ニ懸リ公訴之砌も村尾左右
衛門へ文通下案を以伺候義無之其以前後藤守助役中ニも間々有之
候得共大坂へ文通伺候例無之ニ付其段佐々木主馬へ一ト通り申達
置先格之通左右衛門へ及文通候尤飛脚ハ明晩仕廻幸便可有之趣ニ
付其節可差遣候

一東新町大島屋吉助過料錢九匁貳分三厘大年寄ノ相納候

一竜野御預リ役所ノ例歳之通米相場書取ニ来尤向方へハ未御達も無
之哉大体去歳之趣ニ申来大目附役所へ罷出相伺候処松岡治部助ノ
未御評義不決義ニ付委細之訳難申遣候間御紙面之趣致承知何分取
調之上從是得御意と計申遣候様差函ニ付其通及返答候

一久世手代貝塚五郎藏内藤大右衛門ノ米相場書取ニ来是も当年之御
達者無之哉去歳之趣ニ而申来候尤竜野同様之及返書置候

十一月大

月番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 黒田要人殿

大目附 太田舎人

大年寄 齊藤孫右衛門

十六日ハ蔵合孫左衛門

諸吟味 宮田喜左衛門

十一月朔庚 中旦 曇

一御吉事日ニ付登城可仕処自分義致腹痛候ニ付三浦十郎左衛門を以

当病御断申上候

一去歳久世江相廻候三段相場書扣差出候様大目附松岡治部助より昨

夜申来今朝右扣四通差出候

一勝山渡部唐兵衛榊原九郎左衛門ハ飛脚差越例歳之通米相場書取ニ

来候ニ付昨日大目附ハ達之通取調之上従是可得御意旨及返書候

一右同人ハ米相場書例歳差遣候為挨拶志摩守殿ハ金貳百疋被相送候

由一昨年之通申来先格之通及御受候尤右之段大目附ハ明後日可及

噂事

一西吉田役人山上仁左衛門ハ例歳之通米相場書取ニ来右同断及返書

一牢舎人長女庄助綿入差越候間入可遣哉ト伺出承り届

一牢舎人新吉四五日不食仕候付扶持米之内ニ而 貲相調呉候様相牢之

ものハ願出候段牢番伺出承り届

一牢舎人周蔵昼賄不差越候段届出候ニ付郡代所ハ及通用候

一牢舎人直兵衛足一向不叶ニ付二便難逢候間小桶ニ而も入呉候様願

出候段申出先例無之義ニ候得共実ニ無余義趣相聞候ニ付承り届

一先月廿三日大目附佐々木主馬ハ左之通達有之類役江も及通用先月

廿三日之所ニ可記答ニ候処認落候間爰ニ記置候

十一月朔日ハ火鉢可差出御定例之処余ハ寒冷強候ニ付今廿三

日ハ火鉢差出候様被仰付候

一船出入一件竜野ハ被呼出候節之下通り之答書一学殿ハ差出置候処

御用番中御附紙ニ而 太田舎人ハ被差戻右之通下方ハ得と為吞込置

候様ニ太田舎人ハ申来其段孫左衛門ハ申達候様孫右衛門ハ申付置

候

一米中買共致所持候米相場帳勘定奉行入用之由ニ付差出候様申付置

候処明和五年ハ寛政六年迄十九冊差出候付上原彦蔵ハ相廻候

一大目附松岡治部助ハ拙者義今朝ハ腹痛ニ而 相断候処致面談度義有

之候ニ付耳候ハ押而罷越候様晚方手紙ニ而 申来り御同人宅ハ罷

越候所左之通被申聞候

石代建方之義公儀ハ被仰出通ニ取調遣置右升目違之義ハ明晚

立ニ而 江戸表ハ申遣一ト通り御勘定所江相達置可然尤升目之

義御穿鑿も有之候処全体三斗四升入三俵石古法之趣ニも相聞

へ候間以来ハ三斗四升入ニ相極候様町方ハ演達仕候様御用番

中同濟候間其旨取計可申旨被申聞尤夫々下案等も被相渡其旨

大年寄ハ申付候右ニ付御代官所ハ文通下案并町触下案も差出

伺濟候

一 御代官野村権九郎殿近々御領分境へ被相越候間逗留中先日被仰出候場所へ参申間敷大目附触到来町方并組中へ相触候

一 備前西大寺肥後屋多七右御藏元へ銚本羽船賃之義相糺申聞候様被仰越船持共へ懸合候処以前之運賃ニ而ハ弥不積送趣申候ニ付田原役人中へ懸合候所以前之通之運賃ニ而積登リ候様被相移候ニ付其旨相心得候様申越并釜屋市郎右衛門へも右同様之趣申越候書状差出候然ル所銚本羽ハ運賃定違候哉之様ニ兼承リ居候処銚本羽共同船賃之趣ニ申越候故為相糺候処弥違之趣藏元右弁書差添出濟□可然分ニ而三升計之違ニも候得其儘差置候ニも可然旨認出候得共少ニ而も間違之義を其儘ニ承リ置候も如何ニも候間申遣置候ニ而も可然哉之旨手紙相添翌二日太田舍人江差出候

十一月二日 快晴

一 左之通町触差出候

南米升目当国中所々之趣ニ相聞候此已後壹俵三斗四升入

三俵右ニ相改取扱可申候

右書付之通米屋共江中買右申聞惣町之所大年寄右町年寄へ申聞町内追々演達致候此節ばつと無之様可及演達旨口達ニ而大年寄

へ申達候

一 蔵合孫左衛門義去歳勝与八郎へ申上候右代之手扣ニ左之通相認差添江戸廻しニ相成候由ニ付松岡治部助へ差出候

此度從御勘定所被仰出候石代直段立方之儀南米者壹俵三斗三升入ニ壹升之余米有之由三俵壹石と唱実者壹石貳升有之由之

御文段ニ御座候得共南米も御藏米同様之升目ニ而年久敷売買

致来候義ニ御座候然ル所当国中古来ハ三斗四升俵ニ而取扱候様ニ承リ伝候古老之ものも有之此節ニ而も御料私領共三斗四

升俵ニ而取扱候方も多く相聞候ニ付此度被仰出ニ准し此已後南米三斗四升俵ニ而取引致候様米屋共江申付勿論石代立方之

義者今般被仰出候趣を以取調候上夫々問合之方へ申遣候様取計可申乍然年久敷前段之通取扱来リ候義且去歳勝与八郎殿江

も蔵合孫左衛門右申述候弁合も別紙之通りニ御座候付右之趣御勘定所江一ト通りハ御達被成置候様仕度被存候以上

十一月二日 町奉行

一 坪井滝口与次右衛門右米相場書取ニ来是又外同様ニ何分取調之上從是可得御意旨及返書置候

一 牢舍人新吉療治二廻リ相濟代医願出大年寄へ申達吉武修格へ申付候

候

一 牢舍人新蔵全快休葉申出候

一 西大寺肥後屋太七右御藏元江来状太田舍人へ差出置候処再答下案為相認差出候様申来為相認尚又差出候

一 久世并竜野へ米相場書明朝立ニ而可差遣飛脚之者兩人被仰付候様大目附太田舍人江申達候処御使組加藤茂助小堀林太来ル

一 米相場書今般從公儀被仰出通ニ取調明三日立ニ而久世勝山西川坪并四ヶ所小堀林太ニ相渡竜野西吉田之分加藤茂助ニ相渡候

一 大坂村尾左右衛門へ住屋市左衛門義今晚之御飛脚ニ書状差出ス

十一月三日 曇

一 御用日登城申上候御用向無之

一 但馬生野御代官稻垣藤四郎殿手代中沢良右衛門高橋督三郎勝部三

五兵衛方例歳之通米相場書取ニ来久世^江遣候同様ニ仕立差遣候

一 右同人方当正月^江十二月迄之錢相場書頼来尤年々之義故以来度々

ニ者頼越間敷候間取調置呉候様申来取調置可申候間来正月上旬取

ニ被越候様及返書置候

一 半舍人田宗寺村茂吉出牢切手郡代所^江相廻リ認かヘ昼廻左十郎左

五兵衛ヘ取計候様申付ル但帰村ニ相成候

一 三浦志摩守殿^江年々相場書差遣候為挨拶金貳百疋被相送候義大目

附ヘ及噂候

一 釜屋市郎右衛門吹屋八左衛門^江下職手代共禁足差免之伺書認出候

様太田舍人方達有之申渡書認差出候^江蔵元方肥後屋太七ヘ再答下

案思召被仰出其通認させ同人^江差出候

一 戸川町横丁坂口^江土佐屋重蔵借屋ニ喰違垣打付有之今般繕致候

間繕中放子取跡修覆仕度願書大目附ヘ差出候所勘定奉行ヘ達有之

聞届之旨申来其段大年寄ヘ申達候

一 御蔵米五拾七匁米五拾三匁

十一月四日 晴

一 竜野吟味之下説喜左衛門孫左衛門方兩通差出太田舍人^江申達候

一 坪井役人滝口与次右衛門方米相場書差遣候返書来受取書差遣候

一 東新町大島屋吉助方ニ有之候玉林佐助質物吉助御答御免有之候ハ

ノ三日之内ニ売捌候様ニ被仰付候由ニ中買ヘ頼来候由中買共同

出候由大年寄申出候ニ付郡代所ヘ懸合候処其旨村役^江親類ヘ申付

置候間佐助御免無之内ニ^江も不苦候間其旨御聞届被下候様ニ申来
其段大年寄ヘ申達候

一 坪井町万屋佐助妻出産月取間違御叱明五日可取計旨申出候

一 御蔵元^江釜屋市郎右衛門方西大寺肥後屋太七^江船賃上ケハ不仕候

様被仰付候様申越候返書下案御用番中御附紙ニ御添削有之太田

舍人方被相戻附紙之通申遣候様申来其段申付候

一 吹屋町釜屋市郎右衛門吹屋八左衛門^江手代下職四人共同之通申渡

候様被仰出候旨尤申渡文言御附紙御添削之義可申渡旨太田舍人方

申来候付明朝大年寄宅ニ取計候様夫々手配申達候

一 二階町杵築屋吉助二町目虎屋佐吉目明孫兵衛明五日九時^江呼出し

致吟味候段夫々手配申達置候

一 材木町重吉後家西新町孫七丹後山田畑之木切取候出入郡代所ニ

吟味有之候処六ヶ敷ものニ付内濟等申付候^江も可然相請ニ口書

相廻リ内濟申付候様ニ大年寄ヘ申達候

十一月五日 快晴 時雨

一 久世勝山西川^江相場書差遣候飛脚小堀林太罷歸リ何れ方も返書取

歸リ候坪井^江他出ニ付受取書之由ニ差出久世方^江当年之認方ニ

ニ差支之節無之^江先月相廻候相場書ハ川々御普請積書ニ差添御勘

定所^江差出置候間尚又今般之相場書差出相戻候ハ可指返旨申越

候間右返書松岡治部助ヘ差出候

一 左之通大年寄宅ニ申渡

吹屋町釜屋

先達^江船賃之義不埒之致

市郎右衛門

懸合候付禁足申付置候処
以来増運賃無之旨申越一
件落着ニ付禁足差免候

同人手代 治右衛門

同町吹屋

八左衛門

同人下職桶屋町

新蔵

先達^而預リ置候銚釜屋

吹屋町兼帯

市郎右衛門へ引渡候様申付候 船頭町 年寄へ

右申渡相濟候段御用番^并大目附へ相届尤大目附へハ御裁許同濟之
書付差添出候

一雲州杵築多久十太夫上下三人例年之通來候段新職人町松の屋十右
衛門宿切手差出十二月廿九日帰

一牢舍人大篠村周蔵申披相濟婦村被仰付候付郡代所^る出牢申來昼廻
リ藤蔵為治取計候様申付候

一玉置卯左衛門悴忠四郎義今日忌明出勤候段大年寄届出承リ置

一大坂種油取扱之義先月廿日札元妹尾平兵衛考^ニ而十二軒立分り以
後申合商売仕度旨申出候得共存寄有之ニ付役筋^ニ取上ケ候筋^ニ無

之旨申達置候処今日妹尾平兵衛^る惣油屋一同に無之区々^ニ而ハ難
取計^ニ付十二軒之油屋^江及断以來申合相止候由尤御聞届之義^ニ者

無之候得とも兼^而申上候義故申上置候段蔵合孫左衛門へ申出候由
同人^る申聞一段之事^ニ候尤故障之訳勘定奉行へも及噂置候故ナラ

ン

一左之もの共九時^る呼出し孫八新治新左衛門孫右衛門喜左衛門例之
通立会遂吟味口書取之

目明

孫兵衛

二階町杵築屋

吉助

二町目虎屋

佐吉

福渡町沼屋

清蔵

二階町南屋

久米吉

右^者太田村忠吉と申もの年貢米壹俵盜賊松五郎^ニ被盜取右松五
郎と申もの二階町杵築屋吉助方^ニ居候事有之候由^ニ而右米代杵
築屋吉助相つくない候由^ニ付遂吟味口書印形取之

十一月六日 風 晴

一米相場書竜野^并西吉田へ差遣候処双方^る受取書取之加藤茂助今朝
罷歸リ候

一二階町杵築屋吉助一件之口書郡代所へ相廻候

一船出入一件^ニ付何方へ被呼出候^而も新魚町檜野屋茂一郎不差出^ニ

而ハ訳立兼候趣^ニ付同人義可差出心得^ニ取向置候所船方^ニ無縁之
もの^ニ而も如何成もの^ニ付明き株為相讓為持置候様申付置候所幸

質入株有之几^而株料八百式拾匁位之もの^ニ由申出候付工面ものへ
内^る相払遣候様兼^而及差図置其旨内密^ニ而先達^而讓受相濟候所同

人義殊之外内借差支御勘定所^ニも余程之御取かへ有之他所行甚差

支候趣^ニ付右借物之義御勘弁之上御耳御附被下候様内々勘定奉行
上原彦藏へ及噂候処承知之挨拶有之候尤此間懸合濟候得共認落候
故爰^ニ記ス

一御代官野村權九郎殿先触到来左之通

御朱印写

人足四人 馬四疋從江戸美作国迄上下^并於彼地御用中幾度
も可出之是ハ論所為再見分野村權九郎被差遣付^而被下候者
也

寛政十年七月廿一日

右宿中

覚

御朱印

一人足 四人

御朱印

一馬 四疋

但人足八人^ニ代ル

一賃人足 四人

御用長持 一棹
拾六人

御用長持 一棹

乗物 一挺

兩掛 壹荷

山駕籠 貳挺

具足 一荷

茶弁当 壹荷

合羽籠 壹荷

一賃本馬 貳疋

一賃輕尻 三疋

右^者就御用野村權九郎義明後三日朝六ツ時丹後国久美浜陣屋出立
作州西々篠郡河本村迄被相越候間於宿々書面之人馬寄置少^及無違
帶繼立賃人馬^者御定之賃錢受取之可差出且川々渡船場等^者從前宿
通達いたし不差支様取計尤止宿^ニ^而御定之木錢米代相払候間所
有合之野菜を以一汁一菜^ニ相賄馳走ケ間敷義致間敷候此先触早々
繼送り河本村^ニ留置我等着之上可被相返候以上

野村權九郎手代

十一月朔日

松沢幸助

広石卷右衛門

中村莊太左衛門

久美浜^右豊岡夫^右竹田通り屋形姫路通り

嘴崎三ヶ月通津山河本村迄

右宿々問屋年寄中

泊り附

三日 豊岡 四日 竹田 五日 屋形 六日 嘴崎

七日 土居

右先触写御用番中へ差出大目附へも相届郡代所^江も及通用候尤先
格之通取計候様大年寄へ申達小頭^江も同様申付候且又右^ニ付御貸
人馬被仰付候様大目附^江も端書^ニ申遣候

十一月七日 晴

一 明八日野村権九郎殿通行ニ付加人兩人大目附へ申立候処井汲兵四郎小井波右衛門来

一 右ニ付郡代も出役ニ付出火出役之もの無御座段大目附へ申達置候

一 右ニ付同心組番割左之通小頭差出

先払左部 供番百蔵 当番又六 昼廻新治 夜廻合治

一 右同断ニ付町方取計左之通

一通り筋不及掃除保頭先払同心組先払先格之通

一 土居御泊 兼田 玉琳 三ヶ所へ出ス

一 奉行所立宿 材木町 三家屋幸三郎

一 御先払立宿 東新町 山崎屋藤兵衛

一 郷中先払三組立宿 安岡町綿屋万吉

一 東新町年寄る奉行大番所へ出居候事相通し候事

一 町分通行相済候段安岡町る奉行立宿届出候事

一 御本陣玉置源五兵衛死去ニ付御昼休用意式丁目福永屋藤助

へ申付置候事

十一月八日 晴

一 丹後久美浜御代官野村権九郎殿当所論所為見分御通行ニ付四時出

宅立宿材木町三家屋幸三郎方へ相越居候処七ツ半前頃通行ニ付折

節宮川大橋御普請ニ而一坂橋故例之場所へ難出仍之朝日御門外坂橋

下り口 罷出相扣居候処例之通駕籠脇若若重体之もの尋ニ来候間

御役名姓名申述候所丁と目通之所ニ駕籠を被居候ニ付先頃之通下

乗無之義ニ而も可有之哉と存少々追懸ケ候所草履と申余程被下り

懸候体ニ付其儘被居候様ニと再応及挨拶候処毎度失礼と被申被致

下乗候ニ付左之通及挨拶

論所為御見分尚又御越被成寒冷之砌別ニ御苦勞奉存候御用

事も御座候ハ、可被仰聞候

答毎度入御念候義寒冷之砌別ニ御苦勞存候何分且御頼申候い

ざ御引取可被成蒙御免是る乘り可申と被申候

右華ニ立宿へ引取相待居候所安岡町る町分御難レ之注進有之挑灯

灯シ引取引懸ケニ御用番中へ相届大目附へ馬脇例之通届手紙

差遣尤今日ハ下乗有之候段端書ニ申遣六時過帰宅

供立同 馬口之者 草履取合羽籠 右同断

存候外暮ニ懸り差懸り挑灯持之義申越当番る直ニ割場へ申遣為差

出候尤其段翌日小勘者へ申達可置事

△権九郎殿此度鷹野装束ニ而無之白衣ニ而大小も柄袋引肌無之

一昨夜受廻り藤藏百蔵申付候所宮脇町関貫船頭町関貫不アリ之旨申

出大年寄へ札申付置候

一町家椿高下南新座関貫受廻り孫八新左衛門へ申付候処何れも無別

条旨届出候

一銭通用百三文相成候段大年寄届出候

一牢舎人本郷惣助病氣申出大年寄へ申達候所吉武修格へ申付候旨申

出候

十一月九日 快晴

一薪森原村庄屋栄助る当所人馬問屋野村権九郎殿手代る急御用有

之候間參候様可申遣候旨被申付候段申越候段宮田喜左衛門申出早

々差遣候様喜左衛門へ申付置其段御用番大目附中へ相届候

一 大目附太田舎人^ら安岡岡崎屋善吉後家居宅^并茅町^ニ在之同人借屋共焼打^ニいたし張紙有之候由風聞有之趣尤先日之事^ニも候哉目附組^ら申出候間為心得申達候由申来其段大年寄へ一卜通り遂吟味猶用心之心得申付候様申達候

十一月十日 雨

一 野村権九郎殿手代^ら昨日呼^ニ来河本村へ罷出候人馬問屋佐右衛門今朝罷歸^リ申出候^者昨晚権九郎殿御旅館へ罷出候段申込候所御白砂^ニ而御逢可成候間其心得^ニ致居候様申聞候付草鞋^{ワラジ}杯取り台所相扣居候所ヤ、暫有て中間体荷宰領様之もの導籠持出昨日津山^ニ而馬荷付候節馬子導籠を繩^ニ強く括^リ候故損候間軽く括^リ候様申付候所早速軽く括直し候然共右導籠此通^ニ損候御用物入候ものケ様^ニ龜末^ニ取扱候義不埒と叱候^ニ付甚恐入詫言申候処左候ハ、其段可申聞逆這入其後何とも沙駄無之如何相成候事哉と存矢張扣居候所今曉六前頃右之もの罷出不調法と存断申候得^者其段承^リ届候尤右損候所直させ候杯と申事^ニ而申遣候義^ニ者無之候得共御用之品をケ様^ニ龜末^ニ取扱候^而ハ不相濟義以後共往来ハ可有之義^ニ候得^者其段申達置候間以来念入可取計候此度ハ差免候間罷歸候様^ニと申義^ニ而罷歸候段宮田喜左衛門申出候^ニ付其段御用番^并大目附へ罷越相届候

落テ表^メリ無之趣^ニ付右修復出来迄ハ番付可然申付置候得共右之段不申上旨孫右衛門申出^并右附木^ニ焼打之義認候書付ハ手跡吟味仕度善吉後家方へ取歸^リ候由^ニ付尚又安岡町後家居宅^ニも書付等も有之候哉承^リ糺申出候様申付置候由孫右衛門申聞其段太田舎人^江及噂候

一 蔵合孫左衛門^ら竜野吟味口押淵村武助罷歸候咄^ニ由^ニ而承^リ候得^者田原林吉呼出^ニ相成同人申候^者長岡船荷積差留候義ハ備前役所^ら被申付候義と申左右衛門悴も参居被相尋候所及差図候と申義^ニ相成初之様子とハぐらりと替^リ候由全備前^ら其趣^ニ被仕向候様子と申義承^リ候由認差出太田舎人^江差出候

一 二階町并筒屋弥二郎所持之他国受酒株当年十一月^ら来^ル申^ノ十月迄二ケ年之内元魚町南屋孫三郎借^リ受度願差出承^リ届候

十一月十一日 晴

十一月十二日 快晴

一 田中幸助^ら勝与八郎殿頼之石代書類相廻候所受取候段返書来大目附へ差出候処即刻相戻^リ明日御用番中へ可差出候

一 村尾左右衛門^ら元魚町住屋市左衛門へ日切濟方申付候段御番所へ相届候旨返書来

一 銀札場奉行^ら錢川下ケ之通切手差越裏印取計候

一 永井要藏方へ西今町万屋市右衛門悻辰治義去^ル九年已前戊七月出入奉公^ニ差出人別相除候処此度暇出候^ニ付市右衛門家内^ニ相結度人別入願差出承^リ届

十一月十三日 曇 嵐

一御用日登城

一德守宮於社地晴天一日花相撲仕度坪井町浜鶴久五郎願書大年寄

岡田繁太郎へ差出候所同人義不快付大年寄直差出候段大年

寄へ伝言差出御用番中御聞濟付大目附差遣置御聞届之段

岡田繁太郎へ手紙申達候

二階町杵築屋吉助一件口書伺書差添御用番中へ差出置

一宮脇町船頭町関貫番人御答伺御用番中へ差出置

一早川八郎左衛門殿先達止宿之砌旅館氣不入甚立腹有之候処

今以右之段差合被居候趣手代内藤大右衛門今津屋孫十郎へ相拙

候趣蔵合孫左衛門認出候伊達与吉郎へ差出候

一茅町岡崎屋善吉後家借屋焼打致候と申附木認候張札大年寄先

日差出今日大目附へ差出候

一大目附太田舎人相撲之願書繁太郎不快付大年寄差出候由以

後不快候ハ仲ケ間之内相頼当役差出候様可達置候間其段

差合居候様被申聞候

一元魚町指屋平三郎借屋住北原屋万蔵父利助義御口相動候御暇出

候間右万蔵方へ引受入帳為仕度願書差出北島唯七へ引合之上承り

届候段申達又十月改入

一牢舎人直兵衛療治二廻り相濟候処未相勝尚又修格へ申付候旨申出

ル
一御蔵元方肥後屋太七へ返書差遣候所受取書差越釜屋市郎右衛門

も返書差越候由大年寄差出太田舎人差出候
十一月十四日 快晴

一三丁目太刀屋久治義京都麩屋町四条上ル所近江屋七三郎方へ三十

日之逗留明十五日出立願書大年寄承り届差出十二月十一日帰

一得能江兵衛一昨日頃相見へ長屋差置候弁之助と申大工細工町大

工藤吉被相頼武田七郎兵衛方へ參候所藤吉作料不相渡致難義候

段尤内分ハ七郎兵衛と藤吉と行纏之義も相聞候由急相糺呉候様

被頼大年寄へ内糺申付候所相違も無之趣付急相濟候申付尤右

之通申付候段江兵衛へも申達候

一野村権九郎殿通行問屋入用百拾五匁七分七厘有之候段書付差出
十一月十五日 曇

一今曉大年寄申出候伯州汗入郡逢坂郷岩市村祥正寺弟子善心と

申もの去々辰三月廻国罷出丹州多喜郡笹山領味間村相煩同

所る村次送り出東新町へ送引来候段届出尤往来手形途中而失

候旨右村庄屋連印之一札差添来候由伺出嚙郡代所通用失念之事

も可有之何れも村庄屋連印之一札有之候事候得継送り

而も可然何れ郡代所構場新田村へ送り候事故郡代所兼達も無

之候得可受取筋も無之候間及深更彼是問合候も如何付送り

遺候様申付候所其後新田村へ送り届候由届出猶又其後郡代所も

通用失念候断申来候

一妙勝寺義明十六日方来月十五日迄町中夜題目執行御聞届候旨細江

武助方通用有之大年寄小頭へ申達候

一竜野へ罷出候備前役人何れも召連五六日已前引取候風聞書蔵合孫

左衛門差出太田舎人差出候
一札元山本三郎左衛門商売名代大島屋吉助義先月十八日追込申付候

処三郎左衛門方^ニ而^ニ追込被仰付候義ハ御受不申候旨町役^江も申尚
又同役妹尾平兵衛罷出不埒之事共申述難指免義^ニ者^ニ候得共札元共
義ハ町方^ニ而^ニも素町人と違帯刀も被指免殊^ニ勤功も有之もの共之
義^ニ候得^者元来ハ彼等心得違之所^ニ事起り候義^ニ付極内々^ニ而^ニ教
諭仕得心いたし候ハ^ニ其儘^ニ而^ニ捨置度上原彦藏へ遂熟談候得共矢
張札元共申分を是と存候様之趣^ニ而^ニ向方^ニハ教諭可加気色ハ毛頭
無之仍之不得心事委細之始末委敷五通^ニ相認今日一学殿^江御内意
申上置候

一伯州倉吉荷物已前ハ津山へ差出候処爰元^ニ而^ニ為替銀取計方不宜候
ニ付当時^者久世へ持出候由^ニ付追々爰元衰微^ニ相成候間何卒為替
銀ハ銀札場^ニ差出右世話榎野屋茂一郎稻実屋義七郎へ申付度之旨
上原彦藏昨日被申聞至極御尤御同意^ニ存候旨及挨拶置昼席^ニ付兼
而^ニ喜左衛門考之為替問屋取計之書付喜左衛門^ニ取寄せ彦藏へ差遣
候

十一月十六日 雨 晴

一牢番加人加藤清右衛門不快引込^ニ付加藤茂助罷出候由届出候
一牢舎人新吉療治二廻り相済尚又修格へ申付候段大年寄届出候
一佐和屋惣左衛門義豊島石御定之運賃^ニ而^ニハ不差越稻実屋義七郎方
江^ニ大儀之塩右同断不差越候由申出右^ニ付夫々問屋へ御藏元^ニ懸合
下案太田舎人^江差出候

一藏合孫左衛門義今日^ニ月番相勤候段届出候

十一月十七日 晴 風

一錢通用百弍文^ニ相成候段大年寄届出候

一牢舎扶持四儀之内質証文奥書取計候尤七斗式升来月^江持越

一札元一件之伺書去ル十五日一学殿へ差出置候所御内見相済候由^ニ

而^ニ先大目付^江差出其上^ニ而^ニ御用番へ差出候様申来候^ニ付太田舎人^江
致持參委細相咄候上^ニ而^ニ差出候

一竜野^ニ飛脚来米相場書差遣候返書差越別紙^ニ船方出入^ニ付引合候
もの可呼出旨御勘定所^ニ御達有之候得共今般之義ハ小瀬村一件之
吟味故船出入一件遂吟味候訳^ニ無之^ニ付其旨江戸表へ相達候故引
合之もの不呼出旨申来御用番中へ致持參御差図之上致承知候段及
返書候尤大目附へも御用席^ニ及噂候

十一月十八日 晴

一御用日登城申上候御用向無之

一官脇町関貫番人過料三百文船頭町関貫番人叱伺之通取計候様御用
番中被仰出大年寄へ申達候尤大目附へも及噂置候

一二階町杵築屋吉助一件夫々口書取先日御用番中へ伺置候処一旦内
済^ニも相成候義此度改^而御咎と申義^ニ而^ニ孫兵衛杯取計も追込位
之義^ニ而^ニハ不相済勿論盜賊松五郎不召捕義^ニ候得^者此上元之同心
組取計之手へ戻し右之弁銀夫々^ニ為相戻何れも不埒之取計^ニ付何
分松五郎尋出し候上^ニ而^ニ御裁許可有之候間尋出し候様申付夫切^ニ
致置候様御用番中御指図^ニ付其趣夫々取計候様申達尤那代所へも
御達有之十郎左衛門と対談之上番人^ニ遣候式^ニ差戻候様達有之
筈也尤右之段大目附へも及噂尤杵築屋吉助^江之達ハ初取計候出番
左十郎栄治年寄宅へ罷越可申渡目明孫兵衛義ハ小頭宅へ呼出し相
達候様申渡候

一本覺寺義來ル廿一日を來月廿日迄旦家之者一兩人召連町中夜念仏執行御聞届之旨細江武助の通用有之大年寄^并小頭へ相達置候

一竜野の昨日來候返書大目附へ差出直^二戻候

一坪井町川原屋治助持來候古道具屋株当午十月を來ル亥ノ十月迄五

ヶ年之間坪井町大杉屋茂兵衛借り受度願書承り届未七月取戻ス

一錢通用百卷文相成候段届出候

十一月十九日 快晴 夜雨

一新魚町魚屋吉兵衛方ニ売女体之もの居候哉ニ及承昨夜廻リ之同心

組文藏又六踏込遂吟味候処宮内ノ二人呼寄候由尤先日迄ハ新田^江

参り居候所昨夜歸リ候由申口ニ付口書取右売女二人^并吉兵衛組合

預ケニ致置尤右女元魚町原屋喜兵衛方ニも一夕差置候由口書取候

尤右女ハ元三町目住当時無宿若本屋安兵衛召連來候由^二而 右安兵

衛も原屋ニ居合候ニ付口書取候喜兵衛へ預ケ置候由今晚申出右安

兵衛ハ吉兵衛ノ被相頼候ニ付召連來候事^二而 差構無之ニ付預ケ差

免候段大年寄へ申達候^并右売女二人急ニ送り返候様申付候

一昨日伺濟之関貫番人共左之通大年寄宅^二而 申渡

宮脇町関貫番人

去ル七日夕九時過候^而も門

不^レ不埒ニ付過料三百文ツヽ申付候 十助 九助

船頭町関貫番人

去ル七日夕門ハ閉候得共 権助

錠不^レ不埒ニ付急度叱置 久右衛門

一二階町杵築屋吉助一件昨日御用番中ノ被仰出候趣を以左之通取計

候

今般之一件甚不埒之至^二候 二階町杵築屋

米代濟銀^并番人^江差遣候酒代 吉助

共可取戻候尤松五郎義急渡尋出可申候

其上^二而 御裁許可有之候

右^者左十郎榮治年寄宅へ罷出申渡候

今般之取計甚不埒至極 目明

役義不似合難捨置候併松五郎 孫兵衛

居不申候義故急ニ召捕可差出候

其上^二而 御裁許ハ可被仰出候

右^者小頭宅ニおいて申渡候

右両様取計相濟候段御用番^并大目附へ相届候

一備前懸合扣江戸廻リニ相成候由ニ付昨日太田舍人^江差出候

一郡代所ノ吟味ニ付牢舍人本郷村之もの六人^并公保田村紋助呼出申

來出番文藏又六差向出入取計候

一中之町綿屋勘兵衛追込昨日迄^二而 廿日ニ相成候ニ付今朝差免候段

御用番^并大目附へ相届候

十一月廿日 晴

一久世御廻米例年之通今津屋郷藏^江相納候段同人ノ届出候間例年之

通火用手当桶屋町^江可申付段大年寄伺出承り届

一二階町杵築屋吉助義他参留申付置候処一件落着ニ付他参留差免候

様大年寄へ申達候

一江州多賀成就院使僧甚乗坊上下式人例年之通來候段新藏人町松野

屋十右衛門宿切手差出翌四月九日帰

一大目附太田舎人^ハ呼^ニ来罷越候所左之通被申聞候

江戸表^ハ飛脚到来田中幸助^ハ米相場書之義天明七未年^ハ寛政

七卯年迄九ヶ年之間御料私領^ニ相廻候通^ニ相場書相認急^ニ相

廻候様申来候間早々認出可申候

右之通大年寄へ申付則役所扣貸渡候

一札元一件之伺書太田舎人^ニ差出候所御用番中へ大目附^ハ直^ニ差出

候旨今日挨拶有之候尤一己^ニ付候意味も有之候と一学殿被申聞候

^者彦藏と対談振有之^ニ付候^而之義候由被申聞候

一中之町綿屋勘兵衛過料式拾八匁五分式厘大年寄^ハ上納

十一月廿一日 少時雨 晴

一牢舎人惣助快気^ニ付休葉届出候

一紀州高野山宝蓮院上下式人例年之通来候段材木町正木屋才吉宿切
手差出し候翌未正月廿五日帰ル

一新魚町榎野屋茂一郎義播州赤穂福田屋治郎八方へ十五日計之逗留

^而明廿二日出立願書大年寄差出承り届十二月二日帰ル

一丹後久美浜野村権九郎殿手代^ハ例年之通去ル九日米相場書取^ニ来

即刻差遣候九日之処^ニ認落候故爰^ニ記置候

十一月廿二日 少雨雪

一阿州板野郡高房村新兵衛一人例年之通藍玉売^ニ来候段船頭町今岡

屋熊吉宿切手差出翌五月廿五日帰

一阿州板野郡成瀬村曾右衛門一人右同断来候断右同人宿切手差出右

同断

一阿州名西郡高原村平左衛門一人右同断来候断右同人宿切手差出右

同断

一御藏米五拾六匁町米五拾式匁

一錢通用百式文相成候段届出候

一備前船出入下説書江戸へ相廻り候由^ニ付取調写取太田舎人^ニ昨日

差出候

一登り船運賃定書藏元^ハ認出候

十一月廿三日 少雨雪

一御用日登城

一備前津高郡桜村与左衛門悴嘉兵衛義去ル卯二月坪井町浜崎屋喜助

役介^ニ引受候処此度差戻度人別除願書御用番御聞濟^ニ付大目附へ

差出置承り届

一新魚町魚屋吉兵衛元魚町原屋喜兵衛売女差置候御咎伺書御用番中
へ差出置候

一江戸御留主居^ハ申来候天明七未年^ハ寛政七卯年迄九ヶ年之間米相

場書三段相場と平均相場と御近領へ相廻候通^ニ認候^而大目附へ差

出候尤印形之処ハ印と書置候

一備前船出入懸合一件帳三冊江戸へ相廻候付御好之通下ケ札相認大

目附へ差出候尤風説書ハ此間差出候儘^ニ而江戸へ相廻候尤都合四

冊共扣いたし置

一似せ銀懸り丈兵衛義取計因州へ尋遣候下案松岡へ相談之上相認御

用番へ差出候

一野村権九郎殿手代広石右藤太と申もの去ル廿日人馬問屋へ来支度

致度旨申候処、佐右衛門妻取持不宜甚致、腹立難捨置趣。付途中迄断

參懸候処、得不追付河本村權九郎殿旅宿迄問屋八十兵衛參候所一

向不聞届翌廿一日朝罷帰リ又候折返シ參終日相扣断申候得共一向

不聞入不得止事夜更候罷帰リ右之趣断申懸候故最早手も難引候

付右右藤太父卷右衛門ハ林田玉屋源右衛門馴染のもの付同人

を相頼挨拶いたし候様申付候段宮田喜左衛門申出今日大目附へ及

噂置候尤今日源右衛門八十兵衛同道參候由也

一桶屋町南側角屋敷綿瀨屋甚助家屋敷表口三間裏行四間半但四

歩役也西隣ハ綿瀨屋新助東隣ハ新魚町横町也右家屋敷代銀九拾匁

相極町内作人長歳へ売渡度願書承リ届十二月四日売券状差出

一備前磐梨郡稻蒔村高原孝士倅玄達夫婦娘一人倅登之助右家内四人

上紺屋町渡部玄端引受度人別入願御聞届廿八日濟例之通取計十月

住宅屋敷出

一二階町若田屋忠藏借屋住歛喜屋茂吉義御厩中間被召抱候付人

別除願書差出小島唯七へ懸合之上承り届

一於御用所大目附出席御用番黒田要人殿左之通被仰渡候

町奉行へ

山本三右衛門倅房四郎義札元見習申付候此段可被申渡之候

右之通被仰渡候付父三右衛門へ倅召連出候様達書差遣小頭大年

寄諸吟味立会於座敷申渡之候尤右申渡相濟候段御用番大目附へ

相届候

十一月廿四日 快晴

一薪下直取寄候考申付候様先達一学殿被仰出喜左衛門へ申付

置候処種々考も仕候処大村屋源右衛門笹屋甚七兩人之考川奥

久塚迄流し夫の船取寄候手段元沓匁三拾貫目買

受船頭町拾四貫匁売渡可相成考書差出一学殿へ持參差出置

候尤笹屋義ハ御作事へ受負事有之付當時名面難差出由付源右

衛門一人之名面差出候

一大目附太田舍人の御廻米船積債数以前六拾七俵高之処其後七拾

七俵積高被仰付當時其通船積致候処以後九拾俵積高致度

旨藏元願書差出候段勘定奉行差出右之通被仰付候も不苦

義哉船出入之有之節付為念役筋存寄御尋被成候段御用番中御差

因之旨申来候付故障之筋無之旨罷越及返答候

一三船新治実父致死去候付忌服受引込候段昨日小頭届出候昨日

之処認落候付爰記置候

一町方揚弓流行射場等取繕既此間原屋方売女等之義も有之候付

揚弓ハ不苦義候得共右付彼是凶事致出来候ハ不苦候間何と

なく大年寄場合心付宜移置可然旨昨日大年寄へ内々申達候

一野村權九郎殿手代広石武藤太問屋場致立腹段々及断候得共聞

届不申候付玉屋源右衛門相頼昨日罷越源右衛門卷右衛門へ申

入候処致承知相濟昨夜及深更罷帰候段喜左衛門申出候付御用

乍席太田舍人へ其段相咄置候尤右之段一学殿江雑談及噂置候

一今朝御飛脚立右御飛脚之者西宮迄馬三疋之先触昨日差出候由右

先触吹屋町喜兵衛と申もの為持差遣候所新田村之東黒坂と申処

行倒死去候段村方問屋へ申越候由右付問屋右喜兵衛親類

組合町役差添差遣弥病死相違無之候ハ内分召連帰リ若又

疵所等有之疑敷義も有之候ハ、表向取計ニ可致哉之旨大年寄伺出候ニ付其旨可取計尤先ッ触状持人足忝人急ニ差遣右先触先宿相届候様可取計旨及差図置右之段御用番^并大目附へ相届置候

一大坂北久太郎町堺筋松屋甚兵衛手代平兵衛一人例年之通来候段新職人町松の屋十右衛門宿切手差出十二月十二日帰ル

一伊勢山田河北助太夫名代辻田善治一人例年之通来候段右同人宿切手差出翌年四月十一日帰ル

一播州網千余陸屋武兵衛一人例年之通八百屋物^并鯉節売ニ来候段中之町小山屋与三右衛門宿切手差出翌二月十一日帰ル

一播州網千新在家平松屋佐十郎一人例年之通挑灯張替ニ来候段右同人宿切手差出候

一因州宮城権左衛門菅平太夫加次屋又作へ似せ銀懸リ丈兵衛義如何取計有之候哉相尋旁飛脚差遣度下案伺置候処一学殿御添削ニ御下ケ被成候ニ付明廿五日立ニ差遣間飛脚之者被仰付候様大目附へ相届御飛脚中谷孫右衛門来書状相渡候

十一月廿五日 快晴

一人馬問屋先触持吹屋町喜兵衛義黒坂村ニ行倒右喜兵衛親類無之

ニ付人馬問屋八十兵衛吹屋町年寄市郎右衛門喜兵衛組合山城屋善左衛門罷越村役立会相改候処何之疑敷義も無之病死ニ無相違ニ付

内分ニ受取昨夜及深更召連罷帰候段届出候ニ付今朝御用番^并大目附へ相届候尤向方ニ一札いたし候様も不申候ニ付其儘連帰

リ候由申出候

十一月廿六日 快晴

一徳守宮於社地晴天一日花相撲明後廿八日興行仕度届書岡田繁太郎差出承り届置其段御用番^并大目附へ手紙ニ相届候

一築前遠賀郡柏原浦小平次手代忠藏左助式人例年之通茶碗類売来候段京町田戸屋宗十郎後家宿切手差出

十一月廿七日 雨

一石代之義ニ付勝与八郎殿へ藏合孫左衛門申述候弁書去ル二日大目附松岡治部助へ差出江戸御留主居へ相廻候処所昨夜右弁書扣可相認見改候処右書面之内ニ相場之義^者中買共へ御委^子と認有之尤其通与八郎殿へ申上候義^者有之候得共十月八日相場之義江戸表へ申遣候節御用所思召^ニ縦其通申述置候義^ニも口達之義ニ候得

認出候^ニ取計杯と相認候様御差図有之其段孫左衛門へ申達其通相認差出候所其節ハ其書付不及相廻相濟候然ル所去る二日差出候節右委^子之文字認替可差出所自分^并孫左衛門も不心付其儘差出

昨年与八郎殿吟味之節中買口書ニ町奉行奥印入候間罷出候様与八郎殿^右孫左衛門へ伝言有之自分罷出右口書受取帰リ致調印孫左衛門ニ為持差出候処孫左衛門義風渡心得違右口書与八郎殿^右孫左衛門へ被相渡夫^右自分へ差出候様ニ今般之弁書扣ニ認出有之候所

自分義も一向不心付其儘差出甚恐入候義^ニ孫左衛門義も昨夜差

扣伺出候得共何れ右之間違一件申上筋立候上之伺^ニ候間其段ハ

追^ニ可及差図旨申達置今般松岡治部助へ罷越両人不調法之段申達御差図相待候段相達置候

一札元見習山本房四郎印鑑差出書役へ渡置

一下紺屋町中横丁西側ニ鳥屋利兵衛家屋敷表口六間裏行七間半但

式歩役南隣ハ鍛冶町分北隣ハ出口屋佐助也右家屋敷同町原田屋佐助取次ニ而質物ニ書入卷ケ月卷歩半之利足ニ而當午十一月より来

ル申ノ年十二月迄三ケ月切ニ銀札三百匁借り受度願書承り届十二月七日目録文出

一元魚町玉屋弥吉義二階町山手屋弥太郎家守相勤居候所今般妻子召文化八未六月廿日元魚之遊戻し斷書出文

連大坂内本町買布屋仁三郎方へ當午歳方来ル申ノ歳迄三ケ年之間

罷越渡世仕度尤妻并娘一人右家内三人罷越度願書差出承り届

一牢舍人猶兵衛義二廻リ療治相濟候所未相勝尚又修格へ申付候段双

方ハ昨日届出候

一播州広峰魚住隼人上下三人来候段京町花屋権兵衛届出候十月十四日届

一大村屋源右衛門考薪之事去ル廿四日一学殿へ差出置候処今日呼

来罷越候所考之通為御取計被成度候得共上ハ被仰付候と申而者不

宜■候間大村屋源右衛門ハ右願書為差出候様可取計旨被仰聞候

付其段喜左衛門へ申達候尤入用五六貫目八十年賦ニ而も無利足ニ

而御貸可被下旨被仰聞候

十一月廿八日 雨

一御用日登城

一德守宮花相撲今日雨ニ付明廿九日興行仕候段岡田繁太郎届出其段

御用番并大目附へ出仕之上相届候尤小頭江も申達候

一当暮御褒美伺於別席要人殿へ差出候尤内々申上候意味合有之ニ付

別席ニ而申上候且又右一件太田舍人江も申達置候

一林田上之町忠藏悴梅吉乙吉兩人迎ニ戸川町文吉阿州日和佐村へ罷

越候処昨晚召連無滞罷帰候昨日届出候ニ付今日大目附へ相届并村

役方之返書差出候尤右文吉義日和佐村へ罷越候処徳島へ被呼出於

役所段々尋有之此方之趣委細申述候処大坂留主居ハ添状持可来候

処文吉義大坂へ不罷出直ニ阿州へ来候事故無其義候間是ハ大坂へ

罷越阿州留主居之添状可持来旨被申付其通御請致居候所兩人之子

供不相離不得止事其段申上候所左候ハ、向方ハ大坂へ可申遣候間

其間ハ日和佐村へ罷越居可申旨被申付数日致逗留候処又候徳島へ

被呼出大坂懸合相濟候間子供兩人召連帰候様被申付罷帰候由尤役

人中被申候者其方へ可申義ニ者無之候得共此方ニ而も久々致世話

候事故御役人中ハ挨拶旁添状可来筋之義と被申候由申出候且又右

子供江一日ニ五合ツ、被下民家ニ致寄宿相暮居候由文吉罷帰候而

ハ右扶持米を以不足之処ハ袖是いたし相渡候由大年寄方申出其段

も大目附中へ申達候

一坪井町高瀬屋兵助悴金四郎義當午二月奉願当国英田郡倉敷村下倉

敷屋ハ右衛門方へ養子ニ差遣置候処此度致離縁罷帰候ニ付入帳願

御用番中御聞濟ニ付大目附へ願書差出置御聞届申達候

一播州小笠原信濃守殿領分赤穂郡苔繩村清九郎悴八十八義上紺屋町

大坂屋宇兵衛引受度人別入願右同断取計濟十二月十日住宅証文差

出

一備前赤坂郡山口村文吉悴兵治一人上紺屋町久世屋文助引受度人別

入願右同断取計濟右同断

一安岡町鶴屋茂兵衛妹義備前岡山石堰町佐山屋常助妻ニ差遣度人別

除願右同断取計濟

一材木町正木屋甚右衛門借屋住平吉義一人久保安芸守殿領分当国

久米北條郡坪井中北村左助方へ引越度人別除願右同断取計濟

一京町疊屋伊兵衛借屋住原田立庵夫婦^并悴春桂夫婦右家内四人京都
妙法院御門主様御内井上出羽方へ引越度人別除願右同断取計相濟
一鍛冶町金具屋權四郎手間伊三郎義当八月出奔仕百日尋被仰付所々
相尋候得共行衛相知不申最早百日余罷成候間除帳願差出右同断
取計濟

一京町大村屋源右衛門薪之手段昨日記置候通之義^二而今日願書差出
候所御用番中御聞濟^二而拜借之銀ハ勘定奉行へ懸合候様被仰出其
段大目附へ相達勘定奉行へも懸合之上御聞候由申達候

一材木町十吉後家西新町孫七田畑之木切取候公事内濟仕候間願下ケ
郡代所可差出旨大年寄申出候付其段三浦十郎左衛門へ相届口書
差戻候

一江戸愛宕下早明舎中沢道二門弟仙石越前守殿御扶持被下候広瀬
玄哉と申手島流講釈師此節勝山へ御頼^二而致講尺罷在候付帰り
懸ケ相頼爰元^二而も講尺為仕度御許容も被下候ハ懸合申度旨植
村庄助門弟共願出候段大年寄内意申出大目附へ申達候所存寄無之
旨付御用番中へ申上候所御聞濟付勝手次第取計候様大年寄へ
申達候

一札元共へ大年寄^并町役共之平日取扱方認出候様大目附被申聞其
段大年寄へ申達候

一新職人町坂本屋源兵衛後家死跡相統人無之付伊達与兵衛殿家来
中島文吾戸川町裏合罷在及争論候段双方吟味書差出候付内々
大目附太田舎人^江及相談置候

一新魚町姫路屋伝六久々引込罷在最早出勤為致候^而も可然哉付内

々太田舎人^江談置候

一石代之義勝与八郎殿へ蔵合孫左衛門申述候弁書不調法之義有之委
細昨日之処記置候通之義候処今日松岡治部助於別席被申聞
候昨日被仰聞候一件元来一学殿懸り之義付御同人^并要人殿^江
も申達候所元来公儀へ被差出候ものも無之幸助心得相廻候義
勿論格別之違と申程之義^二而も無之今更認かへ引かへ候も却^而如
何^二も有之候間其儘いたし置可申尤右付候^而ハ拙者^并孫左衛
門も差扣不及伺出候間以来可入念旨申達置候様被仰出候間其段相
心得候様被申聞則孫左衛門^江も申達候

一新魚町魚屋吉兵衛元魚町原屋喜兵衛売女差置候付御裁許伺置候処
今日御用番要人殿右売女即刻追払候事候得^者夫切^二而も可然
義付今般之義ハ役筋切之取計いたし内分^二而相濟候様被仰出
候付左之通大年寄^并小頭^二為取計相濟候

先日売女差置候付急度可申付 新魚町魚屋

処今般ハ格別之御憐愍を以不能 吉兵衛

其義役所切^二而相濟遣候間以来 元魚町原屋

右体之義無之様急度相慎可申候 喜兵衛

目明し

甚七^江以来右体之取計致間敷

甚七

旨急度小頭^二申渡候

一右付一学殿^二被仰聞候御法度を相背候段ハ不届至極難捨置義
候得共格別嚴禁^二而も不相濟もの候得^者売女体之義ハ又博奕
ハ一等輕筋^二も候得^者大目取計候^而も可然見付候ハ早々追立

夫切^ニ而^ル組之取計^ニ致置候^而も可然^ハ警安岡町^ニ而^ル追立林田^江参り
忍居候位之義^ハ差免候^而も可然^ハ候間以來右之心得^ニ致可申^并毎々
申達候義^ニ候得共一ノ宮市町も追年致衰微^ハ氣毒之義^ニ付来歳^ハ裁^ハけ
八郡代と申談辰之口^ハ先ハ別世界と見候^而も可然^ハ間此段得と申談
相考取計候^而も可然^ハ旨乍^ハ席御存所被仰聞候旨於御席被仰聞候
一牢番加人加藤茂助不快^ニ付昨日^ハ引込今日^ハ土居安助来候
一三船新治実父忌明廿九日^ニ而^ル七日相济候間明後晦日^ハ出勤候様可
申達旨孫八^江申達候

一來月二日鳳殿院様廿三回御忌^ニ付朝計御茶湯被仰付候段大目附廻
状来写取十七回御忌之例^ニ任せ組中市中へ触達候

一竜野^ニ而^ル吟味口久木村新六来相咄候趣藏合孫左衛門認出し太田舍
人^江差出候

一中之町鳥羽屋八十治借家住人茂市妻娘二人召連四国遍路罷出当
九月五十日日延願差出候所未罷帰候^ニ付今日之追日延願差出承
り届十二月三日罷帰ル

十一月廿九日 晴 風

一郡代所^ハ紫保井村忠藏吟味中牢番預ケ申来当番為治差向入牢取計
候

一德守宮花相撲^ニ付左十郎左五兵衛差出候所無別条引取候段届出御
用番^并大目附へ其段相届候

一札元取扱之義認出候様孫左衛門へ申付置候所今日認差出太田舍人
^江差出候

十一月晦日 快晴

一関貫番賃銀例月之通相济候
一三船新治忌差免今日^ハ出勤候
一牢舍人新吉療治二廻り相济右代り中村益庵へ申付候段双方^ハ届出
候且又直兵衛療治ハ修格へ申付候段大年寄申出候
一播州有馬辻堂茂兵衛老^ハ人例年之通筆白粉卸売来候段中之町甲屋幸
助宿切手差出
一播州網干余子浜菊屋弥七郎悴源治郎一人例年之通小間物卸売来候
段右同人宿切手差出

十二月 大

月番
御家老 安藤丹後殿
御年寄 小須賀一学殿
大目附 伊達与吉郎

大年寄 藏合孫左衛門
諸吟味 宮田喜左衛門

十二月朔^庚旦 快晴

一 寒中御機嫌伺御徒格以上四時揃五半時惣登城例歳之通御奏者番
三奉行迄一同於七間廊下御小性頭認有之諸事先格之通

十二月二日 雪

一 勝間田町福原屋佐助母義当五月四国遍路罷出去ル九月追願仕候処
未罷帰候付又候五十日日延願差出承り届

一 米中買綿屋佐助義致病死候^ニ付跡役同人倅民藏^ニ為相勤度願中ケ
間之者共^ル願書差出承り届

一 官脇町関貫番人過料錢五匁六分五厘大年寄相納ル

一 牢舎人新吉義病氣甚六ケ敷本復難計人參相用度旨中村易安容体書
差出郡代所へ相廻候

一 竜野吟味口久木村新六^ル和泉屋清助直咄承り候趣認出し太田舎人^江
差出候

十二月三日 晴

一 御用日登城

一 馬持共廿五人例歳之通老入^ニ付式俵半ツ大豆拝借願勘定奉行引
合之上御用所^江申上候処御聞濟^ニ付大目附へ差出置御聞届申達候

一 官脇町徳守宮地子居三升屋伊兵衛倅兵助後家義脇坂淡路守殿御預
り所当国勝南郡湯郷村河原屋作治方へ差遣度人別除願御用番御聞
濟^ニ付大目附へ差出置御聞届申達候十一月改^ニ入

一 因州へ差遣候飛脚今朝罷帰り追^而否可申越旨返書差越御用所^并大
目附へ申達候

一大目附伊達与吉郎^ル左之通達有之候

野村権九郎殿近々被帰候間先頃之通諸事可取計尤今般ハ御使
者被差出候間西今町^ニ立宿可申付尤村井庄藏相勤候段被申聞
候拙者義も西大番所脇へ可罷出旨達置候

右之段大年寄^并小頭へも申達置候

一大村屋源右衛門薪置場河原町明地^ニ取計度願書差出候得共右場所
^者御藏火除場^ニ付空地有之事故難申付筋^ニ付木藏之内借り用ひ度
勘定奉行上原彦藏へ談置候

一 孤独扶持式百拾匁四分四厘真北類藏^ル相廻候大年寄へ相渡候

一 檜野屋茂一郎塩之義懸合^ニ赤穂へ罷越帰リ懸ケ倉敷之代二郎^ル竜
野吟味口之趣承り候由大年寄^ル認出し太田舎人^江差出候

一 大年寄年頭歳末献上之義御奏者番小須賀貢^江今晚之御飛脚^ニ申遣
候尤小勘者^江も例年之通申遣候

一 今日左之通御役替有之候

勘定奉行 平井半平 御小納戸御供頭兼 江口勘太夫

御小納戸 細江武助 組頭 稻垣宗兵衛 組頭寺社取次兼

藤本十兵衛 御近習 市村九助 被召出御刀番 石田七百城

御近習 田中箕助 御小性御免 海老原定吉 詰江戸 尾上

八十七 同 飯塚兵八 同 藤井嘉津馬 同 信沢仁左衛門

十二月四日 快晴

一 牢浚申付候処無別条段昼廻り文藏左五兵衛届出候

一 銭通用百三文相成候段届出候

一 手島流講尺師広瀬高哉義去ル廿八日伺濟^ニ懸合候処承知^ニ明

後六日可罷越旨申越候間於町会所七日講尺為仕候段孫右衛門喜左衛門届出候ニ付御用番并大目附へ手紙ニ而相届候尤同人義當時北条玄養と改号仕居候由申出其段も申達候

一 札元妹尾平兵衛妻出産ニ付血忌引込候段大年寄る届出先格之通承置

十二月五日 晴

一 牢舎人紫保井村忠藏義郡代所の吟味申来出番砂兵衛昼廻る出入取計候

一 大目附太田舎人る去ル三日御用馬喰被仰付旅帯刀被差免候ニ而故障之筋ハ無之哉考申上候様被申聞候仍之今日左之通申達候

諸吟味役杯者旅帯刀御免被相当之ものニ候得共今以無其義且又御藏元杯も遊行見送り之筋右等之内意相聞候得共先例無之義故不申上相濟置候今般御用馬喰ニ旅帯刀被差免候ニ而外々御用達不残不被差免候ニ而ハ平等ニも相成何れも被差免候様之義ニ而町人風義ニも懸り如何ニも奉存候間御免無之様ニ而可然尤右之段ハ先年も御尋御座候ニ而右之通申上置候義ニ御座候旨申達候

一 牢番加人土居保助不快ニ付明日の高木武兵衛罷出候段届出候

一 上原彦藏被参去ル三日被仰聞候大村屋源右衛門薪置場所木藏之内貸し可遣義大目附へも致対談相濟候間貸し渡可申候尤御作事奉行へ申達候所木藏之門の致出入候ニ而差支も有之趣ニ付別ニ南向ニ門を付木置場然地面仕切可渡申候得共左様ニ外錠ニ相成候ニ而ハ不用心ニ可有之候間やらひ之北之方ニも口を付表る置南之口ハ内

錠ニ致置候様申談置候間其通相心得右南口内錠を明ケ候もの老人木藏之門の這入錠之明ケおろしを致候ハ余之もの并薪出入ハ木藏之門の通行不致候様可取計尤やらひ入用ニ古竹等ニ而も入用ニ候ハ御作事の下直ニ可売渡且又内分ハ兎も角も表向ハ下より願出候筋ニ付源右衛門の御作事下代ニ可懸合并當時菜園ニ相成居候間右年貢丈之入用ハ当年ハ出候様被申聞即刻喜左衛門呼出し其段委細ニ申達候

一 大目附太田舎人る札元共役筋の取扱認出候様被申聞左之通認出候

一 札元共願書ハ同役加判諸吟味大年寄連印ニ而差出候

一 札元共へ被仰渡有之候節者当役の奉書を以呼出し申渡候

右之通ニ御座候以上

一 船出入ニ付竜野ニ而立会吟味役人名面付藏合孫左衛門差出

十二月六日

一 昨夜及深更郡代所の野村権九郎殿明七日被致出立候段百性共へ被申渡候旨通用有之候ニ付御貸人馬之義大目附へ申達町方手配大年寄へ申達候尤小頭も申達候

御朱印写

人足四人馬四疋從江戸美作国迄上下并於彼地御用中幾度も可出之是者論所為再見分野村権九郎被差遣付而被下之者也

寛政十年七月廿一日 右宿中

覚

御朱印

一人足 四人

御朱印

一馬 四疋 但人足八人ニ代ル

人足拾貳人

内

御用長持 壹棹

具足 壹荷

乗物 壹挺

茶弁当 壹荷

兩掛 壹荷

合羽籠 壹荷

竹馬 壹荷

ノ

一賃本馬 貳疋

一同輕尻馬 三疋

ノ

右^者就御用野村權九郎義明後七日期六ツ時美作国西々条郡河本村出立京都迄被相越候条於宿々書面之人馬寄置少も無遲滞繼立賃人馬ハ御定之賃錢受取候可差出且川之渡船場等^者從前宿通達いたし差支無之様取計尤止宿^ニ而^者御定之木錢米代相払候間所^有合之野菜を以一汁一菜ニ相賄ひ馳走ケ間敷義致間敷候此先触早々繼送り淀宿々京都大宮通り三条上ル升屋市左衛門方へ相達我等着之上可被相返候以上

野村權九郎手代

松沢幸助

十二月五日

作州西々條郡河本村々津山通り三ヶ月齋崎姫路通明石西宮
右芥川山崎通り淀夫々京都迄

右宿々問屋年寄中

泊リ附

七日夕 土居 八日夕 姫路 九日夕 明石 十日夕 西宮

十一日夕 芥川

覚

一人足 三人

右^者就御用我等義明後七日期六ツ時西々条郡河本村出立吉野郡田殿河岸迄罷越候条書面之人足不差支様可取計候此先触早々繼送り田殿河岸へ可相達候以上

野村權九郎手代

十二月五日

広石武藤太

西々条郡河本村々津山勝間田夫々吉野郡田殿河岸迄

右宿々問屋年寄中

覚

一本馬 壹疋

一人足 貳人

右^者就御用我等義明後七日期西々条郡河本村出立吉野郡下町村罷越候条書面之通於宿々御定之賃錢受取之無遲滞繼立差急候間人馬不差支様可取計候此先触早々繼送り下町陣屋へ可被相達候以上

野村権九郎手代

十二月五日

中村莊太左衛門

西々条郡河本村の津山勝間田田殿通り下町迄

右宿々間屋年寄中

右先触御用番中へ差出大目附へも相届郡代所江も及通用候

一野村権九郎殿通行ニ付組致不足加人式人申達候所日下勇助赤田平次来

一右ニ付同心組番割左之通小頭差出

御先弘新治 文藏 又六 百蔵 供番文藏 又六 百蔵 当番実治 百蔵 昼廻左十郎 勇助 夜廻左五兵衛 平次

一右ニ付町方取計左之通

一道筋不及掃除不見苦程ニ片着可置事

一保頭先弘

一同心組先弘

一御使者村井庄蔵立宿 西今町直屋市郎左衛門

右下宿 同紙屋六蔵

一奉行所立宿 宮脇町生駒屋次右衛門

右下宿 同

一御先弘同心組立宿 安岡町岡崎屋善吉

一大目附伊達与吉郎左之通申来候

海老原源三門前ニ櫃藪ツ内ニ古着入有之候旨申出候間当役へ

引渡候様申達置候間受取宜可取計旨申来ル

一備中小坂郡水谷弥之内殿内中島幸右衛門近藤武左衛門右例歳之通

米相場書相廻候為挨拶釜敷紙二束来及相答候

一銀札場奉行の錢三拾五箇川下ケ奥書申来例之通取計候

一手島流講尺師北條玄養義夜ニ入勝山ノ罷越候段齋藤孫右衛門届出候ニ付翌七日御用番并大目附へ相届候尤弟子壹兩人召連来候由武

田七郎兵衛別荘ニ致逗留候由也

一野村権九郎殿出立刻限今夕正八ツ時出立ニ相成候段三浦伴左衛門

ノ申越候段五ツ半時頃郡代所ノ通用有之候ニ付其段大年寄小頭割

場御厩御用番大目附植木左士村井庄蔵杯ニも急ニ為相知候尤割場

へハ挑灯持兩人差越候様ニ申遣候

十二月七日 快晴 夜大雨

一丹後久美浜御代官真壁村論所再見分相济罷帰候ニ付昨夜九半時

立宿宮脇町生駒屋治右衛門方へ相越扣居候処今五ツ半時頃被致通

行例之通大番所向へ罷出居候処今般も下乘不被致様子と相見へ拙

者前迄駕籠をかき寄せ一步も難進程ニノ駕籠之戸を明ケ乍失礼と

被申候ニ付左之通及挨拶

久々御逗留被成御苦勞奉存候嚴寒之砌御安全御旅行可被成と

申述候所

度々御叮嚀之御取扱之事共忝奉存候何分宜御頼申候御手前様

ニも度々御苦勞之義ニ御座候折角寒中無御障可被成御暮いさ

御引取可被成と挨拶有之候

右畢ニ引取懸ケ御用番中へ罷越町分通行相济候段相届大目附へハ

馬脇方手紙ニ相届候尤早々可引取之処町分被出離候東新町之

届間違仍之漸九ツ半時過帰宅仕候

供立同 箱持打之者 又六 馬文藏 草履取箱持 合羽籠同 箱持廿四八人

一 西川役人平沢助八高橋金治の例歳之通鑑節^三酒^三到来及相答候
一 海老原源三の昨日大目附中達有之候櫃^ツ為持差越尤内々十五品
計入有之入記之通引合書役新左衛門^ニ為受取受取書認差遣候尤右
受取候段大目附へ相届候

一 牢舎扶持七俵之内貸証文差出奥書取計候尤来月へ四俵計持越候積
也

十二月八日 雨

一 御用日登城

一 西今町坪屋藤十郎妻備前津高郡建部村与惣右衛門娘^ニ 六ヶ年已
前五十一月引受候処今般離縁仕親元へ差返度人別除願御用番御聞
濟^ニ付大目附被差出置御聞届申達候

一 久世御代官早川八郎左衛門殿支配所備中国阿賀郡宮地村十右衛門
娘義伏見町小田屋伊平次妻^ニ引受度人別入願右同断取計濟^{四十七日}
一 野村権九郎殿昨日ハ下乘無之義^ニ御挨拶之趣御用番中^ニ大目附中
へ及噂候

一 下紺屋町紙屋庄五郎借屋住備前屋仁助義先月末の一ノ宮へ商売^ニ
家内罷越留主ハ表口^ニ錠おろし置候処去ル五日之夕右錠前ねし切
盜賊這入乘掛櫃其外品々十二品盜取候届書昨晚差出候^ニ付御用番
中へ申上尤今般ハ市郷触流し取計度^ニ昨日海老原源三の受取候櫃
も同人被盜もの^ニ付可相渡旨相伺候御聞濟^ニ付大目附へも委細
申達置町触差出^ニ備前屋仁助呼出し小頭^ノ櫃相渡受取書取置書役

江 預ケ置

一 及月廻候^ニ付例歳之通町方拾壹丁廻り^ニ非人式組加廻り大三十日

迄可申付御用番中御聞濟^ニ付大目附^ニも申達置明九日夕々申付候
様大年寄へ申達候

一 関備前守殿家中若林泰蔵と申もの山下官弥^ニ致隨身素読修行致候
^ニ付来九月迄伏見町小田屋伊平次方^ニ致逗留度旨兼^ニ馴染^ニ付被
相頼候故為致逗留度小田屋伊平次願書差出是迄他所家中逗留些之
間之義^者承置^ニ取計候先格^ニ候得共九月迄と申ハ余リ永キ義殊^ニ
御家中へ入込候義^ニ候得^者追々交リも出来可申目障^ニも可相成義^ニ
^ニ候得^者承り置^ニも難取計御噂^ニも可及義哉^ニ相考山下官弥へ引
合候処武芸之隨身ハ届候義も有之哉^ニも及承候得共学問之義ハ又
格別之義と存候得共何分同役と申談如何様共可取計候間向方^ニ無
差構御勝手次第御届被成候様申越候^ニ付右之旨御用番中へ及御噂
候所官弥^ノ願出御聞濟之上町方^ノハ可願筋^ニ候間何分大目附へ致
対談候様被仰聞候付其旨委細大目附へ申達候処何分從是可及差圖
之旨挨拶有之候

一 大目附^ノ安藤丹後殿下屋敷^ニちやん籠^一荷^出有之候間御同人家
来^ル可相渡候間受取置候様被申聞後刻丹後殿執權長谷川此右衛門
来及面談候処右之旨申^ニ付差越候様及返答候処即刻為持差越例之
通役所受取書差遣候

一 大目附太田舍人^ノ昨日紙面^ニ先年博奕吟味之節家族まで町役方
へ呼出し印形取候義有之候由其節札元共ハ如何取計候哉認出し候
様申来大年寄へ申付置候処左之趣認出

天明八年博奕締方之義從公儀被仰出候節町々人別不殘家族迄
町年寄宅へ呼出し爪印取之候節札元へハ一札為持遣悻有之も

のハ悴之印形悴無之ものハ当主右一人之印形取之家族印形ハ
取り不申尤札元下人ハ年寄宅へ呼出し爪印取り候由認出候

右書付太田舎人江差出候

一古借金銀出入取計之義先達而田中幸助へ申遣置候得共未返答無之
ニ付右催促之書狀郡代町奉行兩名ニいたし今夕之御便ニ差出候

一大村屋源右衛門薪置場勘定奉行取計ニ而弥木藏之内五間ニ九間被
貸渡今日受取相濟候段源右衛門繪図面を以届出候仍之源右衛門
願書ハ差戻候

一大目附伊達与吉郎左之通申来候

来三月本山寺開帳ニ付東西橋へ建札之義地藏院ハ相願御聞
濟候間其旨申達候由申来

右之段大年寄へ申達候

一林田上之町忠藏悴兩人阿州日和佐村ニ而預世話候挨拶村尾李右衛
門より被仰遣并下方ニ而致世話候もの共江も御酒代被下御座候様
李右衛門へ被仰遣候旨太田舎人被申聞候

一牢番内田山七不快引込届出候ニ付又候加人老人大目附中へ申達候
所飯島作右衛門来

一牢舎人□□村之もの穢多共ニ七人村賄殊之外致難渋候間村方ハ相
頼候ハ牢番共取計呉候様致度其段相移置候様ニ十郎左衛門頼ニ
付其段小頭へ申達置候

十二月九日 少時雨

一牢舎人公保田村紋助出牢帰村郡代所申来指紙認出番藤藏差向取計
候

一盜賊市五郎義備前小島ニ居候間早々罷越西大寺紀伊国屋善兵衛ニ
懸合候様ニ榎原村吉兵衛ハ目明甚七ハ書狀差越候段小頭ハ申出仍

之御用番江罷越其段申上右ニ付目明老人非人二人同心組老人差添
明朝立ニ而可差遣哉と相伺候処其旨取計候様被仰出其段大目附ハ

手紙ニ而相届置候而同心組石名左十郎目明甚七非人三人可差遣旨
小頭孫八江申付候尤用意銀貳百匁孫右衛門ハ懸合為持候様申達候

一右ニ付左十郎代り加人老人大目附へ申達候所尾崎広助来

一目明孫兵衛先日已来引込居候ニ付仮目明平助へ申付候様小頭へ申
達候

一西大寺肥後屋太七ハ御藏元へ先達而之返書差越銃本羽之運賃之義

田原へ相移是迄之通相濟候得共餘之品も不残是迄之運賃之通と
御心得被成候義田原船持へ懸合候得共左様ハ不相濟趣ニ付其段ハ

田原役人江御懸合被成候様ニと申越候返書大年寄差出孫左衛門共
遂熟談候上太田舎人江致持参差出愚意之趣委敷申述候大意左之通

是迄之御様子ニ而ハ右返書来候上ハ役筋ハ懸合可然様ニも

相同居候ニ付下案等も認可差出答ニも候得共今般之返書之
趣ニ而ハ今一応藏元ハ田原船役人江不懸合候而ハ当役ハ

難懸合筋ニ有之左様可取計哉ニも存候得共此後之懸合ハ安
大事之事ニ而若自然取継候ハ御用人懸合と申程之御覚悟

無之候而ハ手指ハいたしかたく可有御座哉と相考此節之様
子向方ニ著甚難渋何ケなしつニ取付度時節と相見へ候得共

致かた無之哉と被察今暫捨置候ハ公儀御裁許も可有之左
候ハ何れ之道ニも又右衛門ハ相勤り申間敷左候ハ独

ろひ = 相成無程自然と元之通 = 相積 = 相成可申哉 = 被存候
間迎も之義此方る事を不起御見合被成候方 = 可可有之哉
と両端 = 愚意申述置候

一西今町南側 = 安屋八十次家屋敷表口三間裏行拾五間但三歩役也
東隣ハ古金屋伊兵衛西隣ハ正田屋平兵衛也右家屋敷町内常屋文兵
衛取次 = 六百匁之質物 = 書入来未三月切沓ヶ月沓歩半之利足 =

借用仕候届書差出承り届同十四日本証文差出

一坪井町糶屋幸右衛門義商用 = 付因州鳥取新品治町高島屋和助方へ
来未ノ三月迄逗留 = 明後十一日罷越度願承り届

一阿州板野郡中留村兵助手代佐助一人例年之通藍玉売来候段京町今
出屋半兵衛宿切手差出翌未六月廿八日帰ル

一阿州名西郡桑島村夫右衛門手代次右衛門一人例年之通藍玉売来候
段右同人宿切手差出右同断

一阿州名西郡桑島村平治兵衛手代庄助一人例年之通藍玉売来候段右
同人宿切手差出右同断

十二月十日 快晴

一手島流講尺師今朝迄講尺仕今昼立仕罷帰候段齋藤孫右衛門へ届出
候 = 付御用番 大目附へ北條玄養今昼立 = 罷帰候段紙面 = 相

届候且又喜左衛門へ前訓出席帳差出及一見差戻候

一水谷弥之助殿 = 之相場書田中幸助へ頼遣候所向方之受取書 = 幸助
返書来

一牢番加人飯島作右衛門来候処余り若輩もの殊 = 本役兩人共引込居
候上加人兩人とも不動馴若輩もの = 付引かへ年輩工者成もの差出

吳候様孫八ハ山本与八ハ為懸合候処明日ハ内田数右衛門罷出候由
届来候

十二月十一日 雨

一東新町樽屋清八方へ去ル七日夕八ツ過頃盜賊表潜戸こぢ放し入込
錢箱 = 有之候売酒銀札三拾匁計 黒縮緬切沓尺式三寸 木賊雲才
紙入一右三品盜取且又

同日同夜八半頃同町田原屋新右衛門方へも右同様之趣 = 盜賊這
入銀札四拾匁足袋沓足黒羅紗腰指一右三品盜取且又

同夕七ツ半頃同町山内屋卯兵衛方へも右同様之趣 = 盜賊這入銀
札七匁分盜取候段去ル九日届出候 = 付目明共へ急度申付今日御

兩所 相届候

一元魚町福増屋源兵衛方へ一昨九日夕八ツ時分右同様之趣 = 盜賊
這入銀錢銀札合八拾匁計盜取候届書差出

右之通四ヶ所へ盜賊這入候 = 付十三日迄も難指延 = 付御用番中へ
罷越右届書四通差上右之趣 = 付今夕六町方沓町切 = 九時ハ六時迄
金棒手ハ渡引廻り候様可申付之旨相伺候処其通取計候様被仰

聞候 = 付大目附 相届置右之通申付候様大年寄へ申達候

一安藤丹後殿下屋敷 = 有之候去ル十三日当役へ受取候籠之義魚町吟
味申付候処西吉田村庄屋新左衛門と申ものハ藁屋義八方へ書状を

以肴申越候付其人 = 一荷差遣候所先方へ不相届候由右籠 = ○トキ
ノ字モノ字有之由申出右印致符合無相違 = 付御用番へ及御樽大目

附へも紙面 = 相届置明昼後取 = 出候様大年寄へ申達候
一宮田喜左衛門申出候 大村屋源右衛門取計之薪此間内ハ可致着船

之処吹屋炭指急積下し船無之仍^而延引^ニ相成候得共明日頃ハ可致
着船沙駄^ニ御座候然ル所是迄之考書之通^ニ而ハ価之外^ニ木倉^ヲ取
越候運賃相掛候積^ニ御座候所尚又源右衛門考^ニ而右運賃も拾四貫
之内^ニ盛り込別^ニ持歩ひ賃なし^ニ可売渡旨尤右^ニ付候^而ハ内山下
内^ニも車御免被成候様申出候付其段ハ不苦承り置候間其旨^ニ取計
候様及差図置御用番中へ及御噂候所何之思召も無之旨被仰聞候
一石代之義御料百性共御駕籠訴致候所先頃被仰出通^ニ百性共へ被仰
渡受書差上候由右受書写喜左衛門借り出候^ニ付写置候近日及御沙
駄候事

一札元妹尾平兵衛血忌明ケ今日出勤届来候

十二月十二日 時雨 晴 風

一戸川町赤崎屋文四郎借屋住たつ悴市之丞義御領分西北条郡山地村
太助方へ養子^ニ差遣度人別除願下方引合相濟候段申出承り届

一御領分西北条郡小田中村治右衛門娘かね義西今町直屋久米之助借

屋住小畑屋義右衛門養女^ニ引受度人別入願右同断承り届

一新魚町葉屋義八被盜候肴籠受取^ニ出相渡受取書取置候書役^江預ケ

置

一稲実屋義七郎義去ル十日竜野役所吟味口聞合^ニ差遣候入用七拾八
匁七分五厘小手形添差出奥印書取計候

一大坂天神橋筋南河原町目鏡屋平兵衛手代久治一人例年之通目鏡売
来候段新職人町松の屋十右衛門宿切手差出同十四日帰ル

一伊勢山田村田三太夫名代商田重蔵上下式人例年之通旦那廻り来候
段右同人宿切手差出翌末三月十七日帰ル

一江州神崎郡新堂村布屋長兵衛手代藤八一人例年之通きせる小間物
卸売来候段右同人宿切手差出同十四日帰ル

一伊勢内宮藤波神主名代松井李兵衛一人例年之通旦那廻り来候段右
同人宿切手差出同廿四日帰

一公儀御廻米中川筋積下し相濟候段届出候旨郡代所^ヲ通用有之

十二月十三日 晴

一御用日登城

一土居大炊頭殿領分当国久米南條郡南庄原村三次郎義一人伏見町帯

屋富屋守兵吉借屋住石井宝庵引受度人別入願御用番中御聞濟^ニ付

大目附中へ差出置御聞届申達候同十七日住宅証文差出

一大目附太田舍人^ノ札元共へ大年寄^ル御用向申渡之義何々之ケ条^ニ

候哉今一応急^ニ遂吟味申出候様被申聞依之大年寄へ申達候所左之

趣認出候

御代官御止宿^ニ臨時立宿等申付候節大年寄宅へ呼出申渡候其

余別^ニ申渡候ケ条是迄無之候

右書付太田舍人^江差出候

一石代直段之義公料百性共御老中へ御駕籠いたし候所当月石代直

段建方之義改^而被仰出其趣^ニ而御受仕右百性御受書差上候由右受

書之写野田之五兵衛と申もの^ヲ並屋忠兵衛借り候由^ニ而喜左衛門

差出候付写取御用所へ差出置候尤大目附へも及御噂置候

一公儀御触書出写取町方^ニ組中へ差出大意左之通

東海道筋十ヶ年之間賃錢二割増

中仙道筋十ヶ年之間壹割半増

一 船出入ニ付田原船頭共塩ノ売致高価ニ相成諸人難義且者塩買人倉敷勝間田返ニ下直ニ相調候故是迄当町へ来候ものも不出様ニ追々相成候趣ニ付東新町西新町塩商売之もの共申合当年中元直段ニ売候段銘々懸札致致商売買候様子田原船頭共及見殊之外氣之毒ニ存追々塩直段も引下ケ且又得意之もの共も実意成致方と感し入又候爰元へ塩買ニ出候様相成候趣及承候ニ付大年寄へ実否承合候様申付置候所世許ニハ駈と難相分ニ付喜左衛門ノ鋼屋宗兵衛わしや与七郎並屋忠兵衛へ承り候所弥其通ニ無相違趣右三人ノ弁書取指出し内々太田舎人及噂右書付差出候処此一件落着之上ハ賞候も可然筋と申右書付被差戻候追御用番中へも可及御沙駄事一船出入ニ付当五月片積ニ相成候節右之趣触達之廻状其節坂根村左右衛門ノ小瀬村源右衛門へ差越候由之書面之旨ニ押淵村武助ノ御藏元文五郎へ差越候由ニ差出候得共先達ニ及承候触書故不差出預リ置

一 上原彦藏ノ被申聞候者町棟梁ハ御作事出ニ脇差帯候由然ル所年久敷定出候大工疾も町棟梁ニ致可遣もの候得共不当其任今以平大工ニ有之甚氣之毒殊ニ当人も町棟梁並ニ脇差御免被下候様内願も聞へ候間差免度差支ハ無之哉と御作事奉行ノ申出候段相談有之候ニ付大年寄へ考申付候所以前渥美圖書殿出入大工平日脇差を帯後ニ者家来も相成帯刀致候所又候町大工ニ相成候節俄ニ無刀ニ難成趣も候哉平日脇差帯候由左候も何之故障も無之候由全体改り候節ハ一刀ハ可帯もの候得者平日大工織ニ罷出候節脇差帯候も於町方者何之故障も無之勝手次第之義と藏合孫左衛門

申出候間其段上原彦藏及返答置候

一元魚町肥後屋吉太郎借屋住庄七義当五月出奔百日尋申付置又候日延願承り届置候所西大寺ニ罷在借銀詰リニ退散いたし候所先非を悔帰住相款候旨願書差出候ニ付承り届ケ先例之通宜取計候様申付候

一 御廻米今日迄ニ積切候段御藏元文五郎届出候

一 関備前守殿家中若林泰藏義伏見町小田屋伊平次逗留願之義大目附へ達置候所今日松岡治部助ノ佐藤左内引受ニ相成候間町方ノハ願下ケ可致旨被申聞候

十二月十四日 晴

一 牢舎人新吉直兵衛療治二廻り相済未相勝代リ之医双方ノ申出大年寄へ申達候処藤木良全へ申付候段届出候

一 銀札場奉行ノ錢十四箇川下ケ申来例之通奥印書取計候

一 小田中村儀兵衛娘いさ義福渡町阿賀屋助五郎家守万五郎借屋住福島屋庄吉妻ニ引受度人別入願下方引合相済候段申出承り届享和二亥十一月十八日除帳

一 船出入一件竜野吟味口口書写倉敷大和屋代二郎ノ借り来右ハ甚六ケ敷事ニ容易貸し呉不申依之孫左衛門ノ樗野屋茂一郎差遣同人義神文致候上ニ漸借り来写差出依之御用所大目附当役之外決披見致間敷旨堅口固いたし孫左衛門昨夜差出候ニ付今日太田舎人方へ致持参右之趣委細ニ申述候上ニ差出置候

一 伊勢山田御炊太夫名代西佐助上下式人例年之通来候段新職人町松の屋十右衛門宿切手差出翌未正月廿五日帰ル

一 京都問屋町五條下ル三町目三味線屋仙助手代忠助一人例年之通三味線張替来候段右同人宿切手差出同廿三日帰ル

一 勢州安芸郡白子村形屋忠右衛門手代万助一人例年之通紺屋形売来候段右同人宿切手差出同廿三日帰

一 久山勘八組屋忠右衛門例年之通油方御褒美頂戴仕候段御礼昨日罷出候

一 牢番内田山七出勤届出候付高木武兵衛差返候様申付ル尤右加人差戻候段翌十五日大目附へ相届候

一 〇〇村穢多牢舍人吉藏蒲苗一入遣度伺出承り届
十二月十五日 雪

一 惣町入用暮之大割帳差出遂一見差戻候但ゞ高式貫三百八拾匁分九厘昨年〇老貫式百式拾七匁分六厘減ス

一 玉置源五兵衛悴六郎左衛門十九日忌明之旨大年寄届出候

一 盜賊市五郎召捕ニ備前へ差遣候左十郎甚七今七半時過罷歸り市五郎義小島ニ居候所訊有之追出候由ニ而最早行衛不相知得不召捕候

段届出其段御用番ニ大目附へ手紙ニ而相届候
十二月十六日 曇

一 御蔵米五拾六匁五分町米五拾式匁五分
一 阿州板野郡鶴崎浦藍屋喜右衛門手代利兵衛甚蔵式人例年之通藍玉売ニ来候段吹屋町沢屋惣左衛門宿切手差出

一 川奥〇大村屋源右衛門方へ取寄候薪式艘今日初ニ着岸いたし追々引続来候趣官田喜左衛門〇届出候

一 瓜生原屋宗兵衛平吉船御廻米中御用ニ御遣被成候所御廻米相濟可

差戻之処相雇候船頭此節暇遣候ニハ甚難渋仕候付今兩三度之義故年内為相稼候様仕度蔵元〇申出候得共御勝手取計之義故御勝手ニ相歎候様申達置候所今日上原彦蔵〇懸合有之候ニ付最早御借用被成候上之義ニ候得ニ年内相稼候共何之存寄も無之候間相成義ニも在之候得ニ下方難渋ニ不相成様ニ御差向被下候様及返答候

十二月十七日 雨

一 石名左十郎今日〇出勤ニ付尾崎広助今日〇差戻候段大目附へ相届候

一 備中加藤郡惣社町作屋善兵衛一人例年之通切尺長刻煙草紙類卸売来候段堺町西川屋善助宿切手差出

一 播州池田植木屋平兵衛一人例年之通植木売来候段右同人宿切手差出

一 関備前守殿家中若村泰蔵義伏見町小田屋伊平次引受度願先日差出候処同人義佐藤左内引受ニ相成候付小田屋伊平次願下ケ願書差出候ニ付承り届願書差戻ス

一 暮之町触例年之通差出候
一 北条玄義先日於町会所致講尺候入用百五拾匁計惣入用共相懸り右入用ニ相招候もの共〇差出候事ニ而有之候得共自分一己計之義ニも無之候得ニ右之内五拾匁計工面もの〇内〇御払被下置候様仕度旨大年寄伺出其通承り届ル

一 町方大破家一件ニ付普請方世話人榎野屋茂一郎野々口屋七郎右衛門兩人ハ百匁〇差遣可然旨大年寄伺出承り届ル

一 先達ニ塩払底之節京家之力を以取寄せ度手段榎野屋茂一郎往返之

入用三拾五匁五分有之何方へも難懸ものニ付工面物之内を相払遣
度大年寄伺出承り届ル

一 綿改口銭取立并割渡左之通申出候

問屋口銭高覺

一 五百六拾八匁五分

並屋忠兵衛

一 四百八拾匁

豊屋喜兵衛

一 四匁

和泉屋清助

一 五百四拾九匁

大坂屋鉄五郎

一 壹貫八百五拾五匁

高瀬屋勘右衛門

一 貳貫六百廿七匁

能勢屋源助

合六貫八拾七匁五分

(宋書)
昨巳ノ年々貳百九匁五分

右之内割渡左之通

問屋六歩之割

一 三百四拾壹匁壹分

並屋忠兵衛

一 貳百九拾匁四分

豊屋喜兵衛

一 貳匁四分

和泉屋清助

一 三百廿九匁四分

大坂屋鉄五郎

一 壹貫百拾三匁

高瀬屋勘右衛門

一 壹貫五百七拾六匁貳分

能勢屋源助

改役式歩貳厘之割

一 壹貫三百三拾九匁貳分五厘

改役米屋勘右衛門
大村屋勘右衛門 兩人江

小遣六厘割

一 三百六拾五匁貳分五厘 小遣 文吉

くり屋頭 三厘之割

一 百八拾貳匁六分貳厘 改役三人江 御酒代

惣中買 四厘之割

一 貳百四拾三匁五分 懸ケル惣式歩中買御酒

代

右割渡高

五貫七百八拾三匁貳分貳厘

引残而

三百■四匁三分八厘 過札

内

四拾匁四分貳厘 千木代里十月ニ卷取寄ル

壹匁貳分 同直し代

又引残る

貳百六拾貳匁七分六厘 全過銀札也

一 非人頭江 例年之通壹俵半被下并 廻之字羽織代受取証文差出奥印書

取計候

十二月十八日 晴

一 御用日登城

一元魚町住屋市左衛門義大坂道修町伏見屋半右衛門ノ菜種代差滞及

公訴六十日限濟方被仰付申渡置候処未相濟当月中ニ 而 六十日ニ 相

成候間登坂可仕処病氣ニ 而 出立難仕日延願差出候ニ 付先格之通右

願書之奥書并 村尾左右衛門へ右懸合之下案相認御用番中へ相伺候

処伺之通宜取計候様被仰出候。付大目附へ其段申達候所御飛脚明後廿日仕廻。相成候間其節差遣候様被申聞候付右書状。奥書共廿日之日付。認置候。

一戸川町岩見屋孫兵衛引受居候宇平と申もの当三月出奔仕候段八月届出百日尋申付置候所行衛不相知除帳願差出御用番中御聞濟。付大目附へ差出置御聞届申達候。

一於御用所大目附出席御用番御年寄小須賀一学殿左之通被仰渡候。町奉行へ。

勝部村新吉義大篠村新兵衛方へ押入頭取之働不届至極。付死罪獄門申付候。

上田邑村南庄助義押取之品と乍存貸米之代。銀子受取之配分受候段不届。付百敵之上御城下。構弘申付候。

右之通郡代と申談宜取計候様大目附。達も有之右。御領分人別之もの。付郡代所申渡取計先格。付其段得と申談置其旨大目附へも申達。来ル廿五日可取計旨大目附へ相届置小頭。も内々申聞置候。

一大目附左之通演達有之類役。も及通用

柔姫様御帶直し先月廿三日被為濟

怡丸様御床揚先月廿八日有之

寿丸様御水痘被為濟候恐悅

右御三方様恐悅申上来ル廿三日有之候間麻上下着用四時登城可仕旨尤柔姫様御帶直御祝。付御赤飯御酒御吸物被下置候由尤三奉行以上之事之由

一札元共一件之義先日伺置候処於御席御用番一学殿左札元共之義兼

而伺之通不敬とも不届とも難申程之義言語同断之事共。不輕義

付御席御沙駄。而格別重き御咎無之。而ハ不相濟義。候然ル

所彼等共義致帯刀候程之身分。而ケ様之義実。無弁ハ不便至極之

もの共。候得。既当役。而も初ハ教諭可致と存候程之義以来相改

さへすれハ可相濟義。候得。今般。格別之御慈悲を以当役場合切

。而左之通追込可申付尤日数ハ今日申渡候。而来ル廿八日朝差免候

様可仕且又惣札元共。も可及演達可然筋。候得共左候。而ハ札元共

面皮も相濟間敷哉。も候得。定。同役共。も相響可申事。候得。

此段ハ指免置候。而も可然旨被仰聞候申渡御書付左之通御渡被成候

。付御受仕右之通役筋切之取計と被仰聞候義。候得。右申渡相濟

候義。差免之義も最早及御沙駄間敷旨申上候処随分其通。而宜候

旨被仰聞候

右。付大年寄へ山本三郎左衛門妹尾平兵衛御用之義有之候間同道

罷出候様。大年寄出合せ候故口達。而申達。而追込見届申付候間同

役之内老入玄関迄出様申達於座敷大年寄諸吟味小頭詰合。而左之

通申渡御書付相渡候

山本三郎左衛門へ申渡

其方商売名前吉助咎申付候。

格別御憐愍筋之取計候尤同居

店方之事故其方宅。而慎申渡之処彼是不埒之

心得違共甚不敬之至。候此段及御沙駄候。而ハ重き

事故格段之以用捨追込申付候相愼可罷在候

妹尾平兵衛へ 申渡

今般山本三郎左衛門店方

不埒之義有之付商売名前吉助咎申付候者 格別御憐愍

筋之處彼是私意を挾不敬 心得違とハ申なから不敬

相当り不埒之至候此段及御沙駄候而ハ重キ義付

格別之以用捨追込申付候相慎可罷在候

右申渡相濟茂渡庄右衛門罷出居候付大年寄る於玄関庄右衛門へ

右兩人追込見届之上届出候様申達

一手島流講釈入用五拾九匁七分四厘之小手形宮田喜左衛門る差出候

付自分受取証文先格之通勘定奉行へ差出候処後刻右銀札相廻り

候付喜左衛門へ直相渡候

一備前西大寺る御家中荷物積送り之和氣番所へ相違候手形金岡紀伊

国屋善兵衛取計来候処同人義竜野御吟味中付禁足相成候由仍

而右等之取計不致沙駄之處弥左様と相見へ同人代平十郎と申もの

送り切手差出候旨右手形之写和泉屋清助差出候由孫左衛門る差出

太田舎人差出候所直被相戻候

一伏見町十吉後家西新町孫七田畑之木を切候出入内済いたし願下ケ

願書差出候得共文段不宜付三浦る内談有之候付其段大年寄へ

申付候

十二月十九日 曇

一因州宮地権左衛門菅平太夫加次屋又造る昨晚飛脚差越丈兵衛利左

衛門共可引渡旨申越候付最早年内余日無之付来春受取人可

差遣旨返書下案相認松岡治部助へ及内談候上御用番中へ相伺候候

其旨宜可取計様被仰出其旨返書相渡大目附へも相届候

一玉置源五兵衛倅六郎左衛門義今日致忌明候付今日一学殿罷越左

之通申上置候御承知付何分自是可申達と被仰聞候

六郎左衛門義可也大年寄役可相動趣も有之勿論家筋之

義御座候者父源五兵衛跡役被仰付候様仕度此段申上候

尤右之旨昨日大目附へも及御沙駄候御藏合伊三郎玉置源五兵衛兩

人大年寄役被仰付候年月相認為見候様被申聞今日紙面申遣

候

一東西新町田原塩元直段売捌候義去ル三日之処記置候通

一学殿へ及御噂右書付差出一件落着候上御賞有之候も可然哉

と申上置候処扱々奇特之義早速も賞候も可然哉被思召候得

共何分自是可申達旨御返答有之候

一御藏米五拾八匁町米五拾四匁

一京都愛宕山長床坊使僧悦中坊上下式人例年之通来候段小性町肥地

屋繁藏宿切手差出

一勢州朝熊笹明王院使僧儀中坊宝藏坊休可坊悦中坊上下八人例年之

通来候段右同人宿切手差出候

十二月廿日 雨

一雲州杵築大社社人多久太夫上下三人先月五日例年之通配札来

新職人町松能屋十右衛門方致逗留候所同人下人勘藏と申もの病

氣差起り高島生齋板倉全柳致治療罷在候所尤太夫義八久世配

札罷越候付朋輩宇平と申もの相殘致看病罷在候処追々差重り

候付太夫方へ申遣候所同人義も久世表相煩得不罷帰依之

久世表へ来居候同役之社人津戸常三郎と申もの十太夫代リニ差越

病人勘藏弟吉川惣左衛門と申ものも倉敷ニ配札ニ来居候由ニ付

同人をも呼寄看病為仕候処昨晚相果候段昨夜及深更大年寄届出候

ニ付届書差出候様申付置先例相調候処必至との当之例も無之候得

共一夜泊之旅人相果候者同道人有之候も見分差出候様ニ相見

宿切手差出又ハ当所へ来逗留之願聞届之上之客人ハ相果候も

見分ハ不差遣趣ニ相見ヘ既ニ竹内勇悦と申目医師高栄仲方ニ引受

逗留中ニ姫相果非玉置源五兵衛方ニ逗留之婦人死去之節も見分ハ

不差出殊ニ今般も主人非兄弟非朋輩等も相揃居候事ニ候得見分

ニ者不及筋と相考其段相移置候所今日届書差出非遠方之義故当所

寺院相頼葬度尤勘藏義禪宗ニ者候得共松の屋十右衛門且那寺光嚴

寺へ相頼度尤病死ニ無相違以後毛頭申分無之一札向方之もの共不

殘連印ニ而十右衛門へ相渡右一札も差添出候ニ付寺社引合も有之

義ニ付伊達与吉郎へ申達候所向方ニ而ハ分ニ達ニ不及義故御伺濟

ニ候ハ其段寺社取次江拙者る引合候得者相濟候義之旨被仰聞候

付御用番中へ相伺候所御聞濟ニ付勝手次第取計候様大年寄へ申達

置寺社取次兼帯三浦十郎左衛門へ御聞濟之旨申通候所申出候ハ

可承り届旨申来候右畢而亥之刻頃勘藏義取葬相濟候段大年寄る届

出候扱又一夜泊旅人相果候節同道人有之候も見分差出候者皆他

邦或同郷之もの同道ニ而親族同道之もの者是迄左様之義無之事哉

見当り不申候尤右先例親族同道と他人同道之差別ニ而見分差出候

哉も可有之候得共先ハ逗留願聞届之ものと無願一夜泊之旅人と

之差別之様ニ先格相見ヘ候後年為考記置候

十二月廿一日 曇

一 牢番加人内田数右衛門不快引込ニ付土井林藏加人ニ罷出候

十二月廿二日 雪

一 東新町藁屋与七郎義綾部村八兵衛へ銀札貳百匁貸置其後年賦ニ相

成候所右年賦銀不差越不埒ニ付願書差出翌廿三日郡代所へ相廻置

候

一 安岡町大坂屋字八義十四ヶ年已前竹田村孫惣江田地書入銀札八拾

匁貸渡候処右同断不埒ニ付願書差出翌廿三日郡代所へ願書相廻候

一 京町南側ニ而岩佐屋善七家屋敷表口式間半裏行拾七間但三步役也

東隣ハ戸島屋伝吉西隣ハ二文字屋常八也右家屋敷四百五拾匁ニ相

極戸島屋与吉へ売渡願書承り届同廿七日売券状差出

一 京町北側ニ而屋根屋瀨助家屋敷表口式間半裏行拾七間御堀切但五

步役也東隣ハ作人久助西隣ハ桶屋勘左衛門也右家屋敷代銀札五百

五拾匁ニ相極町内花屋権兵衛へ売渡願書承り届右同断

一 林田上之町長兵衛娘義西今町安屋八十次妻ニ引受度人別入願下方

引合相濟候段申出承り届

一 茅町魅屋元治娘文義先月十七日致出奔候段届出差出例之通百日尋

申付ル翌年四月十二日又百日尋度日延願差出翌未七月十九日帰宅

一 御用番小須賀一学殿方御奉書ニ而大脇新左衛門義御用有之候間明

廿三日麻上下着用召連登城仕候様申来其旨新左衛門へ奉書を以申

達候

一 竜野表船出入一件吟味口之趣倉敷三郎平代次郎へ為聞合榎野屋茂

一郎差遣候入用左之通大年寄証文差出奥書取計候

貳拾八匁八分

一 盜賊市五郎尋_ニ左十郎目明非人備前へ差遣候入用左之通奥書取計候

百六拾四匁壹分貳厘四毛

一 目明仮役_并目明召連候非人受廻リ入用左之通奥書取計候

百三拾三匁三分

一 牢舎人服薬料左之通奥書取計候

三百六匁三分

一 牢屋払諸入用左之通奥書取計候

五拾四匁貳分七厘

但当年中牢屋諸入用之内五拾匁役所払右残高如此

十二月廿三日

一 御用日_并御三方様御祝儀被為濟候恐悦申上_ニ付三奉行以上麻上下着用四時登城

一 大脇新左衛門被為召候_ニ付召連登城仕候段大目附へ申達新左衛門義_并溜_ニ遣部屋_ニ為扣置

一 於七間廊下御小性頭謁御奏者番_ル三奉行迄一同罷出方々様御祝被為濟候恐悦申上候段上席御奏者番中_ル申上候引取畢_ニ

一 坊主部屋前於廊下三奉行列座御赤飯御酒御吸物御肴二種被下置頂戴相濟畢_ニ

又候七間廊下へ罷出初之通_ニ頂戴もの_ト御礼一同申上候

一 御用所へ三奉行一同罷出上席当役_ル御三方様御祝被為濟候恐悦申上候畢_ニ直_ニ御用向申上候引懸ケ_ニ大目附へも恐悦及挨拶

一 松平上総介殿城下備前岡山上出石町備中屋三次郎悴丈八彦人堺町

大花屋松之助引受度人別入願御用番御聞濟_ニ付大目附へ差出置御聞届申達候同廿九日住宅証文差出候寛政十二_{庚申}年五月丈八義親元へ差返し人別除願出_ル

一 於御用所大目附出席御用番小須賀一学殿_ル左之通被仰渡候

町奉行_并

一 大脇新左衛門義御徒格被召出御擬作五石三人扶持被下候

町奉行下役被仰付候書役是迄之通兼可相勤候尤勘定奉行支配被仰付候此段可被申渡之候

一 玉置六郎左衛門義大年寄役被仰付候此段可被申渡之候

○右同断_ニ左之者共へ左之通被下之候間可被申渡之候

一 役筋格別出精相勤候_ニ付 大年寄

八木五儀被下之候 蔵合孫左衛門

一 御用多之処_ト人_ニ格別 諸吟味

出精相勤候_ニ付三人扶持 宮田喜左衛門

被下之候

町棟梁

一出精相勤候_ニ付 伊兵衛

八木式俵_ト被下之候 弥五郎

○御城於役所大脇新左衛門へ右之通申渡候畢_ニ勘定所_并致同道罷越

引合候畢_ニ大目附役所_并も同道罷出御礼取合申述候

○玉置六郎左衛門蔵合孫左衛門宮田喜左衛門へハ於座敷新左衛門孫八大年寄出席_ニ申渡候尤六郎左衛門へハ先格之通直奉書差遣孫

左衛門^江者 切紙差遣喜左衛門へハ齋藤孫右衛門へ致同道罷出候様
奉書差遣候

○町棟梁兩人ハ大年寄於宅申渡候様書付相渡候

○右取計相濟候義御両所^江可相届義哉先格相調候処先年所吟味三人
御扶持方被下候節ハ不届様ニ相見へ併年々御褒美被下取計濟ハ相
届候間如何可取計哉と三奉行申談候処勘定奉行中役筋ニ^而ハ吉事
申渡濟候義相届候事ハ無之御咎等之取計濟ハ届候由ニ付三浦十郎
左衛門^右大目附へ相尋候所取計濟^ニ不及旨被申聞候由三浦^右浦
用有之ニ付此度ハ不相届候以後も此例ニ可隨事歟

○大目附伊達与吉郎^右左之通被申渡候

大脇新左衛門義書役兼帯被仰付候付是迄被下候書役^者被召
上候

○公儀御廻米番賃銀町方^右取立候余り中古ハ工面ものニ相成候所大
年寄共^江被下致減少候節大年寄三人配分候様守助及差図候由之処
喜左衛門義諸吟味役再勤之節被下もの無之ニ付右過銀不殘喜左衛
門へ可遣旨大年寄伺出其通ニ取計置候所喜左衛門義御擬作被下候
故来年^右被^江可遣筋ニも無之孫左衛門存寄ニも大年寄共受納可仕
筋之ものニ^而も無之候間工面ものニ取計置候様内々申聞至極尤之
義ニ付左候ハ^来歳^右ハ工面ものニ取計置候^而も可然候間其段喜
左衛門へ^茂相移置可申尚又来暮迄ニ^者如何様とも可及差図之旨極
密及差図置候

十二月廿四日

一明廿五日明ヶ六ツ時勝部村新吉打首獄門取計候ニ付獄門台^并釘捨

札先格之通用意申付候様七ツ時大年寄へ申達

右ニ付小頭^江首切刀^并捨札文段牢番共へ相渡候様七ツ時申付尤捨
札下案ハ那代所^右相廻候尤穢多頭相認候由^并首切刀ハ牢番^右研屋
へ相渡刃を付候事

且又右新吉義ハ御領分^右之もの故試ハ不相成候間其段穢多頭へ申渡
且又何方^右被相頼候^而も右之通試不相成段相断候様小頭へ申付候
其外手配先格之通宜取計候様小頭へ申付候

一ノ宮村善兵衛^并無宿七右衛門牢番預ヶ郡代所^右申来出番新治差
出取計候

一御代官松岡正三郎^右町作御年貢皆濟候段昨日於御城挨拶有之候

一 大脇新左衛門義被召出候ニ付当役御礼廻勤可仕哉と大目附中へ内
々相尋候所御近例御定ニ^者不相見候得共廻勤いたし候^而も宜義ニ
も可有之哉之様ニ存候得共睨と差図も致兼候様之口ふりニ相聞候
付加藤広次被召出候節之例勘定奉行へ相尋候所廻勤不致候由ニ付
拙者義も廻勤ハ不致候併兼^而申立内意を經候方計へ自分挨拶ニ罷
越候昨日之所ニ認落候間爰ニ記置候

十二月廿五日 快晴

一新吉庄助取計ニ付正六時出宅^{申付}。小頭孫八部屋目付左十郎出番文蔵又
六御徒目附山本藤四郎下目附植月類十郎郡代下代木村佐吉同出番
中村武平次笹岡与三兵衛植月十四郎河村久四郎立会於牢屋敲取計
夫^右直ニ兼田^江召連行打首獄門取計候但新吉義歩行ニ^而召連行候

打首獄門

勝部村

新吉

百敲御城下^并構弘

田邑村

庄助

右取計相濟候段御用番^并大目附へ手紙^而相届

△死罪取計有之日ハ御家老衆御名代ニ終日朝上下御着用御精進

有之候由以後心得之為記置候

一紫保井村忠藏義郡代所^る出牢申来出番取計候

一牢舍人善兵衛七右衛門吟味ニ付郡代所^る呼出申来当番取計候

一新田村伊右衛門牢番預ケ郡代所^る申来当番取計候

一関貫番賃銀例歳之通今日相渡候

一越中富山向河原町松井屋作兵衛一人例年之通反魂丹売ニ来候段中

之町小山屋与三右衛門宿切手差出

一公料御廻米久世生野共昨廿四日迄ニ積切候段今津屋平藏届出候ニ

付火用手当差免候様申達候

十二月廿六日 少雪

一坪井滝口与次右衛門^る例年之通歳末之為挨拶纏節二十差越先格之

通及返書

十二月廿七日 快晴

一玉置六郎左衛門役儀初^而之謁ニ付麻上下着用五本入扇子箱持參於

座敷平服^而謁候慰斗指出候但初^而之義故同役同道可有之筋之処

先格相知兼差懸リ候ニ付無其義相濟候得共重^而ケ様之節ハ同役同

道可有之事

一玉置六郎左衛門印鑑指出書役^江渡置

一牢屋取計之節之酒代七月後之分九匁五分八厘孫八^江相渡候

一米中買目附役安岡町古川屋太兵衛へ可申付旨大年寄伺出承リ届

十二月廿八日 快晴

一御用日歳末御祝儀申上ニ付有役之面々麻上下着用五ツ半時登城御

嘉例之通七間廊下ニおいて御小性頭謁有之御奏者番^る三奉行迄一

同罷出諸事先格之通

一大晦日夕例歳之通町方関貫開立番付置候段御用番^并大目附へ相届

候

一町方夜廻リ兼^而伺濟之通大晦日切ニ為仕候段御両所へ及御噂候

一東西新町塩商売之もの共元直段ニ売捌候義去ル十三日記置候通之

義ニ付役場切^而奇特之段賞シ置候様於御別席一学殿被仰渡其段

大目附へ及噂置右之もの共呼出賞詞申渡候様ニ大年寄へ申達ス尤

年内繁多之砌ニ付早春^而も可然旨申達候

一郡代所博奕吟味懸リ合之ものニ付鉄炮町組屋敷ニ罷在候浅次郎と

申もの役筋^而可遂吟味尤其節引渡候様ニ可相達候間郡代所申談

宜可取計旨大目附伊達与吉郎被申聞候仍^而郡代所^る右懸合之口書

相廻候

一綿懸合間屋冥加銀左之通

五百拾匁四分

右相納候段大年寄^る証文差出奥書取計候尤右懸合先年御免ニ相成

居候所是迄相休ミ居候ニ付冥加銀近年不相納候処当年^者取扱有之

候由^而右之通相納候

一關所銀左之通勘定所^江持參相納候

四百三拾七匁六分九厘一毛

残 百六拾六文

右例年之通 = 帳面仕立相納候

一昨夜受廻り申付候所田町椿高下南新座町関貫無別条段新左衛門孫八届出町方関貫無別条段百歳為治届出候

一戸川町妙願寺角之関貫番人いつ = 而も堅固夜番相勤不寝 = 居候哉之趣奇特成旨百歳為治る申出候 = 付為褒美左之通工面ものゝ内ゝ内ゝ遣候様大年寄へ申達候

戸川町中横町関貫番人

鳥目三百文

藤十郎

一御城小遣 = 例年之通為祝義五分差遣候

一牢舎人直兵衛療治二廻り相濟候所尚又全柳へ申候段大年寄申出候

一大脇新左衛門義今日被召出御礼申上 = 寒中御機嫌伺も申上濟候由

一札元山本三郎左衛門妹尾平兵衛追込昨日 = 而十日 = 相成候間今早

朝呼出し立合小頭大年寄諸吟味 = 而追込差免候段申渡候

一町方関貫入用拝借之年賦五拾匁大年寄上納上原彦藏へ差遣候

十二月廿九日 晴 時雨

一玉置六郎左衛門義町貸付取計源五兵衛通 = 被仰付候旨勅定奉行中
の通用有之候

一玉置六郎左衛門義養父源五兵衛通 = 御手当被下置候由御礼罷出候

一雲州母里兵庫頭様御雇飛脚昨夜当所紙屋助右衛門方 = 致止宿今朝

出立仕候処坪井駒迄之間 = 而御用状落候哉相見 = 不申候由 = 而今

晚罷帰甚致当惑候付旅宿等遂吟味遣候得共無之依之町方通筋ハ保

頭る申触遂吟味遣可申猶又坪井宿迄之間問屋る人足差出遂吟味可

遣之旨大年寄内々申出其趣承り届随分致世話可遣弥無之候ハ、右
遂吟味候趣問屋る認遣候 = 而も可然旨及差図候尤飛脚之者ハ大坂も
の = 而初旅之趣至 = 而実体もの甚致迷惑落涙計いたし腰も抜候趣 =
而今夕之所 = 而ハ自身 = 致吟味候義も不相成趣 = 相見へ候由且又
今朝出立之砌馬を出遣候右御用状ハ網袋之内 = 有之候由申候右網
袋ハ馬 = 付罷越網袋ハ有之候得共右状計致紛失候由 = 候尤宛所名
面も飛脚之者覚不申由 = 候

十二月晦日 曇 風

一今晚美濃職人町畳屋源左衛門方 = 而手あやまち = 而藁屑 = 火燃付
近隣打寄捻消候由届書差出候 = 付先格之通大年寄場へ呼出し以来
急度入念候様御叱申渡候様申達置其段御用番 = 大目附へ紙面 = 而
相届候

津山郷土博物館紀要第二十二号

津山松平藩町奉行日記十六

平成二十年三月三十一日発行

編集
発行 津山郷土博物館 ©

岡山県津山市山下九二番地
印刷 二葉印刷

岡山県津山市中島四二一五

